

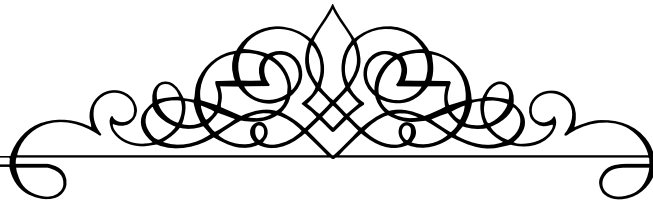


基本理念

周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

基本方針

- 1 患者の権利を尊重した医療の実践
- 2 安全・安心と信頼の医療の遂行
- 3 高度に専門化されたチーム医療の推進
- 4 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
- 5 親とこどもが一体となった治療の推進
- 6 こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
- 7 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
- 8 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化

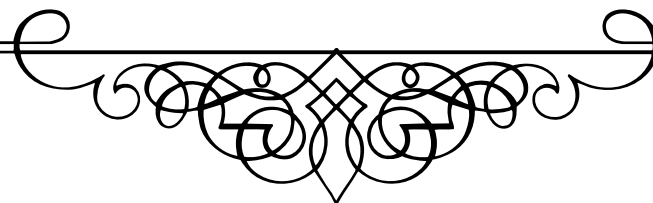


患者の権利

- 1 あなたはひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
- 2 あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
- 3 あなたとご家族には、治療方針について同意や拒否する権利及びセカンドオピニオンを受ける権利があります。
- 4 あなたとご家族のプライバシーは守られます。

みなさまと私たちがお互いを尊重しあい、良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力ください。

- 病気について理解し、安心して医療が受けられるよう。今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせください。
- 病院のきまりや約束ごとをお守りください。



はじめに

兵庫県立こども病院
病院長 長嶋 達也

兵庫県立こども病院は、1970年に県政100周年記念事業として全国2番目の小児病院として開設されました。第2次ベビーブームを受けての開設時には、わが国の出生率は2.14、年間出生数は200万人を超えていました。現在の出生率は1.39、年間の出生数は103万人と激減しています。隔世の感がありますが、少子化が進む中でこども病院の重要性はむしろ大きくなっています。1994年には周産期医療センターが、2007年には小児救急医療センターが開設され、それぞれの時代の要請に先駆けてこども達を守る「最後の砦」としての役割を果たし続けてまいりました。2013年2月には、新たに「小児がん拠点病院」に指定されることになり、小児がんの治療でも中心的な役割を担ってまいります。また、麻酔科を含む外科系医師が医師の半数を占めるという、強力なマンパワーに支えられて、小児の外科手術センターとして機能しています。

こども病院には高い専門性が期待されています。医師・看護師のみならず全ての職種で切磋琢磨して自らの専門性を磨くとともに、最新の医療機器や技術の導入にも努めています。一方、医療は万能ではありません。全ての病気を治せるはずもなく、短い生涯を終える子どもたちもあれば、障害を残したり病気を持って育っていく子どもたちもあります。命の長さによらず、障害の程度によらず少しでも豊かに生きられるよう、緩和医療、在宅医療、成育医療、障害児医療の分野にも力をそそいでまいります。

周産期・小児の医療は、地域医療施設との緊密な連携の上に成り立っており、2010年には地域医療支援病院として承認されました。皆様の温かいご協力とご支援に深く感謝いたします。当院の高度専門医療を求めて、県外からの入院患者さんが約20%を占め、その半数は近畿圏外からの患者さんになっています。こども病院の医療の特色、強みは多くの専門家の協力によって一人の患児を治療する集学的医療にあります。すべての職員の緊密なチームワーク、暖かい人と人との関係が私たちの病院の命です。

ポートアイランドへの新築移転が決まり、2015年度内の竣工を目指して計画が進められています。2013年4月には、基本設計と完成予想図が公表されることにより、着工に

向けて大きく前進いたしました。移転地には、神戸市立医療センター中央市民病院、低侵襲がん治療センター、先端医療センターなどの先進的医療施設や理化学研究所などの研究機関が隣接して存在します。神戸大学医学部の連携大学院として臨床研究機能を強化するとともに、隣接の医療・研究施設群との連携によるより高度で組織化された医療によって、難しい疾患に苦しむこども達を救いたいと願っています。

移転地は、南海トラフ大地震が起きた場合の推定津波高として、国が公表した神戸市中央区の東京湾平均水面（T.P）+3.6 mよりも高いT.P+8.6 mであることから、浸水することのない地盤高になっています。また、新病院本体は、地盤強化、耐震・免震を重視した設計、非常電源の屋上設置、2階以上に設置した受水槽など、施設面でも十分な地震対策を施します。水、食料、医薬品などの備蓄にも心を配ります。

5月22日に福島県議会議員の視察団を受け入れました。こども病院訪問の前に、福島から神戸に避難しておられる福島県民との面談があったとうかがいました。2011年3月11日の東日本大震災と原子力発電所事故から2年を経過しましたが、復興の歩みは遅々としています。阪神・淡路大震災の経験からの類推を許さない規模と異なった質の力によって、自然と故郷が破壊されたことを感じます。日本人一人ひとりが被災地の苦難に思いを寄せ、再生に向けて力を寄せ合うしかありません。被災地から各地に避難しているこども達が安心して故郷に戻れる日が一日も早く来ることを祈るばかりです。

患者さんにご家族から信頼される高度専門医療を提供する「最後の砦」となるよう、すべての職員が一体となって精進する所存です。年報を通じて当院の活動へのご理解が深まり、一層のご支援、ご指導を賜ることができれば、誠に幸いに存じます。

最後に、本年報の編纂にあたり多大なご尽力を頂いた広報委員会の橋本ひとみ委員長、田中亮二郎副委員長、中村淑子副委員長ならびに山根龍也総務部次長をはじめとした皆さまに深甚なる謝意を表します。

目 次

I 病 院 概 要

1 兵庫県立こども病院の設立目的	1
2 沿 革	1
3 業 務 図	4
(1) 機構一覧表	4
(2) 担当医師表	5
(3) 外来診療スケジュール	6
4 職 員	7
(1) 職種別人員表	7
5 近畿厚生局長への届出に関する事項	8
6 研修・教育認定施設設定内容	9
7 委員会一覧	10

II 医 事 経 理 関 係

15

III 診 療 統 計

1 総合診療科	31
2 救急集中治療科	32
3 代謝・内分泌内科	36
4 リウマチ科	37
5 アレルギー科	38
6 脳神経内科	39
7 血液・腫瘍内科	41
8 循環器内科	44
9 腎臓内科	46
10 精神神経科	47
11 小児外科	49
12 心臓血管外科	54
13 脳神経外科	57

14	形成外科	59
15	整形外科	60
16	眼科	62
17	耳鼻咽喉科	64
18	泌尿器科	68
19	小児歯科	70
20	麻酔科	71
21	新生児科	73
22	産科	76
23	放射線科	82
24	病理診断科	84
25	看護部	85
26	薬剤部	97
27	検査放射線部（検査）	101
28	検査放射線部（放射線部門）	109
29	栄養指導課	113
30	指導相談・地域医療連携部	119
31	ME室	124
32	理学療法	125
33	医療安全室	126
34	感染対策管理室	128
35	褥瘡管理室	130

IV 学術・研究・教育活動

1	書籍	131
2	雑誌	135
3	学会発表	144
4	実習生・研修生受け入れ状況	172
5	院内・院外研修	176

V	ボランティア	219
---	--------	-----

I 病 院 概 要

1. 兵庫県立こども病院の設立目的

こども病院は、小児治療が内科疾患を除いては、成人と同じ環境で診療が行われている現状と、ますます進展しつつある専門化、細分化した医学を基礎とした小児特有の検査、診断、治療を行いうる小児専門病院の設置を望む社会的要請に応えて、県政100年の記念事業の一環として、昭和45年に開設されました。これは、小児病院の業務に加え、異常児の出生予防、小児の精神保健、各科医療に伴う訓練部門等の医療行政もあわせて行う、小児メディカルセンターでもあります。

具体的には、

- (1) 近代小児医療の進歩、在り方に則し、小児疾患の診断と治療に関する高度に専門化、細分化した機能を総合的に発揮できること。
- (2) 小児に関する医療相談機関であること。
- (3) 小児の保健衛生に関する行政分野に対して、あらゆる面で協力機関であること。
- (4) 小児医療従事者の育成研修期間であること。

などがあります。

平成6年10月には、ハイリスク母子の救命を図ることを目的とし、ハイリスク母子の24時間体制受け入れ、妊産婦、胎児、新生児の管理を連続かつ一体的に行うことのできる周産期医療センターをオープンしました。

また、平成14年10月より県下の第3次小児救急の拠点として救急医療室を開設し、その後、平成19年10月に、機能を一層充実させた小児救急医療センターを新たにオープンしました。

2. 沿革

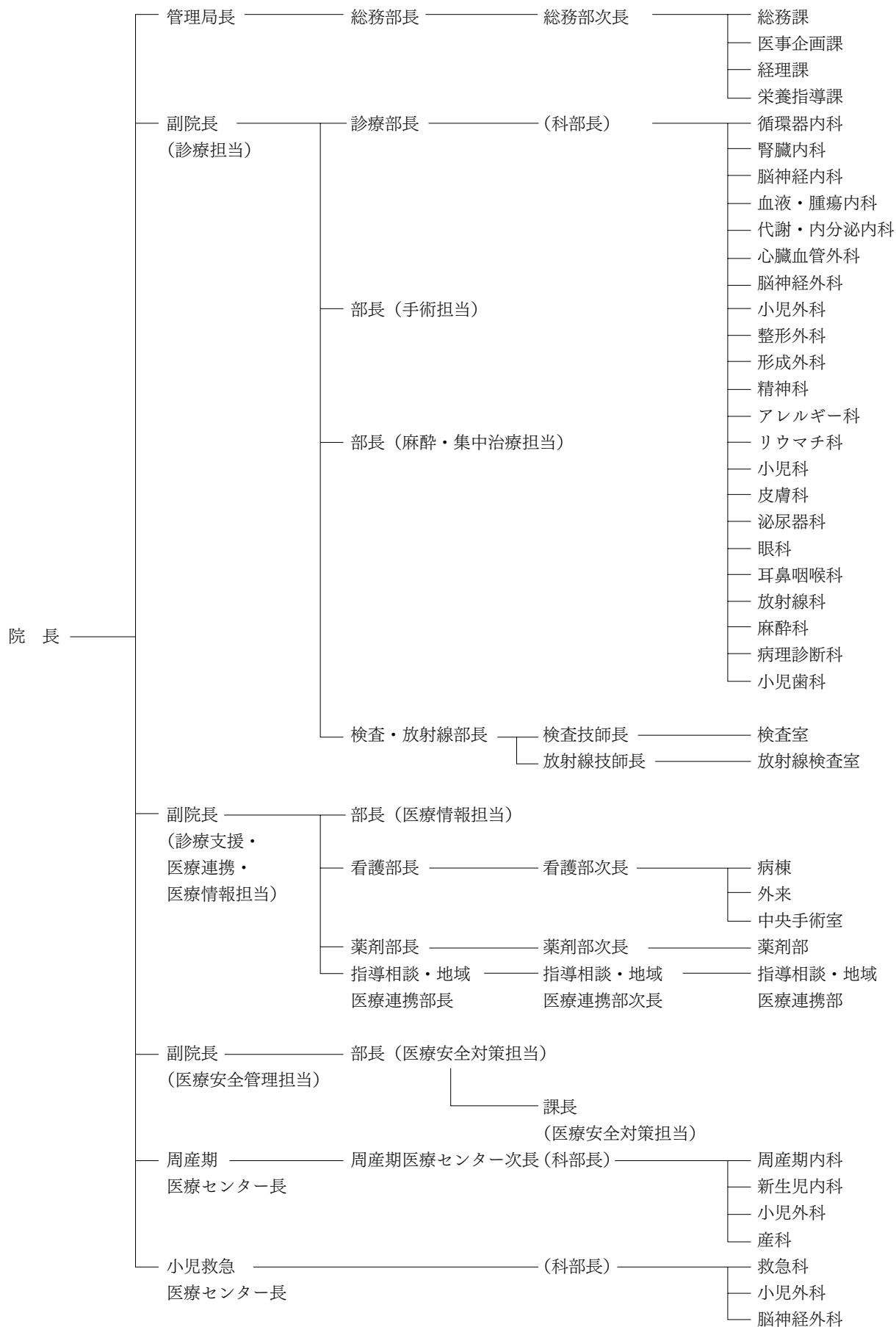
- | | | | |
|-------|-------------|---|----------------|
| (1) 名 | 称 | 兵庫県立こども病院 | |
| (2) 開 | 設 | 昭和45年4月1日（現管理者 丸尾 猛） | |
| (3) 所 | 在 | 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1 TEL 078-732-6961（代表） | |
| (4) 診 | 療 | 精神科、アレルギー科、リウマチ科、小児科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、血液・腫瘍内科、代謝・内分泌内科、周産期内科、新生児内科、整形外科、形成外科、脳神経外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、心臓血管外科、産科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、病理診断科、救急科、小児歯科 | |
| (5) 病 | 床 | 数 | 一般290床（稼働266床） |
| (6) 沿 | 革 | | |
| | 昭和45年4月1日 | 病院開設（管理者平田美穂） | |
| | 昭和45年4月30日 | 病院本館完成 | |
| | 昭和45年5月8日 | 診療開始 | |
| | 昭和45年7月23日 | 基準寝具実施（寝第295号） | |
| | 昭和45年9月17日 | 基準給食実施（食第307号）基準看護実施（看第130号） | |
| | 昭和46年12月28日 | 母と子の指導教室完成現在は母と子の教室と呼称 | |
| | 昭和47年2月1日 | 基準看護一般特類変更承認（険第98号） | |
| | 昭和47年12月1日 | 基準看護精神特類変更承認（険第219号） | |

昭和 49 年 10 月 1 日	基準看護一般特二類変更承認（険第 108 号）基準看護精神特一類変更承認（険第 108 号）
昭和 50 年 4 月 1 日	管理者変更受理（管理者児嶋喜八郎）
昭和 54 年 3 月 31 日	全館防災設備工事完成
昭和 54 年 8 月 2 日	日本脳神経外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和 55 年 4 月 1 日	昭和 55 年 3 月 26 日兵庫県条例第 11 号兵庫県病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例により診療科目改正、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科を追加
昭和 56 年 5 月 5 日	シアトル小児整形外科病院医療センターとの間に姉妹病院提携
昭和 56 年 10 月 7 日	日本外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和 56 年 10 月 12 日	日本麻酔学会認定医制度による指導病院として認定される
昭和 56 年 12 月 6 日	日本胸部外科学会認定医認定制度による指定訓練場所として認定される
昭和 57 年 4 月 1 日	日本小児外科学会認定医制度による認定医育成施設として認定される
昭和 58 年 4 月 1 日	日本病理学会認定病理医制度による認定病院として認定される
昭和 58 年 4 月 11 日	日本整形外科学会認定医制度研修施設として認定される
昭和 58 年 10 月 1 日	日本眼科学会専門医制度による研修施設として認定される
昭和 60 年 3 月 18 日	プリンセス・マーガレット小児病院との間に姉妹提携
昭和 60 年 3 月 28 日	日帰り手術棟完成
昭和 60 年 4 月 3 日	日本形成外科学会認定医研修施設として認定される
昭和 60 年 4 月 15 日	日帰り手術棟手術開始
昭和 61 年 3 月 31 日	日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定される
昭和 61 年 4 月 1 日	管理者変更受理（管理者玉木健雄）
昭和 61 年 4 月 1 日	日本泌尿器科学会専門医教育施設として認定される
昭和 61 年 10 月 1 日	日本医学放射線学会専門医制度規定による修練機関として認定される
昭和 62 年 1 月 22 日	自家発電設備改良工事完成
平成元年 2 月 1 日	外国医師臨床習練制度による研修施設として認定される
平成 3 年 5 月 1 日	基準看護一般特三類（一部）変更承認（険第 220 号）
平成 4 年 4 月 1 日	基準看護一般特三類（260 床に）変更承認（険第 363 号）医事会計システムの電算化開始、医療業務・事務当直・警備の全面委託開始
平成 4 年 5 月 9 日	週 40 時間制試行
平成 4 年 5 月 18 日	病床数 260 床に変更承認（精神病棟廃止）
平成 4 年 7 月 6 日	病床数 290 床に変更承認（兵庫県指令医第 1 - 67 号）
平成 4 年 7 月 29 日	周産期医療センター安全祈願祭
平成 4 年 11 月 7 日	週 40 時間制本格実施
平成 5 年 4 月 1 日	管理者変更受理（管理者竹峰久雄）
平成 6 年 7 月 20 日	周産期医療センター定礎式
平成 6 年 9 月 1 日	管理者変更受理（管理者小川恭一）
平成 6 年 9 月 30 日	ドクターズカー購入
平成 6 年 9 月 30 日	周産期医療センター完成
平成 6 年 10 月 1 日	行政組織規則の改正（兵庫県規則第 66 号）により、周産期医療センターを設置

平成6年 10月 3日	周産期医療センター開設記念式典
平成6年 10月 4日	周産期医療センター診療開始
平成7年 1月17日	阪神・淡路大震災
平成7年 9月 1日	本館改修工事に着手
平成8年 4月 1日	日本産科婦人科学会認定医制度による卒後研修指導施設として指定される
平成10年 6月30日	本館改修工事完了
平成11年 4月 2日	管理者変更受理（管理者山本節）
平成12年 3月 1日	総合周産期母子総合医療センターとして指定される
平成12年 4月24日	慢性疾患児家族宿泊施設（ファミリーハウス）を開設
平成13年10月10日	駐車場立体化工事に着手
平成14年 2月28日	立体駐車場完成
平成14年 4月 1日	臨床研修病院指定（厚生労働省発医政第 0401006）
平成14年 4月 1日	地方公営企業法の財務適用から全部適用に移行
平成14年10月15日	第3次小児救急開設（稼働病床 260床）
平成15年 4月 2日	管理者変更（管理者中村肇）
平成15年10月30日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第 1030005号 -511,519,526,533）
平成15年11月28日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第 1128007号 -330）
平成16年 3月22日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.3.1）
平成16年 4月 1日	アレルギー科追加
平成18年 4月 1日	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設として認定される
平成18年 4月 1日	日本気管食道科学会専門医研修施設（咽喉系）として認定される
平成19年10月 1日	小児救急医療センターを開設（稼働病床 266床）
平成20年 4月 1日	管理者変更（管理者丸尾猛）
平成21年 4月 1日	医療法施行令の改正に伴う診療科目標榜名変更
平成21年 7月 3日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.5.0）
平成21年12月16日	日地域医療支援病院の名称使用承認
平成21年 1月 4日	「母と子の指導教室」を「研修センター」に改修して供用開始
平成22年 4月 1日	駐車場の拡張（北駐車場増設）と有料化
平成23年 1月 4日	本館玄関周辺及び玄関ロビーを改修して供用開始
平成24年 4月 9日	中国福利会国際和平婦幼保健院と交流協定締結
平成25年 2月 8日	小児がん拠点病院として指定される

3. 業務図

(1) 機構一覧表 (平成 24 年 12 月 31 日 現在)



(2) 担当医師表 (平成 24 年 12 月 31 日 現在)

- (1) 小児科 宅見晃子、山崎武美 (非常勤)
- (2) 新生児内科 中尾秀人、芳本誠司、溝淵雅巳、坂井仁美、岩谷壮太、藤岡一路
和田杏子
- (3) 脳神経内科 永瀬裕朗、丸山あずさ、藤田杏子
- (4) 循環器内科 城戸佐知子、田中克敏、藤田秀樹、富永健太、佐藤有美、小川禎治
- (5) 腎臓内科 田中亮二郎、中川択
- (6) 代謝・内分泌内科 郷司克己、尾崎佳代
- (7) 血液・腫瘍内科 小阪嘉之、川崎圭一郎、長谷川大一郎、石田敏章、神前愛子
- (8) 救急科 上谷良行、福原信一、竹田洋樹、山口善道、中岸保夫、神田杏子、
奥野美佐子、楠元真由美
- (9) アレルギー・リウマチ科 三好麻里、笠井和子
- (10) 小児外科 西島栄治、横井暁子、中尾真、尾藤祐子、荒井洋志、福澤宏明
- (11) 心臓血管外科 大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、田中亜希子
- (12) 脳神経外科 長嶋達也、河村淳史、山元一樹、山本祐輔
- (13) 形成外科 大山知樹、木矢孝一郎
- (14) 整形外科 薩摩眞一、小林大介、衣笠真紀
- (15) 泌尿器科 杉多良文、中川賀清、久松英治
- (16) 耳鼻咽喉科 大津雅秀、阪本浩一 (兼務)
- (17) 眼科 野村耕治
- (18) 精神科 関口典子
- (19) 小児歯科 小本由美子
- (20) 産科 船越徹、佐本崇、角健司、喜吉賢二、高松祐幸、牧志綾、上田智宏
- (21) 放射線科 赤坂好宣、杉岡勇典
- (22) 麻酔科 香川哲郎、鈴木毅、高辻小枝子、大西広泰、池島典之、土居ゆみ、
鹿原史寿子、野々村智子、上北郁男、山長修
- (23) 病理診断科 吉田牧子
- (24) フェロー・専攻医 田中聡、西山将広、古賀千穂、亀井直哉、雪本知恵、野村安隆、
山下達也、宮田憲二、越智聡史、齋藤淳郎、田中司、大片祐一、
園田真理、谷本光隆、州尾昌伍、野田怜、谷口真貴、宇仁田亮、
水田麻雄、辻真之介、祖父江俊樹、武岡恵美子、二野菜々子、
白鳥孝俊、日外祐理、石田悠介、谷口紫野、高藤哲、中西啓太、
三木康暢 (小児科)
吉田拓哉、河原仁守 (小児外科)
黒岩祐、飛梅祥子 (整形外科)
福田輝雄 (泌尿器科)
大西健、江本美佐、山崎悠佐 (眼科)
清水香保里、葉宣慧、久保田陽子 (産科)
似内久美子、中川明美、古賀聡人、永井友紀子、末田彩、菅原友道、
本田真子、塚口敦子 (麻酔科)

(3) 外来診療スケジュール (平成 24 年 12 月 1 日)

科目	曜日	月		火		水		木		金	
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	総合診療	◎森永	各担当医	◎上谷	各担当医	◎笠井	各担当医	1・3・5週 ◎宅見 各担当医 2・4週 ◎山崎 各担当医		◎藤田	各担当医
	アレルギー			◎三好					◎三好		
	リウマチ					◎中岸 三好	◎中岸 三好				
	予防接種	三好									
	脳神経	◎永瀬			丸山				◎永瀬 児玉		◎丸山
	循環器	田中(敏)	城戸	◎田中(敏)		◎城戸	城戸	◎城戸 田中(敏)	城戸 (予約外来)	◎富永	富永
	腎臓	中川(拓) (神田)	3週 田中(亮)	◎田中 (亮) ◎中川 (拓)		◎田中 (亮) ◎中川 (拓)					◎田中 (亮) ◎中川 (拓)
	代謝内分泌		1・2・4週 郷司			◎郷司		◎郷司		◎尾崎	
	新生児				◎坂井 ◎和田 芳本		◎中尾(秀) ◎溝渕 坂井		◎中尾(秀) ◎芳本 和田		◎岩谷 ◎藤岡 溝渕
血液	◎小阪	川崎		◎小阪					◎小阪	長谷川	
外科	一般	◎中尾(真)	中尾(真)	◎荒井	荒井	◎尾藤	尾藤	◎西島	西島	◎横井	
	ヘルニア外来	◎担当医						◎担当医			
	特殊外来		ストマ		在宅療法						
	心臓		◎大嶋 松久 圓尾				◎大嶋 圓尾 長谷川				◎大嶋 長谷川 松久
	脳神経	◎山元				◎長嶋				◎河村	河村 1・3週 二春(長嶋) 2・4週 二春(山元)
	形成			◎大山 木矢 言語療法				◎大山 木矢 谷口 言語療法			
	整形		◎薩摩 ◎小林	◎薩摩 ◎衣笠	小林 衣笠 (1週側湾外来)	◎薩摩 ◎小林					二分脊椎
放射線科									副島		
眼科	◎野村 大西 山崎(悠) 江本			野村 大西 山崎(悠) 江本	野村 大西 山崎(悠) 江本	◎野村 大西 山崎(悠) 江本	◎野村 大西 山崎(悠) 江本	◎野村 大西 山崎(悠) 江本			
泌尿器科	◎久松		◎杉多 中川(賀) 久松	杉多 中川(賀) 久松	◎担当医			杉多 中川(賀) 久松	◎中川(賀) 久松	二分脊椎	
耳鼻咽喉科	◎大津	1週・2週 補聴器	◎阪本	3週・4週 補聴器				◎大津		◎阪本	
	言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		
歯科	◎曾根	曾根	◎曾根	曾根				◎曾根	曾根	◎曾根	曾根
精神科	◎長谷川(弘) ◎関口	関口	◎関口	関口	◎関口	関口	関口	関口		◎松川	
ADHD外来			前田	前田							
卒煙外来							◎永瀬				
発達行動							◎永瀬				
産科	◎船越 ◎佐本	超音波 検査	◎高松 ◎喜吉	超音波 外来	◎佐本 ◎牧志	超音波 検査	◎喜吉 ◎高松	超音波 外来	◎牧志 ◎船越	超音波 検査	

◎印は新患受付曜日となります

兵庫県立こども病院 〒 654-0081 神戸市須磨区高倉台 1-1-1
 代表 TEL078-732-6961
 予約センター直通 TEL 078-940-5532 (平日 9:00 ~ 17:00 医療機関専用)
 予約センター直通 FAX 078-732-6980 (24 時間対応)

4. 職員

(1) 職種別人員表（平成 24 年 12 月 31 日 現在）

職 種 別		現 員 [人]
事 務 職		21
技 術 職	医 師 ・ 歯 科 医 師	84 (49)
	薬 劑 師	11
	診 療 放 射 線 技 師	12
	臨 床 検 査 技 師	15
	栄 養 士	2
	看 護 師	486 (5)
	視 能 訓 練 士	3
	心 理 判 定 員	2 (1)
	精 神 保 健 福 祉 相 談 員	1
	保 育 士	7 (1)
	言 語 聴 覚 士	2
	臨 床 工 学 技 士	5
	理 学 療 法 士	1
	小 計	631 (56)
	技 能 労 務 職	機 関 員
調 理 員		11
小 計		12
合 計		664 (56)

注 1 「医師・歯科医師」の現員数は、非常勤医師、研修医師を除く。

2 () 外書きは、臨時的任用職員

5. 近畿厚生局長への届出に関する事項

当院は診療報酬の請求に関し、近畿厚生局長へ以下の事項につき届出を行っています。

入院基本料

一般病棟入院基本料（7対1）

入院基本料等加算

臨床研修病院入院診療加算（協力型）

救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算

妊産婦緊急搬送入院加算

診療録管理体制加算

医師事務作業補助体制加算

急性期看護補助体制加算

無菌治療室管理加算 1

重症者等療養環境特別加算

医療安全対策加算

感染防止対策加算

感染防止対策加算地域連携加算

患者サポート体制充実加算

褥そうハイリスク患者ケア加算

ハイリスク妊娠管理加算

ハイリスク分娩管理加算

新生児特定集中治療室退院調整加算

救急搬送患者地域連携紹介加算

救急搬送患者地域連携受入加算

データ提出加算

特定入院料

特定集中治療室管理料 1

総合周産期特定集中治療室管理料

母体・胎児集中治療室管理料

新生児特定集中治療室管理料 1

小児入院医療管理料 1

同上（保育士加算）

特掲診療料

高度難聴指導管理料

がん性疼痛緩和指導料

夜間休日救急搬送医学管理料

開放型病院共同指導料

薬剤管理指導料

医療機器安全管理料 1

造血器腫瘍遺伝子検査

検体検査管理加算（Ⅱ）

心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算

埋込型心電図検査

胎児心エコー法

皮下連続式グルコース測定

補聴器適合検査

小児食物アレルギー負荷検査

画像診断管理加算 2

C T撮影及びMRI撮影

冠動脈C T撮影加算

大腸C T撮影加算

心臓MRI撮影加算

抗悪性腫瘍剤処方管理加算

外来化学療法加算 1

無菌製剤処理料

脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅲ）

集団コミュニケーション療法料

一酸化窒素吸入療法

頭蓋骨形成手術

上顎骨形成術、下顎骨形成術

（いずれも骨移動を伴う場合に限る。）

ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術

（電池交換を含む）

埋込型心電図記録計移植術及び埋込型心電図

記録計摘出術

大動脈バルーンパイピング法

経皮的大動脈遮断術

ダメージコントロール手術

医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6

（歯科点数表第 2 章第 9 部の通則 4 を含む。）

に掲げる手術

輸血管理料Ⅱ

人工肛門・人口膀胱造設術前処置加算

麻酔管理料（Ⅰ）（Ⅱ）

高エネルギー放射線治療

病理診断管理加算 1

歯科関係

歯科外来診療環境体制加算

クラウン・ブリッジ維持管理料

歯科矯正診断料

入院時食事療養費 Ⅰ

6. 研修・教育認定施設内容

厚生労働省認定病院等	<p>◆ [厚生労働省認定] 厚生労働省認定臨床研修指定病院（小児） 厚生労働省認定外国医師臨床研修施設</p> <p>◆ [専門医教育病院学会指定] 日本小児科学会専門医研修施設 日本外科学会外科専門医訓練施設 日本脳神経外科学会専門医訓練施設 日本泌尿器科学会専門医教育施設 日本整形外科学会専門医研修施設 日本眼科学会専門医研修施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 日本病理学会登録施設 日本麻酔学会麻酔指導病院 日本医学放射線学会専門医修練機関 日本胸部外科学会認定医指定施設 日本気管支学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本形成外科学会認定医指導施設 日本小児外科学会認定施設 日本産科婦人科学会専門医研修指導施設 日本内分泌代謝科専門医認定教育施設 日本気管食道科学会認定日本気管食道科専門医研修施設 日本周産期新生児医学会専門医研修施設 日本小児循環器学会専門医修練施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本小児血液・がん専門医研修施設 日本小児神経学会専門医研修施設</p>
姉妹提携・交流協定病院	<p>シアトル小児病院（アメリカ合衆国） プリンセスマーガレット小児病院（オーストラリア） 国福利会国際和平婦幼保健院（中華人民共和国）</p>

7. 委員会一覧（平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月）

委員会名	開催回数	活動内容と結果
幹部会	毎月第 2 月曜日	病院の管理及び運営に関する基本方針等を審議
運営協議会・経営計画推進委員会	毎月第 4 月曜日	幹部会からの指示事項の調査、検討と職員への周知
保険診療対策委員会	毎月第 4 金曜日	減点内容の検討、返戻に対する対応の検討
医療事故防止対策委員会	毎月第 2 月曜日	リスクマネジメント部会からの報告、事故等案件の状況報告
リスクマネジメント部会	毎月第 2 火曜日	①各部門の毎月のヒヤリハット発生状況の報告 ②医療安全研修会の開催 ③医療安全推進週間の啓蒙 ④平成 22 年度の重点取り組み課題の決定と実施、評価
医療事故対策部会	事故発生時	①事故原因の追及 ②再発防止策の策定
院内感染対策委員会	毎月第 2 金曜日	①病院の感染対策に関する審議 ②院内外における感染微生物の発生状況の把握 ③院内発生時の早急な対応と拡大防止
ICT	毎週木曜日	①院内感染に関する情報収集・相談・対策検討・評価 ②感染予防における職員への教育 ③院内ラウンド
衛生委員会	月 1 回	職員の健康障害の防止対策等について審議
医療器械機種選定委員会	3 回	200 万円以上の医療器械の機種選定
診療材料委員会	5 回	①新規診療材料採用申請の審議 ② JITS システムデータに基づく診療材料変更提案の審議
薬事委員会	2 回	採用・中止薬品の検討、薬剤情報提供内容の追加 新規医薬品（20 品目）、中止医薬品（32 品目）
手術運営委員会	隔月第 4 水曜日	①手術件数報告 ②効率的な手術室運営について ③機種保守点検、更新について ④安全、感染について
医療用ガス安全管理委員会	1 回	医療用ガス設備に係る定期点検の報告
放射線安全委員会	1 回	①放射線業務従事者管理状況について ②放射線安全研修会開催について
倫理委員会	3 回	詳細は別紙のとおり
虐待防止委員会	事例発生時 定例 1 回	処遇検討 1 年間の件数報告・検討
治験審査委員会	6 回	詳細は別紙のとおり
化学療法レジメン委員会	2 回	①新規化学療法レジメンについて ②血液腫瘍科以外の注射抗がん剤（入院）処方入力について
褥瘡対策委員会	12 回	褥瘡発生報告
輸血療法委員会	隔月第 1 水曜日	①血液製剤の使用状況報告 ②輸血に関連した副作用報告 ③安全な輸血に関する取り決め ④輸血に関する諸問題の対応
検査委員会	不定期	①検査項目、運用等の変更に関する承認 ②検査に関する諸問題の解決 ③検査に関する要望
栄養給食委員会 NST 部会	1 回	①平成 23 年度給食及び栄養指導実施状況報告 ②災害時等における代替給食の業務提携 ③院内約束食事基準の改定 ④経腸栄養剤の種類変更と配膳方法の変更 ⑤術前食の新設 ⑥診療報酬改定に伴う栄養管理計画書の運用変更 ⑦ NST 活動について

患者サービス向上委員会	1回	①一般病棟における同僚面会制限の緩和について ②外来診療の待ち時間について ③医事課、外来受付の接遇について
接遇部会	1回	各部門の接遇についての問題報告と 新人及び全スタッフの研修について
防災対策委員会	1回	防災対策の推進について審議
医師の負担軽減等推進委員会	1回	負担軽減計画の策定
広報委員会	5回	①ニュースレター「がんきカエル」の発行（年4回） ②2011年報の発行 ③ホームページの一部更新 ④診療のご案内2012の発行
IT化推進委員会	4回	①電子カルテの取組について ・電子カルテ導入検討委員会の立ち上げ ・電子カルテ実施施設訪問及び報告 ・医療情報学連合大会参加及び報告 ②診療支援システムのアップグレードについて ・端末機のOSを必要に応じてバージョンアップ
診療記録等管理委員会	12回	診療録記載ガイドラインの改定 看護記録などの様式変更
外来運営委員会	3回	在宅物品等交付窓口の設置 胎児心エコー外来の整備 血液腫瘍外来などの診察枠の増設
病棟運営委員会	4回	①夏休みのベッドコントロールについて ・各診療科のめやすベッドについて ②キャリーオーバー患者の実態調査報告 ③HCUの病棟運営について
クリニカルパス委員会	11回	①クリニカルパスの広報・作成・運用・管理 ②院内クリニカルパス大会2回開催 ③新規クリニカルパス作成・改訂（合計60承認） ④地域医療連携パスカンファレンス4回
医療の質向上委員会	2回	①臨床指標の設定 ②毎年の臨床指標の集計
国際交流推進委員会	8回	①シアトル小児病院研修派遣について ②シアトル小児病院との学術交流 ③国際交流のための講演会について
緩和ケアチーム	月1回	緩和ケアチームの立ち上げと方向性の検討 症例検討

各種委員会（別紙）

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
倫理委員会	上谷 良行	3月5日 14:00～	応接室	6	<ol style="list-style-type: none"> 小児難治性T細胞急性リンパ性白血病に対するネララビン、フルダラビン、エトポシドを用いた寛解導入療法第I / II相臨床試験について<小阪血液・腫瘍内科部長> 小児および若年成人におけるT細胞性急性リンパ性白血病に対する多施設共同第II相臨床試験（JPLSGALL-T11/JAL T-ALL-211-U）について<同上>
倫理委員会	上谷 良行	8月29日 10:30～	応接室	6	<ol style="list-style-type: none"> 保存期の小児慢性腎臓病患者を対象としたバルサルタンと球形吸着炭の腎保護効果に関するランダム化比較試験<田中腎臓内科部長> 難聴の遺伝子解析と臨床応用に関する研究<坂本耳鼻咽喉科部長>
倫理委員会	上谷 良行	11月19日 10:00～	応接室	7	<ol style="list-style-type: none"> ステロイド、免疫抑制剤抵抗性を示す難治性ネフローゼ症候群3例に対するリツキシマブについて<田中腎臓内科部長> 小児の過活動膀胱に対する抗コリン薬の安全性と有効性の検討<杉多泌尿器科部長> 日本 Pediatric Interventional Cardiology データベース（Japan Pediatric Interventional Cardional Datebase, JPIC-DB）へのオンライン症例登録<田中腎臓内科部長> 急性脳症に対する脳低温/平温療法下での抗いれいれん薬持続静注療法の有効性に関する研究<永瀬脳神経内科医長> 胎児頻脈性不整脈に対する経胎盤的投与における抗不整脈薬投与に関する臨床試験<喜吉産科医長> 胎児胸水に対する継母体腹壁穿刺による胸水除去、シャント留置術<同上> 胎児貧血に対する継母体腹壁穿刺による胎児輸血<同上>
治験審査委員会	中尾 秀人	4月27日	応接室	9	256U87 試験（第III相試験）の実施の適否について審議、また現在進行中の治験6課題の継続についても審議した
治験審査委員会	中尾 秀人	7月6日	応接室	9	現在進行中の治験5課題の継続について審議した
治験審査委員会	中尾 秀人	8月17日	応接室	9	NK-104 試験及びONO-7847 試験の実施の適否について審議、また現在進行中の治験3課題の継続についての審議と ABT-315 試験の終了報告をした

治験審査委員会	中尾 秀人	10月19日	応接室	8	現在進行中の治験5課題の継続について審議及びMK-0991試験の終了報告をした
治験審査委員会	中尾 秀人	12月14日	応接室	7	現在進行中の治験5課題の継続について審議及び迅速審査の結果報告をした
治験審査委員会	中尾 秀人	2月8日	応接室	7	MK-0991試験(第II相試験)の実施の適否について審議、また現在進行中の治験4課題の継続についても審議とJR-401試験の終了報告をした

II 医事経理関係

第1節 患者数統計

1. 総括

(1) 年度別

区 分				20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
外 来	a	診療日数	日	243	242	243	244	245
	b	新患者数	人	7,671	8,101	7,923	7,696	7,631
	c	一日平均新患者数	人	31.6	33.5	32.6	31.5	31.1
	d	延患者数	人	87,351	84,186	86,269	86,464	86,902
	e	一日平均延患者数	人	359.5	347.9	355.0	354.4	354.7
	f	平均通院日数	日	11.4	10.4	10.9	11.2	11.4
入 院	g	稼働日数	日	365	365	365	366	365
	h	稼働病床数	床	266	266	266	266	266
	I	入院患者数	人	5,175	5,483	5,261	5,425	5,290
	j	一日平均入院患者数	人	14.2	15.0	14.4	14.8	14.5
	k	退院患者数	人	5,154	5,470	5,294	5,422	5,302
	l	一日平均退院患者数	人	14.1	15.0	14.5	14.8	14.5
	m	延入院患者数	人	85,047	86,991	88,487	88,849	88,036
	n	一日平均延患者数	人	233.0	238.3	242.4	242.8	241.2
	o	病床利用率	%	87.4	89.4	91.1	91.3	90.7
	p	病床回転数	回	19.4	20.6	19.8	20.4	19.9
	r	日帰り入院患者数	人	92	92	108	122	88
	s	N I C U ・ G C U 入院患者数	人	930	991	1,014	1,011	963
	t	平均在院日数	日	15.5	14.9	15.8	15.4	15.6
	u	外来入院比率	%	102.7	96.8	97.5	97.3	98.7
v	入院率	%	67.5	67.7	66.4	70.5	69.3	
計 算 式	f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = (m / (h × g)) × 100 p 病床回転率 = ((I+k) / 2) / h t 平均在院日数 = (m-k) / ((I+k) / 2) u 外来入院比率 = (d/m) × 100 v 入院率 = (I/b) × 100 ※ r 日帰り入院患者数は20年度5月分より							

(2) 月別患者統計

H24 年度

区 分				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
外 来	a	診 療 日 数	日	20	21	21	21	23	19	22	21	19	19	19	20	245
	b	新 患 者 数	人	625	629	619	647	665	589	639	687	622	628	651	630	7,631
	c	一日平均新患者数	人	31.3	30.0	29.5	30.8	28.9	31.0	29.0	32.7	32.7	33.1	34.3	31.5	31.1
	d	延 患 者 数	人	7,044	6,952	6,752	7,538	8,745	6,947	7,394	7,111	7,209	6,919	6,633	7,658	86,902
	e	一日平均延患者数	人	352.2	331.0	321.5	359.0	380.2	365.6	336.1	338.6	379.4	364.2	349.1	382.9	354.7
	f	平均通院日数	日	11.3	11.1	10.9	11.7	13.2	11.8	11.6	10.4	11.6	11.0	10.2	12.2	11.4
入 院	g	稼 働 日 数	日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
	h	稼 働 病 床 数	床	266	266	266	266	266	266	266	266	266	266	266	266	3,192
	I	入 院 患 者 数	人	411	465	412	481	479	423	448	434	446	438	402	451	5,290
	j	一日平均入院患者数	人	13.7	15.0	13.7	15.5	15.5	14.1	14.5	14.5	14.4	14.1	14.4	14.5	14.5
	k	退 院 患 者 数	人	423	445	440	457	490	405	459	420	504	387	392	480	5,302
	l	一日平均退院患者数	人	14.1	14.4	14.7	14.7	15.8	13.5	14.8	14.0	16.3	12.5	14.0	15.5	14.5
	m	延 入 院 患 者 数	人	7,326	7,142	7,202	7,528	7,354	6,995	7,746	7,300	7,616	7,137	6,943	7,747	88,036
	n	一日平均延患者数	人	244.2	230.4	240.1	242.8	237.2	233.2	249.9	243.3	245.7	230.2	248.0	249.9	241.2
	o	病 床 利 用 率	%	91.8	86.6	90.3	91.3	89.2	87.7	93.9	91.5	92.4	91.5	93.2	93.9	90.7
	p	病 床 回 転 数	回	1.6	1.7	1.6	1.8	1.8	1.6	1.7	1.6	1.8	1.6	1.5	1.8	1.7
	r	日 帰 入 院 患 者 数	人	10	8	9	1	5	3	5	3	17	8	8	11	88
	s	N I C U ・ G C U 入 院 患 者 数	人	62	68	65	82	93	90	95	78	101	89	77	63	963
	t	平 均 在 院 日 数	日	16.6	14.7	15.9	15.1	14.2	15.9	16.1	16.1	15.0	16.2	16.5	15.6	15.6
	u	外 来 入 院 比 率	%	96.2	97.3	93.8	100.1	118.9	99.3	95.5	97.4	94.7	96.9	95.5	98.9	98.7
v	入 院 率	%	65.8	73.9	66.6	74.3	72.0	71.8	70.1	63.2	71.7	69.7	61.8	71.6	69.3	
計 算 式	f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = (m / (h × g)) × 100 p 病床回転率 = ((I+k) / 2) / h t 平均在院日数 = (m-k) / ((I+k) / 2) u 外来入院比率 = (d/m) × 100 v 入院率 = (I/b) × 100 ※ r 日帰り入院患者数は20年度5月分より															

2. 月別科別外来患者数

H24 年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新患者数	38	42	54	37	44	43	35	35	27	26	30	19	430
	再来患者数	619	530	569	577	777	641	590	559	597	551	564	727	7,301
	延患者数	657	572	623	614	821	684	625	594	624	577	594	746	7,731
腎臓内科	新患者数	8	7	11	33	37	9	7	9	8	10	10	3	152
	再来患者数	217	209	221	279	322	231	242	215	225	249	223	263	2,896
	延患者数	225	216	232	312	359	240	249	224	233	259	233	266	3,048
脳神経内科	新患者数	21	11	13	18	15	12	11	18	17	15	22	12	185
	再来患者数	308	287	293	322	326	274	284	298	279	283	263	295	3,512
	延患者数	329	298	306	340	341	286	295	316	296	298	285	307	3,697
血液内科	新患者数	9	8	2	7	3	4	8	5	10	3	5	6	70
	再来患者数	288	262	275	363	391	294	308	279	285	313	291	372	3,721
	延患者数	297	270	277	370	394	298	316	284	295	316	296	378	3,791
代謝・内分泌内科	新患者数	19	15	13	9	13	10	3	15	8	7	15	15	142
	再来患者数	388	414	346	348	487	347	400	408	400	354	378	398	4,668
	延患者数	407	429	359	357	500	357	403	423	408	361	393	413	4,810
新生児内科	新患者数	37	39	38	55	58	57	54	56	62	54	54	34	598
	再来患者数	242	243	224	218	217	261	285	279	299	309	285	351	3,213
	延患者数	279	282	262	273	275	318	339	335	361	363	339	385	3,811
アレルギー内科	新患者数	4	6	9	4	7	7	6	4	5	9	5	7	73
	再来患者数	126	147	121	123	152	95	105	100	124	111	116	127	1,447
	延患者数	130	153	130	127	159	102	111	104	129	120	121	134	1,520
小児科	新患者数	25	35	26	25	27	23	16	13	17	15	20	13	255
	再来患者数	114	135	135	153	156	133	134	140	106	110	107	133	1,556
	延患者数	139	170	161	178	183	156	150	153	123	125	127	146	1,811
精神科	新患者数	5	10	11	12	7	8	12	12	8	6	6	9	106
	再来患者数	127	173	237	264	290	228	287	250	274	243	218	268	2,859
	延患者数	132	183	248	276	297	236	299	262	282	249	224	277	2,965
小児外科	新患者数	48	50	54	56	67	53	45	59	47	42	48	37	606
	再来患者数	440	428	426	477	612	425	480	416	479	430	372	501	5,486
	延患者数	488	478	480	533	679	478	525	475	526	472	420	538	6,092
心臓血管外科	新患者数	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	3
	再来患者数	125	123	144	113	149	158	150	124	113	127	95	109	1,530
	延患者数	125	123	144	113	150	159	150	124	113	127	96	109	1,533
脳神経外科	新患者数	21	20	13	21	24	21	22	20	12	21	12	16	223
	再来患者数	308	300	245	343	461	305	298	302	297	320	281	252	3,712
	延患者数	329	320	258	364	485	326	320	322	309	341	293	268	3,935

整 形 外 科	新患者数	79	58	69	49	45	42	88	88	79	93	77	68	835
	再来患者数	488	423	361	515	510	458	466	391	474	413	389	448	5,336
	延患者数	567	481	430	564	555	500	554	479	553	506	466	516	6,171
形 成 外 科	新患者数	35	39	39	45	44	40	47	38	37	32	45	41	482
	再来患者数	272	297	266	283	381	278	317	314	297	279	281	355	3,620
	延患者数	307	336	305	328	425	318	364	352	334	311	326	396	4,102
泌 尿 器 科	新患者数	53	64	65	55	64	63	56	59	64	53	65	63	724
	再来患者数	411	408	393	473	513	418	429	419	406	356	358	476	5,060
	延患者数	464	472	458	528	577	481	485	478	470	409	423	539	5,784
眼 科	新患者数	39	56	53	45	50	47	44	52	46	49	39	45	565
	再来患者数	846	884	831	880	1,100	804	903	930	855	805	816	848	10,502
	延患者数	885	940	884	925	1,150	851	947	982	901	854	855	893	11,067
産 科	新患者数	44	43	38	49	43	45	42	46	38	41	46	40	515
	再来患者数	240	246	224	211	241	225	234	228	257	244	197	226	2,773
	延患者数	284	289	262	260	284	270	276	274	295	285	243	266	3,288
耳 鼻 咽 喉 科	新患者数	35	39	41	36	41	33	30	36	30	35	41	39	436
	再来患者数	440	403	444	524	533	442	427	406	425	437	434	523	5,438
	延患者数	475	442	485	560	574	475	457	442	455	472	475	562	5,874
放 射 線 科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻 醉 科	新患者数	0	0	1	2	0	0	2	1	1	0	0	1	8
	再来患者数	81	80	74	77	93	65	86	81	83	68	75	89	952
	延患者数	81	80	75	79	93	65	88	82	84	68	75	90	960
救 急 科	新患者数	64	60	46	58	43	36	61	69	45	50	45	55	632
	再来患者数	84	108	91	91	85	86	87	79	84	85	63	65	1,008
	延患者数	148	168	137	149	128	122	148	148	129	135	108	120	1,640
菌 科	新患者数	41	27	23	31	32	35	50	52	61	67	65	107	591
	再来患者数	255	223	213	257	284	190	243	206	228	204	176	202	2,681
	延患者数	296	250	236	288	316	225	293	258	289	271	241	309	3,272
合 計	新患者数	625	629	619	647	665	589	639	687	622	628	651	630	7,631
	再来患者数	6,419	6,323	6,133	6,891	8,080	6,358	6,755	6,424	6,587	6,291	5,982	7,028	79,271
	延患者数	7,044	6,952	6,752	7,538	8,745	6,947	7,394	7,111	7,209	6,919	6,633	7,658	86,902

3. 月別科別入院患者数

H24 年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新規入院患者数	28	31	23	32	33	27	27	23	28	26	17	26	321
	退院患者数	34	28	33	29	46	27	28	27	35	27	25	30	369
	延患者数	815	784	778	873	820	654	716	784	831	790	615	738	9,198
腎臓内科	新規入院患者数	6	5	10	11	7	9	8	8	5	2	7	6	84
	退院患者数	8	8	11	9	12	9	10	4	10	6	2	11	100
	延患者数	145	151	130	96	120	79	105	96	124	62	67	127	1,302
脳神経内科	新規入院患者数	2	2	2	6	3	2	4	4	6	3	6	2	42
	退院患者数	6	8	6	8	9	7	13	12	15	12	16	8	120
	延患者数	182	134	183	171	144	78	214	258	221	156	220	141	2,102
血液内科	新規入院患者数	50	64	61	64	46	38	43	42	36	45	39	53	581
	退院患者数	56	65	68	68	48	44	48	45	49	47	41	55	634
	延患者数	928	1,013	982	940	882	866	934	801	848	887	859	941	10,881
代謝・内分泌内科	新規入院患者数	2	1	3	2	0	1	4	3	2	2	4	5	29
	退院患者数	3	2	3	3	1	1	5	3	3	2	6	3	35
	延患者数	52	13	35	11	12	18	23	27	17	13	43	42	306
新生児内科	新規入院患者数	40	47	40	54	60	57	61	56	72	53	54	37	631
	退院患者数	43	43	38	42	55	43	56	56	65	44	48	49	582
	延患者数	1,775	1,570	1,557	1,826	1,947	1,978	2,172	2,057	2,074	2,040	1,977	1,895	22,868
アレルギー内科	新規入院患者数	1	4	1	2	0	4	1	2	3	4	3	4	29
	退院患者数	1	3	1	3	0	2	1	1	6	3	3	4	28
	延患者数	3	16	30	44	0	11	22	63	78	41	12	34	354
小児科	新規入院患者数	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3
	退院患者数	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	4
	延患者数	7	0	0	0	1	7	0	7	0	2	0	8	32
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児外科	新規入院患者数	59	46	50	54	63	38	53	49	47	43	40	44	586
	退院患者数	66	56	50	78	61	48	66	54	64	42	39	63	687
	延患者数	757	746	768	857	796	732	827	739	721	657	679	794	9,073
心臓血管外科	新規入院患者数	8	12	9	14	23	16	9	14	16	8	6	10	145
	退院患者数	13	9	12	11	24	14	16	15	23	9	8	11	165
	延患者数	357	329	471	317	334	293	310	287	344	233	213	357	3,845
脳神経外科	新規入院患者数	17	14	12	19	15	13	16	8	16	15	8	12	165
	退院患者数	19	16	18	18	23	18	18	18	24	16	13	20	221
	延患者数	316	289	281	266	328	238	279	298	277	221	289	271	3,353

整 形 外 科	新規入院患者数	18	18	20	16	24	17	22	23	16	24	20	21	239
	退院患者数	18	16	23	15	23	19	26	20	26	17	21	23	247
	延患者数	226	193	243	269	292	306	305	214	258	210	202	280	2,998
形 成 外 科	新規入院患者数	13	21	19	24	22	21	24	21	24	28	20	22	259
	退院患者数	13	23	20	22	25	22	25	22	25	24	20	27	268
	延患者数	101	119	115	178	131	133	173	101	139	122	127	124	1,563
泌 尿 器 科	新規入院患者数	18	18	24	24	23	19	19	24	15	24	25	27	260
	退院患者数	20	14	26	23	21	23	21	20	20	21	28	26	263
	延患者数	104	75	122	102	103	126	94	112	93	107	131	147	1,316
眼 科	新規入院患者数	33	47	29	42	49	42	38	42	33	38	37	48	478
	退院患者数	36	44	34	35	48	42	42	37	41	33	37	48	477
	延患者数	153	200	145	169	210	196	193	179	178	163	174	233	2,193
産 科	新規入院患者数	40	47	42	45	46	54	36	39	43	41	43	48	524
	退院患者数	40	43	44	43	53	48	38	40	39	42	41	48	519
	延患者数	913	988	913	987	870	940	942	864	1,007	988	909	1,024	11,345
耳 鼻 咽 喉 科	新規入院患者数	8	13	10	12	7	9	8	7	10	10	11	7	112
	退院患者数	8	13	10	12	6	10	8	7	12	8	11	8	113
	延患者数	63	83	64	88	63	65	62	50	71	70	83	74	836
放 射 線 科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻 酔 科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救 急 科	新規入院患者数	67	75	57	60	57	56	75	69	74	72	62	78	802
	退院患者数	38	54	43	38	35	27	38	38	47	34	33	45	470
	延患者数	429	439	385	334	301	275	375	363	335	375	343	517	4,471
歯 科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	新規入院患者数	411	465	412	481	479	423	448	434	446	438	402	451	5,290
	退院患者数	423	445	440	457	490	405	459	420	504	387	392	480	5,302
	延患者数	7,326	7,142	7,202	7,528	7,354	6,995	7,746	7,300	7,616	7,137	6,943	7,747	88,036

4. 年度別科別外来患者数

		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
循環器内科	新患者数	457	464	453	454	430
	再来患者数	7,150	6,817	6,939	7,107	7,301
	延患者数	7,607	7,281	7,392	7,561	7,731
腎臓内科	新患者数	149	174	162	163	152
	再来患者数	2,414	2,543	2,714	2,739	2,896
	延患者数	2,563	2,717	2,876	2,902	3,048
脳神経内科	新患者数	104	125	122	157	185
	再来患者数	2,281	2,360	2,731	3,315	3,512
	延患者数	2,385	2,485	2,853	3,472	3,697
血液内科	新患者数	74	61	73	79	70
	再来患者数	3,216	2,995	2,899	3,198	3,721
	延患者数	3,290	3,056	2,972	3,277	3,791
代謝・内分泌内科	新患者数	161	137	148	154	142
	再来患者数	4,714	4,546	4,756	4,741	4,668
	延患者数	4,875	4,683	4,904	4,895	4,810
新生児内科	新患者数	359	662	680	664	598
	再来患者数	3,841	3,486	3,466	3,042	3,213
	延患者数	4,200	4,148	4,146	3,706	3,811
アレルギー内科	新患者数	152	127	142	95	73
	再来患者数	2,502	2,562	2,629	2,687	1,447
	延患者数	2,654	2,689	2,771	2,782	1,520
小児科	新患者数	336	348	345	294	255
	再来患者数	1,798	1,918	1,924	1,599	1,556
	延患者数	2,134	2,266	2,269	1,893	1,811
精神科	新患者数	133	125	108	123	106
	再来患者数	3,339	3,297	3,633	2,583	2,859
	延患者数	3,472	3,422	3,741	2,706	2,965
小児外科	新患者数	736	685	770	636	606
	再来患者数	5,520	5,167	5,192	5,212	5,486
	延患者数	6,256	5,852	5,962	5,848	6,092
心臓血管外科	新患者数	5	11	9	6	3
	再来患者数	1,510	1,305	1,391	1,484	1,530
	延患者数	1,515	1,316	1,400	1,490	1,533
脳神経外科	新患者数	212	243	247	270	223
	再来患者数	3,469	3,547	3,604	3,696	3,712
	延患者数	3,681	3,790	3,851	3,966	3,935

整 形 外 科	新患者数	689	714	733	819	835
	再来患者数	4,683	4,631	4,857	5,171	5,336
	延患者数	5,372	5,345	5,590	5,990	6,171
形 成 外 科	新患者数	502	449	443	441	482
	再来患者数	4,133	3,629	3,656	3,504	3,620
	延患者数	4,635	4,078	4,099	3,945	4,102
泌 尿 器 科	新患者数	812	782	794	776	724
	再来患者数	5,271	5,181	5,258	5,375	5,060
	延患者数	6,083	5,963	6,052	6,151	5,784
眼 科	新患者数	602	560	679	578	565
	再来患者数	9,747	9,205	9,863	10,226	10,502
	延患者数	10,349	9,765	10,542	10,804	11,067
産 科	新患者数	660	753	605	521	515
	再来患者数	3,510	3,467	3,269	2,967	2,773
	延患者数	4,170	4,220	3,874	3,488	3,288
耳 鼻 咽 喉 科	新患者数	403	393	476	442	436
	再来患者数	4,613	4,389	4,916	5,255	5,438
	延患者数	5,016	4,782	5,392	5,697	5,874
放 射 線 科	新患者数	0	0	0	1	0
	再来患者数	3	1	0	4	0
	延患者数	3	1	0	5	0
麻 醉 科	新患者数	0	0	4	9	8
	再来患者数	958	989	1,032	947	952
	延患者数	958	989	1,036	956	960
救 急 科	新患者数	698	929	633	645	632
	再来患者数	1,734	1,094	931	1,131	1,008
	延患者数	2,432	2,023	1,564	1,776	1,640
歯 科	新患者数	427	359	297	369	591
	再来患者数	3,274	2,956	2,686	2,785	2,681
	延患者数	3,701	3,315	2,983	3,154	3,272
合 計	新患者数	7,671	8,101	7,923	7,696	7,631
	再来患者数	79,680	76,085	78,346	78,768	79,271
	延患者数	87,351	84,186	86,269	86,464	86,902

5. 年度別科別入院患者数

		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
循環器内科	新規入院患者数	310	280	296	318	321
	退院患者数	309	297	321	346	369
	延患者数	6,700	7,329	9,437	9,210	9,198
腎臓内科	新規入院患者数	67	90	67	73	84
	退院患者数	79	105	95	103	100
	延患者数	1,321	1,414	1,281	1,288	1,302
脳神経内科	新規入院患者数	25	34	27	31	42
	退院患者数	74	94	79	117	120
	延患者数	1,638	1,548	1,707	2,229	2,102
血液内科	新規入院患者数	475	509	462	566	581
	退院患者数	508	563	499	604	634
	延患者数	8,999	9,192	9,416	10,908	10,881
代謝・内分泌内科	新規入院患者数	62	44	72	38	29
	退院患者数	63	47	81	42	35
	延患者数	646	439	559	302	306
新生児内科	新規入院患者数	786	786	695	663	631
	退院患者数	756	735	659	612	582
	延患者数	23,033	23,875	23,701	23,512	22,868
アレルギー内科	新規入院患者数	50	47	32	73	29
	退院患者数	65	59	37	76	28
	延患者数	500	485	194	283	354
小児科	新規入院患者数	24	61	17	4	3
	退院患者数	164	256	148	54	4
	延患者数	1,890	1,715	1,232	419	32
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
小児外科	新規入院患者数	522	565	574	580	586
	退院患者数	592	642	639	670	687
	延患者数	7,648	9,035	8,777	9,627	9,073
心臓血管外科	新規入院患者数	135	109	148	147	145
	退院患者数	160	125	176	178	165
	延患者数	5,675	4,064	4,054	4,457	3,845
脳神経外科	新規入院患者数	161	191	165	152	165
	退院患者数	225	248	220	219	221
	延患者数	3,473	3,383	3,724	3,204	3,353

整 形 外 科	新規入院患者数	202	249	241	232	239
	退院患者数	208	248	252	243	247
	延患者数	3,377	3,122	3,225	2,586	2,998
形 成 外 科	新規入院患者数	237	249	289	270	259
	退院患者数	252	264	297	282	268
	延患者数	1,817	2,137	2,172	1,856	1,563
泌 尿 器 科	新規入院患者数	279	269	273	315	260
	退院患者数	286	274	279	326	263
	延患者数	1,497	1,499	1,501	1,652	1,316
眼 科	新規入院患者数	388	438	458	472	478
	退院患者数	391	438	453	476	477
	延患者数	1,661	1,968	2,104	2,284	2,193
産 科	新規入院患者数	619	635	597	587	524
	退院患者数	606	638	594	589	519
	延患者数	10,944	11,233	11,078	10,472	11,345
耳 鼻 咽 喉 科	新規入院患者数	92	88	106	106	112
	退院患者数	88	91	108	108	113
	延患者数	728	700	793	845	836
放 射 線 科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
麻 醉 科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
救 急 科	新規入院患者数	741	839	742	798	802
	退院患者数	328	346	357	377	470
	延患者数	3,500	3,853	3,532	3,715	4,471
歯 科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
合 計	新規入院患者数	5,175	5,483	5,261	5,425	5,290
	退院患者数	5,154	5,470	5,294	5,422	5,302
	延患者数	85,047	86,991	88,487	88,849	88,036

6. 年齢別患者状況

H24年度

年齢区分	外 来		入 院	
	患者数(人)	構成比(%)	患者数(人)	構成比(%)
0歳～1歳未満	2,401	10.1%	952	24.0%
1歳以上～3歳未満	3,564	15.0%	634	16.0%
3歳～6歳未満	4,591	19.3%	599	15.1%
6歳～13歳未満	8,654	36.3%	960	24.2%
13歳以上～16歳未満	2,266	9.5%	222	5.6%
16歳以上	2,342	9.8%	606	15.3%
合 計	23,818	100.0%	3,973	100.0%

※実患者数

7. 地域別患者状況

(1) 外来

区 分	23年度		24年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比	
兵 庫	神戸市	10,872	45.5%	10,823	45.4%
	姫路市	1,199	5.0%	1,193	5.0%
	尼崎市	368	1.5%	387	1.6%
	明石市	2,228	9.3%	2,265	9.5%
	西宮市	887	3.7%	850	3.6%
	洲本市	199	0.8%	189	0.8%
	芦屋市	263	1.1%	278	1.2%
	伊丹市	254	1.1%	245	1.0%
	相生市	57	0.2%	50	0.2%
	豊岡市	236	1.0%	256	1.1%
兵 庫 県	加古川市	876	3.7%	856	3.6%
	赤穂市	123	0.5%	127	0.5%
	西脇市	154	0.6%	172	0.7%
	宝塚市	326	1.4%	321	1.3%
	三木市	440	1.8%	452	1.9%
	高砂市	333	1.4%	343	1.4%
	川西市	118	0.5%	96	0.4%
	小野市	233	1.0%	253	1.1%
	三田市	445	1.9%	457	1.9%
	加西市	144	0.6%	146	0.6%
兵 庫 県	篠山市	162	0.7%	156	0.7%
	養父市	5	0.0%	4	0.0%
	丹波市	4	0.0%	3	0.0%

(1) 入院

区 分	23年度		24年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比	
兵 庫	神戸市	1,831	43.7%	1,783	44.9%
	姫路市	237	5.7%	212	5.3%
	尼崎市	68	1.6%	69	1.7%
	明石市	379	9.0%	352	8.9%
	西宮市	164	3.9%	126	3.2%
	洲本市	32	0.8%	24	0.6%
	芦屋市	45	1.1%	39	1.0%
	伊丹市	38	0.9%	31	0.8%
	相生市	8	0.2%	3	0.1%
	豊岡市	47	1.1%	48	1.2%
兵 庫 県	加古川市	134	3.2%	123	3.1%
	赤穂市	20	0.5%	17	0.4%
	西脇市	29	0.7%	23	0.6%
	宝塚市	53	1.3%	39	1.0%
	三木市	65	1.6%	94	2.4%
	高砂市	52	1.2%	48	1.2%
	川西市	15	0.4%	15	0.4%
	小野市	39	0.9%	52	1.3%
	三田市	70	1.7%	73	1.8%
	加西市	23	0.5%	29	0.7%
兵 庫 県	篠山市	27	0.6%	27	0.7%
	養父市	1	0.0%	2	0.1%
	丹波市	1	0.0%	0	0.0%

兵	南あわじ市	2	0.0%	2	0.0%
	朝来市	4	0.0%	6	0.0%
	淡路市	2	0.0%	2	0.0%
	宍粟市	4	0.0%	2	0.0%
	加東市	7	0.0%	6	0.0%
	たつの市	6	0.0%	3	0.0%
	猪名川町	27	0.1%	29	0.1%
	多可町	3	0.0%	3	0.0%
	稲美町	116	0.5%	112	0.5%
	播磨町	153	0.6%	142	0.6%
	市川町	43	0.2%	36	0.2%
	福崎町	60	0.3%	48	0.2%
	神河町	10	0.0%	6	0.0%
	太子町	93	0.4%	90	0.4%
	上郡町	34	0.1%	31	0.1%
	佐用町	33	0.1%	26	0.1%
	香美町	1	0.0%	1	0.0%
	新温泉町	1	0.0%	1	0.0%
	その他	1	0.0%	2	0.0%
計	20,526	85.8%	20,470	85.9%	
近畿圏	2,464	10.3%	2,390	10.0%	
近畿圏外	930	3.9%	958	4.0%	
総計	23,920	100.0%	23,818	100.0%	

兵	南あわじ市	0	0.0%	0	0.0%
	朝来市	0	0.0%	0	0.0%
	淡路市	0	0.0%	0	0.0%
	宍粟市	0	0.0%	1	0.0%
	加東市	1	0.0%	0	0.0%
	たつの市	0	0.0%	0	0.0%
	猪名川町	1	0.0%	5	0.1%
	多可町	0	0.0%	0	0.0%
	稲美町	17	0.4%	20	0.5%
	播磨町	19	0.5%	21	0.5%
	市川町	9	0.2%	7	0.2%
	福崎町	6	0.1%	8	0.2%
	神河町	0	0.0%	0	0.0%
	太子町	12	0.3%	16	0.4%
	上郡町	6	0.1%	6	0.2%
	佐用町	8	0.2%	2	0.1%
	香美町	0	0.0%	0	0.0%
	新温泉町	0	0.0%	0	0.0%
	その他	0	0.0%	0	0.0%
計	3,457	82.5%	3,315	83.4%	
近畿圏	469	11.2%	432	10.9%	
近畿圏外	266	6.3%	226	5.7%	
総計	4,192	100.0%	3,973	100.0%	

※実患者数

8. 公費負担患者状況

H24年度

公費負担制度	件数	構成比
1. 小児慢性特定疾患	1,236	48.9%
2. 育成医療	133	5.3%
3. 養育医療	155	6.1%
4. 児童福祉（措置）	67	2.6%
5. 特定疾患	74	2.9%
6. 生活保護	42	1.7%
7. 精神保健	82	3.2%
8. 自費	741	29.3%
合計	2,530	100.0%

9. 時間外患者状況

H24 年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	外来	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
	入院	0	1	0	1	0	0	2	1	0	0	0	0	5
	計	0	1	0	1	0	0	2	2	0	1	0	0	7
腎臓内科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳神経内科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血液内科	外来	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
代謝・ 内分泌内科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
新生児内科	外来	0	0	0	2	1	0	0	0	2	6	12	16	39
	入院	15	13	8	22	18	22	23	26	26	22	14	12	221
	計	15	13	8	24	19	22	23	26	28	28	26	28	260
アレルギー 内科	外来	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
小児科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児外科	外来	0	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	2	6
	入院	1	0	2	0	0	0	0	1	1	0	1	1	7
	計	1	0	2	0	1	1	1	1	2	0	1	3	13
心臓血管外科	外来	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
脳神経外科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

整 形 外 科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	入院	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
	計	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	3
形 成 外 科	外来	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	計	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
泌 尿 器 科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	4
眼 科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
産 科	外来	4	4	2	4	5	2	5	1	2	7	1	4	41
	入院	4	3	2	3	5	9	7	7	3	7	4	2	56
	計	8	7	4	7	10	11	12	8	5	14	5	6	97
耳 鼻 咽 喉 科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放 射 線 科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻 醉 科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救 急 科	外来	75	91	70	88	79	74	77	72	74	84	51	51	886
	入院	24	26	16	23	20	15	24	29	20	23	15	24	259
	計	99	117	86	111	99	89	101	101	94	107	66	75	1,145
菌 科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	外来	79	97	73	94	87	77	83	74	79	99	67	74	983
	入院	44	43	29	49	43	46	56	65	50	53	36	39	553
	計	123	140	102	143	130	123	139	139	129	152	103	113	1,536

区 分		単位	23年度 決 算	24年度				決算評価		25年度 計 画	25 - 24 増減	
				計 画	決 算	計画対比	前年対比	計画対比	前年対比			
業務量	入院	許可病床数	床	290	290	290	0	0			290	0
		稼働病床数	床	266	266	266	0	0			266	0
		病床利用率	%	91.3	90.5	90.7	0.2	△ 0.6	○	×	90.5	△ 0.2
		病床利用率(一般のみ)	%	91.3	90.5	90.7	0.2	△ 0.6	○	×	90.5	△ 0.2
		延入院患者数	人	88,849	87,866	88,036	170	△ 813	○	×	87,866	△ 170
		1日当たり患者数	人/日	243	241	241	0	△ 2	○	×	241	0
		新規入院患者数	人	5,425	5,306	5,290	△ 16	△ 135	×	×	5,350	60
		平均在院日数	日	15.4	15.6	15.6	0.0	0.2	○	×	15.4	△ 0.2
		入院単価	円	79,344	80,756	82,193	1,437	2,849	○	○	83,497	1,304
	入院単価(一般)	円	79,344	80,756	82,193	1,437	2,849	○	○	83,497	1,304	
	外来	延外来患者数	人	86,464	86,240	86,902	662	438	○	○	85,400	△ 1,502
		1日当たり患者数	人/日	354	352	355	3	1	○	○	350	△ 5
		外来単価	円	19,560	18,607	20,203	1,596	643	○	○	20,392	189
		新規外来患者数	人	7,696	7,898	7,631	△ 267	△ 65	×	×	7,600	△ 31
	手術	手術件数	件	4,185	4,200	3,981	△ 219	△ 204	×	×	4,000	19
		救急車搬送患者数	人	392	420	383	△ 37	△ 9	×	×	400	17
収支	入院収益	百万円	7,050	7,096	7,236	140	186	○	○	7,337	101	
	外来収益	百万円	1,691	1,605	1,756	151	65	○	○	1,741	△ 15	
	その他医業収益	百万円	112	105	120	15	8	○	○	114	△ 6	
	* 医業収益 *	百万円	8,853	8,806	9,112	306	259	○	○	9,192	80	
	医業外収益等	百万円	151	144	181	37	30	○	○	146	△ 35	
	* * 収益計 * *	百万円	9,004	8,950	9,293	343	289	○	○	9,338	45	
	給 与 費	百万円	6,204	6,245	6,686	441	482			6,472	△ 214	
	(うち退職給与金)	百万円	275	258	168	△ 90	△ 107			191	23	
	(うち退職給与引当金)	百万円	190	178	178	0	△ 12			178	0	
	(うち賞与引当金)	百万円	0	0	270	270	270			0	△ 270	
	材 料 費	百万円	2,193	2,056	2,180	124	△ 13			2,196	16	
	(うち薬品費)	百万円	1,402	1,262	1,386	124	△ 16			1,397	11	
	(うち診療材料費)	百万円	724	719	714	△ 5	△ 10			726	12	
	経 費	百万円	1,417	1,467	1,430	△ 37	13			1,518	88	
	減 価 償 却 費	百万円	484	495	506	11	22			553	47	
	その他の医業費用	百万円	76	84	88	4	12			94	6	
	* 医業費用 *	百万円	10,374	10,347	10,890	543	516			10,833	△ 57	
	医業外費用等	百万円	237	233	240	7	3			220	△ 20	
	* * 費用計 * *	百万円	10,611	10,580	11,130	550	519			11,053	△ 77	
	差 引 損 益	百万円	△ 1,607	△ 1,630	△ 1,837	△ 207	△ 230			×	×	△ 1,715
一般会計繰入金	百万円	1,731	1,815	1,811	△ 4	80	-			-	1,815	4
当 期 純 損 益	百万円	124	185	△ 26	△ 211	△ 150	×			×	100	126
(賞与引当金除き)	百万円	124	185	244	59	120	○			○	100	△ 144
(退職給与金・引当金除き)	百万円	589	621	320	△ 301	△ 269	×			×	469	149
資 金 収 支	百万円	798	858	928	70	130	○			○	831	△ 97
経営指標	医業収益比率	%	70.1	70.9	73.4	2.5	3.3	×	×	70.4	△ 3.0	
	材 料 費 比 率	%	24.8	23.3	23.9	0.6	△ 0.9	×	○	23.9	△ 0.0	
	(うち薬品費比率)	%	15.8	15.3	15.2	△ 0.1	△ 0.6	○	○	15.2	0.0	
	(うち診療材料費比率)	%	8.2	8.6	7.8	△ 0.8	△ 0.4	○	○	7.9	0.1	
	経 費 比 率	%	16.0	16.7	15.7	△ 1.0	△ 0.3	○	○	16.5	0.8	
	医業収支比率	%	85.3	85.1	83.7	△ 1.4	△ 1.6	×	×	84.8	1.1	
経常収支比率	%	101.4	101.8	98.1	△ 3.7	△ 3.3	×	×	100.9	2.8		

決算の推移

入院日数 365 365 365 366 365 366 365 366
 外来日数 243 242 243 244 243 244 243 244

(単位:床、%、人、千円)

区分	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		前年度差引
	決	算	決	算	決	算	決	算	決	算	
稼働病床数	266	266	266	266	266	266	266	266	266	266	0
病床利用率	87.6	89.6	97.9	102.3	101.7	101.7	101.7	101.7	100.2	90.7	△ 0.6
平均在院日数	15.5	14.9	96.9	96.1	106.0	106.0	106.0	106.0	97.5	15.6	△ 0.2
人間ドック	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延入院患者数	85,048	86,991	98.8	102.3	101.7	101.7	101.7	100.4	100.4	88,036	△ 813
(1日当り)	233	238	99.1	102.1	101.7	101.7	101.7	100.4	100.4	241	△ 2
新規入院患者数	5,175	5,483	102.8	106.0	96.0	96.0	96.0	5,425	103.1	5,290	△ 135
延外来患者数	87,351	84,186	101.7	96.4	102.5	102.5	102.5	86,464	100.2	86,902	438
(1日当り)	359	348	102.3	96.9	102.0	102.0	102.0	354	99.7	355	1
新規外来患者数	7,671	8,101	97.2	105.6	97.8	97.8	97.8	7,696	97.1	7,631	△ 65
入院収益	6,002,230	6,354,437	108.2	105.9	108.3	108.3	108.3	7,049,609	102.5	7,235,953	186,344
(1日1人)	70,575	73,047	109.5	103.5	106.4	106.4	106.4	79,344	102.1	82,193	2,849
外来収益	1,386,531	1,454,627	94.6	104.9	103.6	103.6	103.6	1,691,258	112.2	1,755,701	64,443
(1日1人)	15,873	17,279	93.0	108.9	101.1	101.1	101.1	19,560	111.9	20,203	643
その他医業収益	119,125	118,169	101.8	99.2	94.1	94.1	94.1	111,725	100.5	119,905	8,180
医業収益計	7,507,886	7,927,233	100.0	105.6	107.2	107.2	107.2	8,852,592	100.0	9,111,559	258,967
医業外収益	110,728	127,064	1.6	114.8	134.1	134.1	151,667	1.7	89.0	138,529	1.5
特別利益	2,655	58,015	0.7	2,185.1	0.0	1.0	27	0.0	4.5	43,082	0.5
収益合計	7,621,269	8,112,312	105.4	106.4	106.9	106.9	9,004,286	101.7	103.9	9,293,170	288,884
給与費	5,722,720	5,708,725	76.2	103.9	99.8	99.8	6,041,044	71.1	102.7	6,685,902	482,374
うち退職給与金	(341,093)	(218,668)	4.5	133.0	64.1	64.1	(398,887)	4.7	182.4	(168,081)	1.8
うち退職給与引当金									皆増	(178,185)	2.0
うち賞与引当金									皆増	(270,000)	3.0
材料費	1,774,236	1,873,937	23.6	105.6	106.4	106.4	2,192,863	24.8	110.0	2,179,583	23.9
経費	1,175,460	1,293,679	15.7	110.1	104.3	104.3	1,417,049	16.0	105.0	1,430,088	15.7
減価償却費	465,924	476,945	6.2	102.4	105.1	105.1	483,749	5.5	96.5	506,104	5.6
資産減耗費	11,494	46,044	0.2	400.6	0.2	42.4	22,258	0.3	114.1	28,132	0.3
研究研修費	50,175	53,217	99.2	106.1	46,518	0.5	54,752	0.6	117.7	59,989	0.7
医業費用計	9,200,009	9,452,547	122.5	102.7	9,951,166	117.1	10,374,199	117.2	104.3	10,889,798	119.5
医業外費用	228,013	218,432	3.0	103.7	212,253	2.5	210,858	2.4	99.3	196,638	2.2
特別損失	13,055	60,222	0.2	461.3	2,147	0.0	26,142	0.3	1,217.6	43,505	0.5
費用合計	9,441,077	9,731,201	125.7	102.2	10,165,566	119.6	10,611,199	119.9	104.4	11,129,941	122.2
差引損益	△ 1,819,808	△ 1,618,889	△ 24.2	89.0	△ 1,496,612	△ 17.6	△ 1,606,913	△ 18.2	107.4	△ 1,836,771	△ 20.2
一般会計繰入金	1,860,129	1,891,124	24.8	105.4	1,899,673	22.4	1,731,266	19.6	91.1	1,810,684	19.9
当期純損益	40,321	272,235	0.5	△ 16.9	403,061	4.7	124,353	1.4	30.9	△ 26,087	△ 0.3

(注1) 延入院患者数欄上段は、人間ドック分を外書き

経常収支比率	%	100.5	-	103.2	-	102.3	-	101.4	-	97.5	-	98.4
医業収支比率	%	81.6	-	103.1	-	102.8	-	85.3	-	99.9	-	98.1

III 診 療 統 計

1. 総合診療科

総合診療科は(1) 専門各科における診療になじまない紹介患者への対応、(2) 院内各科からの相談対応、(3) セカンドオピニオンに準じた相談に応じることなどが主な業務である。症例としては発育・発達障害や感染症を中心に、各診療科にまたがるような疾患の全身管理や、様々な特殊な問題を抱えた common disease 症例が数多く紹介されてくる。

担当スタッフは2名で、研修医や専攻医の研修の受け皿となり、研修計画の立案や実際の研修を担当し、コーディネーターする役割も担っている。

入院患者は小児救急医療センターからの転棟症例を主に担当してきたが、スタッフの関係上現在は救急集中治療科スタッフが継続して担当する体制になっている。多くが基礎疾患を持った児の合併症、特に感染症である。

現在、新しい病院に向けて診療体制の見直しが進んでいるが、総合診療科は救急部門と連携して、救急総合診療という大きな枠組みの中で院内の患者の内科的管理を担当するようなイメージで進めていければと考えている。

当院は各専門診療科に細分化されており、各々の診療科でのサブスペシャリティー研修を目的に応募する専攻医が多くを占めるが、専攻医はまず小児医療の基礎を身に着けることが先決であり、その意味で総合診療の重要性をアピールし、研修体制を充実する必要があると思っている。

今後は総合診療科として独自のアイデンティティーを確立し、各診療科と密に連携しながら診療に当たれることを目指したいと考えている。

外来担当スタッフ：上谷良行、宅見晃子、山崎武美（阪神北広域こども急病センター）、
笠井和子、森永杏子、藤田杏子

小児救急医療センター開設後は救急センター退院患者のフォローを午後の総合診療科外来で実施し、主として専攻医が担当している。

2. 救急集中治療科

1. 診療活動

本年は小児救急医療センターが平成 19 年 10 月 1 日に開設以来 5 年、当センターの前身である救急医療室が平成 14 年 10 月に開設され、三次救急医療がスタートしてから 10 年の節目を迎えた。

一昨年の 12 月に神戸こども初期急病センターが HAT 神戸に開設され、神戸市の小児救急医療体制が大幅に整備され、初期から三次まで万全の体制が整ったと思われた。実際、兵庫県下で深夜帯まで受診可能な急病センターは 4 か所しかなく、神戸市内のみならず市外からも多くの患者を受け入れ、二次、三次救急の負担軽減に大きな役割を果たしていると思われる。しかしながら、神戸市内においては二次救急病院小児科の医師不足が深刻化し、急病センターの後送病院の確保が大きな課題として浮かび上がっている。小児の三次救急の拠点としてほぼ周知された当院ではあるが、二次病院の充実がなければ当院の機能を十分に発揮することもできなくなることから、今後の救急体制の再検討が望まれる。

さて、本年から新たに 2 名の専任医師と 1 名フェローが加わり、診療体制が充実してきた。院外からの重症患者の受入や院内の急変患者、術後患者の受入など、多岐にわたる分野の患者を受け入れているため、各関連診療科との連携、調整が重要で、科長の竹田医師を中心に看護サイドとも密な協力のもと細かい気配りで対応している。

対外的にも救急救命士の教育現場に小児の蘇生を中心とした実習指導に福原医師を中心に数名を派遣したり、地元須磨を中心とした 3 つの救急隊員に当院で小児救急患者の診かた、蘇生などの実習を行ったりと地域の中での連携を進める試みができるだけ実施するようにしている。今後は家族や子供たちへの救急教育、事故防止教育などを実施できればと考えている。

本年は救急医の取扱患者数が年間 2038 人で、ほぼ昨年並みであった。最重症に分類したいわゆる救命救急に相当する患者数は 280 人で昨年の 296 人よりやや減少したが、ほぼ横ばいの状況である。初診の最重症患者は昨年より 20 人増加しており、院外からの重症患者の搬送に対して敷居が低く行われるようになってきていることを表している。一方で、例年ヘリコプター搬送が 10 件程度行われていたのに対して本年は 3 件のみで、各地でドクターヘリの導入が進んでいることを考え合わせると、より積極的に近隣のヘリポートの確保へ向けた取り組みが必要と考えられる。

2. スタッフ

救急集中治療科：上谷良行、竹田洋樹、福原信一、山口善道、中岸保夫、神田杏子、梶原伸介、楠元真由美

兼任：三好麻里（部長・免疫アレルギー科）、田中亮二郎（腎臓内科）、永瀬裕朗（脳神経内科）
長谷川大一郎（血液腫瘍科）、尾崎佳代（代謝内分泌科）、丸山あずさ（脳神経内科）
笠井和子（免疫アレルギー科）、藤田杏子（脳神経内科）、中川拓（腎臓内科）

フェロー：田中 司

専攻医：祖父江俊樹（平成 23 年 12 月～平成 24 年 3 月）

宮田 憲二（平成 24 年 4 月～7 月）

日外 祐理（平成 24 年 4 月～6 月）

三木 康暢（平成 24 年 4 月～7 月）

石田 悠介（平成 24 年 8 月～10 月）

白鳥 孝俊（平成 24 年 11 月～）

中西 啓太（平成 24 年 12 月～）

初期研修医：

松永卓明	神戸赤十字病院	10 月～12 月	救急集中治療科
山川 皓	県立淡路病院	8 月	救急集中治療科

小児外科、脳神経外科、整形外科、形成外科など外科系各科は on call で back up 体制をとっている。

兵庫県立こども病院 小児救急医療センター 統計 2012年1月～12月

【1】 救急医療センター 来院患者 全体統計

2012年 1月～12月	外来のみ				本館入院				救急センター入院				小計				合計		
	時間内		時間外		時間内		時間外		時間内		時間外		時間内		時間外				
	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診			
救急集中 治療科 Dr 外来診察	47	243	146	641	10	43	3	46	94	118	244	336	23	44	151	427	393	1067	2,038
	290	787		53	49	212	67	580	859	578	1,460								
小計	1,077		1,179		102														
外科系	小児外科	0	15	1	28	0	14	1	12						0	29	2	40	71
	脳外科	2	15	0	2	6	5	0	2						8	20	0	4	32
	泌尿器科	3	7	2	7	1	5	0	3						4	12	2	10	28
	形成外科	0	46	1	11	0	0	0	0						0	46	1	11	58
	その他	3	8	2	11	3	4	2	0						6	12	4	11	33
心外・循環器 科	0	29	0	14	2	14	0	5						2	43	0	19	64	
新生児科	0	89	2	171	0	17	1	51						0	106	3	222	331	
他の内科系	0	19	0	19	6	9	0	5						6	28	0	24	58	
小計	8	228	8	263	18	68	4	78						26	296	12	341	675	
	236	271		86	82														
	507		168																
合計	55	471	154	904	28	111	7	124	94	118	244	336	23	44	900	1813	2,713		
				1,854		859													

【2】救急センター外来・入院患者の内訳（救急集中治療科診察）2012年1月～12月

1) 総内訳

外来患者	1179 (本館入院 102 帰宅 1077)
------	--------------------------

入院患者	死亡	16	PICU	311
	最重症	264		
	重症	579	Q病棟	548
	計	859	計	859

2) 来院患者重症度別

① 重症度

来院患者		初診	再診	計	%
	死亡	8	8	16	0.8
	最重症	121	143	264	13.0
	重症	209	370	579	28.4
	外来	206	973	1179	57.9
	計	544	1494	2038	100

② 事故・疾病別重症度

来院患者		事故	%	疾病	%	計	%
	死亡	4	25.0	12	75.0	16	100.0
	最重症	35	13.3	229	86.7	264	100.0
	重症	99	17.1	480	82.9	579	100.0
	外来	222	18.8	957	81.2	1,179	100.0
	計	360	17.7	1678	82.3	2,038	100.0

3) 来院方法別

		小計	計	%	
自家用車・タクシー・徒歩		2,013	2,013	74.2	
救急車	公共	607			
	Dr car	当院			0
		災害医療			6
		中央市民			
		その他			17
ヘリ		3	3	0.1	
転棟		67	67	2.5	
計		2,713		100.0	

ヘリでの搬送例

鳥取大学 12歳 上衣腫再発、水頭症
 災害医療センター Drヘリ 4歳 交通外傷、
 びまん性軸索損傷
 高知医療センター 5ヵ月 Pfeiffer症候群、
 水頭症、気管狭窄

4) 主な症例

1	人工換気療法	73
2	緊急手術	68
	消化器系	34
	脳神経系	23
3	交通外傷	8
4	脳低温・平温療法	16
5	血液浄化	6
6	到着時心肺停止	13

5) 外科系緊急協力科(含重複)

小児外科	298	泌尿器科	42
脳外科	169	放射線科	31
麻酔科	37	耳鼻科	24
形成外科	37	眼科	10
整形外科	58	精神科・指導相談	1
心外循環器	83	歯科	4

6) 救急センター入院 最重症患者住所

	2012年	
	数	%
神戸・三田	120	42.9
阪神	30	10.7
東播磨	61	21.8
北播磨	8	2.9
西播磨	18	6.4
但馬	6	2.1
丹波	8	2.9
淡路	3	1.1
県外	26	9.3
不明	0	0.0
計	280	100.0

3. 代謝・内分泌内科

1. 診療活動

部長（科長）	郷司 克己
医長	尾崎 佳代
フェロー	野村 安隆

本年はスタッフ2名、フェロー1名の3名体制で診療をおこなった。1-2か月のサイクルで専攻医が研修を行った。

2. 診療活

代謝内分泌科は小児における大きな特性である成長と成熟にかかわる疾患、すなわち低身長症、肥満、糖尿病、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、思春期発来異常、性分化異常などを対象としている。また、当科では新生児マススクリーニング対象疾患である先天性甲状腺機能低下症、先天性副腎過形成も担当している。さらに小児がん経験者における内分泌合併症に対しても積極的に取り組んでいる。

近年、我が国では食生活の変化や紫外線照射不足によるビタミンD欠乏性くる病が増加している。治療としては、海外では天然型ビタミンD投与が一般的であるが、我が国においては天然型ビタミンD製剤は処方箋薬としては入手できない。当科ではビタミンD欠乏性くる病に対し市販されている天然型ビタミンDサプリメントを使用し、良好な治療効果を得ており、今年度はその成果を小児内分泌学会において発表した。

当科においては遺伝工学的手法を駆使して診療にあたるのが社会的要請に合致することと考え分子生物学的技術の確立に努めている。本年度は先天性副腎過形成、家族性若年糖尿病、副甲状腺機能低下症などにおいて、臨床と直結する成果が得られた。今後も神戸大学小児科とも協力しながら、分子生物学的手法を用いた解析、研究を臨床の場に役立てたいと考えている。

外来患者（新患）

	患者数
低身長症	82
甲状腺疾患	14
性腺疾患	31
副腎	3
糖代謝異常	15
肥満	1
マススクリーニング クレチン症	18
先天代謝異常症	2
先天性副腎過形成	4
その他	28
計	198

入院患者

	患者数
低身長症	15
糖代謝異常	9
性腺疾患	1
甲状腺疾患	3
副腎疾患	4
その他	2
計	34

4. リウマチ科

【診療活動】

リウマチ科の対象疾患としては、以下のような内容である

膠原病・リウマチ性疾患；若年性特発性関節炎（JIA）、全身性エリテマトーデス、
若年性皮膚筋炎、自己炎症性疾患 等

膠原病・リウマチ性疾患の患者数も徐々に蓄積され、きんき各地からの紹介や相談も増えてきている。JIA に対する生物学的製剤の診療実績も積み重ねられてきており、地域の中心的病院としての役割を果たしていると考えている。今後も診療に努力を続けるとともに後進の育成にも力を尽くしたい。

【診療統計】

外来初診患者数 19

若年性特発性関節炎 9、 SLE・MCTD2、皮膚筋炎 1、強皮症 1、その他 6

入院患者数 25

若年性特発性関節炎 21、皮膚筋炎 1、その他 3

5. アレルギー科

【診療活動】

アレルギー科の対象疾患としては、以下のような内容である

気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、じんましん など

アトピー性皮膚炎や食物アレルギーについては、ガイドラインに沿ったスタンダードな治療の普及に努めた。食物アレルギーの確定診断のための食物負荷試験を行った。その診断結果及び継続治療を地域の病院と連携して行い、地域の中心的病院としての役割を果たすよう努力を続けている。

【診療統計】

外来初診患者数 30

気管支喘息 4、アトピー性皮膚炎 6、食物アレルギー 15、その他 5

入院患者数 7

食物負荷試験 7

6. 脳神経内科

1. 人事異動

【スタッフ】

医長（科長）	永瀬 裕朗
医長	丸山あずさ
医長	藤田 杏子

【フェロー】

4月－	西山 将広
-----	-------

【専攻医】

2012年2－3月	西山 将広
4月	世戸 博之
5月	石田 悠介
8月	白鳥 孝俊
11月	谷口 紫野

本年は西山がフェローとなりスタッフ3名と合わせ4名体制となった。児玉荘一先生に引き続き週1回スーパーバイズをお願いしている。

2. 活動状況

診療活動は、脳神経内科外来初診289名・発達行動小児科外来初診患者は35名、外来延べ人数3646名であった。また入院患者延べ人数は2347名であった。近隣の医療機関での神経疾患の対応が対応困難となってきたことから外来、入院患者数とも増加しており、県内の中核機関としての役割が増してきている。

当科で重点的に取り組んでいる集中治療領域における連続脳波モニタリングは70例に対して行った。意識障害の評価には必須の管理であるが全国的に見ても、有数の件数である。引き続き急性脳症や重症頭部外傷などの重篤な症例の管理の質の向上に取り組んでいく予定である。

また小児で対応できる機関の限られている神経伝導速度検査に対応すべく、神戸大学神経内科関口医師のセミナーを行い、以後検査体制を充実させてきている。

学術活動についても引き続き尽力している。本年より急性脳症に対する県下多施設での共同研究を立ち上げることができた。来年以降にはその結果が明らかになる予定である。業績については別項を参照していただきたい。

一般的な診療・学術活動に加え、脳死判定委員会、虐待防止委員会の活動にも積極的に参与している。永瀬は本年も引き続き兵庫県の虐待防止委員を務めた。また県下の医療機関、保健所、児童相談所、児童養護施設、学校などの多職種で構成される虐待防止研究会の事務局を担当しているが、本年事務局業務が正式に本院の業務として認められた。こどもを取り巻く環境に関する社会的活動にも積極的に貢献している。

脳神経内科外来

初診患者 289 例

(疑い疾患名を含む、一部重複あり。)

発作性疾患 170

てんかん	110
ウエスト症候群	10
熱性けいれん	45
泣き入りひきつけ	6
不随意運動	10

感染性・炎症性疾患 15

急性脳炎・脳症	15
---------	----

自己免疫性神経疾患 15

ギランバレー症候群	4
急性小脳失調	4
ADEM	2

発達障害 57

精神遅滞	49
広汎性発達障害	8
ADHD	4

心身症 等 43

チック	13
頭痛	12
摂食障害	8
睡眠障害	6
転換性障害	3

その他 43

脳性麻痺	19
大頭症・小頭症	12
脳血管疾患	10
神経皮膚症候群	3
神経変性疾患	3
神経筋疾患	2
頭部外傷	2

検査

脳波	796 件
神経伝導速度	14 件
連続脳波モニタリング	70 件

発達行動小児科外来初診患者 35 例

広汎性発達障害	13
精神遅滞	9
注意欠陥多動障害	7
学習障害	1
摂食障害	1
チック	1
禁煙外来	2
その他	4

(疑い疾患名を含む、一部重複あり)

7. 血液・腫瘍内科

今年度特筆すべきは当院が小児がん拠点病院に指定されたことであろう。今回全国で診療実績などから15施設が指定を受けた。当院の集学的治療や小児がんに取り組む姿勢が評価されたということで誠に喜ばしいことであった。

人事異動は下記のとおりである。なお短期ローテーターは省いた。

転出

3/31 神前愛子 フェロー（正規へ昇格）

転入

4/1 神前愛子 正規（当院フェローより）

4/1 齋藤敦郎 フェロー（島根大学より）

4/1 越智聡史 フェロー（大阪赤十字病院より）

8/1 宮田憲二 フェロー（当院専攻医より）

上記のとおりでスタッフの増員は果たせたが、相変わらず患者数は多く（新患については表1参照）、病床のやりくりが大変なことには変わりがない。

今回小児がん拠点病院となったことで、当科において不十分であった領域としては、緩和医療の充実、AYA（思春期世代）患者の受け入れ、長期フォローアップ体制の充実、がん登録事業への積極的な協力、他病院との密な連携、などがあげられる。緩和医療に関しては昨年4月より小阪（血液・腫瘍内科長）を委員長とする委員会を発足させ、問題となる症例についてディスカッションを重ね、また臨床心理士は1名増を果たし、血液腫瘍病棟の患者や家族の心のケアにあたってもらっている。さらには国立がんセンターでの講習を受けた医師クランクを獲得でき、地域がん登録をお願いしている。

造血幹細胞移植は表2に示すとおり、昨年はいくまで最多の27例に施行した。

最近3年間は造血幹細胞移植後の100日以内の早期死亡はなく、この点は小児がん拠点病院選考時にも評価された。

もちろん小児がんのみならず、当院は非悪性血液疾患の診療にも力を入れており、血友病はカルテベースで計40名近くの患者を診療している。その他、免疫不全症なども積極的に診療している。

今後は小児がん拠点病院として兵庫県のみならず、一部中四国地方もカバーする診療を展開させていくことが課された問題と自覚してスタッフ一同頑張っていきたい。

表 1 新患一覧

		合 計
血液腫瘍性疾患	急性リンパ性白血病	13
	急性骨髄性白血病	5
	骨髄異形性症候群	5
	若年性骨髄単球性白血病	1
	DOWN 症 TAM	1
	ランゲルハンス細胞組織球症	2
	血球貪食症候群	1
		28

固形腫瘍性疾患	髄芽腫	7
	PNET	1
	AT/RT	1
	松果体芽腫 pineoblastoma	1
	頭蓋内胚細胞腫瘍	2
	上衣腫	2
	神経膠芽腫	1
	脳幹神経膠腫	2
	星細胞腫	1

神経芽腫	9
網膜芽細胞種	5
肝芽腫	3
腎腫瘍	4
ユーイング肉腫	1
奇形腫群腫瘍	2
その他	15
	57

血液疾患	溶血性貧血	2
	β サラセミア	1
	カサバツハ・メリット症候群	1
	特発性血小板減少性紫斑病	9
	遺伝性血小板減少症	2
	血友病 A	2
	血友病 B	2
	原発性免疫不全症候群	5
	自己免疫性好中球減少症	2
	好中球減少症	2
	重症先天性好中球減少症	1
	好酸球増多症	1
	先天性骨髄不全症候群	1
	その他	22
	(ドナー)	27
		80

合 計	165
-----	-----

表2 造血幹細胞移植一覧

	疾患名	年齢/性	病期	移植の種類	転帰
1	髄芽腫	7 / F	1st CR	APBSCT	担癌生存
2	骨髄異形成症候群	4 / M		UBMT	無病生存
3	未分化肉腫	17 / M	1st PR	APBSCT	担癌生存
4	横紋筋肉腫	11 / M	1st CR	APBSCT	無病生存
5	骨髄異形成症候群	15 / M		UBMT	無病生存
6	神経芽腫	5 / M	1st PR	APBSCT	無病生存
7	急性リンパ性白血病	11 / M	1st CR	UBMT	無病生存
8	腸間膜肉腫	1 / M	1st CR	APBSCT	腫瘍死
9	急性骨髄性白血病	5 / M	2nd CR	CBT	無病生存
10	急性骨髄性白血病	11 / F	3rd CR	UBMT	担癌生存
11	急性リンパ性白血病	4 / M	1st CR	RBMT	無病生存
12	神経芽腫	2 / M	1st PR	APBSCT	無病生存
13	急性リンパ性白血病	15 / M	1st CR	UBMT	無病生存
14	急性骨髄性白血病	3 / M	2nd CR	UBMT	無病生存
15	神経芽腫	2 / M	1st PR	APBSCT	無病生存
16	神経芽腫	4 / F	1st PR	APBSCT	無病生存
17	急性骨髄性白血病	13 / M	1st CR	UBMT	無病生存
18	肝芽腫	4 / F	1st PR	APBSCT	担癌生存
19	急性リンパ性白血病	1 / M	1st CR	UBMT	無病生存
20	再生不良性貧血	13 / F		UBMT	無病生存
21	松果体芽腫	10 / F	1st PR	APBSCT	担癌生存
22	PNET (tandem移植 1回目)	1 / F	1st PR	APBSCT	担癌生存
23	PNET (tandem移植 2回目)	1 / F	1st PR	APBSCT	担癌生存
24	網膜芽腫	2 / F	1st CR	APBSCT	担癌生存
25	髄芽腫 (tandem移植 1回目)	2 / M	1st CR	APBSCT	無病生存
26	髄芽腫 (tandem移植 2回目)	2 / M	1st CR	APBSCT	無病生存
27	髄芽腫	1 / F	1st PR	APBSCT	担癌生存

PNET : primitive neuroectodermal tumor

APBSCT : 自家末梢血幹細胞移植

RBMT : 血縁者間同種骨髄移植

UBMT : 非血縁者間同種骨髄移植

CBT : 臍帯血移植

表3 死亡例一覧

造血期腫瘍 1人(ALL)
 固形腫瘍 6人(Ewing肉腫2、脳腫瘍1、神経芽腫1、その他2)

【死因】

原病 6人
 合併症 1人

8. 循環器内科

【スタッフ・フェロー】

スタッフ	城戸佐知子	専攻医	宇仁田 亮
	田中 敏克		二野 菜々子
	藤田 秀樹		武岡 恵美子
	富永 健太		祖父江 俊樹
	佐藤 有美		谷口 紫野
	小川 禎治		高藤 哲
フェロー	古賀 千穂		三木 康暢
	亀井 直哉		日外 祐理
	雪本 千恵		

スタッフ6名、フェロー3名、他に専攻医数名。専攻医は2-4ヶ月ごとのローテーションで、主に入院患者管理、カテーテル検査の補助などに従事。心疾患患者の扱いに慣れ、心疾患の診断技術として主として心エコーの基礎を習得し、カテーテル検査の結果を読み、軽症では診断から手術適応の判断ができることを主たる目的とする。またフェローは1年単位の比較的長期間循環器診療に携わり、できる限りカテーテル検査、心エコー検査を単独でこなし、軽症から重症の疾患までの治療方針を自身の判断で立てられることが目標である。

【診療活動】

- (1) 外来:月曜日から金曜日まで週5日、午前・午後、基本1診。外来総患者数はのべ7674名(実数3213名)、新規患者数は月曜日以外の毎日受け入れており、2012年の総新規患者数は511名(うち351名に心疾患・不整脈など経過観察を要する疾患あり)であった。外来での有疾患患者の主体は比較的軽症の疾患であり、内訳は心室中隔欠損(112)、心房中隔欠損(71)、肺動脈狭窄(27)、動脈管開存(18)、川崎病(既往含む)(14)、ファロー四徴症(9)、房室中隔欠損(6)、両大血管右室起始(5)、不整脈(41)など。カテーテル治療相談外来(木曜午前、担当:田中医師)や成人先天性心疾患外来(月曜午後、経過観察、妊娠・分娩の相談など、担当:城戸)など専門外来についても、昨年どおり。当院では外来枠の制限があるため、地域の病院での先天性心疾患外来が充実されることが望ましいが、従事可能な小児科循環器医の数が少なく、今後の大きな課題である。成人に達した患者については、地域との医療連携の必要性を考慮に入れ、兵庫県立姫路循環器病センターなどでの診療応援(外来応援)を続ける一方、2013年1月からは神戸大学附属病院循環器内科において成人先天性心疾患部門を立ち上げ、協力体制を強化している。また胎児心疾患診断についても、産科外来において木曜日(2013年からは火曜・木曜の週2日に拡大)に胎児心エコーを行っているほか、他院にて診療の応援を行い、医療連携にも重点を置いて取り組んでいる。
- (2) 入院:1年間の総入院患者数は354名。カテーテル検査・治療目的の入院が多数を占めるが、新生児・乳児期の重症疾患患者は昨年に引き続き、入院患者の半数を占めている。新生児・乳児期の新規患者の入院は93名(内訳下表)で、心疾患の他に他疾患を合併する症例も多く、ICU滞在期間・入院期間は必然的に長くなっており、昨年に引き続き病棟運営上の問題となっている。
- (3) 生理検査:総心電図件数4256件、Master負荷心電図件数1848件、Holter心電図件数131件、トレッドミル負荷心電図は84件とほぼ例年通りの状況である。心エコーは4117件(本年統計はICUや手

術室でのエコー件数を除いている)、胎児心エコーは 219 件 (うち 127 件で異常所見あり。担当: 佐藤医師、主として木曜日)。

- (4) 心臓カテーテル検査: 総件数 310 件。カテーテル治療の件数は 88 件。また、心臓 CT の役割は大きく、カテーテル検査に匹敵する件数となっている。

【その他の活動】

- (1) カンファレンス: 月曜日に心臓外科との合同カンファレンス、木曜日にカテーテル検査および心エコー検討会、木曜日朝に心臓外科と合同の抄読会・検討会を行い、討議の時間をもっている。
- (2) 学会参加: 小児循環器病学会、JPIC 研究会、胎児循環器学会、成人先天性心疾患研究会、HOT 研究会、川崎病研究会、日本循環器学会などへの参加。
- (3) 循環器科主催患者教室: 年に 3 回。2012 年はフォンタン型術後患者の運動療法、先天性心疾患患者の保険・保障制度、先天性心疾患女性患者の妊娠と出産をテーマに開催した。

【新規患者内訳】

1. 入院患者総数	354 名	動脈管開存	18
A. 新生児期・乳児期	93	両大血管右室起始	15
心室中隔欠損・心内膜症欠損	20	大動脈弓離断・大動脈縮窄	14
心房中隔欠損 (肺高血圧)	2	房室中隔欠損	14
大動脈離断複合・縮窄複合	7	大血管転位	14
両大血管右室起始	4	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖	9
大血管転位	8	重症肺動脈狭窄	8
肺動脈閉鎖・心室中隔欠損	3	心筋疾患	7
ファロー四徴症、	9	大動脈弁疾患 (狭窄・逆流)	7
ファロー四徴症・房室中隔欠損	1	川崎病・冠動脈後遺症	7
左心低形成症候群	2	総肺静脈環流異常	6
その他の単心室系疾患	5	両大血管右室起始・房室中隔欠損	5
総肺静脈還流異常	3	感染性心内膜炎	5
エプスタイン奇形	2	不整脈	5
肺動脈弁欠損・ファロー四徴症	1	エプスタイン奇形	4
大動脈弁欠損	1	総動脈幹症	3
総動脈幹症	3	僧帽弁閉鎖不全	3
肺動脈閉鎖 (心室中隔欠損を伴わない)	4	肺動脈弁欠損	2
大動脈肺動脈瘻	1	肺高血圧	2
不整脈・心不全	2	大動脈・肺動脈瘻	2
大動脈弁狭窄	3	修正大血管転位	2
動脈管開存	4	その他	10
重症肺動脈弁狭窄・肺動脈狭窄 (治療を要する)	5		
心筋疾患	2	C. カテーテル治療 (カテーテル総数 310 件)	88
高安病	1	弁形成 (大動脈弁・肺動脈弁)	10
		血管形成	22
B. 全入院患者の疾患内訳 (カテーテル検査入院含む)	354	ステント留置術	1
フォンタン型手術関連疾患 (いわゆる単心室型心臓)	81	コイル塞栓術 (動脈管開存)	5
ファロー四徴症	33	コイル塞栓術 (側副血管・動静脈瘻)	19
肺動脈閉鎖・心室中隔欠損	26	バルーン心房中隔裂開術	11
心室中隔欠損	25	心房中隔欠損閉鎖術 (Amplatzer)	12
心房中隔欠損	22	動脈管開存閉鎖術 (Amplatzer)	8

9. 腎臓内科

外来／入院診療については、橋本裕也医師（フェロー、4月—9月）、中川拓医師（4月—12月）、神田杏子医師（8月—12月）と田中亮二郎医師が担当した。また専攻医の辻真之介医師（1月—3月）、石田悠介医師（8月）、白鳥孝俊医師（9月）、武岡恵美子医師（10月、11月）、谷口紫野医師（12月）、二野菜々子（12月—1月）が研修した。平成24年の外来初診患者数202名、入院患者数は111名であった。

【活動状況】

ネフローゼ症候群、急性腎炎、IgA腎症、紫斑病性腎炎、遺伝性腎炎、その他慢性腎炎、全身性エリテマトーデス、溶血性尿毒症症候群などの急性腎不全、慢性腎不全、高血圧、尿路感染症、先天性尿路奇形、腎臓移植後、高血圧、夜尿症等を対象としている。本年度はネフローゼ症候群や腎炎などに対して38例の腎生検を施行した。またPICUにおいて3名の患児（腎不全1名、リウマチ疾患2名）に急性血液浄化を施行した。また低形成腎による慢性腎不全の患児1名に対して腹膜透析を導入し、現在5名の慢性腎不全患児が外来維持腹膜透析を受けている。腎移植に関しては他院にお願いし、現在計5名の患者さんが外来にてフォロー中である。平成19年度より最新の持続血液透析濾過器が常備され、急性腎不全に対する透析や他の血液浄化療法に対して迅速に対応可能となった。今後急性腎不全に対する血液浄化や慢性腎不全に対する在宅腹膜透析を積極的に押し進めたいと考えている。一方平成15年度より厚生労働科学研究「小児難治性腎疾患に対する薬物療法ガイドライン作成のための多施設協同研究」に参加し、巣状メサンギウム増殖を示す小児IgA腎症、初発ネフローゼ症候群、頻回再発型ネフローゼ症候群、ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群を対象とした多施設協同非盲検ランダム化比較試験を行ってきた。また平成20年度より厚生労働科学研究「小児保存期慢性腎臓病患者の長期予後の解明と心不全進行抑制の治療法の確立」に参加し、本邦小児の新たな診断基準による小児慢性腎臓病（CKD）の実態把握のための調査研究や保存期の小児慢性腎臓病を対象とした多施設協同非盲検ランダム化比較試験を行ってきた。さらに平成20年度より小児期発症の難治性ネフローゼ症候群に対するIDEC-C2B8の多施設共同二重盲検プラセボ対照ランダム化比較試験を医師主導治験として開始し、治験を終了した。臨床研究・治験と疫学的研究を通して新しいエビデンス構築に向けて貢献している。院内活動としては、週1回英文抄読会を行い、最新の情報の収集に努めている。さらに平成18年度より日本腎臓学会の研修教育施設にも指定されている。

平成24年 入院患者

ネフローゼ症候群	42	腎血管性高血圧	5
IgA腎症	13	Wegener肉芽腫	1
膜性増殖性糸球体腎炎	1	その他	1
巣状分節性糸球体硬化症	3	計	111名
メサンジウム増殖性腎炎	1		
微小変化型	1		
アルポート症候群	2		
Oligomeganephronia	1		
急性糸球体腎炎	2		
ループス腎炎	8		
紫斑病性腎炎	3		
TTP/HUS	1		
ネフロン癆	1		
慢性腎不全	13		
保存期腎不全	2		
腎移植後	7		
尿路感染症	3		

10. 精神神経科

【スタッフ（人事異動）】

常勤

関口典子

非常勤

長谷川弘子（神戸市こども家庭センター）

松川悦之（松川診療所）

スタッフの体制は昨年に引き続き、常勤1名、非常勤2名となっている。

関口が月曜日から金曜日まで毎日外来診療を行い、長谷川（月曜日）と松川（金曜日）が週1回外来を担当している。

【活動内容】

- 1) 診療活動は外来診療が主である。今年度は、4月、5月と患者数の制限を行わなくてはならない状況があったが、下半期は新患枠を増大し、新患数は昨年と同じ水準を保っている。新患の予約待ちは1週間から1か月以内である（院内紹介の急ぎの場合は随時対応している）。新患分布は、広汎性発達障害を中心とする心理的発達の障害が昨年同様もっとも多いが、神経症性障害（不安障害、身体表現性障害など）が増加傾向にあった。
- 2) 入院患者に対するリエゾンは、虐待、遷延するせん妄、産後うつなど精神科医が必要とされている分野は多い。また、今年度は小児がん拠点病院に高い評価で認定されており、緩和ケアの充実が必要である。しかしながら、いまだ一人医長であり、病棟での診療は十分にできておらず、今後の課題である。
- 3) 精神科領域での啓蒙、教育研修として、神戸大学発達科学部での講義、看護協会や保健所での講演を行っている。
- 4) 司法精神医学として、起訴前簡易精神鑑定を不定期ながら引き受けている。
- 5) 今年度は精神神経学会において発表を行った。今後も学会での発表等を通して、学術的貢献も充実したものにしたいと考えている。
- 6) 平成25年度兵庫県下で唯一となる児童精神科病棟が兵庫県立光風病院にて開設される予定であるが、当院精神科との合同研究会、勉強会、診療応援を通して連携を密に行っており、今後当院における専攻医等の研修にも有益な場の提供が可能と考えている。

平成 24 年 新患分布

			幼児前期	幼児後期	学童前期	学童後期	中学高校	18 歳以上	計
F0	F05	せん妄、アルコールおよび他の精神作用物質によらないもの					1		1
	F06	脳損傷、脳機能不全および身体疾患による他の精神障害					1		1
F2	F23	急性一過性精神病性障害						1	1
F3	F32	うつ病エピソード					4		4
	F34	持続性気分（感情）障害				1	2	2	5
F4	F40	恐怖症性不安障害							0
	F41	他の不安障害			2	4	4		10
	F42	強迫性障害			2	7	2		11
	F43	重度ストレス反応 [重度ストレスへの反応] および適応障害		3	4	2	13	2	24
	F44	解離性（転換性）障害			5	8	6	2	21
	F45	身体表現性障害			4	6	8		18
F5	F50	摂食障害		1		2	3	1	7
	F51	非器質性睡眠障害			1				1
	F53	産褥に関連した軽症の精神および行動の障害、他に分類できないもの					1	1	2
	F54	他に分類される障害あるいは疾患に関連した心理的および行動的要因					1		1
F6	F63	習慣および衝動の障害			1	1			2
F7	F70	軽度精神遅滞 [知的障害]	1			1	2		4
	F71	中度 [中等度] 精神遅滞 [知的障害]					2		2
F8	F80	会話および言語の特異的発達障害	4	3					7
	F81	学力の特異的発達障害		1					1
	F84	広汎性発達障害	4	14	11	6	5		40
	F89	特定不能の精神遅滞 [知的障害]				1			1
F9	F90	多動性障害			6	8	5		19
	F93	小児期に特異的に発症する社会的機能の障害				1	1		2
	F94	小児期および青年期に特異的に発症する社会的機能の障害		1					1
	F95	チック障害	1		5	3	2		11
計			10	23	41	51	63	9	197

11. 小児外科

小児外科スタッフ

西島栄治（昭和 53 年卒）
 横井暁子（平成 2 年卒）
 中尾 真（平成 3 年卒）
 尾藤祐子（平成 5 年卒）
 荒井洋志（平成 7 年卒）
 福澤宏明（平成 11 年卒 10 月～）

小児外科フェロー・専攻医

橋木由美子（平成 13 年卒～ 1 月）
 田村 亮（平成 16 年卒～ 3 月）
 馬場勝尚（平成 15 年卒～ 4 月）
 園田真理（平成 17 年卒）
 谷本光隆（平成 17 年卒）
 洲尾昌伍（平成 19 年卒）
 大片祐一（平成 16 年卒 4 月～）
 吉田拓哉（平成 19 年卒 4 月～）
 河原仁守（平成 20 年卒 4 月～）

【診療活動】

入院患者数 952 名（前年度 985 名）に対して 897 件、日帰り手術患者数 271 名（前年度 317 名）に対して 318 件の手術を行った。全手術件数 1170 件（前年度 1305 件）であった。うち新生児患者数 36 名（前年度 79 名）に対して 40 件の手術を行った。鏡視下手術は 56 件（前年度 48 件）であった。

手術待ち時間は入院手術で 1 ヶ月～ 2 ヶ月、日帰り手術で約 2~3 週間であった。

【教育活動】

例年通り神戸大学と熊本大学の 5-6 年生を臨床実習生として受け入れた。本年は海外からの留学生の受け入れはなかった。

【学会活動】

日本小児外科学会、太平洋小児外科学会、アメリカ小児科学会、小児がん学会、日本内視鏡手術手技研究会、日本小児呼吸器外科研究会等で発表した。発表論文は邦文 2 編、英文 2 編であった。

入院手術

部位	術式	件数			
頭頸部	側頸瘻摘出術	3	胸壁	肺葉切除術	7
	Sistrunk	8		Nuss bar 挿入	4
	頸部腫瘍摘出術	3	横隔膜	横隔膜ヘルニア修復術	1
気道	喉頭前方切開 T-tube 留置	3	食道	食道閉鎖症	
	喉頭形成術（肋軟骨グラフト）	1		頸部食道瘻造設術	1
	気管切開術	22		食道延長術	3
	気管切開孔閉鎖術	3		食道食道吻合術	3
	気管切開孔形成術	3		食道番バンディング胃瘻造設術	1
	喉頭気管分離術	3		気管食道瘻離断術	2
	大動脈つり上げ術	2		気管食道異物摘出術	1
	腕頭動脈離断術	5		食道重複症・嚢腫切除術	2
	スライド気管形成術	5	胃	食道アカラシア・腹腔鏡下 Heller 手術	1
	気管形成術（切除端々吻合）	1		胃瘻造設術	16
				胃瘻閉鎖術	2
肺	ブラ切除術	2		胃瘻チューブ交換	1
	胸腔鏡下ブラ切除術	3		噴門形成術	3

	腹腔鏡下噴門形成術	7		痔核・痔瘻根治術	3
	肥厚性幽門狭窄症手術	8		肛門形成術	3
	幽門形成術	1		Gant- 三輪手術	1
十二指腸	十二指腸閉鎖・狭窄症手術	6		ポリープ切除術	3
小腸・大腸	腸回転異常症手術	4	腹壁	臍帯ヘルニア根治術	2
	小腸閉鎖症手術	3		創閉鎖術	1
	腸重積観血的整復術	5		鼠径ヘルニア・陰嚢水腫手術	109
	イレウス解除術	12		臍ヘルニア白線ヘルニア手術	7
	Meckel 憩室切除術	4	泌尿・生殖器	腎摘出術・腎腫瘍核出術	4
	Hirschsprung 病			付属器切除術・卵巣腫瘍核出術	2
	腹腔鏡補助下 Swenson 手術	7		尿管管遺残摘出術	3
	Duhamel 手術	1		膀胱鏡検査	1
	経肛門 Soave 手術	1	腫瘍	生検	11
	腸瘻造設	1		切除術	17
	胎便性腹膜炎・腸瘻	1	処置・検査	縦隔・胸腔ドレナージ	1
	特発性腸穿孔・腸瘻	1		胸腔鏡補助下胸膜剥皮術	3
	壊死性腸炎・腸瘻	2		試験開胸・開腹術	1
	重複腸管手術	2		腹腔ドレナージ	6
	虫垂切除術	18		デブリドメント	2
	肝胆膵脾	総胆管拡張症手術		4	内溶液穿刺吸引
肝右葉切除術		2		ピシバニール注入	12
胆嚢摘出術		2		摘便	4
エコー下肝生検		2		中心静脈カテーテル留置・抜去	177
膵外傷・ドレナージ・胃膵嚢胞内瘻術		1		テンコフカテーテル挿入、抜去	8
腹腔鏡下脾 / 副脾摘出術		2	VP シェント留置術	1	
直腸・肛門	鎖肛		気管支鏡検査・処置	174	
	PSARP	7	上部消化管内視鏡検査・処置	77	
	カットバック	3	下部消化管内視鏡検査・処置	1	
	肛門形成術	1	食道ギャップ測定	2	
	人工肛門造設術	7	イレウス管挿入	1	
	人工肛門閉鎖術	6	瘻孔造影	1	
	H 型鎖肛瘻孔切除術	6	計	897	
	直腸生検	16			

日帰り手術

術式	件数
鼠径ヘルニア手術	218
睾丸固定術	1
臍ヘルニア	23
陰唇癒合剥離術	14
腫瘍切除	1
経肛門的ポリープ切除	1
人工肛門ポリープ切除	1
肛門拡張術	2
上部消化管内視鏡	4
下部内視鏡検査	1
臍ポリープ切除	2

三輪 - Gant s	2
切開排膿デブリドメント	1
直腸止血	1
異所性唾液腺摘出術	1
計	273

新生児手術

病名	術式	件数
先天性食道閉鎖症	一期的吻合術	2
	食道バンディング・胃瘻造設術	1
肥厚性幽門狭窄症	幽門筋切開術	2
先天性十二指腸閉鎖症・狭窄症	ダイヤモンド吻合術	4
先天性小腸閉鎖症	端々吻合術	2
	術後癒着剥離術	1
胎便性腹膜炎	端々吻合術	2
	腸瘻造設術	1
臍腸管遺残	腸切除術	1
	Meckel 憩室切除術	3
腸回転異常症	Ladd 手術	3
壊死性腸炎	腸瘻造設術	1
特発性腸穿孔	腸瘻造設術	1
	ドレナージ術	1
鎖肛	人工肛門造設術	3
	肛門形成術	1
	カットバック術	3
臍帯ヘルニア	閉鎖術	2
	術後イレウス解除術	1
類白血病状態・DIC	中心静脈カテーテル留置術	1
臍動脈損傷	開腹止血・テンコフカテーテル留置術	1
DIC. アシドーシス	テンコフカテーテル留置術	1
先天性声門下腔狭窄症	気管切開術	1
喉頭嚢胞	気管切開術	1
	計	40

鏡視下手術

術式	件数
Nuss bar 挿入	4
胸腔鏡下ブラ切除術	3
胸腔鏡下腫瘍生検	1
胸腔鏡下腫瘍摘出術	1
胸腔鏡下剥皮術	3
腹腔鏡下 Hellar 手術	1
腹腔鏡下噴門形成術・胃瘻造設術	8
腹腔鏡下傍十二指腸ヘルニア修復術	1
腹腔鏡下脾摘術	2
腹腔鏡下 Meckel 憩室切除術	1
腹腔鏡下虫垂切除術	17
腹腔鏡補助下 Swenson 手術	7
腹腔鏡補助下テンコフカテーテル留置術	2
腹腔鏡補助下水腫開窓術	1
腹腔鏡補助下鼠径ヘルニア手術	2
腹腔鏡下腹膜炎手術	1
腹腔鏡検査	1
計	56

気管支鏡検査・処置

術式	件数
気管支鏡のみ	141
気切カニューレ交換	7
気管異物摘出術	3
KTP レーザーによる肉芽焼灼	8
T-tube 交換・留置	11
レティナ挿入	1
経鼻挿管チューブ入れ替え	3
計	174

消化管内視鏡検査・処置

	件数
上部消化管内視鏡	
検査のみ	28
食道バルーン拡張術	32
異物摘出術	1
EIS/EVL	12
ERCP	2
チューブ留置術	2
下部食道内視鏡	2
検査のみ	1
計	78

2012 年度 研修医記録

吉田 拓哉

術式	症例数	
	執刀医	助手
<気道・頸胸部>		
C型食道閉鎖根治術		1
内視鏡下バルーン拡張術		1
食道重複症手術		1
気管切開	2	1
気管切開孔周囲膿瘍切開		1
気管支鏡検査	7	12
腕頭動脈離断		2
梨状窩瘻手術	1	
左下葉切除術		1
腹腔鏡下ブラ切除術		1
胸膜剥皮術	1	
胸壁腫瘍摘出術		2
胸壁外食道延長術		1

<上腹部手術>		
幽門筋切開術	1	2
開腹噴門形成・胃瘻造設術		1
開腹噴門形成術		1
腹腔鏡下噴門形成術		1
先天性十二指腸狭窄	1	1
先天性小腸閉鎖 小腸切除術	1	1

<肝・胆・膵>		
腹腔鏡下脾臓摘出術		1
開腹胆嚢摘出術	1	

<下腹部手術>		
腹腔鏡下虫垂切除	1	
人工肛門造設	1	
人工肛門閉鎖術	3	
腹腔鏡補助下 Swenson 手術	1	1
直腸生検	3	1
PSARP	1	1
直腸脱手術	1	

人工肛門縁ポリープ切除		1
H型鎖肛手術	1	
イレウス解除術	1	3
試験開腹術	1	
腸瘻造設術	1	
卵巣腫瘍核出術		1

<ヘルニア>		
臍ヘルニア手術	4	1
ソケイヘルニア	48	1

<その他>		
腫瘍生検（開腹 or 開胸）	2	
腫瘍摘出（開腹 or 開胸）	1	2
IVH 挿入（Hickman）	12	1
IVH 抜去	8	
CV ポート挿入	1	
テンコフカテーテル挿入	1	
陰唇癒合	1	
臍ポリープ切除術	1	
リンパ管腫硬化療法		2

合計	109	47
----	-----	----

河原 仁守

術式	症例数	
	執刀医	助手
<気道・頸胸部>		1
C型食道閉鎖根治術		
気管形成術		
喉頭気管分離		
気管切開	4	
気管支鏡検査		22
気道異物除去		
ECMO カニキュレーション		
Sistrank 手術	2	
側頸瘻		
Nuss bar 挿入		
Nuss bar 抜去		
Ravitch 手術		
腹腔鏡下ブラ切除術	1	
胸膜剥皮術		1
皮下腫瘍摘出	1	

<上腹部手術>		
横隔膜ヘルニア根治術		
幽門筋切開術	2	1
開腹噴門形成・胃瘻造設術		1
腹腔鏡下噴門形成術		1
胃瘻造設術	1	2
先天性十二指腸狭窄・膜切除		1
先天性小腸閉鎖 小腸切除術	1	
Ladd 手術		
胎便性腹膜炎		
腸重積観血の整復術		
上部消化管内視鏡		
内視鏡下異物摘出		11
食道静脈瘤硬化療法		1

<肝・胆・膵>		
エコー下肝生検		
総胆管拡張症手術		1
開腹胆嚢摘出術		
胆道閉鎖症手術		

<下腹部手術>		
回盲部切除術		

開腹虫垂切除	1	
腹腔鏡下虫垂切除	4	
人工肛門造設		1
人工肛門閉鎖術		
腹腔鏡補助下 Swenson 手術	1	1
直腸生検	3	
PSARP		2
直腸脱手術		
痔瘻	2	
肛門形成術		
肛門ポリープ		
人工肛門縁ポリープ KTP 焼灼		
下部消化管内視鏡		
左腎摘出術		
尿管管遺残	1	

<ヘルニア>		
臍帯ヘルニア手術		
腹壁破裂		
臍ヘルニア手術	6	
ソケイヘルニア	32	3

<その他>		
腫瘍生検（開腹 or 開胸）	4	
腫瘍摘出（開腹 or 開胸）		2
IVH 挿入（Hickman）	17	
IVH 抜去	9	
テスコフカテーテル挿入	1	
舌小体形成術		
リンパ節炎切開排膿		
陰唇癒合	4	
腹腔内ドレナージ		1
ピシバニール		1
イレウス解除		1
経肛門的狭窄解除（ネツ）		1
腹腔鏡下大網切除	1	
腕頭動脈離断		1
全身麻酔下摘便		1

合計	107	94
----	-----	----

12. 心臓血管外科

【スタッフ紹介】

部長（手術部長兼任） 大嶋 義博（昭和 57 年神戸大卒）、
神戸大学医学部臨床教授、心臓血管外科専門医、同 修練指導者
医長 圓尾 文子（平成 7 年神戸大卒） 心臓血管外科専門医
医長 長谷川 智巳（平成 8 年京都府立医大卒） 心臓血管外科専門医
医長 松久 弘典（平成 11 年神戸大卒） 心臓血管外科専門医
医長 田中 亜紀子（平成 14 年神戸大卒） 心臓血管外科専門医
後期研修医
野田 伶（平成 17 年神戸大卒） 日本外科学会専門医

【診療体制】

外来：月、水、金の午後 2 診

手術：月～金。

1 月から 3 月まで岩城 隆馬医師が研修、4 月から富山大学第一外科へ赴任。4 月に門脇 輔医長が新東京病院へ転任。神戸大学より田中亜紀子医長が赴任。軽症例、重症例とも、全体の手術件数は前年度を上回った。胎児診断症例の紹介が増加、それに伴って新生児症例が増加している。2012 年の体外循環を用いた手術は 194 例（新生児 18 例）、体外循環非使用の心臓手術は 54 例（新生児 28 例）、その他 52 例で、在院死亡 2 例（うち早期死亡 2 例）（0.8%）であった。体外循環の症例数は前年を上回り、手術成績も向上している。毎朝の麻酔科との術前カンファレンス、ICU カンファレンス、毎週月曜朝の術前検討会、夕方の循環器カンファレンス、金曜の術後検討会に加え、循環器科および複数科との Audit meeting も定例化した。また、MRSA 感染対策のマニュアルを作成後、再評価を行い、見直しを検討している。心臓外科関連のカンファレンスは表に示した。

【学会活動】

英文、邦文論文が掲載あるいは投稿中で、胸部外科学会、心臓血管外科学会、小児循環器学会、その他、多数の学会、研究会にて発表した。

III 診療統計

術式 (疾患)	28日未満			～1歳未満			1歳～17歳			18歳以上			総数		
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡
PDA															
CoA (simple)	2	0	0										2	0	0
+VSD	2	0	0										2	0	0
+DORV				1	0	0							1	0	0
+AVSD															
+TGA															
+SV				1	0	0							1	0	0
+others															
IAA (simple)	1	0	0										1	0	0
+VSD				2	0	0							2	0	0
+DORV															
+Truncus															
+TGA															
+SV															
+others	1	0	0	3	0	0							4	0	0
Vascular ring				1	0	0									
PS				3	0	0	1	0	0				4	0	0
PPA or critical PS				2	0	0	1	0	0				3	0	0
TAPVR	2	0	0	1	0	0							3	0	0
asplenia															
PAPVR ± ASD				1	0	0	5	0	0				6	0	0
ASD				1	0	0	18	0	0	1	0	0	20	0	0
Cor triatriatum				1	0	0							1	0	0
AVSD (partial)				1	0	0	1	0	0				2	0	0
AVSD (complete)				2	0	0							2	0	0
+TF or DORV															
+others															
VSD (I)				5	0	0	5	0	0				10	0	0
VSD (II or IV)	1	0	0	16	0	0	21	0	0				38	0	0
VSD (III)				1	0	0							1	0	0
VSD + PS				1	0	0							1	0	0
DCRV ± VSD				3	0	0							3	0	0
Aneurysm of sinus Valsalva															
TF	1	0	0	5	0	0	3	0	0				9	0	0
(SP shunt)															
PA + VSD (Rastelli)				2	0	0	4	0	0				6	0	0
(SP shunt)				3	0	0							3	0	0
(UF ± shunt)							2	0	0				2	0	0
DORV	1	0	0	3	0	0	2	0	0				6	0	0
TGA (simple)	2	0	0	1	0	0							3	0	0
+ VSD	2	0	0	1	0	0							3	0	0
+ VSD + PS															
corrected TGA															
Truncus arteriosus	1	0	0	2	1	1							3	1	1
SV (SP)															
(BDG)				3	0	0							3	0	0
(Fontan)							9	0	0				9	0	0
TA (SP shunt)															
(BDG)							1	0	0				1	0	0
(Fontan)															
HLHS (Norwood)	2	0	0	2	0	0							4	0	0
(BDG)				4	0	0	1	0	0				5	0	0
(Fontan)							1	0	0				1	0	0
Aortic valve lesion (形成)				2	0	0	1	0	0				3	0	0
(弁置換)				1	0	0	4	0	0				5	0	0
SAS															
supra AS															
Mitral valve lesion (MR形)				2	0	0	2	0	0				4	0	0
(MR弁置換)							1	0	0				1	0	0
(MS形成)															
(MS弁置換)															
Ebstein				1	0	0							1	0	0
Coronary disease				1	0	0							1	0	0
その他				1	0	0							1	0	0
再手術															
VSD再閉鎖							1	0	0				1	0	0
PS解除				1	0	0	4	0	0				5	0	0
RV-PA導管再置換							3	0	0				3	0	0
(PVRを伴う)															
その他				1	0	0	2	0	0				3	0	0
総数	18	0	0	82	1	1	93	0	0	1	0	0	194	1	1

術式 (疾患)	28日未満			～1歳未満			1歳～17歳			18歳以上			総数		
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡
PDA	14	0	0	4	0	0	1	0	0				19	0	0
CoA (simple) +VSD +DORV +AVSD +TGA +SV +others	1	0	0										1	0	0
IAA (simple) +VSD +DORV +Truncus +TGA +SV +others	1	0	0										1	0	0
Vascular ring				2	0	0							2	0	0
PS															
PPA or critical PS				1	0	0							1	0	0
TAPVR asplenia															
PAPVR ± ASD															
ASD															
Cor triatriatum															
AVSD (partial)															
AVSD (complete) +TF or DORV +others	1	0	0	2	0	0							3	0	0
VSD (I)															
VSD (II or IV)				5	0	0							5	0	0
VSD (III)															
VSD + PS															
DCRV ± VSD															
Aneurysm of sinus Valsalva															
TF				3	0	0							3	0	0
PA + VSD							1	0	0				1	0	0
DORV	1	0	0	2	1	1	1	0	0				4	1	1
TGA (simple) + VSD + VSD + PS	1	0	0										1	0	0
corrected TGA							2	0	0				2	0	0
Truncus arteriosus	1	0	0										1	0	0
SV (SP shunt) (PAB)															
TA (SP shunt) (BDG) (Fontan)															
HLHS (bil.PAB) (SP shunt 追加)	3	0	0	1	0	0							4	0	0
Aortic valve lesion (形成) (弁置換) SAS supra AS Mitral valve lesion (MR 形成) (MR 弁置換) (MS 形成) (MS 弁置換) Ebstein Coronary disease その他															
再手術 VSD 再閉鎖 PS 解除 RV-PA 導管再置換 (PVR を伴う) その他	2	0	0	1	0	0							3	0	0
総数	28	0	0	21	1	1	5	0	0	0	0	0	54	1	1

	症例数	死亡	在院死亡
皮下膿瘍、デブリードメント	8	0	0
ペースメーカー植え込み	5	0	0
ペースメーカー電池交換	5	0	0
一時的ペーシング	2	0	0
心嚢ドレナージ	6	0	0
胸腔ドレナージ	1	0	0
横隔膜縫縮	5	0	0
ECMO 装着 (ショック)	1	0	0
ECMO 装着 (気管形成術等)	4	0	0

血腫除去	2	0	0
シャントクリップ調節・除去	3	0	0
気管腕頭動脈瘻	4	0	0
肺部分切除	1	0	0
リンパ瘻	1	0	0
大腿動脈仮性動脈瘤	1	0	0
胸骨ワイヤー抜去	1	0	0
大動脈/肺動脈吊上げ	2	0	0
総計	52	0	0

13. 脳神経外科

2012年度の脳神経外科スタッフは長嶋達也（部長）、河村淳史（部長）、山元一樹（医長）の指導医とローテーション医師である。2011年10月1日—2012年3月31日の間は坂田純一（医員）、2012年4月1日—9月31日は河合恵美子（医員）、2012年10月1日—2013年3月31日は山本祐輔（医員）が脳神経外科専門医研修の一環として着任した

診療活動では兵庫県下のみならず他府県からの紹介例、セカンドオピニオン例が引き続き増加している。複数科との連携によるチーム医療が当院の特色であり、脳神経外科・血液腫瘍内科・放射線科・臨床病理部による集学的治療を必要とする脳腫瘍症例、脳神経外科・整形外科・泌尿器科による治療および管理が必要な二分脊椎症例、脳神経外科・形成外科による外科的治療を要する頭蓋顔面奇形症例、脳神経外科・救急部・脳神経内科をはじめ多数科の関与が必要な頭部外傷・多発外傷症例などを中心に積極的な治療に取り組んでいる。手術前後に小児医療各方面と密な連携を保ちながら長期の追跡を行ない、成人した時点でのQOLの向上を目指して、神経奇形、頭部外傷、脳腫瘍を中心に国際的な水準を維持する手術成績を積み重ねていきたい。

脳神経外科手術ナビゲーションが順調に稼動し、困難な手術を支える施設面も充実した。24時間365日、あらゆる小児の脳神経外科手術に対応するという体制を今後も維持し続けたい。

件数

	脳神経外科的手術の総数	142
1	脳腫瘍	
	摘出術	23
	開頭生検術	0
	経蝶形骨銅手術	0
2	脳血管障害	
	バイパス手術	11
	開頭血腫除去術	1
3	外傷	
	急性硬膜外血腫	2
	急性硬膜下血腫	3
	減圧開頭術	0
	慢性硬膜下血腫	0
4	奇形	
	頭蓋・脳	12
	脊髄・脊椎	14
5	水頭症	
	脳室シャント術	32
	内視鏡手術	1
6	脊髄・脊椎	
	腫瘍	19
	脊髄空洞症	7
7	その他	17

日本脳神経外科学会の分類による

専攻医 坂田純一
 研修期間 2011.10.1 ~ 2012.3.31
 指導医 長嶋 達也、河村淳史、山元一樹

症例	執刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術		6	
経蝶形骨洞手術		1	
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか			
開頭脳内血腫		0	
バイパス手術		7	
急性硬膜外血腫		0	
急性硬膜下血腫		1	
慢性硬膜下血腫・水腫		2	
頭蓋・脳奇形		4	
脊椎・脊髄奇形		8	
水頭症脳室シャント		12	
水頭症神経内視鏡手術		1	
脊椎・脊髄腫瘍		4	
脊髄空洞症		3	
その他		12	
計	0	61	0

専攻医 河合恵美子
 研修期間 2012.4.1 ~ 2012.9.31
 指導医 長嶋 達也、河村淳史、山元一樹

症例	執刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術		12	
経蝶形骨洞手術		0	
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		1	
開頭脳内血腫		1	
バイパス手術		4	
急性硬膜外血腫		2	
急性硬膜下血腫		3	
慢性硬膜下血腫・水腫		0	
頭蓋・脳奇形		7	
脊椎・脊髄奇形		7	
水頭症脳室シャント		7	
水頭症神経内視鏡手術		0	
脊椎・脊髄腫瘍		8	
脊髄空洞症		1	
その他		4	
計	0	57	0

医員 山本祐輔
 研修期間 2012.10.1 ~ 2013.3.31
 指導医 長嶋 達也、河村淳史、山元一樹

症例	執刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術		10	
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		0	
開頭脳内血腫		0	
バイパス手術		3	
急性硬膜外血腫		1	
急性硬膜下血腫		0	
慢性硬膜下血腫・水腫		0	
頭蓋・脳奇形		2	
脊椎・脊髄奇形		14	
水頭症脳室シャント		9	
神経内視鏡手術		1	
脊椎・脊髄腫瘍		10	
脊髄空洞症		2	
その他	1	8	
計	1	60	0

14. 形成外科

形成外科スタッフは4月1日付で鄭聡柄医師が住友病院に転出、木矢孝一郎医師が岡山大学より転入した。7月1日付で清家志円医師が杏林大学に転出、谷口真貴医師が大阪大学より転入した。入院手術件数は長期休暇期間の満床問題による手術件数の制限のため前年より大きく減少した。昨年度より導入されたQスイッチルビーレーザーが近隣医療機関に認知されだし、レーザー治療件数は286件（前年度比141%）と大幅に増加しているが、そのため日帰り手術の待機期間が3ヶ月となっている。

年間の患者数及び手術件数 2012年1月1日～12月31日

形成外科新患者数	469	名
----------	-----	---

形成外科入院患者数	244	名（延べ人数ではない）
-----------	-----	-------------

形成外科手術件数

入院手術	全身麻酔	228件（合計 228
	腰麻・伝達麻酔	0件
	局所麻酔・その他*	0件
外来手術	全身麻酔	185件（合計 408
	腰麻・伝達麻酔	0件
	局所麻酔・その他*	223件 *その他には無麻酔や分類不明を入れる

手術内容区分

区 分	件 数						計
	入 院 手 術			外 来 手 術			
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
I. 外傷	5						5
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷で全身管理を要する非手術例							
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷の手術例	1						1
顔面軟部組織損傷							0
顔面骨折	2						2
頭部・頸部・体幹の外傷							0
上肢の外傷	1						1
下肢の外傷	1						1
外傷後の組織欠損（2次再建）							0
II. 先天異常	163			48		5	216
唇裂・口蓋裂	79			5		1	85
頭蓋・顎・顔面の先天異常	23			43		3	69
頸部の先天異常							0
四肢の先天異常	47						47
体幹（その他）の先天異常	14					1	15
III. 腫瘍	45			60		11	116
良性腫瘍（レーザー治療を除く）	45			60		11	116
悪性腫瘍							0
腫瘍の続発症							0
腫瘍切除後の組織欠損（一次再建）							0
腫瘍切除後の組織欠損（二次再建）							0
IV. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	12						12
V. 難治性潰瘍	2						2
褥瘡							0
その他の潰瘍							0
VI. 炎症・変性疾患	1						1
VII. 美容（手術）							0
VIII. その他							0
Extra. レーザー治療	2			77		207	286
良性腫瘍でのレーザー治療例	2			77		207	286
美容処置でのレーザー治療例							0
大分類計	228	0	0	185	0	223	636

15. 整形外科

2012年度は藁田医師に代わり黒岩医師が赴任した。また香川大学より飛梅医師が小児整形外科の研修のため赴任した。当科のように専門性の高い分野を扱う施設では、今後も同様な形で全国から motivation の高い医師の研修施設としての役割を果たしていきたいと考えている。今年度の手術件数は278件とほぼ横ばいであった。内訳は別表のとおりである。病院全体のベッド数が限界に近づいてきており手術枠があっても入院できない場合があるので何らかの対応が必要であると考えられた。

手術

	病名	術式	手術数
	環軸椎脱臼(含む他疾患)	ハロー装着	1
	脊椎疾患(側弯を除く)	頸椎固定術など	2
体幹	斜頸	切腱術	3
	側弯症 後弯症	矯正術、ロッド延長、病巣搔爬など	7
	先天性股関節脱臼など(麻痺性除く)	大腿骨骨きり術など	2
		SA (with or without OR and femoral osteotomy)	5
		大腿骨骨きり術	1
	骨頭すべり	ピンニング	10
	麻痺性股関節脱臼など	大腿骨頭切除術	1
		筋解離術(含む観血的整復術)	8
股関節	関節炎 円板状半月板など	鏡視下手術など	2
	先天性内反足	アキレス腱切腱(Ponseti)	32
		腱移行術(TAを外側) with or without release	4
		足根骨骨切り(含むエバンス、トリプル)	1
		PMLR PMR, PMR Evans	5
		後方解離 ATL	5
		PMLR PMR	1
	麻痺性変形(症候性)	Grice-Green	3
		PMR 腱移行(with or without GG Evans)	8
		変形矯正(創外固定含む)	1
		腱移行単独	6
足部	尖足	後方解離術 ATL	3
	脛骨列形成不全	足関節形成術	1
		延長, 矯正(イリザロフ(含むTaylor Frame))	2
	脚長差変形など	成長抑止術(含む8プレート)	7
	屈曲拘縮 伸展拘縮	骨性架橋除去	18
	足根骨癒合症	癒合部切除	1
	膝蓋骨脱臼	整復術	2
	外脛骨	摘出	1
下肢	その他下肢変形	矯正、切断など	5
	上肢短縮	上肢骨延長術(上腕、前腕)	6
	橈尺骨癒合症	回旋骨切り術	1
	裂手, 裂足	形成術	6
	絞扼輪症候群	形成術	2
	上腕骨外顆骨折	整復固定術	1
	上腕骨内顆(内上顆含む)	整復固定術	1

	上腕骨顆上骨折	整復固定術	3
	その他上肢骨折、脱臼	整復、固定	2
	下肢骨折	整復 固定	4
	骨折後偽関節	骨接合術など	1
	骨折など	鋼線牽引	7
	腱断裂	腱縫合	0
	化膿性関節炎	病巣搔爬、洗浄 穿刺	4
外傷	腫瘍 骨髓炎,LCH,病態不明	生検術	2
	腫瘍	骨	6
		軟部	5
	多・合指(趾)症	余剰指(趾)切除	13
		指(趾)間形成	10
	手指(足趾含む)変形	矯正、骨切り術など	5
	剛直母指	腱鞘切開	14
	その他		37

検査

部位	方法	検査数
股関節	アルトロ	22
その他	アルトロ	2

16. 眼科

本年の眼科医師の異動は以下の通り。1月、広島大学眼科の沖本聡志医師が研修を目的に着任した。同医師は手術をはじめ診療全般について精力的に取り組まれ、他の眼科研修医に対しても良い刺激になった様である。予定の研修期間を2ヶ月延長、10月末に広島大学に戻られたが、この間、学会発表、論文の作成も行い、更に今年に入って当科での仕事関連の学会発表、論文（英文雑誌）の作成も行っている。沖本医師の異動後、その補充として神戸大学から研修医の江本美佐医師が着任、12月末に中野沙弥専攻医と交代した。

3月末、平井宏二、下山剛の両専攻医がそれぞれ2年、6ヶ月の研修を終えて異動、4月より1年間の研修医である大西健医師ならびに6ヶ月研修医の宇津永遠医師が着任、宇津医師は9月末に異動、その交代で山崎悠佐専攻医が着任した。

本年も私以外の眼科スタッフは全員、非専門医であった。大学での研修を終えて間もない研修医達であり、将来、専門医を取得する際の要件である論文の作成等もない者がほとんどであった。このため学会発表、原著作成の指導を全員に対して行った。ここ数年、継続している事である。

ところで、本年、当科の斜視手術件数は343件であった。先日、斜視手術に関するアンケートが行われたが、その集計を見て驚いた。手術件数が県立病院中トップ、大学病院を含めても2位という結果であった。現在、眼科の予定手術は6ヶ月待ちであるが、そうではあっても、相対的に当院が手術環境に恵まれていることをあらためて認識した次第である。

2012年新患者数

病名	新生児	乳 児		幼 児		学 童		思春期	合 計
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
屈 折 異 常	0	18	17	150	132	82	54	8	461
斜 視 及 び 疑 い	0	15	26	148	113	69	21	4	396
未 熟 眼 底	0	4	3	2	1	0	0	0	10
未 熟 児 網 膜 症	1	13	0	1	1	2	0	0	18
眼 瞼 疾 患	3	10	9	29	11	9	4	3	78
涙 器 疾 患	0	9	11	10	2	1	2	0	35
結 膜 疾 患	0	6	0	4	2	1	0	4	17
角 膜 ・ 強 膜 疾 患	1	3	2	10	2	2	1	0	21
ブドウ膜疾患	2	9	1	1	2	3	1	2	21
網膜症・硝子体疾患	1	10	7	7	8	2	5	4	44
水 晶 体 疾 患	2	12	2	15	9	0	2	0	42
眼 窩 疾 患	0	0	0	1	0	0	0	1	2
遺 伝 性 疾 患	0	0	0	0	2	0	0	0	2
視神経及び視路の障害(眼振等)	0	6	3	14	17	10	10	3	63
緑 内 障	0	1	3	5	5	6	6	2	28
外 傷	0	1	2	6	0	4	2	2	17
症 候 群	1	0	1	2	0	0	1	2	7
心因性視力障害	0	0	0	0	0	6	3	0	9
腫 瘍	1	5	4	9	1	1	3	1	25
そ の 他	1	5	5	9	4	5	3	1	33
合 計	13	127	96	423	312	203	118	37	1329

2012年特殊検査・訓練 患者数

プリズム・矯正検査・弱視訓練・その他の検査	221名
T A C ・ P L 検査	370名
視野検査	217名(427眼)
合計	808名

2012年実習生受け入れ状況

学 校 名	人 数	期 間	実習場所
神戸総合医療専門学校	4名	5月1日～5月31日	外来及び手術室(見学)
九州保健福祉大学視機能療法学科	1名	6月4日～6月22日	
大阪総合医療専門学校(見学実習)	2名	3月5日～3月9日	

(2) 入院手術

	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
斜 視	0	2	1	47	86	87	71	49	343
内 反 症	0	0	0	3	10	17	4	0	34
眼 瞼 下 垂	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼 瞼・眼 窩 疾 患	0	1	2	12	2	3	0	1	21
結 膜 疾 患 (腫 瘍)	0	0	0	0	1	0	0	1	2
角 膜 疾 患	0	0	0	0	0	0	0	0	0
網 膜 疾 患 (腫 瘍)	0	1	1	4	0	0	0	1	7
硝 子 体	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鼻 涙 管 閉 鎖 及 び 異 常	0	0	0	3	0	1	0	0	4
眼 瞼 形 成	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緑 内 障	0	2	1	1	1	2	0	3	10
白 内 障	0	0	2	7	10	7	5	1	32
未 熟 児 網 膜 症	2	7	0	0	0	0	0	0	9
眼 球 振 盪 症	0	0	0	0	0	1	0	0	1
外 傷・検 査・そ の 他	0	2	1	3	3	0	1	1	11
合 計	2	15	8	80	113	118	81	57	474

17. 耳鼻咽喉科

1. 外来診療

今年も常勤医師1名(大津)、兼任医師1名(火・金曜、阪本)は変わらず診療を行った。新患の内訳としては、例年同様、滲出性中耳炎、反復性中耳炎、扁桃・アデノイド肥大、言葉の遅れの精査依頼などが多い。3歳児健診での言葉の遅れの精査依頼が増えた。診察室の耳鼻科診療ユニットは1台しかないため、1診体制での診療であり、外来の診察患者数はほぼ限界に達している。言語療法については後述する。

2. 手術・入院診療

昨年より第2金曜日に2時間の手術枠が増え、当科入院手術症例は105例となり、他科入院中の併施症例や日帰り手術を合わせると318例で、2年連続300件を超えた。引き続き増加傾向にある地域の医療機関からの紹介による手術対象例に対応すべく、手術枠増に努力したい。年少児の重症睡眠時無呼吸症候群に対する扁桃摘出、アデノイド切除術は周術期の呼吸管理が重要であり術後数日間挿管管理を要することもあり、麻酔科各医師とHCU看護スタッフの多大の協力に支えられている。今後も限られたスタッフであるが医療安全に十分配慮しつつ手術治療に取り組みたい。

手術統計（併施を含む）：

入院手術	
扁桃摘出術	86
アデノイド切除術	76
鼓膜チューブ挿入術	36
正中顎のう胞摘出術	2
後鼻孔ポリープ摘出	2
舌小帯形成	2
がま腫ピシバニール注入	2
顎下腺腫瘍摘出術	1
喉頭蓋のう胞開窓術	1
鼻涙管チューブ挿入	3
その他	3
合計患者数（他科入院18名含）	123

日帰り手術	件数
鼓膜チューブ挿入術	180
鼓膜肉芽切除術、鼓膜切開等	14
鼓膜穿孔閉鎖術	2
口唇粘液嚢胞摘出術	4
舌小帯形成術	4
舌良性腫瘍切除	1
合計症例数	195

3. 診療内容充実への取り組み、地域連携への取り組み

補聴器外来では、従来からの高度難聴児だけではなく軽中等度難聴児に対する補聴器装用も増加傾向にある。経済的な理由から装用できない児も多かったが、2013年4月から兵庫県、神戸市において軽中等度難聴児に対する補聴器補助事業が開始される見通しであり、今後装用児が増加することが期待される。

睡眠時無呼吸に対する携帯式アプノモニター検査は3台と予備機1台で検査を行っている。検査待ちがかなり解消し術後の評価にも使用できるようになってきた。生理検査室への業務移管を引き続き要望する。

限られた医療資源の活用のため、かかりつけ耳鼻科医との連携を深めて「日常診療はかかりつけ医で、検査・手術治療は当院で」という診療体制を推進してゆきたい。

4. 言語聴覚療法について

言語聴覚士（以下 ST）は常勤2名（うち1名は柏原病院との兼務）と非常勤1名と合わせた合計2.5名体制で業務をおこなった。特記事項として、STはこれまで耳鼻科と形成外科にそれぞれ所属し、業務を行ってきたが2012年4月からは診療科の枠を取り払い、病院全体の ST として効率的運用を開始したことがあげられる。そのため、STが耳鼻科・形成外科の区別なくの患者の訓練を担当するようになった。また、入院患者への摂食嚥下訓練も開始し、前年度に比べて入院患者への介入件数が大幅に増加した。主な業務の内訳は、①聴力検査（耳鼻科外来）②補聴器外来（耳鼻科外来）③言語評価および訓練（耳鼻科および形成外科外来、入院）④摂食嚥下訓練（入院）である。

① 聴力検査

一般病院では行うことの難しい聴性行動反応聴力検査や条件詮索反応聴力検査、遊戯聴力検査などをケースに合わせて実施している。さまざまな検査の結果、補聴器適応となれば、補聴器外来での予約をとるよう勧めている。

② 補聴器外来

週一度実施している。新生児聴覚スクリーニング検査の普及により、早期からの補聴器装着ケースが増えているのにくわえ、これまで補聴器装用を勧めてこなかった軽度の難聴であっても学習面での困難さが指摘されるようになり、補聴器適応となる患者は増加傾向にある。各人の予約時間を長めに設定し、慎重な評価、親への心理面を含めたサポート、通園施設や聴覚特別支援学校など適切な機関への橋渡しがタイミングよく行えるように心がけている。

③ 言語評価・訓練

【耳鼻科】「ことばの遅れ」や「発音の異常」を主訴に来院されるケースに対して評価を行い、保護者へのアドバイスを行っている。症状の多くは、全般的な発達遅滞によることばの遅れや器質的な異常を持たない機能性構音障害である。近年は、発達に偏りのある広汎性発達障害と考えられるケースも増えている。マンパワー不足によりこれらのケースを抱える余力がないため、特別な事情以外は各関連機関へ紹介させていただいている。

【形成外科】唇顎口蓋裂児に対して週2日外来訓練日を設けている。1回の訓練は40分であるが、単に訓練だけでなく、保護者へのアドバイスや学校への連絡等、外部機関との連携も担っている。

【入院】脳損傷後の高次脳機能障害や構音障害の評価および訓練、気管切開カニューレ使用中（または抜管後）の発声・構音訓練、その他言語・コミュニケーションに遅れや困難さをもつ児に対してサイン言語導入訓練や語彙力向上を目的にした訓練等を実施している。ST介入することで、日常生活上の注意点や予後の見通し、退院の方向性について、医師・看護師・家族らへ情報提供が少しはできるのではないかと考えて

いる。

④ 摂食嚥下訓練（入院のみ）

摂食嚥下に関しては当院では ST が常勤で配置されて以降も全く関わってこなかった。ST としては何とか病棟と一緒に患者サポートをおこなっていければと常々考えていたところ、看護師側からも嚥下介入を歓迎する声が聞かれ、9月に初介入した。以後、入院のみを対象に依頼に応じて訓練を実施している。小児の嚥下訓練を行うにはまだ経験不足の面もあるが、関連職種と連携をとりながら嚥下チームの一員として取り組み、さらに精進していくつもりである。その一つとして12月から、看護部の摂食嚥下部会（月1回開催）に小松が出席させていただいている。

今年度から課題であった入院患者への介入拡充もなされつつあり、STとしては一歩前進したと感じている。外来業務もあるなかで、入院患者の依頼が増えている今、マンパワー不足は重大な問題である。引き続き増員要求を行い言語聴覚療法充実を図りたい。

聴力検査・補聴器外来・その他検査実施件数（単位：件）

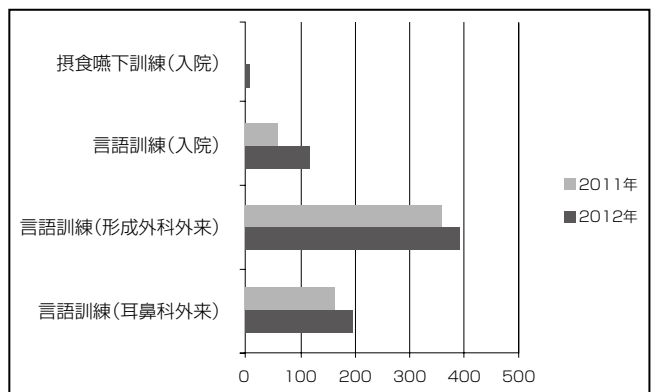
項目	小計	合計
遊戯聴力検査	2411	3100
標準純音聴力検査	613	
標準語音聴力検査	37	
気導純音聴力検査	39	
補聴器適合検査 1回目	32	355
補聴器適合検査 2回目以降	323	
高度難聴指導管理料	12	1
音声機能検査	0	
発達及び知能検査 容易	1	
発達及び知能検査 複雑	0	
心理検査 極複雑	0	

（参考までに 2011 年実施件数を併記した）

	2012 年	2011 年
言語訓練(耳鼻科外来)	196件 (前年比120%)	162件
言語訓練(形成外科外来)	392件 (前年比109%)	359件
言語訓練(入院)	117件 (前年比198%)	59件
摂食嚥下訓練(入院)	6件	実施せず

言語聴覚療法 実施件数および単位数

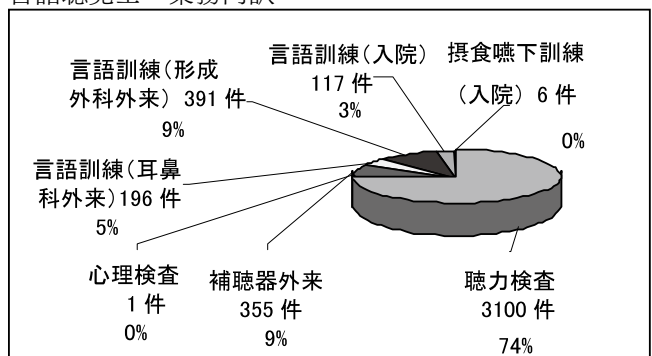
	件数	単位数
リハビリテーション料Ⅲ(形成)	391	791
リハビリテーション料Ⅲ(耳鼻)	313	690
摂食機能療法	6	6
	710	1457



言語聴覚療法 来院患者人数および診療日数

聴力検査人数(人)	3100
補聴器外来人数(人)	367
言語聴覚療法(形成:人)	391
言語聴覚療法(耳鼻:人)	313
摂食機能療法(人)	6
延べ人数(人)	4178
実人数(人)	3991
言語新患者数(人)	37
診療日数(日)	219

言語聴覚士 業務内訳



2012年耳鼻咽喉科新患統計（疾患は重複計上、疑い病名含む）・紹介元別内訳

	症例数	院内	耳鼻科	小児科	産科	健診	聾学校	その他	なし
言語発達遅滞	55	11	21	8		13	2		
構音障害	19	7	4	5		3			
ダウンス症	9	3	4	2					
耳介奇形・小耳症	9	1	3	3	1		1		
軟骨無形成症	1	1							
外耳道閉鎖・狭窄	10	4	3	2	1				
副耳	1		1						
先天性耳ろう孔	6	1	1	2	1	1			
外耳道異物	2		2						
耳垢栓塞	8	5	1			1	1		
急性中耳炎	11	7	4						
反復性中耳炎	8	4	4						
滲出性中耳炎	215	49	144	14		3	3	2	
慢性中耳炎	9		9						
真珠腫性中耳炎	2	1	1						
癒着性中耳炎	3		3						
先天性難聴	161	42	53	27	23	11	3		2
ムンプス難聴	2		2						
心因性難聴	28	1	26					1	
突発性難聴	6	3	2						1
高音障害型難聴	1	1							
低音障害型難聴	2		2						
難聴	80	24	46	5		1	2	2	
難聴（疑い）	72	21	33	6	1	6	3		2
後迷路性難聴	4	4							
聾	2		2						
内耳奇形	3	1	1						1
中耳奇形	1		1						
側頭骨骨折・耳小骨離断	9	8	1						
耳鳴	2		2						
めまい	15	10	4					1	
顔面神経麻痺	7	1	1	5					
慢性鼻・副鼻腔炎	52	20	28	4					
急性鼻・副鼻腔炎	13	10	3						
アレルギー性鼻炎	58	12	34	8		2		1	1
鼻出血	3	2							1
鼻腔異物	2	1	1						
鼻咽腔閉鎖不全	2	1	1						
後鼻孔閉鎖・狭窄	3	2	1						
後鼻孔ポリープ	3		3						
鼻骨骨折	2		1					1	
アデノイド肥大	143	21	95	22		1		3	1
扁桃肥大	75	8	52	14				1	
扁桃炎	7	2	3	2					
睡眠時無呼吸症候群	103	11	67	20		1	1	2	1
急性咽頭炎	3	2	1						
咽頭外傷	2	2							
舌腫瘍	3		1	2					
咽頭のう胞	2	2							
口唇粘液のう胞	2			2					
舌小帯短縮症	7	2	1	2		2			
唾石	1		1						
がま腫	1							1	
耳下腺炎	6		4	2					
耳下腺腫瘍	3	2	1						
咽・喉頭異物	4	2	2						
喉頭軟化症	40	32	3	5					
反回神経麻痺	38	35	3						
声帯ポリープ	6	1	3	2					
先天性声門下狭窄	3	2		1					
急性声門下喉頭炎	4	4							
嚥下障害	2	2							
正中頰のう胞・側頰のう胞	7		3	2					2
頰部リンパ節炎	4	1	3						
口蓋裂	5	3	1	1					
顔面外傷	10	7	1					2	
化療前感染症チェック	22	22							
聴覚スクリーニング後精密検査	40	7	6	10	17				
その他症例	24	19	4	1					
合計病名数	1,468	447	708	179	44	45	16	17	12
新患数（重複除く）	845								

18. 泌尿器科

2012年3月末に西村謙一、桑原元が退職し、4月からは福田輝雄が着任した。2012年度の泌尿器科は4人体制（杉多、中川、久松、福田）で診療を行った。入院手術・日帰り手術ともに感冒等によるキャンセルが多く、例年より手術件数は減少した。それを反映して、手術待機期間は、入院手術が約3か月、日帰り手術が約4か月となっている。

学術活動に関しては、国内学会は日本泌尿器科学会、日本小児外科学会、日本小児泌尿器科学会において、国際学会はアジア太平洋小児泌尿器科学会において発表した。

次年度は鏡視下手術などの低侵襲手術を行い、術後のQOLや疼痛の軽減を考慮した診療を行う所存である。（杉多記）

尿路系

計

VUR	Cohen	37
	Lich-Gregoir	10
	デフラックス	27
巨大尿管、	膀胱尿管新吻合 尿管形成	4
完全重複腎盂尿管 尿管瘤	膀胱尿管新吻合	1
VUR、巨大尿管、水腎症術後 水腎症	DJカテーテル抜去	16
	腎盂形成術	10
後部尿道弁、尿道狭窄	内視尿道切開術	1
水腎症	逆行性腎盂尿管造影	1
異型性腎、腎血管性高血圧など	腎尿管切除	4
外尿道狭窄	外尿道口切開	3
急性腎炎疑い	腎生検	1
水腎症その他	腎瘻造設	1
鎖肛など	尿道カテーテル留置	2
異所開口尿管など	内視鏡（膀胱鏡、腔鏡）	3
尿道損傷、鎖肛など	膀胱鏡	9
重複腎盂尿管	下部尿管尿管吻合	2
神経因性膀胱	尿失禁防止	1
膀胱結石	切石術	2
重複尿道	尿道皮膚瘻	1
	尿道プジ-	1
	皮膚瘻閉鎖	1
尿管瘤	尿管瘤開窓	1
計		139

性器系		計
先天性副腎過形成	外陰部形成	2
総排泄腔遺残症	腔形成	1
閉塞性乾燥性龟头炎	包皮環状切除	12
尿道下裂	free graft	22
	Koyanagi	6
	陰茎形成	13
	外尿道口形成	1
	TIP	1
	口腔粘膜二期の一期	3
	口腔粘膜二期の二期	1
	二期の尿道下裂手術一期	1
	二期の尿道下裂手術二期	3
尿道上裂	尿道上裂形成術	1
そけいヘルニア	ヘルニア手術	11
	腹腔鏡下ヘルニア手術	3
陰囊水腫	陰囊水腫根治術	20
精索静脈瘤	顕微鏡下精索静脈低位結紮術	5
停留精巣	精巣固定術	110
精巣捻転	精巣摘除	5
	捻転整復	3
停留精巣／vanishing	精巣摘除	3
	腹腔鏡	1
停留精巣／腹腔内	腹腔鏡下精巣血管結紮 (F-S1 期目)	2
	腹腔鏡下精巣固定術 (F-S2 期目)	2
	精巣固定	2
埋没陰茎	包皮形成術 (逆 Byars flap)	5
尿道下裂	瘻孔閉鎖術	5
遊走精巣	精巣固定術 (transscrotal)	17
尿道下裂術後	外尿道口形成	1
	外尿道口切開	1
	膀胱鏡	1
陰茎縫線嚢腫	嚢腫切除	1
創部肉芽	肉芽切除	2
卵精巣性分化疾患	卵巣成分切除	1
腔狭窄	腔形成	1
前置陰囊	陰囊形成	2
膈中隔	中隔切除	1
計		272

入院	254
日帰り	157
計	411

19. 小児歯科

診療内容として全身疾患を有する患児や心身障害児の齲蝕予防・治療を行うことが大きな柱となっていることに変化はない。特に院内の心疾患や血液疾患などを有する患児に対しては低年齢（乳前歯萌出時期）からの定期受診により歯科疾患予防を積極的に行っている。それに加え形成外科と共同で取り組んでいる唇顎口蓋裂児のホツツ床、術前顎矯正治療の患児の成長により歯列矯正治療を受ける患者数が増加している。また、本年度の診療報酬改定により、周術期における口腔管理が保険に組み込まれた背景より、歯科衛生士による口腔ケア介入症例が倍増した。

人事面には変わりはなく、現在小児歯科は常勤歯科医師一名の体制をとっているが、一人医長体制では患者数に限りがありまた引継ぎが困難で問題が生じやすいため、複数医師体制が望ましい。病院歯科としてさらに診療機能の幅を広げるためには口腔外科分野に秀でた歯科医師との2人体制が望まれる。

新患内訳（2012）		院内紹介	院外紹介		紹介なし	計
			歯科	医科		
小児歯科関連	口腔内検診希望	95	0	0	0	95
	齲蝕	26	36	2	0	64
	乳歯晩期残存	4	2	0	0	6
	先天性歯	3	0	3	0	6
	その他	2	0	3	0	5
矯正歯科関連	不正咬合	16	3	0	1	20
	術前顎矯正	14	0	1	0	15
口腔外科関連	外傷	7	3	0	2	12
	小帯異常	1	3	2	0	6
	埋伏歯・過剰歯	1	2	0	0	3
摂食嚥下障害		17	0	3	0	20
その他		11	1	1	0	13
計		197	50	15	3	265

全身麻酔下処置	歯科単独	他科合同	計
入院手術	0	10(顎矯正5)	10
外来手術	46	1	47
計	46	11	57

20. 麻酔科

1. 人事異動

専攻医の異動としては、神戸大学は野村医師、廣瀬医師、巻野医師が大学に戻り、本田医師、中川医師を迎えた。大阪医大からは岡医師が大学に戻った。香川大学からは宮本医師、ついで菅原医師を迎えた。大阪市立大学から池田医師が大学に戻り、塚口医師を迎えた。公募の研修者として、市立豊中病院から末田医師、西神戸医療センターから長井医師を迎えた。兵庫県立病院から徳川医師、山長医師を迎えた。

当院小児科から宇仁田医師、二野医師、島根大学麻酔科から片山医師を短期研修に迎えた。

常勤医として、以前当院の専攻医として勤務歴のある上北医師、土居医師を迎えた。小児麻酔の経験のある医師を迎えることができたことは非常に喜ばしいと考えている。

2012年12月の時点では香川、鈴木、高辻、大西、池島、野々村、鹿原、上北、土居、似内、古賀、末田、長井、山長、本田、塚口、菅原、中川、宇仁田の19名が従事している。

2. 活動状況と反省

2012年の総麻酔件数は4636件であり、前年(4870件)に比べて減少した。

症例の内容として新生児開心術、気管形成術、複数の合併症を持つ症例など、重症例が一定数あることは例年と変わりなく、高い専門性とマンパワーを必要とする状態が続いている。

麻酔科診療の上では新しい麻酔関連薬剤、麻酔法、鎮痛法が普及してきており、当院でも段階的に取り入れている。特に鎮痛の質の向上を目指して、整形外科や外科症例などに対して神経ブロックを行い、良好な印象を得ている。輸液製剤、筋弛緩薬とその回復薬などもより簡便で有効性の高いものを取り入れてきた。一方、新しい方法を取り入れることに伴って麻酔導入に時間がかかるなどの点もあり、十分な準備やトレーニングが欠かせないと考えている。

本年度は手術システムであるORSYSの更新にともなう仕様要求、当院のスタッフが中心となって執筆している教科書の更新、新病院に向けての手術室設計要望など、普段はないプロジェクトが多かったが、日常業務を含めてスタッフ一同協力して乗り切ることができた。

入院手術、日帰り手術、検査の麻酔、病棟麻酔、術前麻酔科診察の各業務において、大きな事故もなく一年を過ごせたことに安堵しており、看護部や外科系など各部署から様々な協力をいただいたことにこの場を借りて感謝を申し上げたい。

3. 展望

「患者様に安全かつ快適に手術・麻酔を受けていただく」ことが麻酔科の理念である。これまで同様、麻酔科医の教育や知識技術の向上、コミュニケーションの向上、麻酔業務の効率化、そして麻酔科医の確保により、安全・快適な麻酔を提供し続けたい。

麻酔科 診療統計

総麻酔件数（麻酔科管理症例数） 2012.1.1 ～ 12.31

4636 件

手術室で行われた局所麻酔症例：227 件

手術室で行われた麻酔科管理症例＋局所麻酔症例：4012 件

入院区分および麻酔の場所による内訳

入院手術の麻酔（手術室 1 ～ 7 室）	2760
日帰り手術の麻酔（日帰り手術室）	1025
病棟での麻酔	502
放射線部門（アンギオ室、透視室）での麻酔	333
MR I 検査時の麻酔	16
計	4636

麻酔法による内訳

全身麻酔・吸入麻酔	4086
全身麻酔・静脈麻酔	168
全身麻酔・吸入麻酔＋硬膜外麻酔	149
全身麻酔・静脈麻酔＋硬膜外麻酔	16
脊椎麻酔（脊髄くも膜下麻酔）	213
硬膜外麻酔	1
硬膜外麻酔＋脊椎麻酔	1
その他	2
全身麻酔 小計	4419
合計	4636

年齢別内訳

1 ヶ月まで	113
12 ヶ月まで	693
5 歳まで	1980
18 歳まで	1575
65 歳まで	275
66 歳以上	0
計	4636

21. 新生児科

1. 医師の異動

スタッフの岩谷 壮太、坂井 仁美、溝渕 雅巳、芳本 誠司、中尾 秀人は引き続き在任した。新たに、神戸大学より和田 佳子、藤岡 一路の両医師が着任した。

両名とも当科での勤務経験の後にキャリアを重ねたのちの再任で、活躍が期待される。猪俣 慶医師は熊本市市民病院に転任した。田中 聡医師はフェローとして、在任した。4月に岡山大学に帰局した河合 晴日に続き、10月に岡山大学より村上 優子が6ヶ月の研修予定で着任した。他に本年も多くの専攻医・後期研修医の往来があり、新生児・小児医療の展開にあたらしい息吹を吹き込んでいただいた。専攻医に対する教育・研修の工夫を重ね、着任する医師の要望にこたえていく努力も重要と認識している。周産期医療の従事者を再生産していくことは、総合周産期母子医療センターの重大な使命であり、そのためにもスタッフの確保は最重要案件となっている。

2. 診療活動

新生児病棟は変動はあるものの重症児、長期入院児が引き続き多く、業務は上限を超えつつある。特に、当直業務の負担が多く、院外からの当直担当医をさらに活用する必要があるかもしれない。Simple, Clear, Speedy を旨として医療の安全には充分留意して、看護部門も含め全員の意志疎通を計り、患児の最善の利益が尊重できる診療行為の遂行に勤めている。NICU・GCUの両看護長をはじめ、看護部門の全面的な理解と協力は、診療の遂行の必要不可欠な要因である。入院患児の重症化を反映して、在宅患児を対象とする外来業務も重症児の管理が増加するため、担当医の負担は増すばかりである。他の医療機関との連携、役割分担の相互理解も引き続き重要な案件である。本年も集学的治療を要する重症児の診療については、関連各科・関連病棟の御理解と御協力をいただき、厚く感謝するところである。地域医療連携部門との協力体制が確立し、長期入院児の在宅医療への移行も一段とスムーズになった。今後は、在宅の重症児に対するサポートを、病院全体の機能の中で如何に円滑に対応できるかの課題の解決にも、展望を開きたい。

3. 学会活動

多忙な診療の傍ら、国内外に渡って主要な学会での活発な活動がなされている。

また、神戸大学との連携のもと臨床研究の体制の整備も進みつつある。

出来る限り、多くのスタッフが各学会に参加できるように県当局、病院の研修に対する支援を活用したい。

2012年新生児科統計

I. 新生児病棟統計

1) 月別入院数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
51	44	56	36	38	36	49	52	50	54	44	60	570

2) 診療科別入院数

新生児科入院	570	新生児科からの転科	57
		循環器内科	42
		一般外科	9
		脳神経外科	4
		血液腫瘍科	1
		代謝内分泌科	1

3) 入院形態と紹介医療機関地域

	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	中播磨	西播磨	北播磨	淡路	丹波	但馬	県外
院外出生	188	125	7	0	42	1	0	4	2	0	7
一次搬送	153	103	7	0	39	1	0	3	0	0	0
(14日以上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
二次搬送	35	22	0	0	3	0	0	1	2	0	7
院内出生	382	209	11	0	81	13	2	15	15	2	31
緊急母体	108	63	4	0	29	1	0	4	3	1	3
非緊急母体	272	144	7	0	52	12	2	11	12	1	28
院内出生	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日齢14未満一次搬送+院内出生	535	312	18	0	120	14	2	18	15	2	31

II. 新生児科統計

対象：新生児科入院（日齢14未満一次搬送入院及び院内出生症例，転科例を含む）

1) 院内出生と院外出生

出生体重	患者数	院内	率	帰院	産科
500 g 未満	4	4	100%	0	0
500-749 g	10	9	90%	0	0
750-999 g	15	15	100%	0	0
1,000-1,499 g	45	43	95.6%	0	0
1,500-1,999 g	86	74	86.0%	0	0
2,000-2,499 g	133	113	85.0%	2	32
2,500 g 以上	242	124	51.2%	10	55
計	535	382	71.4%	12	87

週数	患者数	院内	率	帰院	産科
22, 23	3	3	100%	0	0
24, 25	14	13	93%	0	0
26, 27	12	12	100%	0	0
28, 29	16	16	100%	0	0
30, 31	23	22	96%	0	0
32, 33	49	45	92%	0	0
34-36	157	134	85.4%	1	24
37以上	261	137	52.5%	11	63
計	535	382	71.4%	12	87

2) 分娩方法・出生前ステロイド

出生体重	患者数	帝切	率	ANS	率
500 g 未満	4	3	75.0%	2	50%
500-749 g	10	7	70.0%	6	60%
750-999 g	15	12	80%	10	67%
1,000-1,499 g	45	37	82.2%	21	47%
1,500-1,999 g	86	67	77.9%	32	37%
2,000-2,499 g	133	90	67.7%	10	8%
2,500 g 以上	242	107	44.2%	7	3%
計	535	323	60.4%	88	16%

週数	患者数	帝切	率	ANS	率
22, 23	3	0	0.0%	1	33%
24, 25	14	11	79%	6	43%
26, 27	12	10	83%	8	67%
28, 29	16	14	87.5%	10	63%
30, 31	23	21	91.3%	15	65%
32, 33	49	36	73.5%	28	57%
34-36	157	118	75.2%	19	12%
37以上	261	113	43.3%	1	0%
計	535	323	60.4%	88	16%

3) 生存率, 死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率
500 g 未満	4	2	50%
500-749 g	10	0	100%
750-999 g	15	0	100%
1,000-1,499 g	45	2	96%
1,500-1,999 g	86	0	100%
2,000-2,499 g	133	0	100%
2,500 g 以上	242	4	98%
計	535	8	98.5%

週数	患者数	死亡数	生存率
22, 23	3	1	67%
24, 25	14	1	93%
26, 27	12	0	100%
28, 29	16	0	100%
30, 31	23	1	95.7%
32, 33	49	1	98%
34-36	157	2	98.7%
37 以上	261	2	99.2%
計	535	8	98.5%

4) 多胎割合 (品胎 5 組)

出生体重	患者数	多胎	率	品胎
500 g 未満	4	0	0.0%	0
500-749 g	10	1	10.0%	0
750-999 g	15	3	20.0%	0
1,000-1,499 g	45	10	22.2%	1
1,500-1,999 g	86	32	37.2%	13
2,000-2,499 g	133	43	32.3%	0
2,500 g 以上	242	17	7.0%	0
計	535	106	19.8%	14

週数	患者数	多胎	率	品胎
22, 23	3	0	0.0%	0
24, 25	14	0	0.0%	0
26, 27	12	4	33.3%	0
28, 29	16	4	25.0%	0
30, 31	23	10	43.5%	6
32, 33	49	16	32.7%	6
34-36	157	57	36.3%	2
37 以上	261	15	5.7%	0
計	535	106	19.8%	14

5) 人工呼吸管理の割合

出生体重	患者数	MV	率	HFO	CPAP
500 g 未満	4	4	100%	4	2
500-749 g	10	10	100%	9	10
750-999 g	15	13	87%	5	15
1,000-1,499 g	45	26	57.8%	2	23
1,500-1,999 g	86	26	30.2%	0	28
2,000-2,499 g	133	11	8.3%	0	14
2,500 g 以上	242	36	14.9%	3	24
計	535	126	23.6%	23	116

週数	患者数	MV	率	HFO	CPAP
22, 23	3	3	100%	2	2
24, 25	14	14	100%	12	13
26, 27	12	12	100%	5	12
28, 29	16	13	81%	1	16
30, 31	23	18	78.3%	0	12
32, 33	49	13	26.5%	0	13
34-36	157	21	13.4%	2	25
37 以上	261	32	12.3%	1	23
計	535	126	23.6%	23	116

6) 特殊治療

PDA 閉鎖術	9例 (+ 二次搬送 6 例)	生後ステロイド全身投与	38例
NO 吸入療法	14例	ステロイド吸入	0例
CHDF	2例	在宅酸素療法	11例
		ROP レーザー	3例

7) 新生児搬送出動回数 67 回

入院	57	分娩立合い	0
転院	4	時間外搬送	22

8) 双胎生存率, 死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率
500 g 未満	0	0	
500-749 g	1	0	100%
750-999 g	3	0	100%
1,000-1,499 g	9	0	100%
1,500-1,999 g	19	0	100%
2,000-2,499 g	43	0	100%
2,500 g 以上	17	0	100%
計	92	0	100%

週数	患者数	死亡数	生存率
22, 23	0	0	
24, 25	0	0	
26, 27	4	0	100%
28, 29	4	0	100%
30, 31	4	0	100%
32, 33	10	0	100%
34-36	55	0	100%
37 以上	15	0	100%
計	92	0	100%

22. 産 科

本年も大きなトラブルや事故もなく無事1年を終えることができ、産科スタッフ一同ならびに関連・関係各位に感謝致します。

診療統計は次ページ以降の表をご覧ください。限られた医療資源の中で高いパフォーマンスを示すことができました。

また、学術活動では本誌の該当頁に掲載されておりますように多くの output を行いました。

12月15日に兵庫県医師会館で「平成24年度兵庫県周産期医療研修会」が開催され、東京女子医科大学母子総合医療センター教授の松田義雄先生に「脳性まひの今日的諸問題 ～産科医療補償制度からの報告を含め～」の特別講演をいただきました。また、「患者家族の心に寄り添う看護」を杉友ユリ助産師、「当科における出生前診断の告知」を喜吉賢二医長が発表しました。

今年も神戸赤十字病院から藤田祐一（4月）、松永卓明（6月）、大保拓也（8月）、井上 基（10月）、坂本明香（11月）、秋泉春樹（2013年2月）（敬称略）の6名が臨床研修医（2年目）として各1ヶ月間当科で研修を行いました。1ヶ月という短い期間ですが、大学病院のBSLでは経験できない貴重な研修ができたと思います。

放射線科医師と胎児MRIを撮影した症例の経過とMRIの読影、その後の経過を検討する「MRIカンファレンス」を月1回隔月で開催しております。読影報告書からだけでは伺えないMRIの読み方についてリアルに研修することができます。

また、管理に難渋した症例のふりかえりと今後の対応について検討する「症例検討会」を不定期ですが開催しております。

当院は兵庫県の唯一の総合周産期母子医療センターですので、兵庫県の周産期医療の最後の砦として診療レベルの維持・向上に努め、また、空床がある限り母体搬送入院を受け入れております。平成24年の病床稼働率は94.1%、緊急母体搬送の受け入れ率は63%でした。胎児機能不全等の適応があれば手術決定から15分以内の児の娩出を目指す「超緊急帝王切開」を関連部門・スタッフの協力を得て行っており、平成24年の超緊急帝王切開は13件でした。また、「近畿ブロック周産期医療広域連携」が行われており、こども病院は兵庫県の拠点病院として他府県からの母体搬送に対応しています。

病床稼働率が高くなれば、満床またはオーバーベッドの日が多くなるためベッドコントロールの困難な日が増加し、結果として緊急母体搬送を受け入れることができません。また、外来紹介を受け即日入院が必要と判断されても入院ベッドがないこともあります。当科はこども病院に併設された周産期母子医療センター産科ですので、他科のベッドを借りることができません。従って、当科が満床となれば搬送依頼をお断りし、他院を紹介せざるを得ないこともあります。そのため、病状が落ち着いた方や、紹介元で対応可能な妊娠週数となれば、紹介元へ戻っていただいております。平成24年のバックトランスファー（紹介元へ戻れた方）は243名でした（外来レベルで行われたものも含む）。また、当院には産科以外の成人を継続して診る常勤の専門医がおりませんので、母体合併症に関しては神戸大学病院や神戸医療センター中央市民病院等をご紹介しております。

当科も常にマンパワー不足であり、現在のスタッフの退職や病気・事故で長期休暇を取得すると、たちまち診療レベルや当直体制を維持することができなくなってしまうと思います。総合周産期母子医療センターは産科医師2名の当直体制が必要です。現在第1当直は院内医師、第2当直は院外医師（神戸大、医師会）に応援をいただいております。年末年始、5月の連休、学会シーズン等では第2当直医の確保に困難があり、院外

医師の第2当直が見つからなければ院内医師が行わざるを得ません（その分、院内医師の負担が増えます）。実際、最近では休日の第2当直が月1、2回恒常的に見つからず院内医師で対応しています。また、症例が重なった時の応援業務と第2当直医来院までの居残り・翌早朝帰院後の早出のためオンコールの医師を立てています。医師公募も常に行っておりますが、産科医師不足のため苦戦を強いられています。

2012年人事

2012年のスタッフは、丸尾 猛病院長、船越 徹周産期医療センター次長、産科科長兼部長、佐本 崇部長、喜吉賢二医長、高松祐幸医長、佐々木紘子医長、牧志 綾医長、西本昌司専攻医で始まりました。

4月1日医師公募に応じて角産婦人科医院から角 健司医長（H6 久留米大卒）、宮崎県立宮崎病院から岩永巖医長（H15 徳島大卒）、名古屋記念病院から志水香保里専攻医（H20 滋賀医大卒）が入職。

6月15日佐々木医長が新須磨病院、西本専攻医が製鉄記念広畑病院へ異動。佐々木先生は1年間の産休・育児休業から復帰後も診療ならびに学会活動に積極的に取り組み貢献してくれました。

6月16日県立淡路病院から上田智弘医長、神戸大学医学部附属病院から葉 宜慧専攻医が入職。

6月末に岩永医長が宮崎県立宮崎病院へ異動。

8月1日久保田陽子専攻医が神戸アドベンチスト病院から6ヶ月間限定で入職。

1) 平成24年(2012年)産科診療状況

入院患者数*	538
うち緊急母体搬送によるもの	127
紹介元へ戻すまたは他院紹介***	301
分娩母体数(22週以降)**	337
正期産	131
早産	206
過期産児	0
多胎妊娠	51
うち双胎	46
うち品胎	5
うち要胎	0
経膈分娩	112
うち鉗子・吸引分娩	18
うち骨盤位牽出術	1
帝王切開術	225
出産児数(22週以降、死産含む)**	393
正期産児	138
早産児	255
過期産児	0
低出生体重児(2500g未満)	268
巨大児(4000g以上)	0
その他	
22週未満死産	7
子宮内胎児死亡(22週以降)	9
産後出血・DIC	4
自己血貯血回数	29

* 入院患者数は2012.1-12入院したもの

** 分娩母体数、出産児数は2012.1-12に出産したもの

*** 紹介元へ戻すまたは他院紹介は、入院せず外来レベルで行われたものも含む

2) 紹介元施設所在地別入院件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率
阪神南	尼崎市	3	1%	中播磨	姫路市	44	8%
	西宮市	11	2%		神崎郡	0	0%
	芦屋市	2	0%		小計	44	8%
	小計	16	3%		相生市	0	0%
阪神北	宝塚市	0	0%	西播磨	たつの市	0	0%
	三田市	0	0%		赤穂市	2	0%
	川西市	0	0%		揖保郡	0	0%
	伊丹市	0	0%		赤穂郡	0	0%
	川辺郡	0	0%		佐用郡	0	0%
	小計	0	0%		宍粟市	0	0%
					小計	2	0%
神戸市	須磨区	82	15%	但馬	豊岡市	4	1%
	中央区	48	9%		美方郡	0	0%
	西区	66	12%		養父市	0	0%
	垂水区	33	6%		朝来市	0	0%
	灘区	11	2%	小計	4	1%	
	東灘区	13	2%	丹波	篠山市	1	0%
	北区	20	4%		丹波市	3	1%
	兵庫区	1	0%		小計	4	1%
	長田区	8	1%	淡路	洲本市	10	2%
	小計	282	52%		淡路市	1	0%
					南あわじ市	5	1%
			小計		16	3%	
東播磨	明石市	89	17%	他府県	大阪府	9	2%
	加古川市	22	4%		京都	6	1%
	高砂市	5	1%		徳島	4	1%
	加古郡	0	0%	その他	9	2%	
	小計	116	22%	小計	28	5%	
北播磨	西脇市	6	1%	海外	0	0%	
	三木市	3	1%	院内紹介	0	0%	
	小野市	16	3%	不明	0	0%	
	加西市	1	0%	計	538	100%	
	加東市	0	0%				
多可郡	0	0%					
小計	26	5%					

救急隊はその所属地域にカウントした

3) 入院時疾患名別 (重複あり)

疾患名	件数	率
切迫早産	238	16%
高齢妊娠	184	12%
胎児形態異常	123	8%
子宮内胎児発育不全	87	6%
前期破水	80	5%
多胎	71	5%
うち双胎	65	4%
うち品胎	6	0%
羊水検査	71	5%
羊水過多・過少	63	4%
既往帝王切開	62	4%
胎児機能不全	52	3%
B群溶連菌保菌者	41	3%
妊娠高血圧症候群	37	2%
胎位異常	37	2%
絨毛膜羊膜炎・子宮内感染	31	2%
他科合併症	27	2%
糖尿病合併・妊娠糖尿病	25	2%
子宮筋腫合併	18	1%
子宮内胎児死亡	13	1%
胎児水腫	12	1%
甲状腺疾患合併	12	1%
胎児染色体異常	10	1%
前置胎盤	10	1%
切迫流産	10	1%
頸管無力症	9	1%
胎盤機能不全	8	1%
胎盤早期剥離	7	0%
その他感染	7	0%
胎児不整脈	6	0%
心疾患合併	6	0%
自己免疫性疾患合併	3	0%
子宮奇形	3	0%
ウイルス性肝炎	1	0%
双胎間輸血症候群	0	0%
その他	73	5%
計	1508	97%

入院母体1人あたり平均2.6件の疾患を有す。

4) 入院時間帯

時間帯	件数	率
時間内	432	80%
平日日勤帯		
時間外	106	20%
平日夜勤帯	59	11%
休日日勤帯	22	4%
休日夜勤帯	25	5%
計	538	100%

6) 分娩時間帯 (流産、死産含む)

時間帯	件数	率
時間内	219	64%
平日日勤帯		
時間外	125	36%
平日夜勤帯	71	21%
休日日勤帯	18	5%
休日夜勤帯	36	10%
計	344	100%

8) 分娩時妊娠週数 (流産、死産含む)

週数	件数	率	累積率
～21週	7	2%	2%
22～24週	9	3%	5%
25～28週	24	7%	12%
29～32週	50	15%	26%
33～36週	122	35%	62%
37～41週	132	38%	100%
42週～	0	0%	100%
不明	0	0%	100%
計	344	100%	

5) 入院時妊娠週数 (母)

週数	件数	率	累積率
～21週	99	18%	18%
22～24週	54	10%	28%
25～28週	71	13%	42%
29～32週	101	19%	60%
33～36週	119	22%	83%
37週～	90	17%	99%
不明	0	0%	99%
産後	4	1%	100%
非妊娠	0	0%	100%
計	538	100%	

7) 帝王切開時間帯

時間帯	件数	率
時間内		
平日日勤帯	167	74%
時間外	58	26%
平日夜勤帯	32	14%
休日日勤帯	7	3%
休日夜勤帯	19	8%
計	225	100%

9) 出産時児体重 (流産、死産含む)

児体重	件数	率	累積率
～499g	14	4%	4%
500～999g	26	7%	10%
1000～1499g	47	12%	22%
1500～1999g	75	19%	41%
2000～2499g	113	28%	69%
2500～2999g	88	22%	91%
3000～3499g	32	8%	99%
3500～3999g	5	1%	100%
4000～4499g	0	0%	100%
計	400	100%	

10) 緊急母体搬送依頼電話受信状況

月	依頼件数	受け入れ不能件数	受け入れ不能率
1	21	7	33%
2	15	3	20%
3	20	4	20%
4	11	2	18%
5	19	9	47%
6	11	5	45%
7	22	12	55%
8	18	2	11%
9	19	3	16%
10	20	8	40%
11	22	9	41%
12	24	19	79%
不明	3	0	0%
計	225	83	37%

依頼件数には、結果的に外来受診となったものも含む

11) 年次別搬送受け入れ不能状況

年	依頼件数	受け入れ不能件数	受け入れ不能率	備考
平成6年	66	12	18%	10月開設(22床)
平成7年	240	38	16%	阪神・淡路大震災
平成8年	312	76	24%	
平成9年	340	111	33%	
平成10年	324	105	32%	
平成11年	326	55	17%	フルオープン(32床)
平成12年	362	100	28%	総合周産期センターに指定
平成13年	328	60	18%	
平成14年	394	110	28%	
平成15年	367	140	38%	
平成16年	298	126	42%	
平成17年	285	120	42%	MFICU6床整備
平成18年	316	124	39%	空床情報ネットワーク整備
平成19年	285	91	32%	
平成20年	259	65	25%	
平成21年	279	88	32%	
平成22年	276	85	31%	
平成23年	256	96	38%	
平成24年	225	83	37%	

12) 搬送依頼施設所在地別受信件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率
阪神南	尼崎市	4	2%	中播磨	姫路市	2	1%
	西宮市	12	5%		神埼郡	0	0%
	芦屋市	1	0%		小計	2	1%
	小計	17	7%		相生市	0	0%
阪神北	宝塚市	1	0%	西播磨	赤穂市	0	0%
	三田市	0	0%		宍粟市	0	0%
	川西市	1	0%		たつの市	0	0%
	伊丹市	1	0%		揖保郡	0	0%
	川辺郡	0	0%		赤穂郡	0	0%
	小計	3	1%		佐用郡	0	0%
	小計	3	1%		小計	0	0%
神戸市	須磨区	43	17%	但馬	豊岡市	1	0%
	中央区	20	8%		養父市	0	0%
	西区	32	13%		朝来市	0	0%
	垂水区	10	4%		美方郡	0	0%
	灘区	4	2%		小計	1	0%
	東灘区	6	2%	丹波	篠山市	1	0%
	北区	14	6%		丹波市	1	0%
	兵庫区	0	0%		小計	2	1%
	小計	138	55%	淡路	洲本市	4	2%
	東播磨	明石市	31		12%	南あわじ市	1
加古川市		2	1%		淡路市	2	1%
高砂市		2	1%		小計	7	3%
加古郡		0	0%	大阪府	1	0%	
小計		35	14%	京都府	4	2%	
北播磨	西脇市	2	1%	他府県	広島県	1	0%
	三木市	0	0%		他	0	0%
	小野市	10	4%		小計	6	2%
	加西市	1	0%	海外	0	0%	
	加東市	0	0%	院内紹介	0	0%	
	多可郡	0	0%	不明	1	0%	
	小計	13	5%	計	225	88%	

救急隊はその所属地域にカウントした

13) 搬送依頼元施設種類別

施設種類	件数	率
総合周産期医療センター	0	0%
地域周産期医療センター	16	7%
一般病院	109	48%
診療所	87	39%
助産院	1	0%
救急隊	11	5%
他	0	0%
不明	1	0%
計	225	100%

14) 搬送依頼電話受信時刻

勤務帯		件数	率
時間内	平日・日勤帯	112	50%
	平日・夜勤帯	66	29%
時間外	休日・日勤帯	30	13%
	休日・夜勤帯	17	8%
不明		0	0%
計		225	100%

15) 搬送電話依頼時理由

搬送理由	件数	率
切迫早産	118	52%
前期破水	34	15%
妊娠高血圧症候群	21	9%
胎児機能不全	7	3%
胎児形態異常	3	1%
子宮内胎児発育遅延	3	1%
胎児死亡	2	1%
未受診	2	1%
胎盤早期剥離	2	1%
前置胎盤	1	0%
出血多量	1	0%
切迫流産	1	0%
既往帝切	0	0%
多胎	0	0%
他科合併症	0	0%
難産	0	0%
ショック	0	0%
子宮外妊娠	0	0%
その他	30	13%
不明	0	0%
計	225	100%

主たる理由で分類

16) 搬送電話依頼時妊娠週数

妊娠週数	件数	率
22週以前	14	6%
22～24週	39	17%
25～28週	38	17%
29～32週	55	24%
33～36週	49	22%
37～40週	13	6%
41週以降	2	1%
分娩後	1	0%
不明	14	6%
非妊娠	0	0%
計	225	100%

17) 受け入れ可否返事所要時間

所要時間	件数	累積率
～1分	147	65%
～3分	21	75%
～10分	42	93%
～20分	9	97%
～30分	2	98%
～60分	0	98%
～120分	0	98%
～180分	1	99%
不明	3	100%
計	225	100%

18) 受け入れ不能の理由

理由	件数	率
NICU 満床	2	2%
産科満床	47	57%
両方満床	1	1%
対象外	9	11%
その他	18	22%
不明	6	7%
計	83	100%

23. 放射線科

1. 人事異動

2012年度は、3/31に阿部洋子医師が退職し、スタッフが3→2となり忙しくなった。放射線治療担当で副島俊典医師ががんセンターと兼務で週1回の診療にあたる。非常勤医師として藤本雄介医師に月曜、木曜の週2日、西山章次医師に金曜午前に応援していただいている。

2. 2012年の動向

常時2名ほどの小児科専攻医の研修希望があり読影室は賑やかになった。超音波検査が年々件数を伸ばしており、マンパワーの確保が望まれる。

3. 放射線科の取り組み

本年6月より、塚口病院に続いて加古川西市民病院に応援出張を始めた。どちらの病院も小児診療において画像診断の重要性を認識し、診療の質が向上してきた。兵庫県内の小児診療に地域差が無いようにしたい。全国的に小児の画像診断医が希少なため、小児科医に画像に慣れ親しんでもらうことが最初のステップであり、今後も若手小児科医の放射線研修を推進していく。

放射線科読影件数（2012年）

CT 2956件

MRI 2110件

RI 409件

他院持込画像の読影
276件

超音波 4716件

透視 307件

IVR 3件
エコー下肝生検3

単純写真 105件

放射線治療（照射） 36件

研修医・専攻医指導記録

専攻医：川崎英史（小児科）

研修科：放射線科

研修期間：2012.1.1. ～ 2012.3.31

指導医：赤坂好宣

研修医：稲熊洋祐（尼崎病院小児科）

研修科：放射線科

研修期間：2012.10.1. ～ 2012.12.31

指導医：赤坂好宣

読影件数

CT：23

MRI：3

RI：0

透視検査：1

超音波検査：310

読影件数

CT：149

MRI：69

RI：0

透視検査：1

超音波検査：220

専攻医：辻 真之介（小児科）

研修科：放射線科

研修期間：2012.4.1. ～ 2012.9.30

指導医：赤坂好宣

読影件数

CT：513

MRI：277

RI：0

透視検査：7

超音波検査：565

専攻医：水田麻雄（小児科）

研修科：放射線科

研修期間：2012.7.1. ～ 2012.12.31

指導医：赤坂好宣

読影件数

CT：402

MRI：324

RI：0

透視検査：1

超音波検査：527

24. 病理診断科

病理診断科では、胎盤病理・死産児の剖検などの周産期の病理診断、ヒルシュスプルング病や嚢胞性肺疾患などの小児外科領域の病理診断、小児期の固形腫瘍の病理診断を主体として、小児期の病理診断全般を行っている。小児固形腫瘍は国立成育医療センターを中心とする小児固形腫瘍観察研究に登録、参加して、中央病理診断や分子生物学的診断を受けている。腎生検は通常のパラフィン切片標本の病理報告書作成は病理診断科でおこなっているが、凍結検体を用いた蛍光免疫染色や電子顕微鏡の所見を加えた最終診断は腎臓内科が行っている。病理診断科では、検体のマクロ検索からミクロ検索までを一連の業務として取り組み、一例一例を大切に丁寧に診断することを心がけている。必要に応じて免疫染色や特殊染色、外部委託や小児固形腫瘍観察研究による分子生物学的検索、他施設へのコンサルテーション依頼等を行い、客観的で再現性のある標準化に則った病理診断を目指している。臨床カンファレンスを通じて、診断名のみならず所見の詳細を臨床に伝えることで診療に病理診断結果を活かしてもらえるように努めている。また病理診断は一時期の病変部のみの検索であるが、診療過程の全体を把握して病理診断にフィードバックしたいと考えている。

2012年の動向

2012年11月末に病理システムが導入された。導入前はマクロ画像や切り出し図や病理診断結果が個々に保存されていたが、病理システム導入後は一括してデジタル管理が可能となった。また剖検結果も同様の病理システムでデジタル管理可能となり、検索が可能となった。建て替え後の電子カルテ導入時には、電子カルテと病理システムがつながり、電子カルテから病理結果（診断結果の文書及びマクロやミクロ画像）を閲覧可能となる予定である。病理システムが今後の診療に貢献出来ることを期待している。

2012年度のCPCを2012年中に行うことが出来なかったが、2013年3月28日に2012年度CPCを開催した。

2012年1月14日（土）大阪市立総合医療センター3階大会議室で開催された第66回関西小児病理研究会の世話人を兵庫県立こども病院病理診断科が担当した。

2012年の件数

組織診断件数 1004件（うち迅速有り61件、胎盤340件、腎生検31件、その他）

細胞診断件数 189件

剖検件数 8件（産科死産児3件、新生児科2件、心臓血管外科2件、救急集中治療科1件）

参加カンファレンス

院内：MMカンファレンス（2012年5月24日（8：20～）

；臨床担当；心臓血管外科 圓尾文子先生

周産期カンファレンス（毎週月曜日 16:30～）

外科カンファレンス（毎週火曜日 8:00～）

腫瘍カンファレンス（毎週水曜日 17:30～）

院外：神戸大学病院病理部くすのき会（わからん会）（第4水曜日 19:30～）

25. 看護部

看護部理念

命を守り、育てることに努力し、安心と満足が得られる看護の提供に努めます。

看護部のスローガン

「小児看護」→「笑児看護（しょうにかんご）」

「みる・まもる・つなぐ・つたえる」で、こどもと家族の輝く笑顔を引き出そう！！

看護部方針

- こどもの権利を守り、患者・家族の思いを尊重した看護を提供します。
- 看護の質の向上を目指し、安全と安心に繋がる看護を提供します。
- 患者を中心としたチーム医療の調整役として、主体的に行動します。
- 真の優しさと逞しさを備えた人間性を養い、自己研鑽に努めます。

看護の体制

- 固定チームナースング（継続受け持ち制）体制で、継続的かつ個別的な看護提供を行っています。
- 患者様が治療や検査を理解し、確実に行えるように、プリパレーションやディストラクションを取り入れた看護を実践しています。
- 保育士と協働し、患者様の成長発達に応じた療育への支援を行っています。
- 患者様に少しでも快適で豊かな入院生活を送っていただけるよう様々なボランティアの皆様と季節折々の行事を実施しています。
- 看護系大学との事例検討会や共同研究を推進し、看護の向上に向けて取り組んでいます。

看護部目標

★「共育・共働・共創」の3拍子

共に育ち、共に働き、共に創り出す

★看護師確保・定着対策（県立病院全体）

- ・実習生への関わり・・・学生が働きたいと思える病院作り
- ・教育担当看護師長の配置・・・採用前からの継続した関わり

★診療報酬の改訂を取り入れた組織運営

- ・チーム医療・在宅医療の推進
- ・地域連携（感染対策連携）

★ベットのコントロール（こどもと親にとって「最後の砦」）

患者を迎える、歓迎する気持ちで患者をうけいれる。看護師長間の調整、相互支援をしながら、お互いに知恵を出し合い共創する組織となって、目の前の患者の入院を受け入れる

1. 働きやすい職場作りと看護実践能力・看護の質の向上

- 1) 無資格者（看護事務補助・看護補助）との業務の役割分担と協働・連携
 - ・業務整理——委譲できる業務と看護の専門業務

・無資格者の育成と協働

2) 業務委譲により浮いた時間で、看護実践能力・看護の質の向上をはかる

2. 看護のやりがい・おもしろさの探求とチーム医療の推進

1) 専門職チームとしての事例検討の推進

・医師・保育師・薬剤師・栄養士・P T・放射線技師・検査部門

2) 部署間の連携と事例検討

・病棟—外来、病棟・外来—O P、病棟・外来—指導相談部等

2) 地域の看護職とのチーム作り

3. 新病院（実設計）へ向けて基盤整備

1) 人も育て自分も育つ

2) 外へ目を向け、外部から学ぶ

3) 電子カルテを見据えた看護記録・看護基準・標準看護計画の見直しとクリニカルパスの推進

看護部の活動

看護部

看護師の負担軽減のために、今年度より各病棟に事務クラークと看護補助者を導入し、それら無資格者と役割分担、協働したことで業務整理ができ、ベッドサイドケアやカンファレンス等が充実し、看護の質の向上や看護師のやりがい感の醸成が図れた。また、適切な倫理的配慮のもと看護研究が行われるよう発足した看護部研究倫理委員会が本格稼働し、今年度は、23件の研究倫理審査を行い、内6件は院外発表することができた。

一般外科主体病棟

安全確保目的にKYTをおこないヒヤリハットが減少した。チーム医療推進のため外科パスの修正・新規作成を6実施。在宅IVHのパフレット修正と指導用のDVDを作成、気管カンファレンスシートの評価を行った。

循環器A病棟

循環器A病棟では循環器、心臓血管外科と併せ血液腫瘍科の患児のケアを中心に実践しています。今年はナラティブの会を開催しスタッフ間で看護を共有し、更にリフレクションできるよう活動しました。

循環器B病棟

入院中の先天性心疾患患者の家族看護のアセスメントシートを導入し、早期から家族に対して育児指導・退院指導の計画立案、実践に取り組んだ。また、退院困難な患者に対し、他職種との退院支援合同カンファレンスを開催し退院へと導くことができた。外来通院を行なっている学童期・成人移行期への患者家族に対し、セルフケア能力を高めるための循環器科患者教室を他部門と連携し年間3回実施をした。

混合A病棟

救急センターの後方支援病棟としての役割が果たすことができるよう、緊急入院と転入に対応できる病棟の体制作りとスタッフ育成ができた。また脳腫瘍ターミナル患者の在宅支援を充実するために多職種カンファレンスの体制作りと運営を行うことができた。

混合B病棟

混合病棟の強みを活かし、救急からの後方ベッドとしてベッドコントロールを行ってきた。また、脳腫瘍

患者の入院が増加したが、ターミナル期を含めた看護に取り組み、チーム医療の中の看護の向上を目標に継続していく。

血液主体病棟

今年はこれまで通り移植前の前処置を担当し、治験薬の実施も積極的に実施した。また、幹細胞採取例も増加し、病棟で移植を開始した。それぞれに必要な看護を見直し、統一して実践できるように取り組んだ。

ICU

従来4チームから3チームに変更し、教育支援者を確保した。また、独自のICUラダーの見直しを行い、一段一段階を上り支え合う教育をめざして、朝のケアパッケージの内容変更、業務改善を図り看護実践能力を向上させた。

HCU・外科系一般病棟

高度な呼吸管理を必要とする児を主な対象とし、特に気管軟化・狭窄は全国各地の病院から受け入れている。またBCRではBMT、PBSCT、抗がん剤治療後の白血球減少時の児を対象とし重症感染症の合併を予防している。

NICU

看護補助者・看護クラークの導入により業務整理を行い、時間と人の確保ができ看護の質の向上を図った。ワーキンググループ活動を行うことで、看護のやりがいにつながり、産科・GCUとの連携も図れた。

GCU

昨年度に引き続き、受け持ち看護師の役割を通し、患者・家族によりよい看護の提供に努めた。長期入院患児や在宅医療を必要とする児も多く、地域連携室や外来と連携をとり、入院中から継続した育児支援に取り組んだ。

産科

妊娠・分娩・産褥・育児と継続看護の充実をはかった。外来中から継続看護師が関わり、スタッフで情報の共有を図り、入院につながることができた。今後は、直接地域との連携をとるためのシステム作りに取り組んでいく。

手術室

他職種（麻酔科、各診療科）との合同カンファレンスが定着し安全で安楽な医療が提供できた。教育においては、係活動の一部として教育に関わる体制とし、みんなで育成する土壌が出来つつある。看護補助者、洗浄滅菌委託業者、事務クラークとの共同で業務整理と改善に至った。

外来

安全・安楽を目標に、看護補助者の教育の実施と、ヒヤリハット事例のRCA分析に取り組んでいる。在宅療養患者の支援のため病棟訪問を実施し連携強化を行っている。看護相談外来では、看護師が患者の療養生活上の問題解決の支援を実施している。

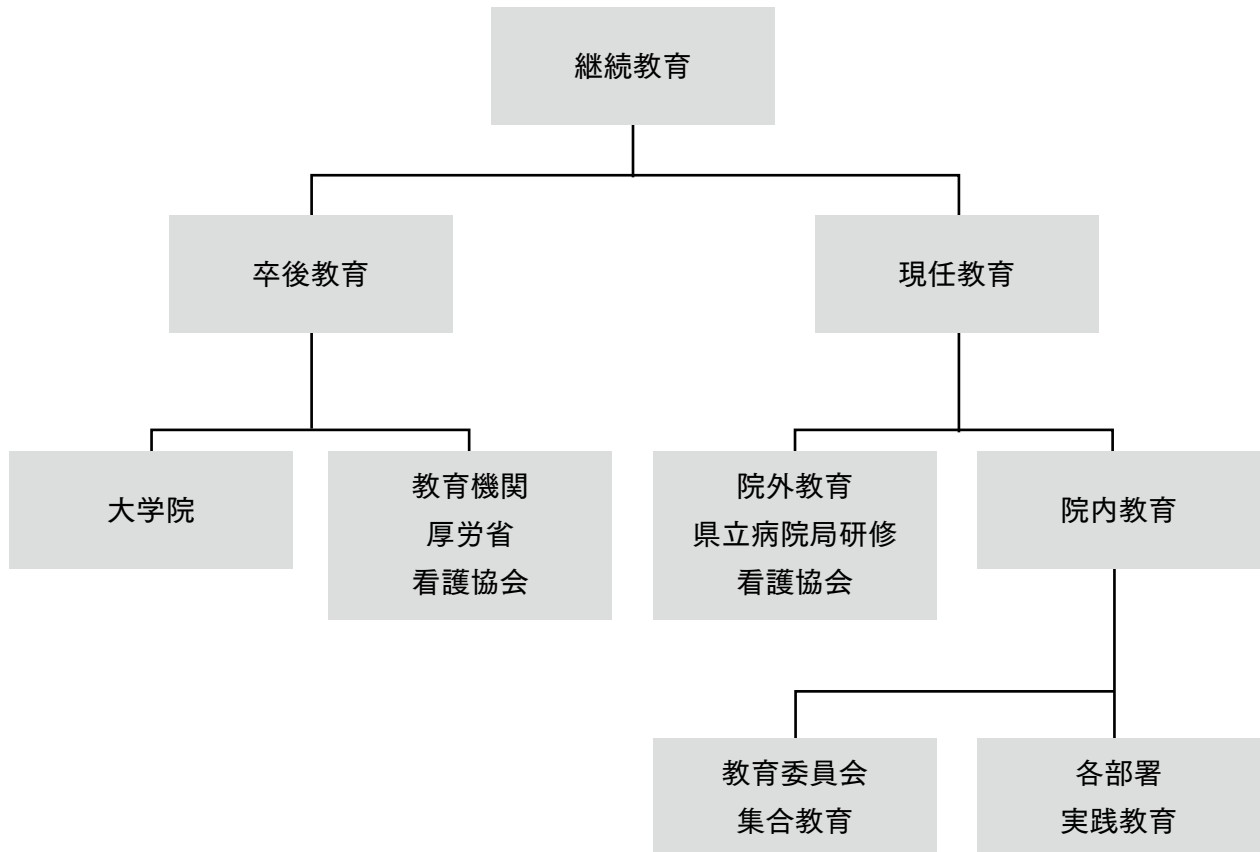
小児救急センター

「カンファレンス・事例検討活性化」「5S環境整備」「重症初療シミュレーション」「看護過程(アセスメント)力の向上」に重点的に取り組んだ。医師と共に「災害時多数患者受入れ危機対策マニュアル」を整備した。

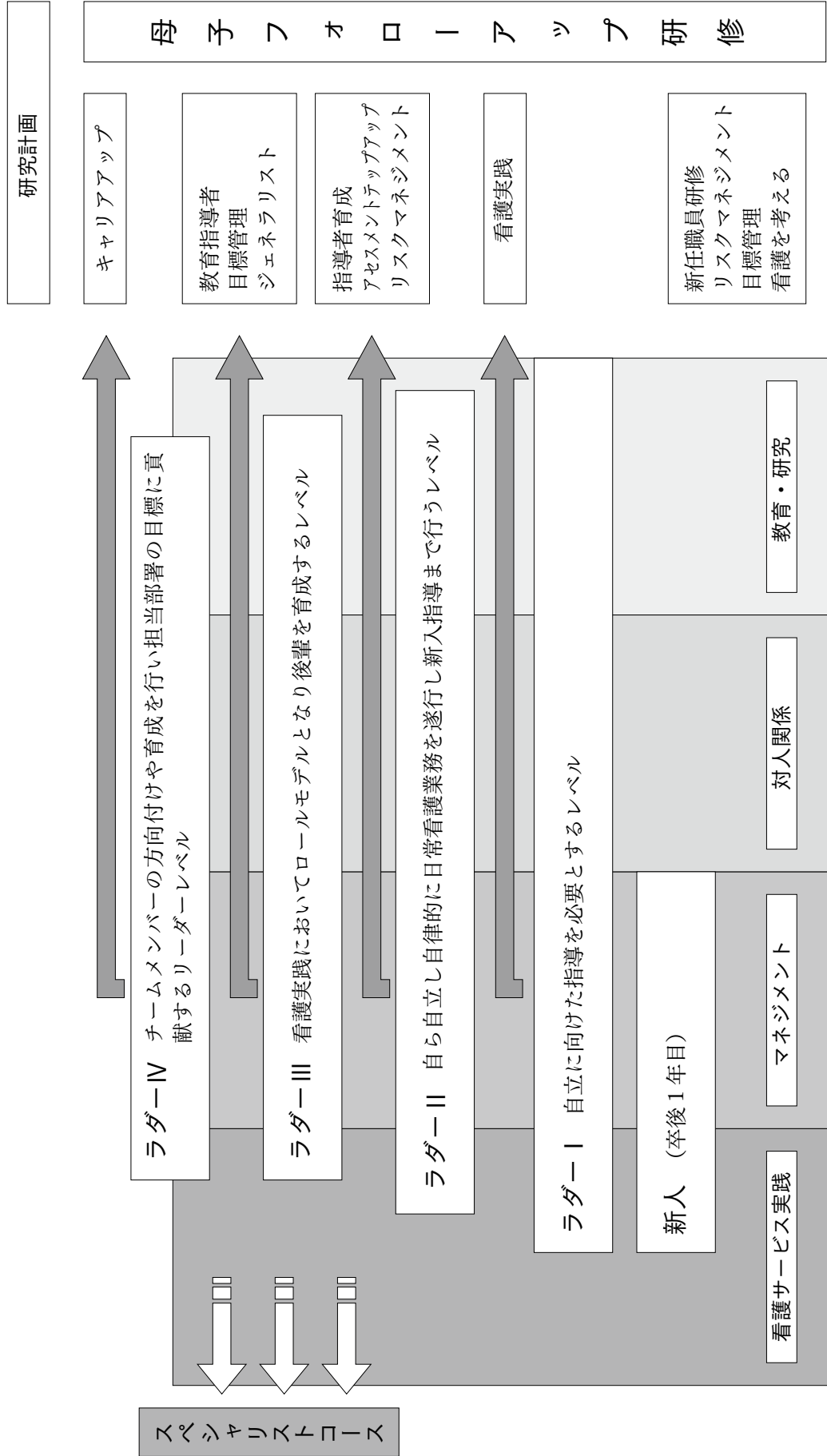
こども病院看護部教育方針

1. 高度専門的な母子看護の知識・技術をもち、エビデンスに基づいた看護実践ができる看護師の育成
2. こどもの権利を守り、患者家族の思いを尊重できる看護師の育成
3. チーム医療の調整役として行動できる看護師の育成
4. 研究的視点で看護実践の改善がはかれる看護師の育成

こども病院看護部継続教育の位置づけ



小児ジェネラリストの実践家として役割を認識し行動できる



平成 24 年度 院内研修

	研修会名	日程	時間	ねらい	参加数	講師
新人	フォロー研修①	4月4日(水)	1日	1. 必要な看護技術を段階的に身につけることができる 2. 同期との就職後の思いを共有し、今後の意欲に繋げる	63名	中谷 CNS、鳴滝 CN、濱田師長、志智 ME、教育担当者
	フォロー研修②	4月5日(木)	1日		62名	菟野安全課長、二星 CNS、教育担当者
	フォロー研修③	4月6日(金)	1日		62名	谷本師長、教育担当者
	フォロー研修④	4月20日(金)	1日		50名	志智 ME、教育担当者
	フォロー研修⑤	5月18日(金)	1日		56名	清水師長、教育担当者
	フォロー研修⑥	5月29日(火)	1日		53名	藤原 CN、放射線技師、教育担当者
	フォロー研修⑦	6月15日(金)	1日		50名	竹原歩 CNS (姫路循環器)、鎌田 CN、森本 NS、濱田師長、教育担当者
	フォロー研修⑧	7月9日(月)	1日		43名	堀田薬剤部次長、教育担当者
	フォロー研修⑨	8月20日(月)	1日		47名	文字 CNS、中田 PT、教育担当者
	フォロー研修⑩	9月25日(火)	1日		43名	橋本地域医療連携部次長、鎌田 CN、深江補佐、泊補佐、教育担当者
ラダー I	フォロー研修⑪	11月6日(火)	1日	1. ガイドラインに沿った救急蘇生法を明確にできる 2. 事例を通して、救急蘇生場面でのメンバースキップの実際を体験し、日々の看護に活かすことができる	39名	二星 CNS、教育担当者
	フォロー研修⑫	3月5日(火)	1日		32名	藤原 CN、呼吸ケア部会、教育担当者
	高機能シミュレーター	2～3月	各1日		39名	教育委員
	2年目リフレッシュ研修	6月4日(月)	0.5(AM)		39名	二星 CNS、教育委員
	アセスメントステアアップ	7月24日(火)	1日		36名	教育委員
	看護観	2月5日(月)	0.5(PM)		21名	成田看護部長、教育委員
	既卒者サポート①	6月4日(月)	0.5(PM)		19名	原田笑い療法士、先輩 NS、教育委員
	既卒者サポート②	9月4日(火)	0.5(AM)		18名	教育委員
	既卒者サポート③	1月22日(火)	0.5(AM)		20名	二星 CNS、教育委員
	看護実践と看護倫理	8月6日(月)	1日		24名	濱田師長、教育委員
ラダー II	プリセプターフォロー①	6月26日(火)	0.5(PM)	1. 自己の関わりを振り返り、課題や今後の方向性を明確にできる 2. プリセプターの成長に合わせた関わりができる 3. 自己の看護を振り返り、語る事ができる	25名	本田真也 CNS (兵庫県大)、濱田師長、先輩 NS、教育委員
	プリセプターフォロー②	9月4日(火)	0.5(PM)		23名	教育委員
	プリセプターフォロー③	1月22日(火)	0.5(PM)		28名	本田真也 CNS (兵庫県大)、濱田師長、教育委員
	後輩指導	2月26日(火)	0.5(AM)		22名	文字 CNS、教育委員
ラダー II・III	家族看護	10月23日(火)	1日	1. 家族看護の理論を理解し、日々の看護の中で活かすことができる 2. 次年度新規採用者の各部署での教育計画を教育担当者とともに立案する	15名	成田看護部長、教育委員
	変革理論	6月26日(火)	0.5(AM)		15名	成田看護部長、教育委員
	グループマネジメント	7月13日(金)	0.5(AM)		14名	大北正三 CNS (淡路病院)、教育委員
	コミュニケーションスキル	8月17日(金)	0.5(AM)		15名	教育委員
ラダー III・IV	体験研修 (他部署研修)	8～12月		1. 事例を通して、倫理問題の解決策を考えることができ、日々の看護にいかすことができる 2. 自己を知り、部署を知り、実践可能な部署改革に取り組める	15名	教育委員
	取り組み報告会	2月26日(火)	0.5(PM)		21名	濱田師長、教育委員
	看護倫理①	10月19日(金)	0.5(PM)		20名	濱田師長、教育委員
	看護倫理②	11月16日(金)	0.5(PM)		12名	成田看護部長、教育委員
短時間・パート	短時間・パート研修	10月15日(月)	0.5(AM)	1. 組織の一員として自己の役割を認識でき、日々の看護に活かすことができる 2. 新人ガイドラインを理解し、次年度の新人教育計画を立案することができる	35名	小西美和子 (近大姫路大)、教育委員
	教育担当者研修①	1月14日(月)	0.5(AM)		31名	小西美和子 (近大姫路大)、教育委員
教育担当者研修	教育担当者研修②	2月27日(水)	0.5(PM)			

看護部委員会

委員会名	開催回数	目標と活動内容
看護師長補佐会	11回	<p><目的> 各看護単位の円滑な運営と看護の質向上をはかる</p> <p><目標> 1. 病院としての課題達成に向けて率先して実行できる 2. 看護師として責任ある行動が自主的に取れるようにスタッフの育成をおこなう 3. 委員会での活動が各部署で周知できるように情報共有する</p> <p><活動内容> 1. 1) 委員会活動が各病棟で円滑に実践できるよう、情報共有と支援をおこなう 2) 固定チームナーシングの評価の推進と固定チームナーシング実践ガイドの見直し 2. 看護基準の検討、作成、全病棟での導入、査定の実施 3. 1) 倫理新聞の定期発行、補佐会での事例検討会の実施 2) プレパレーションガイドラインの修正、入院前絵本の評価 4. 1) 看護補助者業務手順の見直し 2) 看護補助者導入後の現状調査と評価 3) 看護補助者研修の企画、運営 (2/25、28) 5. 1) 病院見学会の企画、運営 (10月、3月) 2) PRのDVD作成 3) ふれあい看護体験の企画、運営 4) ユニフォームの変更の提案、実施 6. 看護実践報告会の企画、運営</p>
看護部教育委員会	12回	<p><目的> 看護職員のキャリア開発を支援するとともに、良質な看護を提供するための教育体系を整備、実践する</p> <p><目標> 1. 年間計画に沿って、集合教育を実施し、看護のおもしろさ・やりがい感を発見することができる研修を企画する 2. 教育委員が元気で、各病棟の教育支援ができるとともに、委員としての成長ができる</p> <p><活動内容> 1. 院内集合研修の企画・運営・評価 2. OJTとリンクした継続性のある教育の検討と実施 3. 看護師個々のキャリアに応じた支援の検討と実施</p>
看護部教育担当者会	12回	<p><目的> 新人看護師を支援する教育体制を整備し、実践する</p> <p><目標> 1. 新人看護師が現場に順応し、各自のペースに合わせて目標を達成していけるよう支援できる 2. 教育担当者が、新人看護師やプリセプターへの指導・教育、研修企画・運営、問題解決に関する知識やスキルを高め、成長できる</p> <p><活動内容> 1. 新人看護師の院内集合研修の企画・運営・評価 2. OJTでの継続性のある新人看護師教育の検討と実施 3. 実施指導者・教育担当者の支援・育成 4. 全スタッフで新人看護師を育成する風土づくり・体制整備</p>

臨床指導者会	隔月開催で 6回	<p><目的></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床の指導者として、実習計画に添った病棟実習がスタッフの協力のもと継続して実施できる 2. リクルートの一環であることを認識し実習に取り組む <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 部署内で実習の目的、実習内容を共通認識し患者様の安全を優先した有効な実習が行える。 2. 実習に関連した問題点の情報提供と共有を行い、解決に向けた取り組みが出来る。 3. リクルートを視野に入れた実習生の受け入れを行う <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の予定を把握し、スタッフへ説明し病棟全体で実習に取り組んだ 2. 実習経過表の使用を強化し評価を行い継続した指導に取り組んだ。来年度に向けた実習経過表の見直しを課題とした 3. 実習に関する問題点を指導者から募り、意見交換することで次の実習に活かしていった。大学側の報告会で教員との意見交換を行い、学生の傾向や問題点、学生との関わり方など学び共通認識が持て、次年度に付けることができた 4. リクルートの一環であることを認識した実習に取り組み、学生カンファレンスへの参加を促し、学生の小児看護に関する意識を高めていった
業務・手順委員会	11回	<p><目的></p> <p>看護業務を見直し、当院で必要な看護基準・手順を作成し、安全で安楽な標準化したケアを提供する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護業務の見直しと科前作の検討 2. 安全対策委員会感染対策委員会と連携を図り、看護基準・手順の作成及び修正 <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 項目の手順見直しと手順監査 2. 業務改善、ローカルルールの廃止 3. 術後疼痛緩和ケア実施のための広報活動
感染対策委員会	11回	<p><目的></p> <p>リンクナースとして各部署における感染防止対策の中心的役割を担い、ICTと連携して感染防止対策を実践する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染対策に対するスタッフの知識・技術が向上する 2. 流行性感染症、耐性菌などのアウトブレイクが発生しない 3. 勉強会、研修会、学会参加などをとおして実践モデルとしての役割がとれる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2012年改訂版感染対策マニュアルが浸透するよう各部署で取り組んだ 2. 吊り下げガウンの廃止決定に伴い、デイスポガウンの使用定着に向けた意識向上のためのポスター作成、病棟ラウンドによる現状把握を行い、正しい使用と着脱ができるように取り組んだ 3. 輸液に関する院内手順の作成に向け、現状把握、調査を実施した 4. 各種（感染症・血流・環境）サーベイランスの実践と評価を行った 5. ICTと密に連携し、問題発生時に早期対処した 6. 病棟の感染対策に還元できるよう、ICTラウンドに同行して自己の学びを深めた 7. リンクナースとして必要な知識、技術を習得するためチェックリストによる自己評価を年2回実施し、リンクナース勉強会を委員会内で年4回企画、運営するとともに院外研修会にも自主的に参加した 8. 日本環境感染学会でポスター発表した

<p>安全対策委員会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 看護事故防止対策を検討し、全看護職員のリスク感性向上に向けて取り組むことを目的とする</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病棟独自の手順を見直し、看護手順にそった与薬手順に統一できる 2. 輸液管理を見直し、血管外漏出によるレベル2以上のヒヤリハットの減少・早期対応ができる 3. ヒヤリハット事例の分析方法を理解し、再発防止に向けた取り組みができる 4. 転倒・転落防止の看護計画が定着する <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各病棟の現状について調査し、内服・注射ワークシートの保管方法の統一を図った 2. 輸液固定テープを刺入部が観察できる透明フィルム材への変更を行った 3. RCA分析について研修会を開催し、手法の理解と定着に向け事例分析を行った 4. 兵庫医療大学の転倒・転落アセスメントシートの研究と連動させ、計画の見直しを行った
<p>看護記録委員会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 電子カルテを見据え、看護の可視化と質評価につながる看護記録が出来る</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 昨年作成された患者基礎情報用紙が各病棟で有効に活用され継続看護に活かせることができる 2. 院内で使用している看護用語の統一に向けて、看護用語集作成の基盤ができる 3. 記録の監査を行うことで、スタッフ全員が看護の見える記録が出来るようになる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アンケートを行い、患者基礎情報用紙の活用状況の把握と使用方法の周知徹底を図った。 2. 基礎情報用紙の記載要項の見直しを行った。 3. パス委員会と連携し、看護記録・看護計画で使用している用語や小児特有の用語の抽出を行い、定義付けを行った。 4. 業務委員会と連携し、今年度業務委員会で見直される看護手順の項目について、「記録する」の内容を明確にした。 5. 記録の記載要項と同じ視点で監査することが出来るよう、機械的監査ツールの見直しを行った。 6. 上記機械的監査ツールを用いて、7月にスタッフ全員を対象に監査を行った。 7. 質的監査は8月と12月の2回行い、2回を通じて全員が監査できるようにした。 8. 機械的・質的監査結果を受けて、各病棟単位で対策を立てた。 9. 補佐会と連携し、看護基準の導入に向けて、看護記録用紙の変更を行った。

<p>クリニカルパス委員会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 院内クリニカルパス胃陰と連携し、クリニカルパスを推進することを目的とする</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 広報を行い、クリニカルパス推進を行う。 2. バリエーションデータを継続的に取得し、クリニカルパス改訂に向けた分析を行う。 3. 電子化に向け、フォーマットの統一と用語標準化を推進する。 4. クリニカルパス運用上の問題点を洗い出し解決する。 <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バリエーションシートの集計ファイルの統一と入力の実便性を向上させた。 2. 統計データから、バリエーション分析を行い改定箇所の提案を行った。 3. 統計結果を院内クリニカルパス委員会に提示、パス大会で報告した。 4. フォーマットの統一実施。用語の標準化シミュレーション実施した。 5. 記録委員会と連携し用語標準化推進活動を行った。 6. 運用上の問題、クリニカルパスと現状の治療との違いの解消を行った。 7. パスニュースを発行し、広報活動を行った。
<p>看護部地域連携委員会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 在宅療養支援に関する院内外の現状を知り、地域連携推進に取り組む</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域と医療機関との交流を深め、連携を強化し受け入れ体制が整う 2. 在宅への移行がスムーズに行え、家族生活を送る子どもたちの訪問看護に必要な医療的ケアが学べる 3. 在宅で生活する子どもたちの実際を知り、家族や児に対して入院中から在宅に向けての指導や助言ができる知識が持てる 4. 在宅療養支援のシステムや社会資源などについて知識を高め地域連携の推進を図る 5. こども病院の在宅支援システムを具体化し、他職種との退院支援のチーム作りの基盤を作る <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護実地研修1回、訪問看護ステーション対象者研修3回を開催した 2. 在宅療養指導マニュアルの見直し修正した 3. 指導計画書、パンフレットの見直しを行った 4. 事例検討会を7事例した 5. こども病院在宅療養支援システム図を入院から退院までを検討し修正した
<p>専門・認定看護師会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 医療・看護の質向上に向け、専門看護師・認定看護師が連携して問題解決への取り組みや支援を行う</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各専門・認定看護師の活動を共有し連携をはかる 2. 各専門分野もしくは共通している問題について、ともに検討し解決につなげる 3. 専門・認定看護師が協働して教育活動を行う 4. 専門・認定看護師の支援体制を整える <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各自の年間計画、月間・難関活動報告の共有 2. 活動の中で発見した問題提起と検討、互いの支援 3. 専門・認定看護師が協働する勉強会の企画・運営 4. 活動に関する看護部との調整・交渉

研究倫理委員会	8回	<p><目的> 看護研究が、研究倫理に関する宣言や倫理指針の趣旨に沿った倫理的配慮のもとに行われているかを審査する</p> <p><目標> 1. 看護研究の計画や実施において、スタッフが適切な倫理的配慮を行えるよう支援する 2. スタッフが、看護に関して科学的方法を用いて探求し、新しい知見を得るために、適切な指導と支援を行う</p> <p><活動内容> 1. 看護研究の倫理審査 2. 看護研究の計画・実施プロセスにおけるスタッフの支援</p>
WOCケア部会	11回	<p><目的> WOCにおける専門知識を習得し、ケアの質向上を図る</p> <p><目標> 1. 委員自身のWOCケア知識と技術の向上 2. スタッフのWOCケア知識と技術の向上 3. 院内のWOCケアの質の向上</p> <p><活動内容> 1. 委員のWOCケア習得チェックリストの定期チェック（5月・9月・1月） 2. 事例検討 3. WOCケアの小勉強会の開催 4. 新人研修でのWOCケア勉強会の開催（褥瘡ケアとストーマケア） 5. 委員の各部署での取り組みを委員会で報告 6. グループ活動 ・啓蒙新聞 年3回の発行とアンケートの実施 ・褥瘡対策 褥瘡ハイリスクケア患者ケア加算の広報紙の発行、褥瘡対策用 7. 紙記載の監査の実施 ・気管切開関連褥瘡対策 現状調査の実施 ・失禁ケアマニュアル作成</p>
呼吸障害ケア部会	11回	<p><目的> 1. 看護師の専門的な実践能力を向上し患者のQOLを高める 2. 個別の看護師が有する専門的な知識・技術を看護師（チーム）に還元できる 3. スタッフに必要とされる領域の看護を自主的に学習し、責任ある実践ができるように看護師を動機づける</p> <p><目標> 1. 呼吸ケアの実践と教育において、現場に即した支援を行なう 2. 安全で確実な呼吸ケア実践を支援する 3. 呼吸ケアの実践や教育に役立つ資料を充実する</p> <p><活動内容> 1. 呼吸ケア関連のヒアリハット対策 2. 事例検討、関連情報の共有 3. 学会・研修報告 4. 院内ME、PTとの連携 5. 勉強会の企画・開催：5回開催（平均参加者数=50.4人） テーマ：①呼吸器基礎、②在宅酸素療法、③肺理学療法基礎、④呼吸器の仕組み、⑤気管切開患者のケア 6. 「在宅呼吸器パンフレット」の見直し、修正 7. 「待機中呼吸器」の看護手順修正</p>

<p>摂食障害ケア部会</p>	<p>11回</p>	<p><目的></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食に関する最新の知識を学び、共有する 2. 事例検討を行い、質の高い看護を提供する <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 症例検討を通じて患者に適切なケアを提供する 2. 各症例を通じて摂食ケアの考え方について学ぶことができる 3. 各自目標を掲げ、病棟への還元方法を考え、実行することができる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎月部署から症例をあげ、検討し摂食ケアの考え方を学び、部署へ還元した 2. 今年度より会にS Tが参加し、助言や指導を受け、知識や技術の向上へつなげた 3. 摂食ケアに必要な知識習得のために委員長、メンバーから講義を受けた 4. 栄養課から摂食に関連する講義を受けた「調製粉乳、濃厚流動食品、とろみ剤など」 5. 「摂食ケア介入必要性」のシート作成、「摂食ケア各期の標準看護計画」を作成した
-----------------	------------	---

26. 薬 剤 部

1 薬剤部員異動

(平成 24 年 4 月 1 日付)

【転出者】	主査	汐谷 恵	県立尼崎病院	(平成 24 年 4 月 1 日付)
	職員	井上 量代	県立姫路循環器病センター	(平成 24 年 4 月 1 日付)
【退職者】	次長	藤本 潤子		(平成 24 年 3 月 31 日付)
【転入者】	次長	塩田 恵	県立加古川医療センター	(平成 24 年 4 月 1 日付)
	職員	廣瀬 晃子	県立塚口病院	(平成 24 年 4 月 1 日付)
	職員	永井 浩章	新規採用者	

2 平成 24 年活動報告

本年の主な取り組み概要を下記に記す。

(1) 薬剤部内での医薬品に係わるミス軽減への取組

昨年度導入した計数調剤鑑査システムの有効活用や薬剤業務が適正に実施されているかを確認する実践検証のさらなる強化を図り、部員全員で調剤過誤防止に取り組んでいる。

(2) 治験への取組

治験審査委員会事務局として新規治験 3 件を含む 9 件の治験に携わった。さらに、本年は SMO の協力により、より充実した治験業務が展開できた。

(3) 薬学生の長期実務実習への取組

長期実務実習の受け入れも 3 年目となり、円滑な対応が行えた。実務実習モデル・コアカリキュラムに沿って、当院での実施スケジュール等を作成し、2 名の学生を受入れた。

(4) 部員の育成

薬剤部の活性化と個々の部員のモチベーションを高めるため、学会等での発表や専門・認定薬剤師等への取組を支援した。その結果、学会発表 (4 演台)、さらに雑誌投稿 (4 報) 等スキルアップを図った。

(5) 新病院構想への対応

こども病院建替整備に向けて、薬剤部員の意見や他施設視察結果等を基に機能面、設備面等を検討し、基本実施設計業務に携わった。

3 来年の展望と予定

昨年度に引き続き、チーム医療の促進という観点から病棟薬剤師業務等を含め、今後新たな業務等について検討していきたい。

また新病院建替整備においても、より充実したシステムや設備等を部員の意見等を踏まえ提案していきたい。

(1) 調剤件数

区 分	処方箋 枚 数	合 計			内 用 薬			外 用 薬		
		処方数	調剤数	延調剤数	処方数	調剤数	延調剤数	処方数	調剤数	延調剤数
入 院	37,930	66,939	74,642	345,473	52,435	60,138	312,730	14,504	14,504	32,743
外 来	7,244	16,433	47,346	312,590	12,645	43,558	290,183	3,788	3,788	22,407
計	45,174	83,372	121,988	658,063	65,080	103,696	602,913	18,292	18,292	55,150
一日平均	182.2	336.2	491.9	2,653.5	262.4	418.1	2,431.1	73.8	73.8	222.4

(2) 注射薬取扱件数

区 分	注 射 薬	
	処方箋枚数	延本数
入 院	105,977	596,214
外 来	6,855	9,755
計	112,832	605,969
一日平均	455.0	2,443.4

(3) 薬剤管理指導料 件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
産 科	103	98	105	80	75	123	112	129	114	112	104	109	1,264
心外・循内	22	29	36	26	22	27	21	25	23	20	12	14	267
血 内	55	56	65	65	68	74	70	70	57	70	57	50	757
腎 内	6	23	17	8	11	10	6	10	6	14	14	8	133
眼 科	26	31	31	22	39	28	31	35	33	33	33	23	365
計	202	237	254	201	215	262	240	269	233	249	220	204	2,786

(4) 退院指導料 件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
産 科	28	28	18	8	12	32	13	38	31	20	11	14	253
心外・循内	0	6	8	5	3	10	5	10	5	6	2	3	63
血 内	1	0	1	1	1	1	1	1	0	2	3	2	14
腎 内	0	3	1	0	2	1	0	0	0	2	0	1	10
眼 科	20	26	26	21	27	29	23	33	30	29	24	26	314
計	49	63	54	35	45	73	42	82	66	59	40	46	654

(5) 薬剤情報提供料 件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
全 科	447	436	505	430	452	415	453	455	386	419	446	458	5,302

(6) 無菌製剤調製業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
抗がん剤	143	147	178	165	167	185	180	161	143	144	128	98	1,839
高カロリー	147	153	158	122	117	112	128	117	124	142	108	80	1,508
計	290	300	336	287	284	297	308	278	267	286	236	178	3,347

(7) 薬物の血中濃度測定

		メソトレキセート	総検体数
23年		92	92
平成23年の月別内訳	1月	9	9
	2月	13	13
	3月	12	12
	4月	6	6
	5月	3	3
	6月	5	5
	7月	8	8
	8月	13	13
	9月	4	4
	10月	2	2
	11月	7	7
	12月	10	10

(8) 院内DI業務

① 電子メールによる情報提供

送信日	件名
2012.1.6	医薬品・医療機器等安全性情報 No.286
2012.2.2	医薬品・医療機器等安全性情報 No.287
2012.2.9	レバチオ錠 20mg の海外安全情報について
2012.3.5	医薬品・医療機器等安全性情報 No.288
2012.4.4	医薬品・医療機器等安全性情報 No.289
2012.5.9	医薬品・医療機器等安全性情報 No.290
2012.7.9	医薬品・医療機器等安全性情報 No.291
2012.8.23	医薬品・医療機器等安全性情報 No.292
2012.9.5	医薬品・医療機器等安全性情報 No.293
2012.10.4	医薬品・医療機器等安全性情報 No.294
2012.11.12	医薬品・医療機器等安全性情報 No.295
2011.12.11	医薬品・医療機器等安全性情報 No.296

② 主な問い合わせ内容

問 い 合 わ せ 内 容	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 注射薬配合変化について ・ 注射薬溶解後の安定性について ・ 注射薬のフィルター透過性について ・ 食品と薬剤の相互作用について ・ 内服薬の飲み易い飲み方について ・ 冷所保存医薬品の常温での安定性について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 抗がん剤の適切な投与方法について ・ 医薬品の副作用について ・ 血液製剤の投与方法について ・ 小児薬用量について ・ 錠剤の粉砕可否について

(9) 院内製剤

① 内用液剤

製剤名	製剤量 (単位 /mL)
内服用ルゴール液	240

② 軟 膏

製剤名	製剤量 (単位 /g)
バリアー	215,000
10%テストステロン軟膏	1,400
0.4%エストラジオール軟膏	2,400

③ 外用液剤

製剤名	製剤量 (単位 /mL)
アセモトール	12,000
1/2 カプトドロップ	1,600
0.5%アトロピン点眼	100
25%グリセリン液	15,500
耳垢水	200
1%ヒスタミン二塩酸塩溶液	20
20%硝酸銀	20
30%硝酸銀	70
40%硝酸銀	35
10%ピオクタニン青液	220
1%ピオクタニン青液	40
0.2%ピオクタニン青液	200
30%アルコール	210
50%アルコール	210
ツェンテール液	10

④ 予製剤

製剤名	製剤量 (単位 /g)	製剤名	製剤量 (単位 /g)
(錠→散)		インデラル散 (× 100)	3,000
ニュートライド (× 10)	375	ワーファリン (× 500)	13,500
コートリル散 (× 20)	900	ポラキス散 (× 100)	1,200
イムラン散 (× 10)	50	ドルナー散 (× 50000)	12,000
デカドロン散 (× 1000)	600	ロングス散 (× 100)	2,400
グリチロン散	840		

27. 検査・放射線部（検査）

1. 人事異動

【退職者】

検査業務専門員	三村仁志	平成 24 年 3 月 31 日付
主査	長浜郁代	平成 24 年 3 月 31 日付

【転出者】

主任検査技師	戸田圭三	平成 24 年 4 月 1 日付	県立淡路病院へ
--------	------	------------------	---------

【転入者】

主任検査技師	千田園子	平成 24 年 4 月 1 日付	県立西宮病院から
課長補佐	瀧本良実	平成 24 年 4 月 1 日付	県立がんセンターから

2. 平成 24 年活動報告

本年の主な取り組み概要を以下に示す

(1) 院内感染対策

- ・感染管理加算 I の取得
- ・感染対策委員会事務局として、本委員会を定期開催（年 12 回）
- ・院内の細菌分離状況および耐性菌検出状況を定期的に調査・報告
- ・厚生労働省・神戸市の定期感染症サーベイランス資料を作成・報告
- ・細菌検査結果の Web 検索開始（12 月から）

(2) 安全な輸血医療

- ・輸血管理料 II の取得
- ・輸血療法委員会事務局として、本委員会を定期開催（年 7 回）
- ・輸血用血液製剤の分割業務開始（5 月から）
- ・血小板保存システム機器の新規購入
- ・輸血用血液製剤オーダーリングシステムの導入

(3) 検査委員会活動（診療支援、患者サービスの向上）

- ・臨床検査機器（臨床化学、免疫検査測定機器）の更新
- ・時間外項目や迅速検査項目の追加
- ・臨床検査システム（検体検査システム、病理検査システム、細菌検査 Web システム、輸血用血液製剤のオーダーリングシステム等）の更新・新規導入

(4) 医療事故防止の強化

- ・医療安全目標の作成と推進
 目標：患者確認の徹底
 生理検査部門：フルネーム及び生年月日の確認を徹底する
 検体検査部門：尿検体（尿コップ、尿スピッツ）のフルネーム確認を徹底する
- ・始業前の朝会で、日当直帯検査実施状況の報告を行い、ヒヤリ・ハット情報の共有化に努める

- ・病理検査室のヒヤリ・ハット防止のためカセットプリンターとスライドプリンターを新規購入
- ・血液検査室のヒヤリ・ハット防止のためスライドプリンターを新規購入

(5) 資質向上と教育

- ・検査部内勉強会の充実（本年は 14 回）
- ・検査技術科学専攻学生臨地実習の受け入れと指導

神戸常盤大学保健科学部	（3 年次臨地実習	：	2 名）
神戸常盤大学保健科学部	（2 年次病院見学	：	5 名）
神戸大学医学部	（1 年次初期体験実習：		7 名）
神戸大学医学部保健学科検査技術科	（4 年次臨地実習	：	2 名）

(6) 新病院への対応

- ・職員の意見や他施設視察結果等をもとに機能面、設備面等を検討し、基本設計とする

(7) その他

- ・病理検査ホルマリン対策の実施
 - ①特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任の認定取得者の配置（2 名）
 - ②病理検査室と剖検室のホルマリン濃度測定（年 2 回）
 - ③ホルマリン、キシレンを使用する職員に対する検診（年 2 回）
 - ④マクロ撮影装置用ホルマリン排気装置の新規購入

3. 平成 25 年の課題

- 小児がん拠点病院に対応する臨床検査部門の充実
- ・輸血用血液製剤の効率的利用、赤血球製剤廃棄率の低減化推進
 - ・感染対策に関する情報の院内周知強化
 - ・こども病院建替基本計画にそった高度専門医療や救急・災害時に 24 時間 365 日対応できることを考慮した基本設計の推進

(1) 平成 24 年臨床検査実施状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
一 般	10,134	10,037	11,691	9,890	10,029	10,010	11,458	12,720	9,013	9,817	9,777	9,976	124,552
血 液	20,330	20,608	22,324	20,990	21,416	21,712	22,715	23,807	18,791	23,228	20,925	20,815	257,661
細 菌	2,621	2,531	2,812	2,584	2,653	2,707	2,671	2,689	2,322	2,956	2,805	2,752	32,103
血 清	5,040	5,226	5,552	5,224	5,411	5,326	6,214	6,190	4,905	5,561	5,293	4,912	64,854
生 化 学	40,826	41,219	44,534	42,213	44,293	44,315	46,657	50,223	39,245	46,794	43,213	42,872	526,404
病 理	187	238	335	206	291	282	308	306	202	182	146	295	2,978
生 理	1,173	1,173	1,564	1,278	1,263	1,262	1,261	1,699	1,340	1,192	1,184	1,550	15,939
内分泌・ウイルス	2,912	2,982	3,397	3,242	3,094	3,279	3,355	3,736	3,225	3,323	3,295	2,928	38,768
職員検診	151	106	114	35	37	3,341	66	66	59	66	51	70	4,162
合計	83,374	84,120	92,323	85,662	88,487	92,234	94,705	101,436	79,102	93,119	86,689	86,170	1,067,421

(2) 平成 24 年時間外（日、当直）検査実施状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年度累計
項目数	2,355	2,006	2,093	2,096	2,210	2,032	2,318	2,091	1,992	2,586	2,377	2,270	26,426
対前年比	91.4%	103.1%	115.1%	114.9%	107.8%	106.9%	108.2%	107.6%	89.6%	112.0%	109.5%	90.8%	109.5%
患者数	924	799	820	838	915	789	900	819	809	1,052	916	894	10,475
対前年比	90.5%	107.2%	112.9%	107.3%	102.3%	98.6%	100.7%	106.2%	84.4%	115.0%	105.9%	89.3%	101.0%

(3) 平成 24 年血液製剤使用状況

製剤		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
RCC	購入数 単位数	211	202	227	227	284	229	191	215	180	213	202	158	2,539
	使用量 単位数	185	195	226	227	284	221	175	211	178	201	196	154	2,453
	廃棄量 単位数	26	7	1	0	0	8	16	4	2	12	6	4	86
	廃棄率 %	12.3	3.5	0.4	0.0	0.0	3.5	8.4	1.9	1.1	5.6	3.0	2.5	3.4
FFP	購入数 単位数	142	167	166	121	186	122	99	117	107	219	200	115	1,761
	使用量 単位数	140	167	162	119	186	120	93	117	105	217	200	115	1,741
	廃棄量 単位数	2	0	4	2	0	2	6	0	2	2	0	0	20
	廃棄率 %	1.4	0.0	2.4	1.7	0.0	1.6	6.1	0.0	1.9	0.9	0.0	0.0	1.1
PC	購入数 単位数	1,145	1,000	1,440	1,135	1,230	1,020	1,050	1,055	1,110	1,135	975	840	13,135
	使用量 単位数	1,130	1,000	1,435	1,135	1,230	1,020	1,050	1,045	1,110	1,135	975	830	13,095
	廃棄量 単位数	15	0	5	0	0	0	0	10	0	0	0	10	40
	廃棄率 %	1.3	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	1.2	0.3

材料別検査件数

材料	依頼件数
材料	依頼件数
喀痰	633
気管洗浄液	1,244
咽頭粘液	1,207
鼻腔粘液	1,294
その他（呼吸器系）	164
口腔、気道又は呼吸器からの検体合計	4,542
尿・カテーテル尿	1,061
膣分泌物	975
悪露	230
子宮腔内	225
その他（泌尿器系）	164
泌尿器又は生殖器からの検体合計	2,655
便	412
G B S 増菌	459
その他（消化器系）	72
消化管からの検体合計	943
血液	1,919
髄液	137
胸・腹水	57
その他（穿刺液）	46
血液又は穿刺液検体合計	2,159
I V H先端	440
ドレーンチューブ	260
膿（開放・非開放）	182
Aライン先端	72
耳漏	24
皮膚	266
眼脂	59
その他	294
その他の部位からの検体合計	1,597
トリコモナス	22
培養合計	11,918
感受性試験 1 種類	1,707
感受性試験 2 種類	444
感受性試験 3 種類	119
その他の検査	137
ウイルス迅速検査	1,206
M R S A 検査	7,237

病棟別検査件数

病棟	依頼件数
一般外科病棟 4B	307
循環器 A 病棟 5A	276
循環器 B 病棟 5B	291
混合病棟 6A	113
混合病棟 6B	117
血液病棟 7F	1,405
救急病棟	1,070
産科病棟	1,648
ICU	1,197
HCU	460
NICU	2,644
GCU	1,319
総合診療科	5
アレルギー科	6
脳神経内科	7
循環器科	26
腎臓内科	23
新生児科	48
血液・腫瘍科	41
小児外科	34
形成外科	1
整形外科	8
泌尿器科	46
耳鼻咽喉科	33
産科外来	655
心臓血管外科	4
救急集中治療科	304
眼科	3
代謝内分泌科	1
脳神経外科	6

分離菌内訳

菌種		菌名	総件数	感受性報告件数
グラム陽性菌	ブドウ球菌	S.aureus	704	655
		S.aureus (MRSA)	777	716
		S.epidermidis	37	37
		S.epidermidis (MRSE)	378	378
		その他の CNS	1,873	147
		Micrococcus sp.	5	5
	連鎖球菌	S.agalactiae	209	206
		S.pneumoniae	72	71
		Group G Strep	19	18
		Group A Strep	48	46
		S.mitis	4	4
		その他の Viridans strep	1,252	58
	腸球菌	その他の Streptococcus	43	7
		E.faecalis	188	188
		E.faecium	44	44
	その他	その他の腸球菌	507	23
		Bacillus sp.	24	7
		Corynebacterium sp.	357	6
		Lactobacillus sp.	1,004	0
	グラム陰性菌	腸内細菌	嫌気性菌	4
K.pneumoniae			276	276
E.coli			188	186
E.cloacae			174	174
E.aerogenes			15	15
S.marcescens			167	167
K.oxytoca			86	86
P.mirabilis			7	7
C.freundii			2	2
M.morganii			15	15
その他の腸内細菌		41	21	
非発酵ブドウ糖菌		P.aeruginosa	571	524
		A.baumann/haem	84	84
		B.cepacia	5	5
		S.maltophilia	102	102
		その他の pseudomonas	9	2
		その他の非発酵菌	20	20
		H.influenzae	85	85
その他		Haemophilus sp.	16	7
		M. (B) catarrhalis	91	89
	Neiseria sp.	584	10	
	G.vaginalis	64	0	
	その他の陰性菌	234	2	
真菌	C.albicans	186		
	C.glabrata	66		
	C.parapsilosis	0		
	Aspergillus sp.	0		
	Candida sp.	13		

耐性菌検出状況

菌名	件数
S.aureus (MRSA)	777
S.epidermidis (MRSE)	377
その他の MRCNS	1,621
St.pneumoniae (PISP)	23
St.pneumoniae (PRSP)	10
H.influenzae (BLNAR)	6
E.coli ESBL	30
K.pneumoniae ESBL	0
K.oxytoca ESBL	0
P.mirabilis ESBL	0
Paeruginosa MBL	0
E.coli MBL	0
K.pneumoniae MBL	6
K.oxytoca MBL	6

MRSA サーベイ

科・病棟	件数	陽性	陰性	陽性率
一般外科病棟 4B	120	29	91	24.1%
循環器 A 病棟 5A	170	54	116	31.8%
循環器 B 病棟 5B	256	116	140	45.3%
混合 A 病棟 6A	200	54	146	27.0%
混合 B 病棟 6B	166	86	80	51.8%
血液病棟 7F	154	0	154	0.0%
救急病棟	0	0	0	0.0%
I C U	195	14	181	7.2%
H C U	244	118	126	48.4%
N I C U	253	35	218	13.8%
G C U	547	47	500	8.6%

MRSA 発生報告書分類

病棟名	院内	持込	発病	保菌	不明
一般外科病棟 4B	0	8	0	8	
循環器 A 病棟 5A	0	0	0	0	
循環器 B 病棟 5B	6	6	0	12	
混合 A 病棟 6A	6	21	1	26	
混合 B 病棟 6B	0	21	1	20	
血液病棟 7F	0	0	0	0	
救急病棟	2	4	0	6	
I C U	1	1	0	2	
H C U	4	11	1	14	
N I C U	6	1	0	7	
G C U	36	4	2	38	
産科病棟	0	0	0	0	

無菌材料検出菌

材 料	件数	陽性件数	陽性率
静脈血	1,200	59	5.0%
動脈血	214	16	7.5%
プロピアック血	495	28	5.7%
ポート血	10	2	20.0%
臍帯血	1	0	0.0%
髄液	138	8	5.8%
I V H 先端	442	78	17.6%
A ライン先端	72	17	23.6%
胸水	24	0	0.0%
腹水	35	9	25.7%
関節液	13	2	15.5%
穿刺液	23	2	15.4%
組織	16	1	6.3%
羊水	6	0	0.0%

血液培養検出菌

S.epidermidis (MRSE)	12
S.aureus	13
S.aureus (MRSA)	19
その他 CNS	5
S.pneumoniae	8
その他連鎖球菌	16
腸球菌	3
E.coli	3
K.pneumoniae	2
その他腸内細菌	8
Paeruginosa	2
H.influenzae	1
GPR	15
その他	6

IVH 先端培養検出菌

S.epidermidis (MRSE)	47
S.aureus	6
S.aureus (MRSA)	13
その他 CNS	9
連鎖球菌	1
腸球菌	1
K.pneumoniae	1
その他腸内細菌	2
Paeruginosa	3
GPR	3

髄液検出菌

S.epidermidis (MRSE)	1
連鎖球菌	3
E.coli	1
K.pneumoniae	1
GPR	1
GNC	1
C.albicans	1

細菌別薬剤感受性率

グラム陽性球菌

菌名	株数	ABPC	CEZ	CDTR	CMZ	MEPM	GM	AMK	ABK	EM	CAM	AZM	CLDM	MINO	LVFX	VCM	TEIC	ST	LZD
S.aureus	704	0%	100%	100%	100%	100%	77%	96%	99%	91%	91%	91%	98%	99%	95%	100%	100%	100%	100%
S.aureus (MRSA)	777	0%	0%	0%	-	0%	66%	92%	99%	12%	12%	12%	25%	33%	16%	100%	100%	100%	100%
S.epidermidis	37	0%	100%	100%	100%	100%	92%	100%	-	75%	75%	75%	97%	100%	87%	100%	100%	92%	100%
S.epidermidis (MRSE)	378	0%	0%	0%	0%	0%	47%	86%	-	28%	28%	28%	66%	96%	41%	100%	99%	89%	100%
Ec.faecalis	188	100%	-	-	-	81%	-	-	-	3%	-	-	-	11%	100%	100%	100%	-	100%
Ec.faecium	44	9%	-	-	-	-	-	-	-	18%	-	-	-	23%	9%	100%	100%	-	100%
S.haemolyticus	1	0%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	-	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
S.haemolyt MRS	38	0%	0%	0%	0%	0%	11%	100%	-	3%	4%	4%	69%	95%	24%	100%	100%	50%	100%

肺炎球菌

菌名	株数	PCG	ABPC	A/S	CTM	CTX	CFPM	CFIX	CDTR	CFPN	FMOX	MEPM	EM	CAM	CLDM	LVFX	VCM	ST
St.pneumoniae (PSSP)	38	100%	-	-	76%	90%	92%	29%	97%	97%	100%	100%	3%	18%	40%	100%	100%	84%
St.pneumoniae (PISP)	23	0%	-	-	22%	57%	87%	0%	91%	91%	74%	0%	0%	9%	39%	100%	100%	57%
St.pneumoniae (PRSP)	10	0%	-	-	0%	50%	40%	0%	50%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	100%	80%

グラム陰性桿菌

菌名	株数	ABPC	PIPC	CEZ	CTX	CAZ	CFPM	CDTR	CFPN	FMOX	MEPM	GM	AMK	MINO	LVFX	CPFX	ST
E.coli	158	56%	71%	78%	98%	94%	100%	79%	83%	95%	100%	94%	100%	90%	83%	83%	83%
E.coli ESBL	30	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	100%	83%	97%	93%	27%	23%	90%
E.coli \times タロ β +	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Kl.pneumoniae	270	1%	31%	75%	94%	79%	99%	73%	71%	77%	100%	100%	100%	92%	99%	96%	72%
Kl.pneum ESBL	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Kl.pneumoniae \times タロ β +	8	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	100%	63%	100%	100%	0%
Kl.oxytoca	80	1%	31%	51%	100%	100%	100%	100%	96%	98%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
Kl.oxytoca ESBL	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Kl.oxytoca \times タロ β +	6	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	100%	83%	100%	100%	67%
Ent.cloacae	174	32%	81%	1%	81%	80%	94%	63%	76%	7%	100%	100%	100%	90%	99%	97%	97%
Ent.aerogenes	15	0%	80%	0%	93%	93%	100%	60%	60%	0%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
Ser.marcescens	167	1%	91%	0%	81%	90%	99%	54%	54%	69%	100%	99%	99%	93%	99%	95%	98%
Prt.mirabilis	7	86%	86%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	14%	100%	100%	86%
Prt.mirabilis ESBL	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

緑膿菌

菌名	株数	PIPC	P/T	CAZ	CFPM	MEPM	S/C	GM	TOB	AMK	MINO	LVFX	CPFX	ST	FOM
Ps.aeruginosa	571	99%	98%	93%	91%	97%	90%	96%	100%	99%	-	94%	97%	-	20%
Ps.aeruginosa \times タロ β +	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Ac baumann/haem	84	92%	-	98%	95%	100%	98%	100%	100%	100%	100%	100%	98%	98%	-
Steno.maltophilia	102	-	-	14%	7%	-	-	-	-	-	100%	98%	-	98%	-
Burk.cepacia	5	-	-	20%	0%	100%	-	-	-	-	100%	80%	-	100%	-

28. 検査・放射線部（放射線部門）

1. 人事異動 平成 24 年 4 月 1 日付

（転出者）	放射線技師長	五嶋 正行	県立西宮病院へ
	課長補佐	北住 一哉	県立西宮病院へ
（転入者）	放射線技師長	佐藤 雅之	県立尼崎病院から
	課長補佐	北坂 佳之	県立姫路循環器病センターから

2. 活動状況

周産期医療センター開設時に多くの放射線機器の導入・更新がなされ、平成 19 年以降、昨年迄に順次更新がなされてきた。前年の X 線 C T 装置（160 列）につづき、今年は FPD（フラットパネルディテクタ）搭載 X 線 TV 装置が導入され、より高画質かつ低被ばくの検査を実現している。ますます高度化する医療に対応できる放射線科を目指している。

また、他院からの紹介患者の画像については、一部を除き、診察前に画像情報を P A C S サーバに取込み、診察時に診療支援システムで画像を閲覧できるようにしている。

1) 放射線検査業務実績

平成 24 年の放射線検査実績は、総検査件数は 41,343 件で、ほぼ前年並み（41,410 件）の件数を維持している。

外来患者は 460 件の増加であったが、病床利用率の若干の低下により病室撮影や造影撮影が減少した。詳細は後に掲載している「放射線検査人数」以降に示す。

2) 機器の更新

①移動型 X 線撮影装置（ポータブル）の更新

平成 9 年に導入され、15 年間 NICU・GCU で使用してきたポータブル装置が 3 月に日立メディコ社製 シリウス 130HP に更新された。旧装置より機能性、操作性及び安全性が向上しているコンパクトな装置である。

② X 線 TV 装置の更新

旧装置は平成 6 年から 17 年間、主に消化器系の検査に使用してきたが、平成 24 年 10 月に FPD（フラットパネルディテクタ）搭載 X 線 TV 装置に更新した。本装置の特徴としては、画像受光部に FPD システムが搭載されたため、従来の II（イメージンテンシファイア）システムと比べて、歪や感度むらが極めて少ない。また矩形視野により四隅の有効視野が広く、関心部位の確認、ポジショニングが容易に行える点や、システム感度が高いため低被ばくで検査が行えることなど、患者のみならず術者にとってもメリットは大きい。さらに本装置特有の機能として、画像受光部が寝台に対して横方向に移動できるため、乳幼児の嚙下造影においては、寝台に患児を固定する必要がなくなり、ベビーラックやバギーに乗ったままでも検査が可能となった。

3) 医療事故防止の取組み

東日本大震災以降、福島原発の放射能汚染により放射線に対する関心と不安は、非常に大きくなっている。病院で使用される放射能や放射線による被ばく量は、原発事故で発生する放射線被ばく量とは、桁違いに低いものではあるが、できる限り被ばくを少なくすることを心がけ、安全・安心な画像診断を目指し

ている。

平成 24 年の医療事故防止重点取り組みは、以下のとおりである。

- ・患者間違いの防止：氏名、生年月日・リストバンド等による確認を徹底する。
- ・撮影間違いの防止：撮影情報（左右の表示等）、撮影方向等の確認を徹底する。

4) 資質向上と教育

職員の資質向上を図るため、学会・研修会への積極的な参加と研究発表を行っている。また専門認定資格にも取り組んでいる。今年の実績は以下のとおりである。

- ・学会・研修会発表：4 演題
- ・学会・研修会等への参加：放射線技術学会、小児放射線技術学会、日本磁気共鳴医学会等
- ・放射線部内勉強会の実施：7 回

<認定資格>

第 1 種放射線取扱主任者	2 名	放射線管理士	1 名
第 2 種放射線取扱主任者	1 名	放射線機器管理士	1 名
第 1 種作業環境測定士	1 名	日本 DMAT 隊員	1 名
血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師			1 名
検診マンモグラフィ撮影認定放射線技師	1 名		

3. 次年度の課題

こども病院の建て替え計画に合わせ、放射線部の基本設計が完成したところであるが、より具体的な新病院の機器整備計画や、電子カルテ導入に向けての準備を進めていく。

また、引き続き医療安全に配慮しながら、放射線診療の質向上に努める。



FPD 搭載 X 線 TV 装置：日立 CUREVISTA

(1) 放射線検査人数

区分		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
単純撮影	胸部撮影	外来	618	659	809	677	666	703	746	942	749	703	663	645	8,580
		入院	130	133	187	171	166	191	179	148	129	132	128	129	1,823
		計	748	792	996	848	832	894	925	1,090	878	835	791	774	10,403
	外科撮影	外来	501	515	624	651	509	511	613	677	497	636	550	595	6,879
		入院	130	122	127	151	146	120	122	152	122	168	143	146	1,649
		計	631	637	751	802	655	631	735	829	619	804	693	741	8,528
	ポータブル	外来													0
		入院	617	586	635	738	637	738	604	724	606	746	766	754	8,151
		計	617	586	635	738	637	738	604	724	606	746	766	754	8,151
	パノラマ・その他	外来	32	45	50	51	39	39	31	33	21	34	42	35	452
		入院	0	0	2	0	1	0	3	6	2	0	1	0	15
		計	32	45	52	51	40	39	34	39	23	34	43	35	467
単純撮影合計		外来	1,151	1,219	1,483	1,379	1,214	1,253	1,390	1,652	1,267	1,373	1,255	1,275	15,911
		入院	877	841	951	1,060	950	1,049	908	1,030	859	1,046	1,038	1,029	11,638
		計	2,028	2,060	2,434	2,439	2,164	2,302	2,298	2,682	2,126	2,419	2,293	2,304	27,549
造影撮影	消化器	外来	11	13	17	13	10	13	11	16	18	11	14	9	156
		入院	23	15	8	11	11	8	19	15	12	16	13	13	164
		計	34	28	25	24	21	21	30	31	30	27	27	22	320
	脳血管	外来													0
		入院	1	0	3	4	3	2	0	2	1	2	3	5	26
		計	1	0	3	4	3	2	0	2	1	2	3	5	26
	心臓血管	外来													0
		入院	9	15	27	22	23	20	28	30	21	26	18	26	265
		計	9	15	27	22	23	20	28	30	21	26	18	26	265
	その他の血管	外来													0
		入院	3	13	3	5	1	2	1	2	7	2	3	2	44
		計	3	13	3	5	1	2	1	2	7	2	3	2	44
	泌尿器系	外来	38	29	40	26	35	25	21	34	29	20	43	39	379
		入院	1	1	1	1	1	3	3	2	3	6	3	3	28
		計	39	30	41	27	36	28	24	36	32	26	46	42	407
	その他の造影	外来	1	1	1	0	1	0	0	2	0	2	0	1	9
		入院	0	4	1	1	1	6	3	2	3	7	2	4	34
		計	1	5	2	1	2	6	3	4	3	9	2	5	43
造影撮影合計		外来	50	43	58	39	46	38	32	52	47	33	57	49	544
		入院	37	48	43	44	40	41	54	53	47	59	42	53	561
		計	87	91	101	83	86	79	86	105	94	92	99	102	1,105
CT撮影		外来	122	88	134	154	132	117	141	153	119	111	133	107	1,511
		入院	120	102	121	141	160	115	121	147	71	129	148	123	1,498
		計	242	190	255	295	292	232	262	300	190	240	281	230	3,009
MRI検査		外来	125	111	129	120	112	114	139	153	109	130	113	109	1,464
		入院	44	50	44	55	67	64	59	57	53	56	54	43	646
		計	169	161	173	175	179	178	198	210	162	186	167	152	2,110
核医学検査		外来	29	14	32	31	15	21	41	46	13	9	20	20	291
		入院	7	4	12	14	15	7	9	11	5	8	7	8	107
		計	36	18	44	45	30	28	50	57	18	17	27	28	398
放射線治療		外来	0	0	5	10	0	12	22	30	0	0	0	4	83
		入院	52	133	83	47	104	94	56	32	61	103	108	94	967
		計	52	133	88	57	104	106	78	62	61	103	108	98	1,050
超音波検査		外来	287	295	362	309	246	256	358	457	281	286	269	276	3,682
		入院	68	66	60	4	5	4	4	4	1	6	7	2	231
		計	355	361	422	313	251	260	362	461	282	292	276	278	3,913
PACS処理		外来	155	185	205	192	171	179	192	192	150	176	190	153	2,140
		入院												0	
		計	155	185	205	192	171	179	192	192	150	176	190	153	2,140
骨塩定量		外来	3	6	5	3	5	9	8	4	2	1	6	3	55
		入院	4	0	3	3	0	2	0	0	0	2	0	0	14
		計	7	6	8	6	5	11	8	4	2	3	6	3	69
総合計		外来	1,922	1,961	2,413	2,237	1,941	1,999	2,323	2,739	1,988	2,119	2,043	1,996	25,681
		入院	1,209	1,244	1,317	1,368	1,341	1,376	1,211	1,334	1,097	1,409	1,404	1,352	15,662
		計	3,131	3,205	3,730	3,605	3,282	3,375	3,534	4,073	3,085	3,528	3,447	3,348	41,343

(2) 機器別検査人数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
X線撮影装置(胸部)	748	792	996	848	832	894	925	1,090	878	835	791	774	10,403
X線撮影装置(外科)	631	637	751	802	655	631	735	829	619	804	693	741	8,528
ポータブルX線撮影装置	617	586	635	738	637	738	604	724	606	746	766	754	8,151
泌尿器用X線TV装置	40	35	43	28	38	34	27	40	35	35	48	47	450
デジタルX線TV装置	34	28	25	24	21	21	30	31	30	27	27	22	320
X線CT装置	242	190	255	295	292	232	262	300	190	240	281	230	3,009
MRI装置	169	161	173	175	179	178	198	210	162	186	167	152	2,110
放射線装置(リニアック)	52	133	88	57	104	106	78	62	61	103	108	98	1,050
ガンマカメラ装置(RI)	36	18	44	45	30	28	50	57	18	17	27	28	398
血管連続撮影装置	13	28	33	32	28	24	30	35	29	30	24	33	339

(3) 時間外 時間帯別検査人数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
日勤帯検査人数	157	127	164	174	165	149	147	133	146	154	167	221	1,904
業務時間(時)	38	28	33	37	39	29	32	27	33	35	35	46	410
稼働日数	12	8	10	10	10	9	10	8	11	9	9	12	118
準夜帯検査人数	116	110	126	138	113	129	98	127	106	163	173	134	1,533
業務時間(時)	45	87	43	46	38	44	33	44	36	57	9	46	527
稼働日数	30	27	29	29	30	30	29	29	30	30	30	31	354
深夜帯検査人数	31	34	41	29	16	27	26	48	37	44	27	45	405
業務時間(時)	16	16	23	13	9	12	12	20	19	22	13	19	193
稼働日数	18	17	22	16	12	16	16	20	17	23	18	20	215
検査人数(計)	304	271	331	341	294	305	271	308	289	361	367	400	3,842
業務時間(計)	99	131	98	95	85	85	77	91	89	114	57	110	1,131

(4) 時間外 検査種別検査人数

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
ポータブル	187	180	211	216	177	209	182	208	195	220	236	255	2,476
一般撮影	71	56	81	74	66	63	54	60	56	79	65	91	816
CT	38	31	34	47	46	30	32	35	31	56	60	51	491
TV	3	3	2	2	1	3	2	5	6	6	4	3	40
アンギオ	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	4
MRI	5	1	1	2	3	0	1	0	1	0	1	0	15
エコー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	304	271	331	341	294	305	271	308	289	361	367	400	3,842

(5) 時間外 病棟別検査人数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
HCU	12	12	17	18	14	17	14	17	13	3	9	21	167
NICU	55	44	44	54	48	45	62	63	66	54	81	65	681
ICU	52	48	63	59	67	70	51	50	58	59	52	81	710
GPU	7	4	2	3	2	4	12	2	9	7	14	8	74
OP室	11	16	19	19	22	29	17	21	13	26	17	15	225
産科	6	3	6	2	4	5	5	5	9	7	7	3	62
外来	1	1	3	1	4	0	0	2	1	1	2	0	16
救急	79	82	97	94	81	75	74	69	63	108	105	100	1,027
PICU	43	39	44	52	28	28	13	53	30	59	50	71	510
一外4B	10	2	5	8	3	2	3	5	6	14	5	3	66
循環器5A	9	3	10	11	5	14	7	7	10	6	3	13	98
循環器5B	10	9	15	10	9	13	8	7	7	7	14	10	119
混合A	0	1	0	5	4	3	1	1	0	0	2	1	18
混合B	2	3	1	3	0	0	0	1	1	5	1	3	20
血液7F	7	4	5	2	3	0	4	5	3	5	5	6	49
合計	304	271	331	341	294	305	271	308	289	361	367	400	3,842

29. 栄養指導課

1. 平成 24 年の活動

平成 24 年の主な活動報告として以下の点が上げられる。

- N S T（チーム医療）の円滑な稼働
- 医療事故防止対策に関する取り組み（ひやりハット報告）
- 褥瘡対策委員会及びクリニカルパス委員会への積極的な参画
- 調乳機器更新により安全で安心できる調乳業務の推進
- 患者給食サービスの向上を図るための給食イベントの開催「バレンタインデー・デザートバイキング食の提供」
- I T 化の推進（給食オーダーリングシステムの安定稼働）
- 知識や技能の資質を向上させるための課内研修会の充実
- 栄養管理業務に関する研究の成果として学会等への積極的な発表

2. これからの展望

平成 25 年に向けては、引き続き「安全な食事の提供」という栄養指導課の基盤整備と患者サービスの向上のため、次の業務を中心に推し進める。

- N S T（チーム医療）の円滑な稼働
- 医療事故防止対策に関する取り組み。（ひやりはつと報告）
- 褥瘡対策委員会及びクリニカルパス委員会への積極的な参画
- I T 化の推進（給食オーダーリングシステムの安定稼働）
- 患者給食のサービス向上のための給食イベントの開催「バレンタインデー・デザートバイキング食等の提供」
- 知識や技能の資質を向上させるための調理・栄養関係研修会への参加と課内研修会の充実
- 栄養管理業務に関する研究の成果として学会等への積極的な参加と発表

4. 給食

(1) 調製乳・食事月別延数

1) 患者

① 調製乳人数

(単位 人)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	%
調乳のみ人員 (人)		1,836	1,442	1,470	1,505	1,417	1,442	1,573	1,456	1,503	1,709	1,635	1,723	18,711	62.4
調乳食事人員:調乳(人)		305	301	326	297	280	276	251	291	274	279	240	209	3,329	11.1
小計		2,141	1,743	1,796	1,802	1,697	1,718	1,824	1,747	1,777	1,988	1,875	1,932	22,040	73.5
調乳・食事人員(食事)		634	638	736	773	725	674	579	620	640	708	605	617	7,949	26.5
計		2,775	2,381	2,532	2,575	2,422	2,392	2,403	2,367	2,417	2,696	2,480	2,549	29,989	100.0

(注) 調乳・食事人員・・・調乳(人) 調製乳と食事が重複するもの

② 調製乳種類及び本数

(単位 本)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
13%レーベンスミルク		12,099	10,187	9,794	9,806	9,251	9,364	9,940	10,036	8,900	11,034	10,709	11,220	122,340
15%LW		3,227	2,024	2,674	2,896	2,166	3,028	2,961	3,165	4,707	3,985	3,404	3,716	37,953
6%レーベンスミルク														0
7%レーベンスミルク														0
8%レーベンスミルク														0
9%レーベンスミルク														0
10%レーベンスミルク														0
14%レーベンスミルク														0
15%レーベンスミルク		543	1,249	843	1,162	1,369	1,084	1,712	877	855	938	1,041	1,221	12,894
16%レーベンスミルク		138			180	55	40	116	198	270	175			1,172
17%レーベンスミルク		1,267	949	1,140	1,142	892	1,110	600	814	694	534	629	278	10,049
18%レーベンスミルク		261	207		98	90		60	73		165	303	221	1,478
20%レーベンスミルク			54						81	270	64		85	554
13%LW					9									9
17%LW		279	315	279	81				9					963
18%LW														0
4%滋養糖+13%レーベンスミルク														0
5%滋養糖														0
20%滋養糖														0
10%滋養糖		510	471	601	494	509	532	554	509	563	524	496	612	6,375
50%滋養糖														0
8%MA-1														0
10%MA-1														0
11%MA-1														0
12%MA-1														0
14%MA-1						26								26
15%MA-1		316	247	286	499	322	396	396	160	29	249	20		2,920
16%MA-1						18								18
17%MA-1						72								72
18%MA-1														0
20%MA-1														0
22%MA-1														0
10%E赤ちゃん											18			18
13%E赤ちゃん		85	126	498	271	156	203	17	18	17	21	20	21	1,453
15%E赤ちゃん				144	9	63	170							386
18%E赤ちゃん														0
10%ケトンフォーミュラー		248	232	248	234	152								1,114
14%ケトンフォーミュラー														0
15%ケトンフォーミュラー						50	12							
16%ケトンフォーミュラー+2%レーベンスミルク														0
10%エレメンタルフォーミュラ						18	209	217	217	210	217	210	217	1,515
12%エレメンタルフォーミュラ					189									189
13%エレメンタルフォーミュラ					26									26
14%エレメンタルフォーミュラ					31	97								128
15%エレメンタルフォーミュラ					20									20
16%エレメンタルフォーミュラ					33									33
17%エレメンタルフォーミュラ		38												38
7%ラクトレス														0
14%ラクトレス														0
10%MC Tフォーミュラ														0
13%MC Tフォーミュラ														0
14%MC Tフォーミュラ		18	495	223	56	135	325	238	100	154	319	152	32	2,247
15%MC Tフォーミュラ					36									36
16%MC Tフォーミュラ												190	10	200
17%MC Tフォーミュラ					36	36								72
18%MC Tフォーミュラ						180								180
20%MC Tフォーミュラ														0
13%GL (無乳糖粉乳)														0
7%GL (無乳糖粉乳)														0
13%NA-20														0
13%MM-4										21				21
15%MM-5 低リン乳														0

III 診療統計

16%MM-5低リン乳															0
18%MM-5低リン乳															0
15%8006															0
9% S-22															0
10% S-22															0
13% S-22															0
15% S-22															0
15% S-22 + 8%滋養糖															0
15% S-22 + 12%滋養糖															0
15% S-22 + 16%滋養糖															0
13% S-23															0
15% S-23 (蛋白除去乳)															0
12% S-23 + 3% S-22															0
9% S-23 + 6% S-22															0
8% S-23 + 8% S-22															0
9% S22+5%レーベンスミルク															0
8% 8806(低カリウム中リンフォーミュラ)															0
15% 8806(低カリウム中リンフォーミュラ)							45	108	30	116	135	270			704
15% 低カリウム低リンフォーミュラ															0
15% 508(高カリウム低リンフォーミュラ)															0
11% MP-2													7		7
10% 206 + 4%レーベンスミルク															0
7% 206 7%レーベンスミルク															0
14% 206(ビタミンD無添加低Caフォーミュラ)															0
14%必脂 MCT (721)															0
15%必脂 MCT (721)															0
16%必脂 MCT (721)															0
20%必脂 MCT (721)															0
7% エレンタール															0
9% エレンタール															0
10% エレンタール															0
11% エレンタール															0
12% エレンタール															0
13% エレンタール				25	10								6		41
14% エレンタール															0
15% エレンタール	10														10
16% エレンタール															0
18% エレンタール	48														48
20% エレンタール	62	58	62	58	38	171	217	283	300	310	300	310	310		2,169
21% エレンタール															0
23% エレンタール															0
25% エレンタール					48	12									60
26% エレンタール															0
27% エレンタール											111	178			289
30% エレンタール															0
35% エレンタール															0
5% エレンタール P															0
7% エレンタール P															0
8% エレンタール P															0
10% エレンタール P	152	174	126	56	56		78			62	18	27			749
12% エレンタール P										166	234				400
13% エレンタール P	15					50	67	86	161	152	66	16			613
14% エレンタール P															0
15% エレンタール P	15	36			12		45				11	224	271		614
16% エレンタール P	217	203	217	112											749
17% エレンタール P															0
18% エレンタール P	88														88
20% エレンタール P											5				5
21% エレンタール P											62	104			166
22% エレンタール P															0
23% エレンタール P															0
24% エレンタール P															0
25% エレンタール P	13														13
26% エレンタール P			12	120	124	120	68								444
27% エレンタール P	8				7	36									51
28% エレンタール P												90			
マクトンオイル	131	107	94	109	88	23		148	208	147	27	63			1,145
小計	4,462	4,923	4,798	5,071	4,613	4,493	4,430	3,681	4,010	4,369	4,055	3,818			52,571
濃厚流動食															
サンエット N3	711	715	708	639	669	813	34								4,289
アイソカル	723	648	606	648	802	550	20								3,997
アイソカルジュニア							433	510	448	438	420	436			2,685
MA-8 プラス							514	504	517	636	616	534			3,321
小計	1,434	1,363	1,314	1,287	1,471	1,363	1,001	1,014	965	1,074	1,036	970			14,292
牛乳															0
滅菌水	499	479	496	480	506	334	268	232	144				53		3,491
計	21,721	18,976	19,076	19,540	18,007	18,582	18,600	18,128	18,726	20,462	19,204	19,777			230,647
空瓶 大 200cc	4,239	3,454	4,490	3,844	4,020	4,016	4,988	4,553	4,430	4,639	5,696	5,735			54,104
空瓶 小 100cc	7,008	6,120	5,880	5,280	5,472	6,000	6,672	6,192	7,680	7,752	6,600	6,648			77,304
計	11,247	9,574	10,370	9,124	9,492	10,016	11,660	10,745	12,110	12,391	12,296	12,383			131,408

③ 患者食事数

(単位 食)

区 分		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
常食	学 童 食	1,689	2,093	2,499	2,120	1,997	1,869	2,467	2,758	1,987	1,717	1,559	2,128	24,883
	妊 産 婦 食	1,904	1,635	1,541	2,064	2,290	2,125	2,300	1,727	2,097	2,365	2,172	2,245	24,465
	小 計	3,593	3,728	4,040	4,184	4,287	3,994	4,767	4,485	4,084	4,082	3,731	4,373	49,348
軟菜・幼児・離乳	幼 児 ・ 離 乳 食	3,310	3,538	3,612	3,772	3,647	3,387	3,247	2,598	2,527	3,197	3,189	2,819	38,843
	軟 菜 ・ 流 動 食	589	428	420	587	534	619	548	442	413	405	436	407	5,828
	小 計	3,899	3,966	4,032	4,359	4,181	4,006	3,795	3,040	2,940	3,602	3,625	3,226	44,671
非加算特別食	ペ ー ス ト 食	54	174	217	332	311	350	208	268	261	321	306	260	3,062
	ア レ ル ギ ー 食	559	717	640	584	734	1,000	904	985	951	1,252	954	1,077	10,357
	自 由 食													0
	口 蓋 裂 食	8		90	46	7	16	125	104	22	66	10	90	584
	扁 摘 術 後 食	123	134	159	127	128	107	152	103	135	123	89	122	1,502
	移 植 対 応 食	312	445	408	121	310	247	369	492	477	551	406	379	4,517
	ク ロ ー ン 病 食													0
	低 残 査 食							6		1				7
	肥 満 食				9			10	46		43	36		144
	ヨ ー ド 制 限 食													0
	そ の 他 特 別 食	262	284	214	210	149	156	181	235	189	287	294	232	2,693
	小 計	1,318	1,754	1,728	1,429	1,639	1,876	1,955	2,233	2,036	2,643	2,095	2,160	22,866
	加算特別食	腎 臓 食	44	220	420	351	305	267	178	227	155	88	218	213
肝 臓 食		11	25	55	85	84	90	42	20	24	5	11	67	519
糖 尿 病 食		2	209	275	178	189	197	204	214	88		38	182	1,776
乳 び 胸 食		101	51	37	22		61	25	27	45	48			417
心 臓 食														0
潰 瘍 食														0
低 ナ ト リ ウ ム 食														0
検 査 食 (加)														0
妊 娠 中 毒 症 食		398	250	370	185	98	101	61	190	161	85	87	279	2,265
妊 産 婦 糖 尿 病 食														0
妊 産 婦 肝 臓 病 食														0
高 尿 酸 血 症 食														0
小 計		556	755	1,157	821	676	716	510	678	473	226	354	741	7,663
計	9,366	10,203	10,957	10,793	10,783	10,592	11,027	10,436	9,533	10,553	9,805	10,500	124,548	
保 存 食	保 存 食	186	174	186	180	186	180	186	186	180	186	180	186	2,196
	検 査 食	188	176	188	182	187	182	188	188	182	188	182	188	2,219
	小 計	374	350	374	362	373	362	374	374	362	374	362	374	4,415
合計	9,740	10,553	11,331	11,155	11,156	10,954	11,401	10,810	9,895	10,927	10,167	10,874	128,963	

④ おやつ数

(単位 食)

月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
おやつ数	4,100	4,489	4,695	4,583	4,634	4,586	4,714	4,330	3,864	4,645	4,212	3,977	52,829

2) 患者外 (保育食)

食事数

(単位 食)

月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
保育児食	88	124	113	116	117	133	180	207	196	272	260	222	2,028

(2) 栄養指導月別種類別件数

(単位 食)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
糖尿病食		31	37	41	34	36	37	35	41	33	37	44	35	441
肥満食		8	7	7	9	4	2	5	7	2	2	1	10	64
腎性尿崩症食		5	2	5	2	5	2	5	5	1	4	2	3	41
腎不全														0
多嚢胞腎										1				1
フェニルケトン尿症食		1	1	3		3	3		3	1	1	1	3	20
フェニルアラニン血症								2						2
食道閉鎖術後								1						1
胃婁食		1	1						1					3
胃食道逆流症						1								1
高メチオニン血症食														0
高ガラクトース血症食														0
ガラクトース血症食				1				1				1		3
高コレステロール血症		1		1	1				2	3		2	2	12
家族性高コレステロール血症							1				1			2
先天性甲状腺機能低下症														0
汎下垂体機能低下症		1		1		1		1						4
高脂血症食				1			1				1			3
低残渣食														0
高尿酸血症食		1		1			1		2		1		1	7
アレルギー食		39	24	31	24	34	28	19	28	31	25	19	21	323
腎臓病食					1		1			3			1	6
脂肪制限食				1					1					2
非アルコール性脂肪肝炎				1	1	1		1		1	1	1	1	8
肝臓食													1	1
耐糖能異常					3					1				4
低血糖			1											1
プラダーウィリー症候群		2	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2	17
ローレンス・ムーア症候群										1				1
急性骨髄性白血病								1						1
急性リンパ性白血病								1						1
移植対応食		1		1		1	2	2	3	2				12
フォンタン術後														0
C型食道閉鎖術後										1				1
腹膜透析								1						1
腸閉塞														0
空腸閉鎖術後														0
腸切除後吸収不良			1				1			1				3
腸管切除後吸収不良												1		1
短腸症候群								1						1
高位鎖肛術後								1						1
心不全					1									1
心疾患				1	1			2	2	1	2	1	1	11
脳腫瘍										1		1		2
脳疾患									1					1
気管狭窄症												1		1
乳び胸食														0
発育不良・食事摂取不良						1								1
体重増加・食事摂取不良				1	1	2	2		2	3	1	1	2	15
低栄養														0
低身長												1	1	2
低身長・低体重										2				2
高トリグリセリド血症														0
低マグネシウム血症							1							1

高カリウム血症									1				1
カリウム制限食			2							1			3
Na制限食													0
ビタミンK制限食													0
高カロリー食													0
調乳指導	2	1	1			3	1	2	1	1	2	3	17
離乳食	1		1	1	1		1	3	2		2		12
ビタミンD欠乏症		1	2					2			1		6
鉄欠乏症													0
貧血							1						1
ターナー症候群	10	3	10	5	4	9	7	9	3	6	2	6	74
ダンピング症候群											1	1	2
ヒルシュスプリング病										1	1		2
低脂質食													0
染色体異常		1											1
ダウン症													0
バセドウ病													0
筋ジストロフィー							1						1
神経因性膀胱												1	
神経芽腫									1				1
くる病								1					1
橋本病	1												1
てんかん			1			1							2
急性膵炎						1							1
脂肪肝													0
消化吸収不良													0
拒食症												1	
偏食						2				1	1		4
便秘				1					1	1			3
ミキサー食	2		3				2			1	2		10
ペースト食												1	
きざみ食													0
加熱食										3	1		4
摂食障害						2						1	3
食欲不振									1			1	2
神経性食欲不振症											1		1
放射線治療中の食事			1										1
ワーファリン服用中の食事			1										1
妊娠糖尿病食		2			1		1				1	1	6
妊娠後期食												1	
妊娠中毒症食													0
件数 外来 (件)	87	62	91	68	69	73	70	81	73	74	70	75	893
人数 外来 (人)	158	111	167	121	131	136	131	154	141	137	140	137	1,664
件数 入院 (件)	20	21	29	18	28	29	24	35	28	18	23	26	299
人数 入院 (人)	41	38	58	39	51	62	51	71	54	37	46	46	594
件数病棟訪問 (件)	7	10	16	5	9	15	14	25	19	11	14	14	159
人数病棟訪問 (人)	13	17	31	9	15	28	27	49	37	21	28	23	298
合計 (件)	107	83	120	86	97	102	94	116	101	92	93	101	1,192
合計 (人)	199	149	225	160	182	198	182	225	195	174	186	183	2,258

30. 指導相談・地域医療連携部

I. 組織

24年は、療養中の患児・家族への心理的支援をより一層充実させるため、4月より非常勤の心理士を1名増員することができ、10名体制の部署となった。保健師は全病院から引き上げとなったため、看護師が保健師の補充に転入した。

部長	宅見晃子（総合診療科医師）	
次長	橋本ひとみ（看護師）	
看護師	原田富士子	藤定睦子
臨床心理判定員	藤井美有	三木信子（24年3月まで）
	菱川優（24年4月から）	淀裕美子（24年4月から）
	宮崎美知恵（育児休暇中）	
ケースワーカー	野呂朝子（PSW）	
	三宅厚枝（MSW）（24年3月まで）	阿部明日香（24年6月から）
看護助手	島田慶子（24年6月まで）	小橋諒子（24年8月から）

また、初診患者の予約は、予約センターが窓口となっており、委託業者3名が担当している。

II. 平成24年活動

<24年の主な活動>

- 新たな紹介病院、診療所の登録
 - ① 病院訪問による紹介依頼
- 広報活動の推進（ホームページ更新、年報作成、広報誌「げんきカエル」作成）
- 在宅療養支援の推進
 - ① 訪問看護ステーションとの連携強化（カンファレンス開催）・研修会開催
 - ② 地域医療機関との連携強化（カンファレンス開催・病院訪問）
 - ③ 制度活用支援・医療機器等の購入支援
 - ④ 周産期センターからの退院児への支援
- 院内各科の診療支援
 - ① 各科の発達フォロー支援（各種心理テスト）
 - ② 家族背景へのケースワーク
 - ③ 院内他部署への連絡調整・院外関係機関への連絡調整
- 入院中の情緒不応児への対応
 - ① 心理士の病棟への定期訪問・診療部回診・カンファレンスへの積極的参加
 - ② 児への心理評価・カウンセリング・プレイ療法
 - ③ 家族へのカウンセリング
 - ④ 病棟スタッフへの関わり方指導
- 患者家族の不安への対応
- 発達支援・養育支援
 - ① 虐待防止活動（委員会開催、地域との連携、家族支援）
 - ② 事故予防活動（外傷カンファレンス開催、症例集積、地域との連携）
 - ③ 発達相談、育児相談活動（評価、診断、関わり方指導）
- 教育支援
 - ① わらび学級入級手続き
 - ② 教育機関とのカンファレンス

<今後の活動目標>

- ① 医療的ケアを必要とする児と家族が安心して在宅生活を送れるように支援する
- ② 高度専門医療機関としての役割の広報に務め、地域との連携を強化していく
- ③ 地域医療支援病院として、地域医療機関の研修に貢献するよう努める
- ④ 疾病を抱えた子どもと家族の育児支援に努める

- ⑤ 事故予防・虐待予防を含めた子育て支援に努める
- ⑥ 子どもと家族の心理的不安の解消に努める
- ⑦ 緩和ケアにチームとして貢献する

表1 支援内容別業務統計

	内 容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	2011年
1	療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助	290	340	307	330	331	333	291	332	282	350	365	275	3826	2187 + α
2	退院援助	25	38	30	25	18	27	34	40	10	32	20	36	335	155 + α
3	社会復帰援助	2	2	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	13	1 + α
4	受診・受療援助	55	59	36	57	38	28	18	64	29	20	21	14	439	399 + α
5	経済的問題の解決、調整援助	50	44	54	52	38	39	39	54	29	39	44	52	534	618
6	地域活動	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	5	0
7	発達外来	19	27	19	19	23	24	23	21	22	25	27	24	273	274
8	養育支援(虐待予防を省く)	1	7	5	0	0	1	0	1	0	0	0	3	18	61 + α
9	虐待・虐待予防関連	30	20	16	15	23	10	12	16	14	23	14	8	201	276 + α
10	発達・発育指導	22	32	26	20	17	21	21	23	20	21	23	19	265	405
11	わらび学級入級手続き	3	8	9	5	4	9	0	3	4	2	4	2	53	70 + α
12	一時保護	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	3 + α
13	その他	2	6	0	2	2	0	2	2	3	2	0	2	23	49 + α
	合 計	500	583	510	526	494	492	440	556	414	517	520	435	5987	4807

表2 機関別延べ連絡調整数

	機 関	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	2011年
14	院内他部門	404	398	363	394	361	316	283	355	238	352	350	305	4119	3220
15	家庭	325	372	355	377	297	318	301	375	297	373	357	300	4047	2752
16	教育関係機関	14	34	26	9	24	14	4	4	8	2	2	2	143	118
17	保健所・保健センター	31	23	27	16	20	21	23	20	21	21	21	38	282	351
18	福祉事務所	10	20	14	12	10	2	10	5	2	6	9	9	109	159
19	こどもセンター	22	16	16	20	19	15	12	14	6	16	13	11	180	231
20	児童福祉施設	15	18	18	18	16	10	12	19	7	7	9	13	162	126
21	訪問看護ステーション	48	44	22	15	29	35	29	37	23	30	22	26	360	355
22	地域医療機関	10	1	3	8	9	5	6	11	5	6	7	6	77	52 + α
23	その他(医療機器業者、 装具関係など)	46	41	29	40	47	27	32	29	13	25	30	21	380	246 + α
	合 計	925	967	873	909	832	763	712	869	620	838	820	731	9859	7719

表3 心理療法・心理検査延べ数

	項 目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	2011年
24	カウンセリング	24	26	25	13	25	19	14	14	8	11	10	15	204	156
25	プレイセラピー	17	11	12	8	7	10	9	6	9	7	4	6	106	234
26	発達検査	37	35	33	27	36	54	42	45	26	40	37	34	446	303 + α
27	知能検査	30	32	33	18	27	33	39	46	32	43	39	32	404	257 + α
28	性格検査	9	0	8	1	23	10	19	18	19	18	19	13	157	152
29	その他の検査	10	10	14	7	9	16	5	8	11	15	18	10	133	116
	合 計	127	114	125	74	127	142	128	137	105	134	127	110	1450	1435

Ⅲ. 退院調整

退院調整患者

各診療科からの退院調整の依頼患者は27名で、昨年度から継続の退院調整患者7名を含む計34名の退院調整を実施した。そのうち、1名は転院、1名は死亡、19名が在宅医療になったが、13名が12月末に退院できなかった。

地域で生活するために、家族の意向を聞き、今後も地域医療機関や訪問看護ステーションと連携を保ちながら退院調整をはかっていきたい。尚、退院・転院した患者の入院期間は最短が20日、最長が1460日、平均は約326日であった。

表4 依頼書による退院調整件数（昨年度以前からの継続依頼患者7名が入院中である）

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
退院調整依頼患者数		5	0	2	2	1	2	4	1	2	1	2	5	27
転帰	在宅		3	1	2	2	1	3	2	1		2	2	19
	施設													0
	転院								1					1
	死亡							1						1

表5 診療科別依頼件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
総合診療科													0
新生児科					1		2					4	7
脳神経内科						1							1
循環器内科	4		1	1			1		1	1		1	10
腎臓内科													0
代謝・内分泌科											1		1
血液・腫瘍科				1									1
アレルギー・リウマチ科													0
救急集中治療科													0
小児外科	1		1			1	1	1					5
心臓血管外科													0
脳神経外科									1		1		2
形成外科													0
整形外科													0
眼科													0
精神科													0
泌尿器科													0
耳鼻咽喉科													0
産科													0
小児歯科													0
合計	5	0	2	2	1	2	4	1	2	1	2	5	27

表6 新生児特定集中治療室の退院調整加算に関わった件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
加算1（600点）	7	13	15	5	4	4	3	17	3	19	8	7	105
加算2（1200点）				5	4	8	7	2	6	4	6	7	49
合計	7	13	15	10	8	12	10	19	9	23	14	14	154

* 4月から診療報酬の改定で加算2がとれるようになった

表 7 関係機関カンファレンス

項 目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	2011年
被虐待児等症例検討会	2	2	1	0	2	6	2	2	1	3	1	0	22	29
頭部外傷カンファレンス	5	1	1	1	0	0	3	1	3	3	1	5	24	28
施設入所カンファレンス	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2
在宅療養調整カンファレンス	3	4	1	2	1	2	1	3	2	0	4	2	25	21
教育機関カンファレンス	1	1	1	0	0	1	0	2	0	0	0	0	6	7
合 計	11	8	4	4	3	10	6	8	6	6	6	7	79	87

表 8 Aカンファレンス 外傷（疾患）別処遇

	一時保護	児童相談所	保健所	外来のみ	他院外来	フォローなし	合計
頭部以外の骨折	0	0	0	0	1	0	1
頭蓋骨骨折	0	0	0	0	0	0	0
硬膜外血腫	0	1	0	0	0	0	1
硬膜外血腫＋頭蓋骨骨折	0	0	0	0	0	0	0
硬膜下血腫	1	4	2	1	0	0	8
頭部打撲	0	1	0	0	0	0	1
心肺停止	0	1	0	0	0	1	2
合計	1	7	2	1	1	1	13

表 9 頭部外傷カンファレンス 外傷別処遇

	一時保護	児童相談所	保健所	外来のみ	他院外来	フォローなし	合計
頭部打撲		0	1	3	0	6	10
頭蓋骨骨折		0	0	3	1	0	4
硬膜外血腫		0	1	0	0	0	1
硬膜外血腫＋頭蓋骨骨折		0	0	3	0	0	3
硬膜下血腫		1	2	0	0	0	3

IV. 神戸市立友生養護学校 病弱児訪問学級（わらび学級）

病気療養のため、学校に行けない子どもたちに、神戸市立友生養護学校病弱児訪問学級の教師がベッドサイドに訪問し、教育が受けられるようになっています。当部署で入級の説明から手続きをはじめ、主治医との面談、学校との連絡調整を行っています。2012年は高等部の在籍者はありませんでした。

表 10 平成 24 年度わらび学級在籍状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延べ人数
小学部	新入級数	3		4			4		2	1		2	1	17
	退級数		2		4		2	2	3		1	4	1	19
	在籍数	11	11	13	13	9	13	11	12	11	9	9	5	127
中学部	新入級数	1		1		1					2			5
	退級数	1	1	1	2	1				1		2		9
	在籍数	8	7	7	6	5	4	4	3	2	4	4	2	56
院内全体 (延べ数)	新入級数	4		5		1	4		2	1	2	2	1	22
	退級数	1	3	1	6	1	2	2	3	1	1	6	1	28
	在籍数	19	18	20	19	14	17	15	15	13	13	15	8	186

指導相談・地域医療連携部（予約センター）

1. 業務内容

予約センターは委託職員が従事し、主に初診患者の予約業務と受診報告書の発送を行い、地域医療機関との連携を早く確実にしている。

延べ数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	2011年
FAX 予約数（地域連携）	365	389	446	423	334	443	474	436	382	367	418	357	4834	4,842
予約キャンセル数	2	7	6	9	4	4	13	4	5	4	4	4	66	
紹介状を持ち、 予約なしで来院した患者数	1	1	2	1	3	2	0	2	1	5	0	5	23	42
医療機関新規登録件数	18	17	31	22	26	22	16	27	14	22	31	18	264	270
受診報告書発送数 （紹介状件数）	461	464	538	485	505	517	516	550	468	462	473	423	5862	6,022
返書率	94	91.8	94.2	93.1	91	92.8	93.9	90.1	89.2	91.2	90.5	92.2	1104	平均 91.5%
メール相談対応数	15	5	9	7	16	14	15	7	4	12	7	13	124	135
（内訳）各科医師相談	3	0	1	0	1	1	5	0	0	3	2	3	19	34
予約センターで返答	12	5	8	7	15	13	10	7	4	9	5	10	105	101
電話相談数（火・金）	4	5	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	12	31
セカンドオピニオン数	1	5	2	3	4	3	0	1	3	1	2	2	27	32

2. 紹介元新規医療機関

紹介元医療機関の登録件数は270件であった。平成17年から地域医療連携業務を行い、平成24年12月末で累計は3660件になった。

31. ME 室

【スタッフ紹介】

主査 横山 真司 体外循環技術認定士
 主任 岩崎 一崇 体外循環技術認定士
 藤井 和弥
 志智 美咲
 秋元 明日香
 三坂 勇介
 吉本 由衣

【業務実績】

医療機器管理業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
院内修理	33	33	52	42	59	49	34	38	40	75	48	56	559	46.5
依頼点検	34	43	41	34	40	53	33	44	34	44	51	47	498	41.5
定期点検	661	712	692	777	873	808	838	959	762	968	866	1038	9954	829.5
メーカー修理・点検	11	11	3	3	4	1	0	5	8	7	14	9	76	6.3
病棟ラウンド	2	0	3	4	5	1	0	2	1	1	6	5	30	2.5
その他	4	6	5	9	3	11	13	5	7	8	13	8	92	7.6

臨床業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
体外循環	17	15	17	13	18	15	15	23	15	12	20	18	198	16.5
ECMO	0	1	0	0	2(2)	0	0	0	1	0	1(1)	1	6(3)	0.5
人工心臓・ECMO スタンバイ	3	1	0	0	3	1	1	1	3	2	1	1	17	1.4
血液浄化	0	3	0	5	0	0	0	0	0	9	6	0	23	1.9
自己血回収	18	15	18	14	18	16	15	23	15	12	20	19	203	16.9
MEP	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	6	0.5
SPECTRA	0	3	1	1	3	3	7	2	2	2	1	4	29	2.4

* ECMO：() 回路交換回数

各種委員会活動

医療器械機種選定委員会
 リスクマネジメント委員会
 手術室運営委員会
 呼吸ケア部会

32. 理学療法

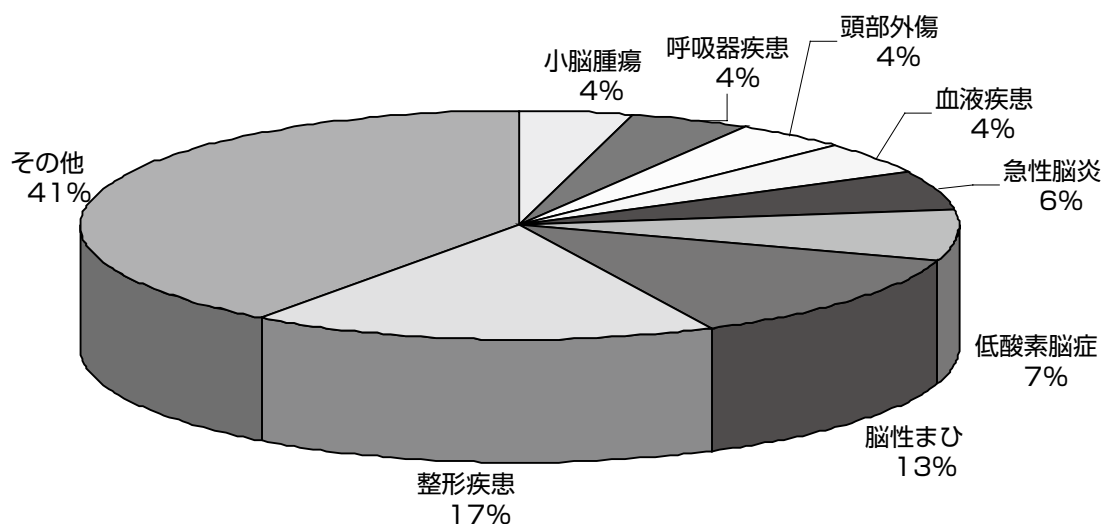
理学療法はこども病院本館、周産期医療センター、小児救急医療センターに入院されている方を対象としている。実施件数では学校が夏季休暇に入る前後の6月～8月に増加する傾向がみられる。疾患別では脳性まひや低酸素虚血性脳症などの中枢性疾患、骨延長術後や大腿骨頭すべり症などの小児整形疾患が大きな割合をしめる。各疾患術後の日常生活動作の回復、呼吸機能改善、運動発達促進、廃用性症候群の予防などを目的としているが、設備・マンパワー的に不足しているのが現状となっている。現在、2015年度の新病院移転に向けて、言語聴覚士など他のリハビリテーション部門との連携をとり準備をすすめている状況で、より快適なリハビリテーションを提供できるように努めていきたい。

2012年 理学療法実施延べ件数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
173	174	186	213	255	295	284	294	280	245	276	239	2914

理学療法実施疾患：

整形疾患（骨折、大腿骨頭すべり症、骨延長術後など）、脳性まひ、低酸素虚血性脳症、新生児仮死、低出生体重児、血液疾患（白血病など）、頭部外傷、二分脊椎、他



33. 医療安全管理室

医療安全管理室は、医療安全対策担当副院長を室長、管理局長、看護部長を副室長、副院長、周産期医療センター長、診療部長、薬剤部長、医療安全対策担当課長、実働メンバーとして8名の総括リスクマネージャーと総務部長、総務部次長、医事企画課長で構成され、院内の安全管理を担っている。

主な活動内容

1. ヒヤリハット報告書に基づく評価・対策の検討

- 1) 総括リスクマネージャー会議を毎日11時から院長在籍のもと院長室で開催し、送られてきたヒヤリハット報告書に基づき評価・分析、解決策の検討を行った。
- 2) 月1回のリスクマネジメント部会では、各部門が前月分のヒヤリハット内容と評価・対策を報告し、院内で起こったヒヤリハットについて集約し検討を行った。
- 3) リスクマネジメント部会での報告・検討結果を医療事故防止委員会に報告した。

2. 2012年のヒヤリハット報告件数は、2,608件で前年より約70件の減少であった。レベル別報告数の割合は例年と大きな変化はなかった。部門別では例年通り看護部からの報告が87%を占めている。また、今年度10月よりリハビリ部門もリスクマネジメント部会へ加わった。

1) レベル別報告件数

レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a
1017件 (38.9%)	1523件 (58.4%)	56件 (2.1%)	12件 (0.4%)

2) 部門別ヒヤリハット報告件数

診療部	看護部	検査部	放射線部	薬剤部	リハビリ	栄養指導課	医事課
42 (1.6%)	2277 (87.3%)	25 (0.9%)	169 (6.4%)	30 (1.1%)	5 (0.1%)	58 (2.2%)	2 (0%)

3. 主な改善に向けた取り組み

- 1) 輸液の血管外漏出による皮膚損傷の報告が年間数例認めており、固定テープを透明フィルムタイプに変更し刺入部周辺の観察強化に取り組んだ。
- 2) 麻酔診察中に患者が診察椅子から転落した報告を受け、外来にこども用の椅子を配備した。
- 3) J-VAC ドレナージシステムの接続間違いがあり、以前に同製品のMRI磁性体持ち込み報告もあったため、製品の変更を検討し、一部の特殊例を除いて、金属が内蔵されていない製品への移行を行った。
- 4) 救急カートの物品について見直しを行い、全部署ファイバー式の喉頭鏡に変更及び麻酔科と連携し必要物品の統一を図った。
- 5) バンコマイシンの薬剤配合変化によるライントラブルが続いていたため、薬剤部と協力し投与方法の提案を行った。

4. 医療安全研修会の開催

1) 院内全体研修会

2012年3月13日	86名	各部門の安全への取り組み報告	
2012年6月12・26日	361名	静脈血栓塞栓症予防について	日本コヴィデエン
2012年12月4日	135名	小児の麻酔～MRIを中心に～	香川麻酔科部長

2) 看護部対象研修会

2012年6月6・13日	54名	抗癌剤暴露予防について	パルメディカル
2012年7月11日	39名	事例分析の進み方・RCA分析	NKSJリスクマネジメント

3) 兵庫県立病院医療安全研修会

2012年10月11日 於：ラッセホール		暴言・暴力クレーム対応	NKSJリスクマネジメント
-------------------------	--	-------------	---------------

4) 神戸地方裁判所主催の医療訴訟ガイダンスの開催 2012年12月3日 於：県立尼崎病院

5. Morbidity & Mortalty カンファレンス開催に向けて検討

今年度より院内の死亡例・重度合併症例・コード99例・CPR症例の把握と検討をする症例検討会を医療安全管理室が事務局となり進めることになった。

6. 医療安全情報の提供

- 1) 日本機能評価機構からの医療安全情報の提供を月1回行った。
- 2) 院内で起こったヒヤリハット事例から、医療安全ニュースを発行し情報提供を行った。

34. 感染対策管理室

感染対策管理室は、感染対策委員会委員長を室長、診療部長、看護部次長を副室長とし、院長、診療担当副院長、総務部長、検査技師長、栄養指導課長、看護部長、医療安全対策担当課長、感染管理認定看護師の他、診療部5名、看護部4名、検査部4名、薬剤部2名、放射線部1名、医事企画課1名の計28名で構成され、院内の感染管理を担っている、このうち診療部3名、看護部3名、検査部1名、薬剤部1名の計8名が感染対策チーム（ICT）を結成し、感染対策の実動部隊として活動している。

主な活動内容

1. 定期的に会議、ラウンドを実施した。

1) 院内感染対策委員会を毎月開催した（第2金曜日）

細菌・ウイルスの分離状況、抗菌薬（抗MRSA薬、カルバペネム系薬剤）の使用状況、ICT活動などについて報告し、検討が必要な事項について議論した。

2) ICT会議を毎週開催した。（木曜日）

1週間の細菌・ウイルスの分離状況、院内で発生している感染症、市中の感染症の動向などを中心に議論した。

3) ICTラウンドを実施した。（2012年3月までは月1回、2012年4月からは週1回）

毎週2部署を対象としてラウンドした。環境整備の状況、患者ケア場面の感染対策がマニュアルどおりに実施されているかチェックし、改善の必要な項目について毎週フィードバックした。第3週は抗菌薬の長期使用の状況を確認した。

2. 職員教育として以下の研修会、演習を開催した。

看護補助者対象感染対策オリエンテーション ①4月2日：5名 ②4月3日：5名 ③4月9日：5名
リネン業務委託業者対象感染対策研修会 「感染対策の基本」 ①5月15日：4名 ②5月31日：4名
第1回全職員対象感染対策研修会 「マニュアル改訂点の内容」 ①7月26日：81名 ②7月30日：51名
清掃委託業者対象感染対策研修会 「針刺し・切創、血液・体液曝露」 8月3日：18名
看護補助者対象感染防止演習 「手指衛生の手技チェックと个人防护具の着脱演習」 ①8月27日：13名 ②8月29日：13名 ③9月3日：8名 ④9月5日：16名 ⑤9月7日：3名

3. 感染対策マニュアルの大幅な改訂を行った。（7月1日より運用開始）

部署別マニュアル、日常生活援助での感染防止対策、医療器具関連感染予防策、水痘発生時の対応スケジュール、職員のワクチン接種ガイドラインなどを追加した。

4. 職業感染防止について以下の活動を行った。

1) 流行性ウイルス感染症について入職者の調査票の判定、抗体価採血、ワクチン接種を行った。

2012年に接種した流行性ウイルス感染症ワクチン

	4月採用医師	4月採用看護師	その他職種および中途採用
麻疹	13名	20名	24名
水痘	0	2名	0
風疹	0	1名	6名
ムンプス	8名	9名	18名
MR	1名	3名	11名

2) インフルエンザワクチンの接種を行った。

866名に接種。接種率 97.2% (病院職員 97.4%、委託職員 96.2%)

3) 血液媒介ウイルス感染防止のため、針刺し・切創、血液・体液曝露について啓発活動を行うとともに、これらの事象発生時に迅速に対応した。

2012年に発生した針刺し・切創、血液・体液曝露

総件数：9件（日勤帯：7件、夜勤帯：2件）				
内容	針刺し 5件	切創 2件	咬創、擦過傷 2件	
発生部署	手術室 2件	病棟 7件		
受傷者	医師 3名	看護師 5名	委託職員 1名	
原因器材	注射針 4件	マルク針 1件	剪刀 1件	メス 1件

4) 流行性ウイルス、結核、疥癬などの感染症発生時に対応した。

職員の集団食中毒（4月）アデノウイルス腸炎のアウトブレイク（10月）、先天性風疹症候群の発生（2例：10月、11月）

5. PICU、ICU、HCUでVAPサーベイランスを開始した。

6. 感染対策に関する各種コンサルテーションに対応した。

7. 各種啓発活動を行った。

1) マスク着用令の発令（1月）

2) ICT NEWSの発行（4月：食中毒、5月：風疹、7月：針刺し、12月：感染性胃腸炎）

8. ファシリティマネジメントとして、ファシリティ部門への助言を行った。

ベッドの消毒方法の変更（6月）、タバコシバンムシの発生（10月）

9. 感染防止対策加算申請に係る院外活動を行った。

2012年4月に感染防止対策加算1、感染防止対策地域連携加算を申請した。

加算1施設の六甲アイランド甲南病院と連携し、7月と8月に相互ラウンドを実施した。

加算2施設の若宮病院と連携し、5月と7月の合同カンファレンスに参加、10月と11月に施設間ラウンドとカンファレンスを実施した。

10. その他

1) 予定入院患者の水痘ワクチン接種調査を実施した。（8月）

2) CVカテーテル接続部のプラネクタの使用を開始した。（9月）

35. 褥瘡管理室

褥瘡対策委員会は、委員長を形成外科医師、副委員長を看護部次長とし、委員として小児外科医師、17名の看護師、薬剤師、検査技師、管理栄養士、医事課職員により構成され、院内の褥瘡対策及び創傷ケアを検討し、トータルケアを行うことにより、創傷ケアの効果的な推進を図ることを目的としている。平成24年度より褥瘡管理者を置き、褥瘡ハイリスクケア患者ケア加算を導入した。

主な活動内容

1. 褥瘡対策状況

会議を月に1回行い、褥瘡対策に関する報告を行い、褥瘡対策委員で情報を共有し、褥瘡ケアの評価や対策の検討をおこなう。

1) 褥瘡発生率

2.7%（過去10年で2番目に低い値。2.6%～4.0%）

褥瘡発生率＝褥瘡発生数÷総新規入院数

2) 褥瘡推定発生率

2.6%（過去6年で4番目に低い値。2.0～2.7%）

月の1日を調査日とし、

褥瘡推定発生率＝（調査日に褥瘡を保有する患者数－院外発生患者数）÷調査日の入院患者数

3) 褥瘡リスクアセスメント実施数（4月～12月） 4770件（月平均530件）

4) 褥瘡ハイリスク患者特定数（4月～12月） 797件（月平均89件）

5) 褥瘡予防治療計画件数（4月～12月） 1749件（月平均194件）

6) 褥瘡ハイリスク患者ケア実施件数（4月～12月） 1102件（月平均122件）

7) 褥瘡発生詳細

褥瘡発生件数 142件

褥瘡発生個数 177個（体圧による褥瘡は71個、医療機器関連圧迫創は106個）

褥瘡発生件数の多い部署 ICU（30件）救急センター（21件）手術室（20件）

2. 褥瘡回診状況

全褥瘡対策対象患者の回診（総合褥瘡回診）を週1回、褥瘡ハイリスク患者ケア加算対象者の回診を毎日行い、褥瘡予防治療計画書をもとに、褥瘡予防、治療方法を評価・検討し、必要時カンファレンスを実施している。

1) 総合褥瘡回診 回診回数46回 患者数2675名（のべ）

2) 褥瘡ハイリスク回診数（4～12月） 回診回数126回 患者数2362名（のべ）

3) カンファレンス実施数（4～12月） 44回（月平均5回）

3. 新人看護師対象の褥瘡ケアの講義

IV 学会・研究・教育活動

1) 書籍

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
第6章 小児の事故とその対応	救急集中 治療科	上谷良行	共著	中村肇	子育て支援のための子ども保健学	149	158	日本小児医事 出版社	2012.11
第9章 救急医療	救急集中 治療科	上谷良行	共著	遠藤文雄	小児科 診断・治療指針	205	272	中山書店	2012.9
2005年出生の超低出生 体重児6歳時予後の全国 調査中間集計結果	総合診療科	上谷良行	共著	藤村正哲	厚生労働科学研究費補助金「重症 新生児のアウトカム改善に関する 多施設共同研究」平成23年度藤村 班総括・分担研究報告書	57	60	厚生労働省	2012.3
教育講演6「Bayley式発 達評価法を用いたフオ ローアアップの重要性」 座長のまとめ	総合診療科	上谷良行	共著	田村正徳	日本周産期・新生児医学会雑誌	816		日本周産期・ 新生児医学会	2012.6
けいれん重積、意識障害	脳神経内科	永瀬裕朗	単著	遠藤文雄	最新ガイドライン準拠 小児科診断・治療指針	213	216	中山書店	2012.9
子ども虐待	脳神経内科	永瀬裕朗	単著	遠藤文雄	最新ガイドライン準拠 小児科診断・治療指針	864	867	中山書店	2012.9
心理的・ 精神的領域の疾患	脳神経内科	永瀬裕朗	単著	高増哲也、深津章子	チームで実践 小児臨床栄養マニュアル	160	162	文光堂	2012.2
内科への橋渡し	血液腫瘍内科	小阪嘉之	単著	黒岩靖	はじめての血友病診療マニュアル	78	81	診断と治療社	2012.7
抗がん剤2(血液腫瘍)	血液腫瘍内科	長谷川大一郎	単著	雨海照祥	臨床栄養別冊 薬物・飲食物相互作用	130	133	医歯薬出版	2012.10
小児急性骨髄性白血病	血液腫瘍内科	足立壮一、 多賀 崇、 富澤大輔、 長谷川大一郎、 湯坐有希 (分担執筆)	共著	足立壮一	造血細胞移植ガイドライン —JSHCT小児急性骨髄性白血病—	1	19	日本造血細胞移 植学会	2012.4
徐脈性不整脈	循環器科	城戸佐知子	単著	大関武彦	今日の小児治療指針	501	502	医学書院	2012.2
紫斑病性腎炎	腎臓内科	田中亮二郎	単著	大関武彦、古川漸、 横田俊一郎、水口雅	今日の小児治療指針	580	581	医学書院	2012
膜性腎症	腎臓内科	田中亮二郎	単著	小児内科、 小児外科編集委員会共編	小児疾患の診断治療基準	620	621	東京医学書	2012

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
各種疾患・病態における 小腸栄養管理 肝・胆疾患、消化器外科の疾患	外科	中尾真	共著	高増哲也、深津草子	チームで実践!! 小児臨床栄養マニュアル	112	117	文光堂	2012.2.14
水頭症	脳神経外科	長嶋達也	共著	大関武彦他	今日の小児治療指針15版	643	643	医学書院	2012
頭部外傷	脳神経外科	長嶋宏明、 長嶋達也	共著	遠藤文夫	小児科診療ガイド	244	247	中山書店	2012
いわゆる成長痛	整形外科	薩摩真一	共著	大関武彦、古川漸、 横田俊一郎、水口雅	今日の小児治療指針	756	756	医学書院	2012
先天性股関節脱臼	整形外科	薩摩真一	共著	山口徹、北原光夫、 福井次矢 編	今日の治療指針 2012年版—私はこう治療している	916	916	医学書院	2012
二分脊椎	整形外科	薩摩真一	共著	五十嵐隆、椎原弘章 他	小児内科44巻増刊号	836	837	東京医学社	2012
先天性股関節脱臼	整形外科	薩摩真一	共著	帖佐悦男	関節外科31 10月増刊号	227	232	MEDICAL VIEW	2012
四肢外傷	整形外科	小林大介	共著	遠藤文夫	小児科 診断、治療指針	252	253	中山書店	2012
骨折	整形外科	小林大介	共著	遠藤文夫	小児科 診断、治療指針	263	255	中山書店	2012
子どもの眼と疾患 白色瞳孔、瞳孔領白濁	眼科	野村耕治	単著	仁科幸子	眼科診療クオリファイ9	32	35	中山書店	2012.2
眼異常	眼科	野村耕治	単著	周産期医学編集委員会	周産期医学必修知識 第7版	794	795	東京医学社	2012.1
両側蝸牛神経形成不全 症の一症例の聴力経過	耳鼻咽喉科	大津雅秀	共著	松永達雄	厚労省科研究費難治性疾患克服研究 事業「両側蝸牛神経形成不全症の サブタイプ分類に基づく診療指針 の確立」平成23年度総括・分担研 究報告書	54	55	厚労省「両側蝸牛 神経形成不全症の サブタイプ分類に 基づく診療指針の 確立」研究班	2012.3
蝸牛神経狭窄例における 一側例と両側例の現 状と聴力評価の問題点	耳鼻咽喉科	阪本浩一	共著	松永達雄	厚労省科研究費難治性疾患克服研究 事業「両側蝸牛神経形成不全症の サブタイプ分類に基づく診療指針 の確立」平成23年度総括・分担研 究報告書	48	53	厚労省「両側蝸牛 神経形成不全症の サブタイプ分類に 基づく診療指針の 確立」研究班	2012.3

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Clinical Question 両側性 蝸牛神経形成不全症の 補聴器装用について	耳鼻咽喉科	阪本浩一	共著	松永達雄	厚労省科研費難治性疾患克服研究 事業「両側蝸牛神経形成不全症の サブタイプ分類に基づく診療指針 の確立」平成22～23年度総合研究 報告書	33	33	厚労省「両側蝸牛 神経形成不全症の サブタイプ分類に 基づく診療指針の 確立」研究班	2012.3
Pendred症候群の 長期聴力経過	耳鼻咽喉科	阪本浩一	共著	松永達雄	厚労省科研費難治性疾患克服研究 事業「Pendred症候群の治療指針 と診療体制モデルの構築」平成23 年度総括・分担研究報告書	71	75	厚労省「Pendred 症候群の治療指針 と診療体制モデル の構築」研究班	2012.3
Pendred症候群の 3症例と聴力変動	耳鼻咽喉科	大津雅秀	共著	松永達雄	厚労省科研費難治性疾患克服研究 事業「Pendred症候群の治療指針 と診療体制モデルの構築」平成23 年度総括・分担研究報告書	76	78	厚労省「Pendred 症候群の治療指針 と診療体制モデル の構築」研究班	2012.3
早産児の特徴を 理解しよう	泌尿器科	杉多良文	共著	山口徹、北原光夫、福井次夫	今日の治療指針2012	972	973	医学書院	2012.1
Percutaneous pelvic perfusion with extracorporeal chemofiltration for advanced uterine cervical carcinoma	産科	Maruo T, Motoyama S, Hamana S, Yoshida S, Deguchi M, Yamasaki M, Yonson K	共著	Oliver Bathe	Neoadjuvant Chemotherapy - Current Applications in Clinical Practice	109	122	INTECH, Rijeka, Croatia	2012
腎泌尿器疾患： 生殖器	放射線科	赤坂好直	共著	小熊栄二	小児科臨床ピクシス ：小児画像診断	187	194	中山書店	2012.3
救急場面でのケアモデ ル総論	看護部	清水称喜	単著	松森直美、蛭名美智子	小児看護ケアモデル実践集	134	137	へるす出版	2012.7.20.
実践例： 頭部裂傷の縫合処置	看護部	清水称喜	単著	松森直美、蛭名美智子	小児看護ケアモデル実践集	138	142	へるす出版	2012.7.20.
救急場面でのケアモデ ル総論	救急センター	清水称喜	単著	松森直美、蛭名美智子	小児看護ケアモデル実践集	134	137	へるす出版	2012.7.20.
実践例： 頭部裂傷の縫合処置	救急センター	清水称喜	単著	松森直美、蛭名美智子	小児看護ケアモデル実践集	138	142	へるす出版	2012.7.20.
栄養管理に関連する薬剤	薬剤部	辻本 勉	共著	高増哲也ほか	小児臨床栄養マニュアル	211	212	文光堂	2012.2.14
低血糖	薬剤部	辻本 勉	共著	門脇 孝	薬剤師のための 糖尿病療養指導ガイド	156	160	じほう	2012.5.30

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
母子栄養性疾患について	栄養指導課	鳥井隆志	共著	中村丁次、足立香代子、川島由起子	ミツフィーの早引き 栄養の基本ハンドブック	206	211	エクスナレッジ	2012.1
下痢のときに ふさわしい飲み物は？	栄養指導課	鳥井隆志	共著	高増哲也、深津章子	チームで実践!! 小児臨床栄養マニユアル	184	184	文光堂	2012.2.14
症例で学ぶ小児栄養管理	栄養指導課	鳥井隆志	共著	高増哲也、深津章子	チームで実践!! 小児臨床栄養マニユアル	221	221	文光堂	2012.2.14

2) 雑誌発表

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
超低出生体重児 - 最新の管理・治療と予後 中・長期予後の変遷	総合診療科	上谷長行	周産期医学	42	5	597	600	東京医学社	2012.5
兵庫県下各圏域における深夜帯の小児救急患者動向について	救急集中治療科	上谷長行	兵庫県小児科医学会報	58		60	62	兵庫県小児科医学会	2012.11
川崎病回復期に発症した中毒性表皮壊死症の男児例	アレルギー科	田中裕也	日本小児科学会誌	116	1	73	77		
【研修医のための神経学的診察テクニック】よくある主訴と診療の実際 頭部外傷	脳神経内科	藤田杏子、永瀬裕朗	小児科診療	75	5	851	858	診断と治療社	2012.04
Minimal residual disease monitoring in neuroblastoma patients based on the expression of a set of real-time RT-PCR markers in tumor-initiating cells	血液腫瘍内科	Tti Budi Hartomo, Aiko Tanaka, Thi Van Huyen Pham, Daïchiro Hasegawa, Toshiaki Ishida, Keïchiro Kawasaki, Yoshiyuki Kosaka, Hiroki Ohashi, Tomoto Yamamoto, Satoru Morikawa, Nobuyuki Yamamoto, Satoshi Hirase, Ikuko Kubokawa, Takeshi Mori, Tomoko Yanai, Akira Hayakawa, Yasuhiro Takeshima, Kazumoto Iijima, Masafumi Matsuo, Hisahide Nishio and Noriyuki Nishimura	Oncol Rep						
Outcome in 146 patients with paediatric acute myeloid leukaemia treated according to the AML99 protocol in the period 2003-06 from the Japan Association of Childhood Leukaemia Study	血液腫瘍内科	Imamura T, Iwamoto S, Kanai R, Shimada A, Terui K, Osugi Y, Kobayashi R, Tawa A, Kosaka Y, Kato K, Hori H, Horibe K, Oda M, Adachi S	Br J Haematol	159	2	204	210		2012.10

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Rab15 alternative splicing is altered in spheres of neuroblastoma cells	血液腫瘍内科	Thi Van Huyen Pham, Tri Budi Hartomo, Myeong Jin Lee, Daiichiro Hasegawa, Toshiaki Ishida, Keiichiro Kawasaki, Yoshiyuki Kosaka, Tomoto Yamamoto, Satoru Morikawa, Nobuyuki Yamamoto, Ikuko Kubokawa, Takeshi Mori, Tomoko Yanai, Akira Hayakawa, Yasuhiro Takeshima, Kazumoto Iijima, Masafumi Matsuo, Hisahide Nishio, Noriyuki Nishimura	Oncol Rep	27	6	2045	2049		2012.06
Second allogeneic hematopoietic SCT for relapsed ALL in children	血液腫瘍内科	Kato M, Horikoshi Y, Okamoto Y, Takahashi Y, Hasegawa D, Koh K, Takita J, Inoue M, Kigasawa H, Ogawa A, Sasahara Y, Kawa K, Yabe H, Sakamaki H, Suzuki R, Kato K	Bone Marrow Transplant	47	10	1307	1311		2012.10
Epigallocatechin gallate inhibits sphere formation of neuroblastoma BE (2)-C cells	血液腫瘍内科	Nishimura N, Hartomo TB, Pham TV, Lee MJ, Yamanoto T, Morikawa S, Hasegawa D, Takeda H, Kawasaki K, Kosaka Y, Yamanoto N, Kubokawa I, Mori T, Yanai T, Hayakawa A, Takeshima Y, Iijima K, Matsuo M, Nishio H	Environ Health Prev Med						2012
Activation of Akt is associated with poor prognosis and chemotherapeutic resistance in pediatric B-precursor acute lymphoblastic leukemia	血液腫瘍内科	Morishita N, Tsukahara H, Chayama K, Ishida T, Washio K, Miyamura T, Yamashita N, Oda M, Morishima T	Pediatr Blood Cancer	59	1	83	89		2012.07
Molecular analysis of afibrinogenemic mutations caused by a homozygous FGA1238 bp deletion, and a compound heterozygous FGA1238 bp deletion and novel FGA c.54+3A>C substitution	血液腫瘍内科	Takezawa Y, Terasawa F, Matsuda K, Sugano M, Tanaka A, Fujiwara M, Kainuma K, Okumura N	Int J Hematol	96	1	39	46		2012.07

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
小児先天性心疾患術後の横隔神経麻痺	循環器科	小川禎治	呼吸と循環	第60巻	第2号	205	209	医学書院	2012.2
PCPS 長期管理にて救命し得た川崎病 巨大動脈瘤による急性心筋梗塞の1例	循環器科	富永健太	Progress in Medicine	第32巻	第7号	40	44	ライフ・サイエンス	2012.8
総肺脈脈環流異常・ 部分肺静脈還流異常	循環器科	富永健太	小児科診療	第75巻	第6号	1029	1033	診断と治療	2012.6
成人先天性心疾患の診療体制 —こども病院の現状と問題点	循環器科	城戸佐知子	日本成人先天性心疾患雑誌	第1巻	第2号	35	40	日本成人先天性 心疾患学会	2012.12
Spontaneous remission in children with IgA nephropathy	腎臓内科	Shima Y, Nakanishi K, Hama T, Mukaiyama H, Togawa H, Sako M, Kaito H, Nozu K, Tanaka R, Iijima K, Yoshikawa N.	Pediatr Nephrol.	Epub ahead of print				Springer	2012.9
Renal biopsy criterion in children with asymptomatic constant isolated proteinuria.	腎臓内科	Hama T, Nakanishi K, Shima Y, Mukaiyama H, Togawa H, Tanaka R, Hamahira K, Kaito H, Iijima K, Yoshikawa N	Nephrol Dial Transplant.	27	8	3186	3190	Oxford university press	2012
急性腎不全、急性尿管管壊死を合併し、 末期腎不全に進行したステロイド抵抗 性ネフローゼ症候群の1例	腎臓内科	河場康郎、北本晃一、 神田杏子、花田卓也、 岡田晋一、田中亮二郎	日本小児腎不全学会雑誌	32		171	171	日本小児腎不全学会	2012
就学期の状況・超・極低出生体重児の 新生児期手術症例の長期予後	外科	尾藤祐子	小児外科	44	11	1099	1102	東京医学社	2012.11
多発性気腫性肺嚢胞と線維化を合併 し、最終的に肺移植に至った小児続発 性気胸の1例	外科	田村亮、西島栄治、 荒井洋志、尾藤祐子、 中尾真、横井曉子	日本小児外科学会雑誌	48	1	50	55	日本小児外科学会	2012.2
Strategy for surgical treatment of congenital subglottic stenosis in children	Pediatric Surgery	Okamoto M, Nishijima E, Yokoi A, Nakao M, Bitoh Y, Arai H	Pediatr Surg Int.	28	11	1115	1118	Springer	2012.Nov.
Aeropeny with tracheal reconstruction for postoperative tracheomalacia I congenital tracheal stenosis	Pediatric Surgery	Yokoi A, Arai H, Bitoh Y, Nkao M, Oshima Y, Nishijima E	J Pediatr Surg	47	6	1080	1083	Elsevier	2012 Jun
Compression of an anomalous single coronary artery from pulmonary artery by banding	心臓血管外科	Kawamura A, Oshima Y, Maruo A, Matsuhisa H.	Eur. J Cardiothorac Surg	41	4	e59	e61	Springer	2012.4
体外循環の実際 小児の体外循環法 人工心肺の生体への影響その解決策は？	心臓血管外科	大嶋義博	日本体外循環技術医学会 教育セミナーテキスト	28		50	54	日本体外循環技術医学会 編集委員会	2012.5

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
右室流出路再建	心臓血管外科	大嶋義博	神戸市難病団体連絡協議会第53回・54回医療・生活・教育 相談 会概要報告		1569	63	67	神戸市難病団体連絡協議会	2012.3
Paediatric cardiac surgery in a patient with cold agglutinins	心臓血管外科	Tomomi Hasegawa, Yoshihiro Oshima, Ayako Manuo, Hironori Matsuhisa	Interactive CardioVascular and Thoracic Surgery	14	3	333	334	Oxford University Press	2012.3
Free-radical scavenger edaravone inhibits both formation and development of abdominal aortic aneurysm in rats	心臓血管外科	Morimoto K, Hasegawa T, Tanaka A, Wulan B, Yu J, Morimoto N, Okita Y, Okada K.	J Vasc Surg	55	6	1749	1758	Elsevier	2012.6
Landiolol for junctional ectopic tachycardia refractory to amiodarone after pediatric cardiac surgery	心臓血管外科	Tomomi Hasegawa, Yoshihiro Oshima, Ayako Manuo, Hironori Matsuhisa, Tasuku Kadowaki, Rei Noda	Gen Thorac Cardiovasc Surg					Springer	in press
Primary sutureless repair for simple total anomalous pulmonary venous connection with a risk of postoperative pulmonary venous stenosis	心臓血管外科	Tomomi Hasegawa, Yoshihiro Oshima, Ayako Manuo, Hironori Matsuhisa, Tasuku Kadowaki, Rei Noda	Gen Thorac Cardiovasc Surg					Springer	in press
Simultaneous complex single ventricle palliation and tracheoplasty for heterotaxy syndrome	心臓血管外科、 外科	Hironori Matsuhisa, Yoshihiro Oshima, Tasuku Kadowaki, Akiko Yokoi	Interactive CardioVascular and Thoracic Surgery	5	13	523	524	Oxford University Press	2012.5
Pediatric orbital schwannoma originating from the oculomotor nerve	脳神経外科	Hiroaki Nagashima, Tatsuya Nagashima, Atsufumi Kwamura, Kazuki Yamamoto, Makiko Yoshida, Kouji Nomura	J Neurosurgery Pediatric	9	2	165	168		2012.2.1
Bibloc advancement" with a combination of internal and external distracters	脳神経外科	Nishimoto S, Oyama T, Tei S, Seike S, Nagashima T, Kawai K, Kakibuchi M.	Craniofac Surg	23	5	1444	1447		2012.5.1
Ependymoma with "granular cell" features: Report of two cases.	脳神経外科	Shintaku M, Yamamoto K, Kawamura A, Kanekawa K, Nagashima T, Arakawa Y	Neuropathology	32		654	661		2012年
伸展広背筋皮弁により胸壁の再建を行った心臓脱兎の1例	形成外科	清家志田、大山知樹、鄭聡炳	形成外科	55	5	539	543	克誠堂	2012.5
骨癒合に明暗が分かれた先天性下腿偽関節症の2例	整形外科	薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、井上美帆	日本創外固定・骨延長学会雑誌23	23		186	186	日本創外固定・骨延長学会	2012

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
肩甲骨の先天異常 肩甲骨高位症 (Sprengele 変形)	整形外科	小林大介、薩摩眞一	関節外科	31	10	44	45	MEDICAL VIEW	2012
骨病変を有した Langerhans Cell Histiocytosis (LCH) の 10 症例の治療経験	整形外科	衣笠眞紀	日本小児整形外科学会雑誌	21	2	302	305	日本小児整形外科学会	2012.12.15
V 型外斜視に対する Upward transposition の効果	眼科	平井宏二、野村耕治	眼科臨床紀要	第5巻	第2号	163	167	眼科臨床紀要会	2012.2
弱視治療中に診断された先天網膜分離症の1例	眼科	明石 梓、平井宏二、横山知子、野村耕治	眼科臨床紀要	第5巻	第5号	443	446	眼科臨床紀要会	2012.5
病気について知ろう ①斜視ってどんな病気?	眼科	野村耕治	眼科ケア	第14巻	第8号	6	11	メディアカ出版	2012.8
耳鼻咽喉科における慢性咳嗽の臨床—喉頭アレルギー・後鼻漏症候群を中心に	耳鼻咽喉科	阪本浩一	日気食会報	63	2	99	101	日本気管食道科学会	2012.02
慢性咳嗽の診断における呼吸器内科との連携—副鼻腔気管支症候群を一例として	耳鼻咽喉科	阪本浩一	鼻アレルギーフロンティア	12	2	38	43	メディアカルレビュー社	2012.02
乳幼児の呼吸障害に対する対応—3歳未満の睡眠時無呼吸症候群に対する手術療法の手技と術後管理、周辺疾患との関連まで	耳鼻咽喉科	阪本浩一	小児耳鼻咽喉科	33	3	272	280	小児耳鼻咽喉科学会	2012.11
不完全型陰莖前位陰嚢に対する陰嚢形成術の工夫	泌尿器科	西村 謙一、久松英治、桑原元、中川賀清、杉多良文	日本小児泌尿器科学会雑誌	21	1	45	48	日本小児泌尿器科学会	2012.5
Male infant with a single-system ectopic ureter that required the removal of the ureteral stump after nephrectomy	泌尿器科	Nishimura K, Hisamatsu E, Kawabara H, Nakagawa Y, Sugita Y	International Journal of Urology	Epub ahead of print				Wiley-Blackwell	2012.12
Nephrectomy and upper pole heminephrectomy for poorly functioning kidney: Is total ureterectomy necessary?	泌尿器科	Hisamatsu E, Takagi S, Nakagawa Y, Sugita Y	Indian Journal of Urology	28	3	271	274	Medknow Publications	2012.7
前部尿道弁	泌尿器科	杉多良文、西村 謙一、桑原元、久松英治、中川賀清	小児外科	44	4	382	384	東京医学社	2012.4
乳幼児健診において外からわかる疾患 尿道下裂	泌尿器科	杉多良文	小児科診療	75	2	237	241	診断と治療社	2012.2
小児の周術期疼痛管理	麻酔科	香川哲郎、鹿原史寿子、大西広泰	ペインクリニック	33	1	7	14	真興交易医書出版部	2012.1

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
喉頭気管食道裂Ⅱ型に食道閉鎖症 Gross C型を合併した乳児の周産期管理の経験	麻酔科	野々村智子、香川哲郎、 納本毅、鹿原史寿子、 上北郁男	日本小児麻酔学会雑誌	18		158	161	日本小児麻酔学会	2012.9
産科医療補償制度原因分析委員会より 脳性麻痺児発生予防のために 新生児 蘇生術の基本を身につけよう	新生児科	中尾秀人	日本産科婦人科学会雑誌	64	2	318			
当院で経験した twin amniotic fluid discordance (TAFD) 症例の検討	新生児科	妹尾絵美、坂井仁美、 中尾秀人	産婦人科の実際	61	2	269	272	金原出版	2012.02
胎児期に脳瘤を指摘され、出生後に Walker-Warburg 症候群と診断した1例	新生児科	猪俣慶、田中聡、 岩谷壮太、坂井仁美、 溝淵雅巳、芳本誠司、 中尾秀人	日本周産期新生児学会雑誌	48	1	101	105		2012.05
Preterm PROM の周産期管理と囊胞性 脳室周囲白質軟化症発症の関連性	新生児科	河合清日、猪俣慶、 田中聡、岩谷壮太、 坂井仁美、溝淵雅巳、 芳本誠司、中尾秀人	日本周産期新生児学会雑誌	48	3	673	676		2012.08
超早産児の出生時低体温の新たな予防戦 略 アルミ蒸着ポリエチレン断熱シー ト、プラスチックラップ、保温マットの 併用	新生児科	猪俣慶、溝淵雅巳、 河合清日、田中聡、 岩谷壮太、坂井仁美、 芳本誠司、中尾秀人	日本周産期新生児学会雑誌	48	3	650	654		2012.08
[新生児医療 -up to date] 新生児の予後 の推移と国際比較	新生児科	中尾秀人	小児科診療	75	9	1467	1470	診断と治療社	
Surfactant lavage therapy for respiratory deterioration in extremely premature infants.	新生児科	Iwatani S, Mizobuchi M, Tanaka S, Inomata K, Sakai H, Yoshimoto S, Nakao H.	Pediatr Int.						2012.10
Effect of hydrocortisone therapy on severe leaky lung syndrome in ventilated preterm infants.	新生児科	Mizobuchi M, Iwatani S, Sakai H, Yoshimoto S, Nakao H.	Pediatr Int.	54	5	639	645		2012.10
平成23年度神緑会研究事業年間報告書 周産期予後不良症例の背景解析	産科	山崎峰夫1)、 大橋正伸2)、房正規3)、 船越敏、左右田裕生4)、 西島光浩5) 神戸大学大学院医学研究 科総合臨床教育・育成学 分野1)、若宮病院2)、 加古川西市民病院3)、 済生会兵庫東病院4)、 兵庫県立淡路病院5)	神戸大学医学部神緑会学術誌	28		8	10	一般社団法人神緑会	2012.8
当院での75 g OGTT 施行例の背景と新 妊娠糖尿病 (GDM) 診断基準の影響	産科	佐々木紘子、菅吉賢二、 牧志綾、丸野由美香、 高松祐幸、佐本崇、船 越敏	産婦人科の進歩	61	3	405	406	近畿産科婦人科学会	2012.9

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
臍帯血の不思議な力 ：命の絆としての神秘的な役割	産科	丸尾猛	兵庫県病院協会会報		2012年 1月号	4	5	兵庫県病院協会	2012.1
会員病院紹介	産科	丸尾猛	兵庫県病院協会会報		2012年 7月号	8	9	兵庫県病院協会	2012.7
編集部が聞く 「ハイリスク胎児と子供たちを守る砦」	産科	丸尾猛	DOCTOR'S MAGAZINE		150号	12	15	メデイカル・ アプリケーション社	2012.3.20
第276回 photoquiz (先天性腫瘍どんなものかを考えるか)	放射線科	赤坂好宣	小児科診療	75	1	151	154	診断と治療社	
第277回 photoquiz (注腸造影前に会陰部を観察する)	放射線科	赤坂好宣	小児科診療	75	2	313	316	診断と治療社	
第278回 photoquiz (診断の鍵になる画像)	放射線科	赤坂好宣	小児科診療	75	3	491	493	診断と治療社	
第279回 photoquiz (気管狭窄を 疑ったCT：読影の注意点)	放射線科	赤坂好宣	小児科診療	75	4	697	701	診断と治療社	
第280回 photoquiz (小児頸部腫瘍の 画像診断)	放射線科	赤坂好宣	小児科診療	75	5	873	877	診断と治療社	
第281回 photoquiz (脳梗塞も脳腫瘍と 紛らわしいときがある)	放射線科	赤坂好宣	小児科診療	75	6	1082	1086	診断と治療社	
妊婦・胎児・新生児の画像診断 ：胎児2-MRI	放射線科	赤坂好宣	日独医報	57	1	61	70	バイエル薬品株式会社	2012.8
小児の水腎症：画像による腎機能評価	放射線科	赤坂好宣	小児外科	44	4	312	315	東京医学社	2012.4
抗 N-methyl-D-aspartate (NMDA) 受容体脳炎を発症した卵巣腫瘍の一例	兵庫県立こども 病院 病理診断科1)、 外科2)、 血液腫瘍科3)、 放射線科4)、 救急治療科5)	吉田牧子1)、尾藤祐子2)、 橋木由美子2)、 西島栄治2)、山下達也3)、 石田敏章3)、小坂嘉之3)、 赤坂好宣4)、羽田祥子5)、 安部信吾5)、山口善道5)、 竹田洋樹5)	日本小児血液・がん学会雑誌	第49巻	第1・2号	191	191	日本小児血液・ がん学会	2012.5.25

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Ependymoma with "granular cell" features: Report of two cases	1Department of Pathology, Osaka Red Cross Hospital, 2Department of Pathology and 3Neurosurgery, Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital, 4Department of Pathology, Nagaoka Central General Hospital, 5Department of Neurosurgery, Joetsu General Hospital	Masayuki Shintaku1, Makiko Yoshida2, Toshihiko Ikarashi4, Yasuaki Arakawa5 and Tatsuya Nagashima3	Neuropathology	volume32	issue6	654	661	Japanese Society of Neuropathology	2012.12
看護倫理と倫理的課題、倫理的意思決定モデル	看護部	濱田米紀	小児看護	35	8	932	943	へるず出版	2012.7
小児泌尿器科疾患の看護マニュアル 精索捻転 尿道下裂	看護部	平塚真子	泌尿器ケア冬期増刊			234	243	メディアカ出版	2012.11
小児領域における医療機器関連圧迫創	看護部	鎌田直子	エクスパートナース	28	7	60	61	照林社	2012.6
CPB 系皮膚保護剤を用いた超低出生体重児のスキンケア	看護部	鎌田直子	小児外科	44	10	1000	1003	東京医学社	2012.10
ラダー表を活用した教育システムの取り組み	手術室	高橋紫、坂本郁子	実践安全手術看護	VOL16	No3	88	108	日総研	2012.9.10
スペシャルサポーター PICUでのとりくみ	救急センター	川西貴志	こどもケア	17	4	87	92	日総研	2012.10.12
管理栄養士の活動最前線	栄養指導課	鳥井隆志	日本栄養士会雑誌	55	1月号	45	45	日本栄養士会	2012.1
乳幼児の脱水予防のための水分補給	栄養指導課	鳥井隆志	日本栄養士会雑誌	55	8月号	6	7	日本栄養士会	2012.8

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
治療／実地診療における基本的な栄養管理と患者指導のポイント「虚血性心疾患・心不全」	栄養指導課	藤岡由夫、鳥井隆志	Medical Practice	29	9号	1550	1554	文光堂	2012.9

3) 学会発表

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
頭蓋内出血を機に診断された胆道閉鎖症の2例	救急集中治療科	楠元真由美、山口義道、竹田洋樹、上谷良行	第255回	日本小児科学会 兵庫県地方会	西宮	2012.2.4
乾性溺水による心肺停止に対し脳低温療法を施行した1例	救急集中治療科	梶原伸介、竹田洋樹、山口義道、楠元真由美、祖父江俊樹、上谷良行	第256回	日本小児科学会 兵庫県地方会	神戸	2012.5.26
兵庫県における深夜帯の小児救急患者動向について	救急集中治療科	上谷良行	第256回	日本小児科学会 兵庫県地方会	神戸	2012.5.26
当院における消化管異物 6年間のまとめ	救急集中治療科	竹田洋樹、楠元真由美、梶原伸介、山口義道、福原信一、上谷良行	第26回	日本小児救急医学会	東京	2012.6.1~2
新生児連発性 Group B Streptococcus 感染症による敗血症性ショックの一例	救急集中治療科	梶原伸介、竹田洋樹、祖父江俊樹、楠元真由美、山口義道、上谷良行	第26回	日本小児救急医学会	東京	2012.6.1~2
精神症状を主訴に救急入院となった非ヘルペス性急性辺縁系脳炎の2例	救急集中治療科	山口義道、楠元真由美、福原信一、竹田洋樹、上谷良行、藤田杏子、丸山あずさ、永瀬裕朗、高橋幸利	第115回	日本小児科学会 学術集会	福岡	2012.4.20~22
COMPLICATIONS OF EMERGENT ENDOTRACHEAL INTUBATION IN CHILDREN AND ADOLESCENTS IN THE INTENSIVE CARE UNIT AND EMERGENCY ROOM	救急集中治療科	S. Kajihara, S. Fukuhara, T. Tanaka, M. Kusumoto, Y. Yamaguchi, H. Takeda, Y. Uetani	25th	Annual Congress of European Society of Intensive Care Medicine	リスボン	2012.10.13~17
兵庫県下各圏域における深夜帯の小児救急患者動向について	救急集中治療科	上谷良行	第24回	兵庫県小児科医会 定時総会	神戸	2012.6.30
小児の重症度評価、軽度外傷	救急集中治療科	上谷良行	平成23年度	兵庫県医師会小児 初期救急医療研修会	神戸	2012.2.26
小児の重症度評価、軽度外傷	救急集中治療科	上谷良行	平成24年度	兵庫県医師会小児 初期救急医療研修会	神戸	2012.12.7
天然型ビタミンDサプリメントにて治療をおこなったビタミンD欠乏性くる病の5例	代謝内分泌科	尾崎佳代、野村安隆、郷司克己	第48回	日本小児内分泌学会	大阪	2012.9.27-29
偶然発見されたCa感知容体異常症の1例	代謝内分泌科	野村安隆、尾崎佳代、郷司克己	第48回	日本小児内分泌学会	大阪	2012.9.27-29
家族性若年糖尿病 MODY5型の1例	代謝内分泌科	郷司克己、野村安隆、尾崎佳代	第46回	兵庫県内分泌研究会	神戸	2012.7.7
関節超音波検査が関節炎の評価に有用であった若年性特発性関節炎の1例	リウマチ科	水田麻雄、笠井和子、中岸保夫、三好麻里	第255回	日本小児科学会 兵庫県地方会	尼崎	2012.2.4

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
乳児期に発症した肝動脈瘤を伴った高安病の1例	リウマチ科	水田麻雄、笠井和子、中岸保夫、三好麻里	第22回	日本小児リウマチ学会 総会・学術集会	名古屋	2012.10.6
持続する関節炎に関してアザリズマブを導入した全身性若年性特発性関節炎の1例	リウマチ科	水田麻雄、笠井和子、中岸保夫、三好麻里	第22回	日本小児リウマチ学会 総会・学術集会	名古屋	2012.10.7
集中治療領域における自動発作検出プログラムの応用	脳神経内科	丸山あずさ、西山将広、藤田杏子、永瀬裕朗	第54回	日本小児神経学会総会	札幌	2012.5.17-19
抗けいれん薬持続投与下での脳低温/平温療法は急性脳症の興奮毒性による神経学的後遺症を低減する	脳神経内科	西山将広、藤田杏子、丸山あずさ、永瀬裕朗	第54回	日本小児神経学会総会	札幌	2012.5.17-20
軽微な頭部外傷後に AESD と類似した経過をたどった急性硬膜下血腫の2例	脳神経内科	西山将広、藤田杏子、丸山あずさ、永瀬裕朗、梶原伸介、竹田洋樹、上谷良行	第52回	日本小児神経学会 近畿地方会	大阪	2012.10.20
Successful Abolition of Prophylactic Cranial Irradiation in Children with Non-T cell Acute Lymphoblastic Leukemia (ALL) in the Japan Association of Childhood Leukemia Study (JACLS) ALL-02 trial.	血液腫瘍内科	Daichiro Hasegawa, Junichi Hara, Souichi Suenobu, Yoshihiro Takahashi, Atsushi Sato, Nobuhiro Suzuki, Shinichiro Nishimura, Keiko Yumura-Yagi, Hirohide Kawasaki, Hiroki Hori, Akiko M. Saito, Koji Kato, Akhiro Iguchi, Tooru Kudoh, Tatsutoshi Nakahata, Megumi Oda, and Keizo Horibe		平成24年度 JACLS 総会		2012
AML05研究における寛解導入療法時合併症と支持療法の関係	血液腫瘍内科	長谷川大一郎、工藤寿子、多和昭雄、富澤大輔、多賀崇、足立杜一		平成24年度 堀部班・ 足立班会議総会	名古屋	2012.6.16
Minimal residual disease monitoring in neuroblastoma patients by a set of real-time RT-PCR markers	血液腫瘍内科	Aiko Tanaka, Daichiro Hasegawa, Tri Budi Hartomo, Thi Van Huyen Pham, Toshiaki Ishida, Keiichiro Kawasaki, Yoshiyuki Kosaka, Hiroki Ohashi, Tomoto Yamamoto, Satoru Morikawa, Nobuyuki Yamamoto, Satoshi Hirase, Ikuko Kubokawa, Takeshi Mori, Tomoko Yanai, Akira Hayakawa, Yasuhiro Takeshima, Kazumoto Iijima, Masafumi Matsuo, Hisahide Nishio and Noriyuki Nishimura		Advances in Neuroblastoma Research2012	Toronto	2012.06.19
Imatinib followed by second allogeneic HSCT for relapse of Ph+ALL after the first transplantation	血液腫瘍内科	Toshiaki Ishida, Daichiro Hasegawa, Tatsuya Yamashita, Aiko Tanaka, Keiichiro Kawasaki, Yuji Nakamachi, Seiji Kawano, and Yoshiyuki Kosaka	第74回	日本血液学会総会	京都	2012.10.19-21
Reduced-Intensity Hematopoietic Stem Cell Transplantation for Severe Congenital Neutropenia	血液腫瘍内科	Aiko Tanaka, Daichiro Hasegawa, Hironobu Takahashi, Tatsuya Yamashita, Toshiaki Ishida, Keiichiro Kawasaki, Kazuhiro Nakamura, Masao Kobayashi, and Yoshiyuki Kosaka	第74回	日本血液学会総会	京都	2012.10.19-21

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
Topotecan + L-PAM + CY レジメンで自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法を行った難治性小児固形腫瘍の治療経験	血液腫瘍内科	石田敏章、長谷川大一郎、越智聡史、宮田憲二、山下達也、齋藤敦郎、田中愛子、川崎圭一郎、小坂嘉之	第54回	日本小児血液・がん学会学術総会	横浜	2012.11.30-12.02
Minimal residual disease monitoring in neuroblastoma patients by a set of real-time RT-PCR markers	血液腫瘍内科	Aiko Tanaka, Daichiro Hasegawa, Tri Budi Hartomo, Thi Van Huyen Pham, Toshiaki Ishida, Keiichiro Kawasaki, Yoshiyuki Kosaka, Hiroki Ohashi, Tomoto Yamamoto, Satoru Morikawa, Nobuyuki Yamamoto, Satoshi Hirase, Ikuko Kubokawa, Takeshi Mori, Tomoko Yanai, Akira Hayakawa, Yasuhiro Takeshima, Kazumoto Iijima, Masafumi Matsuo, Hisahide Nishio and Noriyuki Nishimura	第54回	日本小児血液・がん学会学術総会	横浜	2012.11.30-12.02
AML および MDS に対する Flu+Mel ± low dose TBI の前処置による移植経験	血液腫瘍内科	齋藤敦郎、長谷川大一郎、宮田憲二、越智聡史、山下達也、田中愛子、石田敏章、川崎圭一郎、小坂嘉之	第54回	日本小児血液・がん学会学術総会	横浜	2012.11.30-12.02
当科における NF-1 に合併した Optic Pathway Glioma の治療経験	血液腫瘍内科	越智聡史、長谷川大一郎、山下達也、齋藤敦郎、田中愛子、石田敏章、川崎圭一郎、小坂嘉之、山元一樹、河村淳史、長嶋達也、吉田牧子、杉岡勇典、赤坂好宣、副島俊典	第54回	日本小児血液・がん学会学術総会	横浜	2012.11.30-12.02
当科における初回再発および寛解導入不能急性骨髄性白血病の臨床的検討	血液腫瘍内科	二野菜々子、長谷川大一郎、越智聡史、宮田憲二、山下達也、齋藤敦郎、田中愛子、石田敏章、川崎圭一郎、小坂嘉之坂口公祥、岡田周一	第54回	日本小児血液・がん学会学術総会	横浜	2012.11.30-12.02
診断時に骨髄転移および中枢神経浸潤を認めた網膜芽細胞腫の一例	血液腫瘍内科	中西啓太、齋藤敦郎、宮田憲二、越智聡史、山下達也、田中愛子、石田敏章、長谷川大一郎、川崎圭一郎、河合恵美子、山元一樹、河村淳史、長嶋達也、杉岡勇典、赤坂好宣、吉田牧子、小坂嘉之	第54回	日本小児血液・がん学会学術総会	横浜	2012.11.30-12.02
IKZF1 Deletion Is Strongly Associated with Risk of Relapse in Pediatric B Cell Precursor ALL with TCF3-PBX1	血液腫瘍内科	Daisuke Asai, Toshihiko Imamura, So-ichi Suenobu, Akiko Moriya Saito, Daichiro Hasegawa, Takao Deguchi, Hashii Yoshiko, Mikiya Endo, Naoki Hatakeyama, Hirohide Kawasaki, Hiroki Hori, Keizo Horibe, Keiko Yagi, Junichi Hara, Megumi Oda, and Atsushi Sato	第54回	Annual Meeting of American Society of Hematology	Atlanta	2012.12.7-11
Attempts to Optimize Post-Induction Treatment in Childhood Acute Myeloid Leukemia without Core Binding Factors	血液腫瘍内科	Daichiro Hasegawa, Akio Tawa, Daisuke Tomizawa, Tomoyuki Watanabe, Akiko Saito, Kazuko Kudo, Takashi Taga, Shotaro Iwamoto, Akira Shimada, Kiminori Terui, Hiroshi Moritake, Akitoshi Kinoshita, Hiroyuki Takahashi, Hideki Nakayama, Katsuyoshi Koh, Hisato Kigasawa, Yoshiyuki Kosaka, Hayato Miyachi, Keizo Horibe, Tatsutoshi Nakahata, and Soutchi Adachi	第54回	Annual Meeting of American Society of Hematology	Atlanta	2012.12.7-11

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
Acute Lymphoblastic Leukemia in Japanese Adolescents; Biology and Toxicity Profile	血液腫瘍内科	So-ichi Suenobu, Atsushi Sato, Yoshihiro Takahashi, Ikuya Usami, Shin-ichiro Nishimura, Daichiro Hasegawa, Yoshiko Hashii, Nobuhiro Suzuki, Akiko Saito, Hirohide Kawasaki, Keiko Yagi, Keizo Horibe, Junichi Hara, Hiroki Hori, and Megumi Oda	第54回	Annual Meeting of American Society of Hematology	Atlanta	2012.12.7-11
Appropriate Dose Modification in Induction Therapy Is Essential for the Treatment of Infants with Acute Myeloid Leukemia	血液腫瘍内科	Daisuke Tomizawa, Akio Tawa, Tomoyuki Watanabe, Akiko Moriya Saito, Kazuko Kudo, Takashi Taga, Shotaro Iwamoto, Akira Shimada, Kiminori Terui, Hiroshi Moritake, Akitoshi Kinoshita, Hiroyuki Takahashi, Hideki Nakayama, Katsuyoshi Koh, Hisato Kigasawa, Yoshiyuki Kosaka, Hayato Miyachi, Keizo Horibe, Tatsutoshi Nakahata, and Souichi Adachi	第54回	Annual Meeting of American Society of Hematology	Atlanta	2012.12.7-11
Excess Reduction of Anthracyclines Results in Inferior Event-Free Survival in Core Binding Factor Acute Myeloid Leukemia in Children	血液腫瘍内科	Daisuke Tomizawa, Akio Tawa, Tomoyuki Watanabe, Akiko Moriya Saito, Kazuko Kudo, Takashi Taga, Shotaro Iwamoto, Akira Shimada, Kiminori Terui, Hiroshi Moritake, Akitoshi Kinoshita, Hiroyuki Takahashi, Hideki Nakayama, Katsuyoshi Koh, Hisato Kigasawa, Yoshiyuki Kosaka, Hayato Miyachi, Keizo Horibe, Tatsutoshi Nakahata, and Souichi Adachi	第54回	Annual Meeting of American Society of Hematology	Atlanta	2012.12.7-11
Topotecan + L-PAM + CY レジメンで自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法を行った脳腫瘍の治療経験	血液腫瘍内科	石田敏章、長谷川大一郎、山下達也、田中愛子、川崎圭一郎、小阪嘉之、山元一樹、河村淳史、長嶋達也、吉田敦子、阿部洋子、杉岡勇典、赤坂好宣、副島俊典	第54回	日本小児脳腫瘍コンソーシアム研究会	東京	2013.01.29
Flu+Mel+low dose TBIによる骨髄非破壊的前処置で同種骨髄移植を行った Kostmann 症候群の1例	血液腫瘍内科	長谷川大一郎、岸上木綿子、二野菜々子、武岡恵美子、山下達也、田中愛子、石田敏章、高橋宏暢、川崎圭一郎、小阪嘉之		神戸血液病研究会	神戸	2012.02.11
Flu+Mel+low dose TBIによる骨髄非破壊的前処置で同種骨髄移植を行った Kostmann 症候群の1例	血液腫瘍内科	長谷川大一郎、岸上木綿子、二野菜々子、武岡恵美子、山下達也、田中愛子、石田敏章、高橋宏暢、川崎圭一郎、小阪嘉之		須磨区医師会研究会	神戸	2012.3.3
診断・治療に難渋している胸腔原発の AYA (adolescents and young adults) 世代肉腫の1例	血液腫瘍内科	田中愛子、川崎圭一郎、宮田憲二、越智聡史、山下達也、齋藤敦郎、田中愛子、石田敏章、長谷川大一郎、小阪嘉之	第34回	近畿小児がん研究会	大阪	2012.3.10
身近な診察室でしたいこと・できそうな事	血液腫瘍内科	石田敏章	第2回	Hemophilia Care Seminar in Hyogo	神戸	2012.4.7
寛解導入療法中に急性出血による sudden death をきたした BCP-ALL の1例	血液腫瘍内科	石田敏章、山下達也、武岡恵美子、越智聡史、齋藤敦郎、田中愛子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	第21回	JACLS 例会	大阪	2012.5.19

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
診断に苦慮した治療抵抗性 T-ALL の幼児例	血液腫瘍内科	越智聡史、石田敏章、山下達也、齋藤敦郎、田中愛子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小坂嘉之	第37回	兵庫県小児血液腫瘍症例検討会	神戸	2012.6.1
当科における Flu + Mel ± low dose TBI の前処置による移植経験	血液腫瘍内科	齋藤敦郎、長谷川大一郎、越智聡史、山下達也、田中愛子、石田敏章、川崎圭一郎、小坂嘉之	第9回	JPLSG 研究会	名古屋	2012.6.17
局所療法を選択に苦慮している頭蓋底原発 Ewing 肉腫女児例	血液腫瘍内科	石田敏章、越智聡史、山下達也、齋藤敦郎、田中愛子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小坂嘉之、山元一樹、河村淳史、長嶋達也、吉田牧子、杉岡勇典、赤坂好宣、副島俊典		日本ニューイング肉腫研究グループ研究会	東京	2012.6.23
Topotecan + L-PAM + CY レジメンで自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法を行った難治性小児固形腫瘍の治療経験	血液腫瘍内科	石田敏章、越智聡史、山下達也、齋藤敦郎、田中愛子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小坂嘉之		日本ニューイング肉腫研究グループ研究会	東京	2012.6.23
ウイルス感染症による類白血球反応との鑑別に苦慮した治療抵抗性 T-ALL の幼児例	血液腫瘍内科	越智聡史、石田敏章、山下達也、齋藤敦郎、田中愛子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小坂嘉之	第48回	兵庫県白血球懇話会	神戸	2012.6.30
当科における NF-1 に合併した Optic Pathway Glioma の治療経験	血液腫瘍内科	越智聡史、長谷川大一郎、山下達也、齋藤敦郎、田中愛子、石田敏章、川崎圭一郎、小坂嘉之、山元一樹、河村淳史、長嶋達也、吉田牧子、杉岡勇典、赤坂好宣、副島俊典		小児脳腫瘍治療研究会	東京	2012.7.8
Flu+Mel+low dose TBI による骨髄非破壊的前処置で同種骨髄移植を行った先天性重症好中球減少症の1例	血液腫瘍内科	長谷川大一郎、山下達也、田中愛子、石田敏章、高橋宏暢、川崎圭一郎、小坂嘉之	第3回	近畿 PID 研究会	大阪	2012.7.21
ベネフィクス® 持続投与にて側弯症手術を施行し得た血友病 B の1例	血液腫瘍内科	川崎圭一郎、越智聡史、山下達也、齋藤敦郎、田中愛子、石田敏章、長谷川大一郎、小坂嘉之、小林大介、薩摩真一	第8回	阪神へモフィリア研究会	大阪	2012.7.28
新生児期に JMML 様の血液所見を呈し、その後自然寛解傾向を示した Noonan 症候群の1例	血液腫瘍内科	田中愛子、川崎圭一郎、宮田憲二、越智聡史、山下達也、齋藤敦郎、田中愛子、石田敏章、長谷川大一郎、小坂嘉之	第49回	神戸血液病研究会	神戸	2012.9.15
異時性に発症した TEL-AML1 陽性急性リンパ性白血病の双胎例	血液腫瘍内科	宮田憲二、長谷川大一郎、越智聡史、山下達也、齋藤敦郎、神前愛子、石田敏章、川崎圭一郎、小坂嘉之、野口依子、中町祐司、河野誠司	第69回	兵庫県白血球懇話会	神戸	2012.11.17
成人先天性心疾患患者の診療体制— ことも病院の立場から—	循環器科	城戸佐知子、田中敏克、富永健太、佐藤有美、小川禎治	第14回	日本成人先天性心疾患学会	東京	2012.1.14-15
ASO を用いた ASD 閉鎖術における術前 TEE 評価はルーチンに必要か？	循環器科	田中敏克、佐藤有美、亀井直哉、古賀千穂、小川禎治、富永健太、城戸佐知子、	第23回	日本小児インタターベンション研究会	秋田	2012.1.19-21
MRI を用いた ASO 適応評価の取り組み～ ASO の痂皮を判断するうえでの利点と欠点を検討する～	循環器科	佐藤有美、田中敏克、亀井直哉、古賀千穂、小川禎治、富永健太、城戸佐知子、	第23回	日本小児インタターベンション研究会	秋田	2012.1.19-21
治療に難渋している幼児期発症の重症肺動脈静脈瘻の1例	循環器科	佐藤有美、田中敏克、亀井直哉、古賀千穂、小川禎治、富永健太、城戸佐知子、	第18回	日本小児肺循環研究会	東京	2012.2.4

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
新生児期および乳児期早期発症の頻脈性不整脈の臨床像	循環器科	亀井直哉、城戸佐知子、佐藤有美、小川禎治、古賀千穂、富永健太、田中敏克、	第26回	日本小児循環器学会 近畿中四国地方会	大阪	2012.3.4
乳児期に診断されなかつた重度肺高血圧症を合併した心室中隔欠損の3例	循環器科	川崎英史、亀井直哉、古賀千穂、小川禎治、佐藤有美、富永健太、田中敏克、城戸佐知子、	第25回	近畿小児科学会	京都	2012.3.11
Collaboration or Bridge between Adult Hospitals and Children's Hospitals	循環器科	城戸佐知子、田中敏克、富永健太、佐藤有美、小川禎治、古賀千穂、亀井直哉	第76回	日本循環器病学会	福岡	2012.3.16-18
当院における動脈管開存に対するカテーテル治療の現状	循環器科	田中敏克、古賀千穂、亀井直哉、小川禎治、佐藤有美、富永健太、城戸佐知子、	第115回	日本小児科学会 学術集会	福岡	2012.4.20-22
ECMO 導入後に診断に至った Common PV atresia の1例	循環器科	田中敏克、小川禎治、古賀千穂、亀井直哉、佐藤有美、富永健太、城戸佐知子、	第256回	日本小児科学会 兵庫県地方会	神戸	2012.5.26
アデノイド切除後に著明な肺高血圧が正常化した1例	循環器科	亀井直哉、城戸佐知子、佐藤有美、小川禎治、古賀千穂、富永健太、田中敏克、	第30回	西日本小児循環器 HOT 研究会	大阪	2012.6.9
先天性心疾患術後の難治性心房粗動症例の検討	循環器科	城戸佐知子、田中敏克、佐藤有美	第113回	日本循環器学会 近畿地方会	大阪	2012.6.16
Bilateral PAB が新大動脈弁に与える影響	循環器科	田中敏克、小川禎治、古賀千穂、亀井直哉、佐藤有美、富永健太、城戸佐知子、	第48回	日本小児循環器学会 学術集会	京都	2012.7.5-7
胎児診断における倫理的問題の検討	循環器科	佐藤有美、城戸佐知子、雪本千恵、亀井直哉、古賀千穂、小川禎治、富永健太、田中敏克、	第48回	日本小児循環器学会 学術集会	京都	2012.7.5-7
ダウン症候群におけるフォンタン型手術の中長期予後	循環器科	亀井直哉、城戸佐知子、佐藤有美、小川禎治、古賀千穂、富永健太、田中敏克、	第48回	日本小児循環器学会 学術集会	京都	2012.7.5-7
先天性心疾患の遠隔期再手術症例の問題点	循環器科	亀井直哉、城戸佐知子、古賀千穂、小川禎治、佐藤有美、富永健太、田中敏克、	第48回	日本小児循環器学会 学術集会	京都	2012.7.5-7
妊娠前無症状の先天性心疾患患者の妊娠・出産における問題点	循環器科	城戸佐知子、田中敏克、富永健太、佐藤有美、小川禎治、古賀千穂、亀井直哉	第48回	日本小児循環器学会 学術集会	京都	2012.7.5-7
思春期先天性心疾患患者の心理的ストレスに対する身体活動の効果	循環器科	城戸佐知子、田中敏克、富永健太、佐藤有美、小川禎治、古賀千穂、亀井直哉	第48回	日本小児循環器学会 学術集会	京都	2012.7.5-7
Fontan 型手術後遠隔期における運動と不整脈	循環器科	城戸佐知子	第60回	日本心臓病学会	金沢	2012.9.14-16
当院で1年間に経験した感染性心内膜炎の4例	循環器科	雪本千恵、亀井直哉、古賀千穂、小川禎治、佐藤有美、富永健太、藤田秀樹、田中敏克、城戸佐知子	第257回	日本小児科学会 兵庫県地方会	姫路	2012.9.-9

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
成長期・思春期に自律神経失調症様症状を呈した肺動脈閉鎖・心室中隔欠損例	循環器科	城戸佐知子	第7回	成人先天性心疾患セミナー	大阪	2012.10.27
フォントーン型手術後成人女性のうつ	循環器科	城戸佐知子	第9回	先天性心疾患心理研究会	東京	2012.12.15
先天性心疾患に対するカテーテル治療	循環器科	田中敏克		兵庫県難病連医療相談会講演	豊岡	2012.9.23
実践的胎児心エコー	循環器科	佐藤有美		済生会兵庫県病院講演	神戸	2012.1.27
胎児不整脈について～胎児心エコーからのアプローチ～	循環器科	佐藤有美		済生会兵庫県病院講演	神戸	2012.5.18
明日に架ける橋～Bridge between Childhood and Adolescence and Adulthood～	循環器科	城戸佐知子		富山大学講演	富山	2012.12.7
兵庫県立こども病院的 Fontan 応援活動	循環器科	城戸佐知子		心臓病の子供を守る会 四国支部講演	松山	2012.11.3
エコーの見方—最近の話題—	循環器科	小川禎治		兵庫県難病連医療相談会講演	神戸	2012.12.2
急性胃腸炎後に尿管結石閉塞による腎後性腎不全をきたした症例についての検討	腎臓内科	中川拓、神田杏子、田中亮二郎	第115回	日本小児科学会学術集会	福岡	2012.4.20-4.22
小児期発症頻回再発型ネフローゼ症候群 (FRNS) に対して初期 cyclosporine (CyA) 2年間投与を行った症例の追跡調査	腎臓内科	中川拓、神田杏子、田中亮二郎	第55回	日本腎臓学会学術総会	横浜	2012.6.1-6.3
ARPKDに伴う高血圧から心筋肥大、心不全を来たし降圧剤投与により心機能の改善を得た乳児の一例	腎臓内科 循環器科 横浜市立大学環境分子	辻真之介、中川拓、神田杏子、小川慎治、田中敏克、城戸佐知子、才津浩智、田中亮二郎	第47回	日本小児腎臓病学会学術集会	東京	2012.6.29-6.30
わが国における小児急性血液浄化療法：その実態と予後因子の解析	腎臓内科 国立成育医療研究センター他施設	伊藤秀一、荒木義則、稲垣徹史、池住洋平、藤永周一郎、和田尚弘、山田拓司、田中亮二郎、大田敏之、馬場晴久、亀井宏一、斉藤真梨、佐古まゆみ	第47回	日本小児腎臓病学会学術集会	東京	2012.6.29-6.30
急性血液浄化療法を行った小児急性腎臓病：わが国の実態と予後	腎臓内科 国立成育医療研究センター他施設	伊藤秀一、荒木義則、稲垣徹史、池住洋平、藤永周一郎、和田尚弘、山田拓司、田中亮二郎、大田敏之、馬場晴久、亀井宏一、斉藤真梨、佐古まゆみ	第47回	日本小児腎臓病学会学術集会	東京	2012.6.29-6.30
小児 IgA 腎症における Oxford 分類腎病理因子と腎生検時期の検討	腎臓内科和歌山県立医科大学神戸大学	島友子、中西浩一、向山弘展、浜武御継、田中亮二郎、飯島一誠、吉川徳茂	第47回	日本小児腎臓病学会学術集会	東京	2012.6.29-6.30

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
急性胃腸炎後に乏尿を来した1症例	腎臓内科	中川拓、橋村裕也、神田杏子、田中亮二郎	第13回	若葉小児科臨床研究会	神戸	2012.7.14
ARPKDに伴う高血圧から心筋肥大、心不全を来たし降圧剤投与により心機能の改善を得た乳児の一例	腎臓内科 循環器科 横浜市立大学環 境分子	辻真之介、中川拓、神田杏子、小川慎治、 田中敏克、城戸佐知子、才津浩智、 田中亮二郎	第16回	兵庫県腎疾患治療 懇話会	神戸	2012.7.20
若年性ネフローゼに合併した好酸球増多症に伴うネフローゼ症候群の一例	腎臓内科 加古川西市民病 院	石田悠介、中川拓、橋村裕也、 神田杏子、神岡一郎、田中亮二郎	第34回	日本小児腎不全学会 学術集会	兵庫県 洲本市	2012.9.13-9.14
腎移植後4年でEBウイルス関連平滑筋肉腫を 発症した1症例	腎臓内科	橋村裕也、石田悠介、中川拓、 田中亮二郎	第34回	日本小児腎不全学会 学術集会	兵庫県 洲本市	2012.9.13-9.14
小児保存期CKD患者の末期腎不全への進行解明： 小児CKD患者を対象とした患者登録システムの 確立と長期予後の解明のための調査研究結果	腎臓内科 東京都立小児総 合医療センター 他施設	石倉健司、上村治、伊藤秀一、和田尚弘、 服部元史、大橋靖雄、濱崎祐子、田中亮二郎、 中西浩一、本田雅敏	第34回	日本小児腎不全学会 学術集会	兵庫県 洲本市	2012.9.13-9.14
本邦小児保存期慢性腎臓病患者における成長の 実態（2011年度調査の結果）	腎臓内科 東京都立小児総 合医療センター 他施設	濱崎祐子、上村治、伊藤秀一、和田尚弘、 服部元史、大橋靖雄、石倉健司、本田雅敏、 田中亮二郎、中西浩一	第34回	日本小児腎不全学会 学術集会	兵庫県 洲本市	2012.9.13-9.14
若年性ネフローゼに合併した好酸球増多症に伴う ネフローゼ症候群の一例	腎臓内科	石田悠介、中川拓、橋村裕也、神田杏子、 田中亮二郎	第45回	近畿小児腎臓病研究会	大阪	2012.10.13
Histological predictors of therapeutic efficacy in severe childhood IgA nephropathy (IgAN) : validation of the Oxford classification of IgAN	1) Pediatrics, Wakayama Medical University, 2) Pediatrics, Kobe University, 3) Pediatric Nephrology, Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital	Yuko Shima, Koichi Nakanishi, Taketugu Hama, Hironobu Mukaiyama, Hiroko Togawa, Shingo Ishimori, Hiroshi Kaito, Ryojiro Tanaka, Kazumoto Iijima, Norishige Yoshikawa	Kidney week 2012	American Society of Nephrology, Annual Meeting and Scientific Exposition	San Diego, USA	2012.10.30-11.4
Progression to ESKD in children with CKD: a nation-wide cohort study in Japan	腎臓内科、 The Pediatric- CKD Study Group in Japan.	Kenji Ishikura, Osamu Uemura, Shuichi Ito, Naohiro Wada, Motoshi Hattori, Yasuo Ohashi, Yuko Hamasaki, Ryojiro Tanaka, Koichi Nakanishi, Tetsuji Kaneko, Masataka Honda	Kidney week 2012	American Society of Nephrology, Annual Meeting and Scientific Exposition	San Diego, USA	2012.10.30-11.4
幻覚妄想状態を呈した広汎性発達障害鑑定の一例	精神科	関口典子	第108回	日本精神神経学会 学術総会	札幌	2012.5.24-26

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
小腸機能不全児に対する長期在宅中心静脈栄養管理の工夫	外科	横井暁子、尾藤祐子、西島栄治	第24回	日本小腸移植研究会	京都	2012.3.17
漏斗胸に対する治療戦略-Ravitch 変法の長期成績からの検討	外科	横井暁子、西島栄治、中尾真、尾藤祐子、荒井洋志、岡本光正、楠木由美子、田村亮、馬場勝尚、園田真理、洲尾昌伍	第49回	日本小児外科学会学術集会	横浜	2012.5.14-16
術中内視鏡が有用であった食道・気管異物の1例	外科	横井暁子、馬場勝尚、洲尾昌伍、園田真理、谷本光隆、田村亮、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、西島栄治	第32回	日本小児内視鏡外科・手術手技研究会	静岡	2012.11.1-2
The Role of Surgery in High-Risk Neuroblastoma	外科、血液腫瘍科、病理室、放射線科	横井暁子、長谷川大一郎、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、西島栄治、小阪嘉之、吉田牧子、赤坂好宣	第54回	日本小児血液・がん学会	横浜	2012.11.29-30
当科で緊急手術を施行した腸重積症例についての検討	外科	中尾真、洲尾昌伍、園田真理、馬場勝尚、田村亮、楠木由美子、岡本光正、荒井洋志、尾藤祐子、横井暁子、西島栄治	第49回	日本小児外科学会学術集会	横浜	2012.5.14-16
心身障児に発症した急性虫垂炎の検討	外科	中尾真、洲尾昌伍、園田真理、馬場勝尚、田村亮、楠木由美子、岡本光正、荒井洋志、尾藤祐子、横井暁子、西島栄治	第49回	日本小児外科学会学術集会	横浜	2012.5.14-16
当科で管理を行っている広範囲型ヒルシユスブルン病患者の QOL についての検討	外科	中尾真、河原仁守、吉田拓哉、洲尾昌伍、谷本光隆、園田真理、大井祐一、荒井洋志、尾藤祐子、横井暁子、西島栄治	第23回	日本小児外科 QOL 研究会	仙台	2012.10.6
超早産・超低出生体重で出生した腹壁破裂児の治療過程における腹部皮膚管理の経験・腸瘻および創傷管理	小児外科	尾藤祐子、楠木由美子、西島栄治、横井暁子、中尾真、荒井洋志、岡本光正、馬場勝尚、田村亮、園田真理、洲尾昌伍	第26回	日本小児ストーマ研究会	仙台	2012.4.28
小児病院における気管切開症例の適応と問題点 -5年間97例の検討	小児外科	尾藤祐子、西島栄治、横井暁子、中尾真、荒井洋志、楠木由美子、岡本光正、馬場勝尚、田村亮、園田真理、洲尾昌伍	第49回	日本小児外科学会学術集会	横浜	2012.5.14-16
Giant pleuropulmonary blastoma appearing with life-threatening respiratory distress in childhood: A case report	Department of Pediatric Surgery	Yuko Bitoh, Akiko Yokoi, Ryo Tamura, Eiji Nishijima	45nd (2012)	Annual Meeting of Pacific Association of Pediatric Surgeons	Shanghai	2012.6.4-7
術後ステントとしてTチューブ留置を行い良好な結果を得た声門下区狭窄症の2例 -Tチューブ留置の利点と問題点	小児外科	尾藤祐子、荒井洋志、横井暁子、中尾真、大井祐一、園田真理、谷本光隆、洲尾昌伍、吉田拓哉、河原仁守	第23回	日本小児呼吸器外科研究会	旭川	2012.9.29
危急的な呼吸障害にて発症した胸膜肺芽腫の治療経験	小児外科	尾藤祐子、横井暁子、中尾真、荒井洋志、大井祐一、園田真理、谷本光隆、洲尾昌伍、吉田拓哉、河原仁守、西島栄治、田中愛子、川崎圭一郎、小阪嘉之	第54回	日本小児血液・がん学会	横浜	2012.11.29-30
当科における食道静脈瘤の治療	小児外科	荒井洋志、西島栄治、横井暁子、中尾真、尾藤祐子、大井祐一、園田真理、谷本光隆、洲尾昌伍、吉田拓哉、河原仁守	第10回	県立病院学会	神戸	2012.8.25
からだが石に・・・・・・・・・・ ～生検してはいけなかった背部腫瘍～	小児外科	荒井洋志、西島栄治、横井暁子、中尾真、尾藤祐子、大井祐一、園田真理、谷本光隆、洲尾昌伍、吉田拓哉、河原仁守	第68回	小児外科わからん会	大阪	2012.9.15

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
Rapidly progressed fibrodysplasia ossificans progressiva: a case report	Department of Pediatric Surgery	Hiroshi Arai, Insu Kawahara, Takuya Yoshida, Shogo Zuo, Terutaka Tanimoto, Mari Sonoda, Yuichi Okata, Yuko Bitoh, Makoto Nakao, Akiko Yokoi, Eiji Nishijima	第23回	Asian association of Pediatric Surgeons	Seoul, Korea	2012.10.8-10
先天性気管狭窄症における術前呼吸管理の検討	小児外科	園田真理、洲尾昌伍、田村亮、馬場勝尚、橋本由美子、岡本光正、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、横井暁子、西島栄治	第49回	日本小児外科学会学会集會	横浜	2012.5.14-16
術前陽圧呼吸管理が有効であった先天性肺葉性肺気腫の2例	小児外科	園田真理、中尾真、河原仁守、吉田拓哉、洲尾昌伍、谷本光隆、大片祐一、荒井洋志、尾藤祐子、横井暁子、西島栄治	第23回	小児呼吸器外科研究会	旭川	2012.9.29
Long-term outcomes of biliary atresia in single institute experience	小児外科	園田真理、横井暁子、洲尾昌伍、谷本光隆、田村亮、馬場勝尚、岡本光正、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、西島栄治	第45回	Pacific Association of Pediatric Surgeons Annual Meeting	Shanghai	2012.6.3-7
右肺全葉に肺嚢胞性病変を認めた一例	小児外科	園田真理、西島栄治、横井暁子、中尾真、尾藤祐子、荒井洋志、馬場勝尚、田村亮、谷本光隆、洲尾昌伍	第67回	小児外科わかからん会	大阪	2012.3.24
The incidence and surgical management of tracheomalacia associated with congenital esophageal atresia and distal tracheoesophageal fistula.	小児外科	Terutaka Tanimoto, Hiroshi Arai, Insu Kawahara, Takuya Yoshida, Shogo Zuo, Mari Sonoda, Yuichi Okata, Yuko Bitoh, Makoto Nakao, Akiko Yokoi, Eiji Nishijima	45	PAPS	上海	2012.6.3-7
Surgical Treatment for Congenital Cystic Lung Disease Extended to Multi-lobes.	小児外科	Terutaka Tanimoto, Hiroshi Arai, Insu Kawahara, Takuya Yoshida, Shogo Zuo, Mari Sonoda, Yuichi Okata, Yuko Bitoh, Makoto Nakao, Akiko Yokoi, Eiji Nishijima	23	AAPS	ソウル	2012.10.8-10
複数葉・両側に病巣が存在する嚢胞性肺疾患の治療	小児外科	谷本光隆、荒井洋志、河原仁守、吉田拓哉、洲尾昌伍、園田真理、大片祐一、尾藤祐子、中尾真、横井暁子、西島栄治	23	日本呼吸器外科研究会	旭川	2012.9.29
喉頭気管分離術後、創移行、気管食道吻合部縫合不全に対する治療戦略	小児外科	洲尾昌伍、横井暁子、中尾真、尾藤祐子、荒井洋志、岡本光正、馬場勝尚、田村亮、谷本光隆、園田真理、西島栄治	第26回	日本小児ストーマ・排泄管理研究会	仙台	2012.4.28
腹部超音波検査にて術後に肝門部胆管結合織形成をとらえた胆道閉鎖症の一例	小児外科、放射線科	洲尾昌伍、横井暁子、中尾真、尾藤祐子、荒井洋志、橋本由美子、岡本光正、馬場勝尚、田村亮、園田真理、赤坂好宣、西島栄治	第49回	日本小児外科学会学術集會	横浜	2012.5.14~16
胎児期より腹腔内嚢胞を指摘されていた巨大肝嚢胞の一例	小児外科	洲尾昌伍、尾藤祐子、横井暁子、中尾真、荒井洋志、大片祐一、園田真理、谷本光隆、吉田拓哉、河原仁守、西島栄治	第48回	日本小児外科学会近畿地方会	大阪	2012.8.25
小児臍胸に対する当院での外科治療の検討	小児外科	洲尾昌伍、横井暁子、中尾真、尾藤祐子、荒井洋志、大片祐一、園田真理、谷本光隆、吉田拓哉、河原仁守、西島栄治	第23回	日本小児呼吸器外科研究会	旭川	2012.9.29
膝胆管合流異常との関連が示唆された胆道閉鎖症	小児外科	洲尾昌伍、横井暁子、中尾真、尾藤祐子、荒井洋志、大片祐一、園田真理、谷本光隆、吉田拓哉、河原仁守、西島栄治	第39回	日本胆道閉鎖研究会	大阪	2012.11.17

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
片肺低形成を伴う先天性気管狭窄症の1例	外科	大谷祐一、横井暁子、中尾真、尾藤祐子、荒井洋志、福澤宏明、園田真理、谷本光隆、洲尾昌伍、吉田拓哉、河原仁守、西島栄治	第23回	日本小児呼吸器疾患学会	旭川	2012.9.29
右肺低形成・無形成を伴う先天性気管狭窄症に対するスライド気管形成術の工夫	外科	大谷祐一、横井暁子、中尾真、尾藤祐子、荒井洋志、福澤宏明、園田真理、谷本光隆、洲尾昌伍、吉田拓哉、河原仁守、西島栄治	第32回	日本小児内視鏡外科・手術手技研究会	静岡	2012.11.1
治療に難渋している頸部リンパ管腫の1例	外科	吉田拓哉、河原仁守、洲尾昌吾、谷本光隆、園田真理、大谷祐一、福澤宏明、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、横井暁子、西島栄治	第9回	血管腫・血管奇形研究会	長崎	2012.7.14-15
当院における気管形成術の周術期呼吸管理	外科	吉田拓哉、河原仁守、洲尾昌吾、谷本光隆、園田真理、大谷祐一、福澤宏明、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、横井暁子、西島栄治	第28回	日本小児科学学会 秋季シンポジウム	静岡	2012.11.3
チアノーゼ性心疾患を有する新生児に発症した壊死性腸炎の1例	外科	河原仁守、尾藤祐子、谷本光隆、横井暁子、中尾真、荒井洋志、大谷祐一、園田真理、洲尾昌伍、吉田拓哉、西島栄治	第48回	日本小児外科 近畿地方会	大阪	2012.8.15
大網捻転？疑いで紹介された急性腹症の1男児例 -何これ？	外科	河原仁守、尾藤祐子、横井暁子、中尾真、荒井洋志、大谷祐一、園田真理、谷本光隆、洲尾昌伍、吉田拓哉、西島栄治	第68回	小児外科わからん会	大阪	2012.9.15
乳児気管・呼吸器疾患術後のプレセプクスの使用経験	外科	河原仁守、吉田拓哉、洲尾昌伍、谷本光隆、園田真理、大谷祐一、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、横井暁子、西島栄治	第28回	日本小児外科学会 秋季シンポジウム	静岡	2012.11.1-3
多発転移を有する肺 sarcomaNOS に対する外科的治療戦略	外科	河原仁守、吉田拓哉、洲尾昌伍、谷本光隆、園田真理、大谷祐一、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、横井暁子、西島栄治	第54回	日本小児血液・がん学会	横浜	2012.11.30-12.2
大動脈肺動脈中隔欠損に対する大動脈離断法の手術成績	心臓血管外科	大嶋義博、園尾文子、長谷川智巳、松久弘典、門脇 輔、野田怜、山口真弘	第42回	日本心臓血管外科学会 総会	秋田	2012.04.19
当院におけるファロー四徴症根治手術の変遷 (パネルディスカッション)	心臓血管外科	長谷川智巳、大嶋義博、園尾文子、松久弘典、門脇 輔、野田怜、山口真弘	第42回	日本心臓血管外科学会 学術総会	秋田	2012.4.20
TAPVC の中期成績と PVO 回避への取り組み -Primary sutureless 法と 3D-CT の有用性	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、園尾文子、長谷川智巳、門脇 輔、野田怜	第42回	日本心臓血管外科学会 学術総会	秋田	2012.4.18
房室中隔欠損症に対する modified single patch 法	心臓血管外科	門脇 輔、大嶋義博、園尾文子、長谷川智巳、松久弘典、野田怜	第42回	日本心臓血管外科学会 学術総会	秋田	2012.4.19
高齢者における大動脈弁置換術 (シンポジウム)	心臓血管外科	田中亜紀子、小原大見、白坂知織、竹歳秀人、宮原俊介、大村篤史、坂本敏仁、野村佳克、井上武、岡隆紀、南一司、岡田健次、大北裕	第42回	日本心臓血管外科学会 学術総会	秋田	2012.4.20
大動脈弁閉鎖を伴った大動脈弓離断補助循環の一救命例	心臓血管外科	園尾文子	第39回	日本集中治療学会	千葉	2012.2.28-3.1

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
大動脈弁閉鎖を伴った大動脈弓離断の一救命例	心臓血管外科、 循環器科	圓尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、 門脇輔、野田怜、岩城隆馬、城戸佐知子、 田中敏克、佐藤友美、川崎英史、宇仁田亮	第26回	日本小児循環器学会 近畿・中四国地方会	大阪	2012.3.4
アスコルビン酸徐放ゼラチンハイドロゲルシートを用いた大動脈瘤発生の抑制	心臓血管外科	田中亜紀子	第112回	日本外科学会定期 学術集会	千葉	2012.4
高齢者における大動脈弁置換術	心臓血管外科	田中亜紀子	第42回	日本心臓血管外科 学会学術総会	秋田	2012.4
大動脈弁欠損の一救命例	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、 田中亜紀子、門脇輔、野田怜、岩城隆馬	第53回	神戸心臓血管外科 研究会	神戸	2012.5.16
弓部全置換術後膜炎についての検討	心臓血管外科	田中亜紀子	第40回	日本小児科学会兵庫県 地方会血管外科学会 学術総会	長野	2012.5
自家製 ePTFE 弁を用いた大動脈弁置換術	心臓血管外科	田中亜紀子、大嶋義博、圓尾文子、 長谷川智巳、松久弘典、野田怜	2012.6	兵庫県心臓血管外科 懇親会	神戸	2012.6
動脈管起始による左肺動脈低形成を伴った AP window の一手術例	心臓血管外科	圓尾文子	第55回	関西胸部外科学会 学術集会	大阪	2012.6.21-22
大動脈弓離断複合に対する自己肺動脈壁パッチを用いた大動脈弓再建の2例	心臓血管外科	長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、 門脇輔、野田怜、岩城隆馬	第55回	関西胸部外科学会 学術集会	大阪	2012.6.22
34週で出生後 ECMO 導入し根治術に至った肺動脈弁欠損の一救命例	心臓血管外科	門脇輔、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、 松久弘典、野田怜、岩城隆馬	第55回	関西胸部外科学会 学術集会	大阪	2012.6.22
Norwood (RV-PA shunt) 術後の肺血流調整—Yao-Mustard アプローチの有用性—	心臓血管外科	野田怜、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、 松久弘典、門脇輔、岩城隆馬	第55回	関西胸部外科学会 学術集会	大阪	2012.6.21
心臓悪性リンパ腫の1例	心臓血管外科	田中亜紀子、竹歳秀人、小原大見、白坂知識、 宮原俊介、山中勝弘、大村篤史、坂本敏仁、 野村佳克、井上武、岡隆紀、南一司、 岡田健次、大北裕	第55回	関西胸部外科学会 学術集会	大阪	2012.6.21
TAPVR: 術式、PVO, sutureless technique の有用性	心臓血管外科	座長 大嶋義博、宮地鑑	第48回	日本小児循環器学会 学術集会	京都	2012.7.7
低形成 native PA を伴う PA-VSD, MAPCA に対する central shunt の長期治療成績	心臓血管外科	圓尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、 門脇輔、野田怜、岩城隆馬	第48回	日本小児循環器学会 学術集会	京都	2012.7.6
PA/IVS 治療戦略をふりかえって	心臓血管外科	長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、 門脇輔、野田怜、山口真弘	第48回	日本小児循環器学会 学術集会	京都	2012.7.5

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
Sutureless 法導入後の TAPVR に対する治療戦略の変遷	心臓血管外科、 循環器科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、 門脇輔、野田怜、岩城隆馬、田中敏克、 城戸佐知子	第48回	日本小児循環器学会 学術集会	京都	2012.7.7
胃食道逆流症に対し噴門形成術を施工した先天性心 疾患症例の検討	心臓血管外科、 小児外科	門脇輔、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、 松久弘典、野田怜、岩城隆馬、尾藤祐子	第48回	日本小児循環器学会 学術集会	京都	2012.7.5
右室流出路再建の治療戦略	心臓血管外科、 循環器科	野田怜、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、 松久弘典、門脇輔、岩城隆馬、城戸佐知子、 田中敏克、富永健太、佐藤有美	第48回	日本小児循環器学会 学術集会	京都	2012.7.5
姑息手術— off pump または on pump 症例	心臓血管外科	座長 大嶋義博、村上新	第12回	小児心臓手術手技 研究会	京都	2012.7.5
Mid-term results of mitral valve surgery in children	心臓血管外科	圓尾文子		2012 AATS MITRAL	軽井沢	2012.9.15-16
生後25日目に重症心不全で搬送され術後ECMO管理 を経て救命した大動脈縮窄複合の一症例	心臓血管外科 循環器科	野田怜、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、 松久弘典、田中重紀子、雪本千恵*、 城戸佐知子	第257回	日本小児科学会 兵庫県地方会	姫路	2012.9.29
Norwood 型手術後の大動脈弓形態に関する検討 —小弯側 glutaraldehyde 処理自己心膜補填の有用性—	心臓血管外科	長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、 田中重紀子、野田怜	第65回	日本胸部外科学会 定期学術集会	福岡	2012.10.19
Aortopulmonary space 内での気道軟化症、肺動脈狭 窄に対する肺動脈前方転位法	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、 田中重紀子、野田怜	第65回	日本胸部外科学会 定期学術集会	福岡	2012.10.17-20
PA-IVS, severe AS に対し 10mm ePTFE handmade valve を用いた Mini-Konno-AVR + Glenn の1乳児例	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、 田中重紀子、野田怜	第65回	日本胸部外科学会 定期学術集会	福岡	2012.10.17-20
緊急 Norwood 手術により救命しえた大動脈弁欠損の 一症例	心臓血管外科	野田怜、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、 松久弘典、門脇輔、岩城隆馬	第65回	日本胸部外科学会	福岡	2012.10.17-20
両側 Branch PS を伴った Supravalvar AS の一乳児例	心臓血管外科	野田怜、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、 松久弘典、田中重紀子		神戸心臓外科研究会	神戸	2012.12
虐待が疑われる乳幼児頭部外傷 —脳神経外科的視点より—	脳神経外科	山元一樹		東播磨小児疾患懇話会	神戸	2012.2.23
小児の脳神経外科救急	脳神経外科	長嶋達也	第3回	垂水区小児疾患懇話会	神戸	2012.2.25
キアリ II 型奇形に伴う遷発性の頭蓋頸椎移行部嚢胞	脳神経外科	坂田純一、長嶋達也、河村淳史、山元一樹	第65回	近畿脊髄外科研究会	大阪	2012.3.17
小児脳神経外科 コメンテーター	脳神経外科	長嶋達也	第63回	日本脳神経外科学会近 畿支部学術集会	大阪	2012.4.7

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
脊髄腫瘍に伴う選発性脊髄空洞症の診断と治療	脳神経外科	長嶋達也、河村淳史、山元一樹	第29回	日本二分脊椎研究会	千葉	2012.6.30
無症候性脊髄円錐脂肪腫に対する乳児期の手術	脳神経外科	長嶋達也、河村淳史、山元一樹、 河村淳史、長嶋達也、山元一樹	第40回	日本小児神経外科学会	岡山	2012.6.7-8
3歳未満のAT/RTの治療の検討	脳神経外科	河村淳史、長嶋達也、山元一樹	第40回	日本小児神経外科学会	岡山	2012.6.7-8
当院での小児脳梗塞の検討	脳神経外科	山元一樹、長嶋達也、河村淳史	第40回	日本小児神経外科学会	岡山	2012.6.7-8
教育セミナー 小児脳腫瘍	脳神経外科	長嶋達也	第40回	日本小児神経外科学会	岡山	2012.6.9
新生児・乳児脳腫瘍の手術	脳神経外科	長嶋達也、河村淳史、山元一樹、河合恵美子	第71回	日本神経外科学会 総会	大阪	2012.10.19
小児脳腫瘍セッション 座長	脳神経外科	長嶋達也	第71回	日本神経外科学会 総会	大阪	2012.10.19
新生児・乳児水頭症のシヤント手術	脳神経外科	山元一樹、長嶋達也、河村淳史、河合恵美子	第71回	日本神経外科学会 総会	大阪	2012.10.18
福床に発生した神経膠細胞へ分化を示す稀少な巨大胎児性腫瘍	脳神経外科	河合恵美子、長嶋達也、河村淳史、山元一樹	第71回	日本神経外科学会 総会	大阪	2012.10.17
唇裂鼻における鼻柱偏位の修正術について	形成外科	木矢孝一郎、大山知樹、谷口真貴	第101回	日本形成外科学会 関西地方会	大阪	2012.7.15
Y-V法を用いた唇裂鼻鼻柱偏位の二次修正法	形成外科	木矢孝一郎、大山知樹、谷口真貴	第50回	日本頭蓋顎顔面外 科学会	大阪	2012.11.1-2
Larsen 症候群の治療戦略	整形外科	薩摩真一、小林大介、衣笠真紀	第85回	日本整形外科学会	大阪	2012.2.4
軽～中等度の遺残性面脱臼に対するソルター手術群と自然経過群の比較	整形外科	薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、黒岩祐、 飛梅祥子	第51回	小児股関節研究会	千葉	2012.6.8-9
ソルター手術のコツ	整形外科	薩摩真一	第51回	小児股関節研究会	千葉	2012.6.8-9
先天性内反足に対する広範囲軟部組織離断術 (後内方離断および距骨下関節全周離断)の治療成績: 保存的治療と比較して	整形外科	薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、黒岩祐、 飛梅祥子	第37回	日本足の外科学会	箱根 (神奈川)	2012.10.18-19

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
Rb 治療歴のある DDH でペルテス様変化 (べ変) をきたした症例の検討	整形外科	薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、黒岩祐、飛梅祥子	第23回	日本小児整形外科学会	福岡	2012.11.30-12.1
幼児期の関節造影による遺残性亜脱臼 (臼蓋形成不全) の骨盤発育予測とそれに基づくソルター-骨盤骨切り術の適応	整形外科	薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、黒岩祐、飛梅祥子	第39回	日本股関節学会	新潟	2012.12.7-12.8
先天性股関節脱臼の total management - 変股症への進展を完全制圧するために -	整形外科	薩摩真一	第1回	兵庫県整形外科医学会 学術講演会	神戸	2012.1.28
こどもの足部変形	整形外科	薩摩真一	第5回	日本足の外科2012年 教育研修講演	大阪	2012.8.4
見逃すと困る小児整形外科疾患 (脱臼、すべり、モンテジア、頸椎 LCH、ペルテス、癒合)	整形外科	薩摩真一	不明	阪神整形外科談話会	尼崎	2012.8.25
先天性股関節脱臼	整形外科	薩摩真一	第19回	日本小児整形外科 2012年教育研修講演	東京	2012.9.1
歩容異常を訴えて来院する小児の診断と治療	整形外科	薩摩真一	不明	神奈川県臨牀 整形外科医学会	横浜	2012.11.10
Secondary ossification center at the acetabular rim -The influence for the acetabular growth-	整形外科	小林大介、薩摩真一、衣笠真紀	第7回	Golden jubilee congress of the APOA and 7th congress of APKS	New Delhi	2012.10-3-6
二分脊椎における麻痺性内反足の手術成績 -先天性と運発性の比較-	整形外科	小林大介、薩摩真一、衣笠真紀、黒岩祐、飛梅祥子	第23回	日本小児整形外科学会	福岡	2012.11.30-12.1
片側性大腿骨頭すべり症 -反対側のすべりは予測可能か? -	整形外科	小林大介、薩摩真一、衣笠真紀、黒岩祐、飛梅祥子	第51回	日本小児股関節研究会	千葉	2012.6.8-9
創外固定を用いた小児の下肢変形矯正 延長術の合併症について	整形外科	小林大介、薩摩真一、衣笠真紀、蓑田正也	第25回	日本創外固定 骨延長学会	東京	2012.1.13-14
両母趾変形にて整形外科初診となった、 Fibrodysplasia ossificans progressive の2例	整形外科	衣笠真紀、薩摩真一、小林大介、蓑田正也	第49回	近畿小児整形外科 懇話会	大阪	2012.2.4
小児化膿性股関節炎と単純性股関節炎の鑑別 -関節液糖値の検討-	整形外科	衣笠真紀、薩摩真一、小林大介	第51回	小児股関節研究会	千葉	2012.06.08-9
小児股関節炎における関節穿刺液の糖値 -化膿性股関節炎と単純性股関節炎の比較-	整形外科	衣笠真紀、薩摩真一、小林大介、黒岩祐、飛梅祥子	第25回	日本臨床整形外科学会	神戸	2012.07.15-16
比較的まれな足根骨癒合症2例の経験	整形外科	飛梅祥子、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、黒岩祐、蓑田正也	第25回	日本臨床整形外科学会	神戸	2012.07.15-16

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
低酸素血症による長期臥床患者の高度股関節外転拘縮に対する治療経験	整形外科	衣笠真紀、薩摩真一、小林大介、黒岩祐飛梅祥子	第50回	近畿小児整形外科懇話会	大阪	2012.08.04
Secondary ossification centr at the acetabular rim	整形外科	D.Kobayashi, S.Satsuma M.Kinugasa	第7回	Asia Pacific Orthopaedic Association	New Delhi	2012.10.03-6
Examination of synovial glucose level for the diagnosis of septic arthritis of the hip in children	整形外科	M.Kinugasa, D.Kobayashi, S.Satsuma	第7回	Asia Pacific Orthopaedic Association	New Delhi	2012.10.03-6
小児の創外固定器術後鎮痛における持続坐骨神経ブロックの有用性	整形外科	衣笠真紀、薩摩真一、小林大介、黒岩祐飛梅祥子、香川哲郎、鹿原史寿子	第23回	日本小児整形外科学会	福岡	2012.11.30-12.01
小児の下肢に発生した類骨骨腫と骨芽細胞腫の3例	整形外科	黒岩祐、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、飛梅祥子	第50回	近畿小児整形外科懇話会	大阪	2012.8.4
小児の大腿骨近位に発生した類骨骨腫及び骨芽細胞腫の2例	整形外科	黒岩祐、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、飛梅祥子	第23回	日本小児整形外科学会	福岡	2012.11.30
Windshield-wiper effect を起こした大腿骨頭すべり症の1例	整形外科	黒岩祐、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、飛梅祥子	第51回	近畿小児整形外科懇話会	大阪	2013.1.26
未熟児網膜症－情報最前線－	眼科	野村耕治	第11回	近畿弱視斜視アフタヌーンセミナー	大阪	2012.2.25
当院における過去10年間の未熟児網膜症診療	眼科	下山剛、野村耕治	第116回	日本眼科学会総会	東京	2012.4.5
兵庫県立こども病院における未熟児網膜症診療の発症ならびに治療状況	眼科	宇津永遠、野村耕治	第68回	日本小児眼科学会総会	名古屋	2012.6.29
調節性内斜視に対する累進多焦点コンタクトレンズの有用性	眼科	沖本聡志、野村耕治	第24回	日本弱視斜視学会総会	名古屋	2012.6.29
小児眼科検査：小児の前眼部検査におけるチェックポイント	眼科	野村耕治	第37回	日本小児眼科学会講習会	名古屋	2012.6.30
屈折異常に起因する弱視の診断と治療	眼科	野村耕治	第13回	神奈川県眼科学術講演会	神奈川	2012.10.4
早期に発見したい小児の眼の病気	眼科	野村耕治		明石市眼の愛護デー講演会	兵庫	2012.10.6

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
Management and the problems of the hearing ability evaluation of extremely-low-birth-weight infants	耳鼻咽喉科	H.Sakamoto, M.Otsu	第11回	International Conference of European Society of Paediatric Otorhinolaryngology.	Amsterdam, Nederland	2012.5.20-23
当科における喉頭肉芽腫症例の検討	耳鼻咽喉科	金城東和、阪本浩一	第24回	日本喉頭科学会	金沢	2012.3.8-9
ABR・ASSRと自覚聴力検査閾値に乖離を示した先天性大脳白質形成不全症の長期聴力経過	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	第113回	日本耳鼻咽喉科学会	新潟	2012.5.10-13
他覚的聴力検査と自覚的聴力検査の閾値の乖離例に関する検討	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	第7回	日本小児耳鼻咽喉科学会	岡山	2012.6.22
手術手技セミナー「乳幼児の呼吸障害に対する対応—喉頭軟弱症、睡眠時無呼吸から気道狭窄まで外科的対応を中心に—」	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第7回	日本小児耳鼻咽喉科学会	岡山	2012.6.22
小児耳鼻科をめぐる最近の話題—アレルギー性鼻炎、滲出性中耳炎、小児難聴など	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第15回	神戸ICカンファレンス	神戸	2012.7.14
乳幼児の睡眠呼吸障害に対する手術療法	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第10回	東播耳鼻科研究会	加古川	2012.9.20
ダウン症児の聴覚評価における ASSR の有用性と問題点	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	第57回	日本聴覚医学会	京都	2012.10.11
兵庫県立こども病院を言語の問題を主訴に受診した患児の動向	耳鼻咽喉科	阪本浩一、小松 岳、住友亞佐子	第57回	日本音声言語医学会	大阪	2012.10.19
慢性咳嗽に対する耳鼻科医の対応 (成人と小児の症例より)	耳鼻咽喉科	阪本浩一		播磨喘息連携研究会	加古川	2012.10.27
ワークショップ「院内・病診連携とチーム医療」慢性咳嗽診断における耳鼻咽喉科と呼吸器内科との連携—副鼻腔気管支症候群を一例に	耳鼻咽喉科	阪本浩一、金城東和、土屋貴昭	第64回	日本気管食道科学会	東京	2012.11.8
耳鼻咽喉科アレルギー疾患のトピック	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第21回	京都耳鼻咽喉科研究会	京都	2012.12.8
補聴器の種類、機能と価格	耳鼻咽喉科	大津雅秀		補聴器相談医更新のための講習会 (日本耳鼻咽喉科学会兵庫県地方部会)	神戸	2012.12.20

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
フィッティングのための調整手段	耳鼻咽喉科	大津雅秀		補聴器相談医更新のための講習会 (日本耳鼻咽喉科学会 兵庫県地方部会)	神戸	2012.12.20
最新の補聴器	耳鼻咽喉科	大津雅秀		補聴器相談医更新のための講習会 (日本耳鼻咽喉科学会 兵庫県地方部会)	神戸	2012.12.20
Top-down approach の妥当性 —有熱性尿路感染症で発見された原発性膀胱尿管逆流症児におけるスクリーニングとしての超音波検査と DMSA 腎シンチグラムの意義—	泌尿器科	杉多良文、桑原元、久松英治、西村謙一、中川賀清	第20回	日本逆流性腎症フォーラム	横浜	2012.1.28
A male infant of single-system ectopic ureter which required removal of the ureteral stump after nephrectomy	泌尿器科	Kentichi Nishimura, Eiji Hisamatsu, Hajime, Kuwabara, Yoshikiyo Nakagawa, Yoshifumi Sugita	第12回	The 12th meeting of the Korean and Japanese Society of Pediatric Urologists	Urayasu	2012.2.18
VURD 症候群の3例 —無機能腎摘除の際に尿管を温存すべきか?—	泌尿器科	久松英治、西村謙一、桑原元、中川賀清、杉多良文	第100回	日本泌尿器科学会総会	横浜	2012.4.22
高度尿道下裂に対する二期的手術	泌尿器科	杉多良文、久松英治、中川賀清、西村謙一、桑原元	第100回	日本泌尿器科学会総会	横浜	2012.4.23
重複尿道の11例	泌尿器科	西村謙一、桑原元、久松英治、中川賀清、杉多良文	第100回	日本泌尿器科学会総会	横浜	2012.4.23
尿道下裂手術における包皮肉様膜によるロール状新尿道被覆法の有効性	泌尿器科	中川賀清、桑原元、西村謙一、久松英治、杉多良文	第49回	日本小児外科学会総会	横浜	2012.5.16
教育セミナー： 腎盂尿管移行部通過障害、尿管膀胱移行部通過障害	泌尿器科	杉多良文	第22回	日本小児泌尿器科学会総会	岡山	2012.7.4
尿道下裂手術における包皮肉様膜によるロール状新尿道被覆法の有効性	泌尿器科	中川賀清、福田輝雄、久松英治、杉多良文	第22回	日本小児泌尿器科学会総会	岡山	2012.7.6
VURD 症候群の3例 —無機能腎摘除の際に尿管を温存すべきか?—	泌尿器科	久松英治、西村謙一、中川賀清、杉多良文	第22回	日本小児泌尿器科学会総会	岡山	2012.7.5
有熱性尿路感染症で発見された原発性膀胱尿管逆流症児における超音波検査と DMSA 腎シンチグラフィによる Top-down approach の妥当性	泌尿器科	杉多良文、福田輝雄、久松英治、中川賀清	第22回	日本小児泌尿器科学会総会	岡山	2012.7.5
腎尿管摘出後に下部尿管断端の切除が必要であった異所開口尿管の一男児例	泌尿器科	福田輝雄、西村謙一、久松英治、中川賀清、杉多良文	第22回	日本小児泌尿器科学会総会	岡山	2012.7.6

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
膀胱尿管逆流に関する諸問題	泌尿器科	杉多良文	第34回	日本小児腎不全学会学術集会	洲本	2012.9.13
One-stage preputial free graft repair	泌尿器科	Yoshifumi Sugita	第32回	The 32nd Congress of the Société Internationale d'Urologie	Fukuoka	2012. 9.30
One-stage hypospadias repair with preputial free graft wrapped with preputial dartos flap	泌尿器科	Yoshifumi Sugita, Yoshikiyo Nakagawa, Eiji Hisamatsu, Teruo Fukuda	第14回	Annual Congress of Asia-Pacific Association of Pediatric Urologists	Busan	2012.10.5
Vaginal reconstruction in female exstrophy patients	泌尿器科	Eiji Hisamatsu, Teruo Fukuda, Yoshikiyo Nakagawa, Yoshifumi Sugita	第14回	Annual Congress of Asia-Pacific Association of Pediatric Urologists	Busan	2012.10.5
フェンタニル持続静注による術後鎮痛の副作用 - 小児831例の検討 -	麻酔科	鹿原史寿子、古賀聡人、野々村智子、高辻小枝子、池島典之、香川哲郎	59	日本麻酔科学会	神戸	2012.6.7
小児におけるカフ付き気管チューブのサイズ選択の検討	麻酔科	野村有紀、似内久美子、廣瀬徹也、巻野将平、大西広泰、香川哲郎	59	日本麻酔科学会	神戸	2012.6.8
上部消化管内視鏡検査中の血圧変動から ARSCA が判明した1症例	麻酔科	廣瀬徹也、山田恵子、池島典之、鈴木毅、香川哲郎	58	日本麻酔科学会関西支部学術集会	大阪	2012.9.1
食道異物によって気管・食道瘻をきたした患者の麻酔経験	麻酔科	野々村智子、古賀聡人、塚口敦子、長井友紀子、鈴木毅、香川哲郎	18	日本小児麻酔学会	栃木	2012.9.28
てんかん合併患者の全身麻酔中に認めた Bispectral Index (BIS) の異常変動	麻酔科	宮本沙美、池島典之、本田真子、山長修、大西広泰、鹿原史寿子、土居ゆみ、香川哲郎	18	日本小児麻酔学会	栃木	2012.9.29
Fogarty カテーテルを用いた C 型食道閉鎖症の麻酔管理	麻酔科	古賀聡人、似内久美子、末田彩、香川哲郎	32	日本臨床麻酔学会	福島	2012.11.2
脊髄くも膜下麻酔で行った未根治修正大血管転位症合併妊婦の2回の予定帝王切開術の麻酔管理	麻酔科	上北郁男、長井友紀子、似内久美子、鹿原史寿子、鈴木毅、香川哲郎	116	日本産科麻酔学会	大宮	2012.12.8
Surfactant lavage therapy for respiratory deterioration in extremely premature infants with developing bronchopulmonary dysplasia	新生児科	Sota Iwatani, Masami Mizobuchi, Sayaka Kawai, Satoshi Tanaka, Kei Inomata, Hitomi Sakai, Seiji Yoshimoto, Hideto Nakao		FAOPS & PSANZ	Sydney	2012.03
Increased levels of interleukin-6 in tracheal aspirate fluid at birth reflect the presence of severe histologic chorioamnionitis	新生児科	Sota Iwatani, Masami Mizobuchi, Sayaka Kawai, Satoshi Tanaka, Kei Inomata, Hitomi Sakai, Seiji Yoshimoto, Hideto Nakao		The 8th Congress of Asian Society of Pediatric Research	Seoul	2012.05
Early Detection of VAP with IL-6 in Tracheal Aspirate Fluid in Preterm Infants	新生児科	Masami Mizobuchi, Sota Iwatani, Satoshi Tanaka, Kei Inomata, Hitomi Sakai, Seiji Yoshimoto, Hideto Nakao		The 8th Congress of Asian Society of Pediatric Research	Seoul	2012.05

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
Perinatal factors associated with multiple large cysts on chest computed tomography in extremely premature infants with chronic lung disease	新生児科	Hitomi Sakai, Masami Mizobuchi, Satoshi Tanaka, Kazumichi Fujioka, Sora Iwatani, Keiko Wada, Seiji Yoshimoto, Hideto Nakao		The 4th Congress of the European Academy of Paediatric Societies	Istanbul	Oct5-9,2012
支持療法にて体重増加を図り、手術的介入が可能となった、左心低形成症候群の極低出生体重児の一例	新生児科	宮田憲二、河合清日、田中聡、猪俣慶、岩谷壮太、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第255回	日本小児科学会兵庫県地方会	塚口	2012.2.4
NO 吸入療法の新たなる展開 ～早産児への早期予防投与～	新生児科	岩谷壮太、宮田憲二、河合清日、田中聡、猪俣慶、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第21回	近畿新生児学会	大阪	2012.3.10
広範囲型 Hirschsprung 病と前頭部白毛症を合併した1例	新生児科	祖父江俊樹、河合清日、田中聡、猪俣慶、岩谷壮太、坂井仁美、溝淵雅巳、中尾秀人	第25回	近畿小児科学会		・ 2012.3.11
Kasabach-Merritt 症候群を合併した新生児肝血管腫に ピンクリスチンが奏効した一例	新生児科	田中聡、祖父江俊樹、河合清日、宮田憲二、猪俣慶、岩谷壮太、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第25回	近畿小児科学会		・ 2012.3.11
新生児巨大肝血管腫の治療選択 過去4例の検討	新生児科	田中聡、猪俣慶、岩谷壮太、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第115回	日本小児科学会	福岡	2012.4.20-22
総合周産期母子医療センターにおける食道閉鎖症の 合併疾患、病型による初期管理の違い	新生児科	芳本誠司、田中聡、猪俣慶、岩谷壮太、坂井仁美、溝淵雅巳、中尾秀人	第115回	日本小児科学会	福岡	2012.4.20-22
当院における臍帯ヘルニアの背景および予後規定因 子の検討	新生児科	宇仁田亮、白鳥孝俊、村上優子、田中聡、藤岡一哉、岩谷壮太、和田佳子、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第256回	日本小児科学会 兵庫県地方会	神戸	2012.5.26
前前期破水における児の娩出時期の検討 嚢胞性脳室周囲白質軟化症は防げるか	新生児科	河合清日、猪俣慶、田中聡、岩谷壮太、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第48回	日本周産期新生児 医学会	埼玉	2012.7.8-10
新生児低酸素性虚血性脳症の急性期 MRI と生後18ヵ 月における神経学的予後の関連性	新生児科	田中聡、河合清日、猪俣慶、岩谷壮太、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第48回	日本周産期新生児 医学会	埼玉	2012.7.8-10
切迫早産管理における母体硫酸マグネシウム投与に より新生児蘇生の必要性は上昇しているか？	新生児科	岩谷壮太、河合清日、田中聡、猪俣慶、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第48回	日本周産期新生児 医学会	埼玉	2012.7.8-10
在胎26週未満の CLD に対するハイドロコロルゾン投 与は CLD の重症化を抑制するか？	新生児科	坂井仁美、河合清日、猪俣慶、田中聡、岩谷壮太、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第48回	日本周産期新生児 医学会	埼玉	2012.7.8-10
Small-for-dates 児における腸管機能障害と血液学的異 常の関連性	新生児科	溝淵雅巳、河合清日、猪俣慶、田中聡、岩谷壮太、坂井仁美、芳本誠司、中尾秀人	第48回	日本周産期新生児 医学会	埼玉	2012.7.8-10
34週時心電図所見の慢性肺疾患の重症度による違い	新生児科	芳本誠司、河合清日、猪俣慶、田中聡、岩谷壮太、坂井仁美、溝淵雅巳、中尾秀人	第48回	日本周産期新生児 医学会	埼玉	2012.7.8-10

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
胎内診断された巨大頭蓋内奇形腫の5例	新生児科	谷口紫野、田中聡、村上優子、岩谷壮太、藤岡一路、和田佳子、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第257回	日本小児科学会 兵庫県地方会	姫路	2012.9.29
母体硫酸マグネシウムの総投与量は新生児予後に影響するか？	新生児科	村上優子、藤岡一路、岩谷壮太、和田佳子、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第57回	日本未熟児新生児学会	熊本	2012.11.25-27
新生児脳障害における拡散テンソル画像とtractography	新生児科	田中聡、村上優子、藤岡一路、岩谷壮太、和田佳子、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第57回	日本未熟児新生児学会	熊本	2012.11.25-27
一絨毛膜二羊膜双胎のselective IUGRにおける出生時 NT-proBNP 値の検討	新生児科	藤岡一路、坂井仁美、溝淵雅巳、村上優子、田中聡、岩谷壮太、和田佳子、芳本誠司、中尾秀人	第57回	日本未熟児新生児学会	熊本	2012.11.25-27
藤岡一路、坂井仁美、溝淵雅巳、村上優子、岩谷壮太、和田佳子、芳本誠司、中尾秀人	新生児科	岩谷壮太、村上優子、田中聡、藤岡一路、坂井仁美、和田佳子、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第57回	日本未熟児新生児学会	熊本	2012.11.25-27
当院における致死性骨異形成症の周産期臨床像	新生児科	和田佳子、芳本誠司、村上優子、田中聡、藤岡一路、坂井仁美、岩谷壮太、坂井仁美、溝淵雅巳、中尾秀人	第57回	日本未熟児新生児学会	熊本	2012.11.25-27
31週未満の早産児の慢性期高ビリルビン血症とアテトーゼ型脳性麻痺の関連性	新生児科	坂井仁美、村上優子、田中聡、藤岡一路、岩谷壮太、和田佳子、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第57回	日本未熟児新生児学会	熊本	2012.11.25-27
気管吸引液分析による早期診断により救命し得た在胎22週の緑膿菌性人工呼吸器関連肺炎の一例	新生児科	溝淵雅巳、田中聡、藤岡一路、岩谷壮太、坂井仁美、和田佳子、芳本誠司、中尾秀人	第57回	日本未熟児新生児学会	熊本	2012.11.25-27
生後早期の症候性動脈管閉存症に対して治療をおこなった在胎25-27週児の合併症	新生児科	芳本誠司、村上優子、田中聡、藤岡一路、岩谷壮太、和田佳子、坂井仁美、溝淵雅巳、中尾秀人	第57回	日本未熟児新生児学会	熊本	2012.11.25-27
Prader-Willi 症候群の 新生児期臨床像	新生児科	宇仁田亮、白鳥孝俊、村上優子、田中聡、藤岡一路、岩谷壮太、和田佳子、坂井仁美、溝淵雅巳、中尾秀人		神戸新生児内分泌 研究会	神戸	2012.5.31
兵庫県の緊急母体搬送の状況と最近経験した注意すべき症例	産科	船越徹	第5回	北神三田産婦人科 連携フォーラム	神戸	2012.1.22
周産期における救急対応と兵庫県の緊急母体搬送	産科	船越徹	平成23年度	神戸市立医療センター 中央市民病院研修医 セミナー	神戸	2012.2.11
妊娠30週未満出生胎児発育不全児における出生前ステロイド投与状況と児の短期予後	産科	喜吉賢二	第8回	浜名湖カンファレンス	浜松	2012.3.4-5
平成22年兵庫県周産期医療システム母体紹介搬送情報提供書集計結果について	産科	船越徹	平成23年度	家族計画母体保護法指 導者講習会伝達講習会	尼崎	2012.3.9

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
妊娠33週の前記破水症例は tocolysis すべきか？妊娠33週と34週はすいにおける妊娠転機・新生児短期予後の検討	産科	西本昌司、牧志 綾、佐々木紘子、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越徹	第6回	周産期新生児感染症研究会	神戸	2012.4.8
当院での75g OGTT 施行例の背景と新妊娠糖尿病(GDM) 診断基準の影響	産科	佐々木紘子、牧志 綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越徹	第64回	日本産科婦人科学会	神戸	2012.4.14-16
妊娠28週未満前記破水後長期妊娠継続例の新生児予後と背景因子の解析	産科	喜吉賢二、牧志綾、佐々木紘子、高松祐幸、佐本崇、船越徹	第64回	日本産科婦人科学会	神戸	2012.4.14-16
当院における出生時臍帯動脈 pH7.0未満であった児の背景と予後	産科	牧志綾、佐々木紘子、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越徹	第64回	日本産科婦人科学会	神戸	2012.4.14-16
一絨毛膜一羊膜双胎26例の周産期予後と臨床的特徴	産科	村田将春1)、石井桂介1)、村越毅2)、喜吉賢二、高橋雄一郎3)、左合治彦4)、川口晴菜1)、山本亮1)、林周作1)、光田(信明)1) 大阪府立母子保健総合医療センター1)、聖隷浜松病院総合周産期医療センター2)、長良医療センター3)、国立成育医療研究センター4)	第64回	日本産科婦人科学会	神戸	2012.4.14-16
既往歴より予測困難であった癒着胎盤3症例の検討	産科	佐々木紘子、西本昌司、牧志 綾、喜吉賢二、高松祐幸、佐本崇、船越徹、病理診断科 吉田牧子	第86回	兵庫県産科婦人科学会 学術集会	神戸	2012.6.11
出生前診断が可能であった右側大動脈弓3例の検討	産科	喜吉賢二、西本昌司、牧志 綾、佐々木紘子、高松祐幸、佐本崇、船越徹	第126回	近畿産科婦人科学会	大阪	2012.6.17-18
妊娠30週未満出生胎児発育不全児における出生前スワイド投与状況と児の短期予後	産科	喜吉賢二、牧志綾、佐々木紘子、高松祐幸、佐本崇、船越徹	第48回	日本周産期新生児医学会	さいたま市	2012.7.9-11
当院で管理した慢性胎盤早期剥離が疑われた症例の検討	産科	牧志綾、佐々木紘子、喜吉賢二、高松祐幸、佐本崇、船越徹	第48回	日本周産期新生児医学会	さいたま市	2012.7.9-11
当院で経験した肝血管腫4例	産科	佐々木紘子、牧志綾、喜吉賢二、高松祐幸、佐本崇、船越徹	第48回	日本周産期新生児医学会	さいたま市	2012.7.9-11
品胎妊娠における胎児間輸血症候群 (FFTS) に対する胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術の経験	産科	石井桂介1)、川口晴菜1)、中山聡一郎1、2)、城道久、喜吉賢二、山本亮1)、村田将春1)、笹原淳1)、林周作1)、日高庸博1)、光田(信明)1) 1) 大阪府立母子保健総合医療センター、2) 徳島大学産婦人科	第48回	日本周産期新生児医学会	さいたま市	2012.7.9-11
産科医療補償制度再発防止に関する報告書から学ぶ	産科	船越徹	平成24年	位育会臨床セミナー	神戸	2012.7.22

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
妊娠中期に静脈管血流異常を呈した巨大臍帯嚢胞の一例	産科	喜吉賢二、志水香保里、葉宜慧、上田智弘、牧志綾、高松裕幸、角健司、佐本崇、船越徹	第35回	母体胎児医学会	浦安	2012.8.24-25
MCA-PSVが有用であった Twin anemia/polycythemia sequence (TAPS) の一例	産科	志水香保里、喜吉賢二、牧志綾、葉宜慧、上田智弘、高松裕幸、角健司、佐本崇、船越徹	第35回	母体胎児医学会	浦安	2012.8.24-25
妊娠31週で1子エプスタイン奇形と診断された一絨毛二羊膜性双胎の1例	産科	西垣久美代1)、松本郁子1)、四元寿江1)、井手敦子1)、小寺郁美1)、入野博文1)、近平佳美1)、佐藤田美2)、船越徹、検査放射線部1)、循環器内科2)	平成24年度	兵庫県病院学会	神戸	2012.8.26
A large umbilical cord pseudocyst manifesting ductus venosus Doppler abnormality: a case report	産科	Kenji Kiyoshi, Aya Makishi, Hiroko Sasaki, Yuko Takamatsu, Takashi Samoto, Toru Funakoshi	22nd	World Congress on Ultrasound in Obstetrics and Gynecology	Copenhagen, Denmark	2012.9./10-14
Prenatally diagnosed spontaneous twin anemia-polycythemia sequence without twin-to-twin transfusion syndrome (TTTS) : a case report	産科	Aya Makishi, Kenji Kiyoshi, Hiroko Sasaki, Yuko Takamatsu, Takashi Samoto, Toru Funakoshi	22nd	World Congress on Ultrasound in Obstetrics and Gynecology	Copenhagen, Denmark	2012.9.10-14
産科医療補償制度再発防止に関する報告書から学ぶ	産科	船越 徹	第45回	阪神周産期勉強会	西宮	2012.10.19
28週未満における前期破水の管理とF I R S (fetal inflammatory response syndrome)	産科	角 健司	第169回	こども病院症例検討会	神戸	2012.11.23
治療にて胎児頻脈は改善したが救命できなかった症例	産科	喜吉賢二	第10回	胎児治療学会	仙台	2012.11.30-12.1
当科における出生前診断の告知	産科	喜吉賢二	平成24年度	兵庫県周産期医療研修会	神戸	2012.12.16
The role of progesterone and thyroid hormone in trophoblast invasion in early placental development	産科	Maruo T, Liu J, Laoag-Fernandez J, Okl N, Matsuo H	15th	World Congress of Gynecological Endocrinology	Florence (Italy)	2012.3.10
Lessons learned from the preclinical drug discovery of ulipristal for non-surgical treatment of uterine leiomyomas	産科	Maruo T	100th	Meeting of the International Committee for Contraception Research "New Vision for Contraceptive Research & Development"	New York (USA)	2012.4.20
小児救急疾患の画像診断 -知っていると役立つ15の疾患:3. 腹部骨盤領域	放射線科	赤坂好宣	31	日本画像医学会	東京	2012.2.18

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
イメージインタープレーションセッション(症例6)	放射線科	赤坂好宣	71	日本医学放射線学会 総会	横浜	2012.4.14
リフレクチャーコース・小児の奇形：泌尿生殖器	放射線科	赤坂好宣	48	日本医学放射線学会 秋季臨床大会	長崎	39720
知っているのと役に立つ小児の疾患	放射線科	赤坂好宣	43	神戸放射線医学術 交流会	神戸	2012.11.13
若年性卵巣顆粒膜細胞腫の1例	放射線科	杉岡勇典、阿部洋子、赤坂好宣、西山章次、 吉田牧子	300	日本医学放射線学会関 西地方会	大阪	2012.3.3
小児卵巣腫瘍に伴って発症した傍腫瘍性辺縁系脳炎 の1例	放射線科	杉岡勇典、赤坂好宣、西山章次、山口普通、 吉田牧子	48	日本小児放射線学会	東京	2012.6.29
胸腔内腫瘍の1例	兵庫県立こども 病院 病理診断 科1)、血液腫瘍 科2)、小児外科 3)、救急集中治 療科4)、放射線 科5)	吉田牧子1)、田中愛子2)、川崎圭一郎2)、 大森翔子2)、小坂嘉之2)、横井暁子3)、 田村亮3)、楠元真由美4)、山口普通4)、 竹田洋樹4)、赤坂好宣5)、杉岡勇典5)、 安部洋子5)	第66回	関西小児病理研究会	大阪市	2012.1.14
多数の「顆粒細胞」の出現を認めた上衣腫の2例	1大阪赤十字病院 病理部、2兵庫 県立こども病院 検査放射線部 病理室、3J A 新潟県厚生連長 岡中央病院 病 理部、4上越総合 病院 脳神経外 科、5兵庫県立こ ども病院 脳神 経外科	新宅雅幸1、吉田牧子2、五十嵐俊彦3、 荒川泰明4、長嶋達也5	第30回	日本脳腫瘍病理学会	名古屋	2012.5.25
超早産児の1剖検例	兵庫県立こども 病院 病理診断 科1)、新生児科2)	吉田牧子1)、藤岡一路2)、溝淵雅巳2)、 芳本誠司2)、中尾秀人2)	第67回	関西小児病理研究会	大阪市	2012.6.30
胸腔内腫瘍	病理診断科	吉田牧子	2012年	2012年日本病理学会小 児腫瘍組織分類委員会 症例検討会	大阪市	2012.9.7
Disorders of sex development (DSD) 20症例の病理組 織学的検討	兵庫県立こども 病院、1病理診断 科、2泌尿器科、3 代謝内分泌内科	吉田牧子 ¹ 、久松英治 ² 、杉田良文 ² 、郷司克己 ³ 、 尾崎佳代 ³	第32回	日本小児病理研究会	大阪市	2012.9.8

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
問欠的自己導尿の実際	看護部	鎌田直子	第17回	日本小児ストーマ・排泄管理セミナー	仙台市	2012.4.27
A 小児専門病院における逆行性洗腸法の適応と効果、および位置づけ	看護部	鎌田直子	第26回	日本小児ストーマ・排泄管理研究会	仙台市	2012.4.28
小児の尿・便禁診療における多職種協働 WOCNの立場から	看護部	鎌田直子	第21回	日本創傷・オストミー・失禁管理学会	神戸市	2012.5.11
先天性心疾患の子どもをもつ母親に対する育児教室の効果	看護部	中野幸子、赤尾梨恵、木村弘子	第48回	日本小児循環器学会 総会・学術集会	京都市	2012.7.7
患者のセルフケア能力向上に向けた循環器患者教室を開催してフォロタン型手術に対する運動療法	看護部	渡辺旭代、木村弘子	第48回	日本小児循環器学会 総会・学術集会	京都市	2012.7.7
先天性心疾患で出生時よりICUに長期入室となった子どもの母親の思い	看護部	西川菜央、伊丹照美、中谷扶美	第22回	日本小児看護学会 学術集会	盛岡市	2012.7.21-22
思春期における軟骨無形成症のある人のボディ・イメージの構成要素と影響要因 ー属性と体験別の特徴ー	看護部	文字智子、二宮啓子	第22回	日本小児看護学会 学術集会	盛岡市	2012.7.21-22
1型糖尿病看護相談外来の効果の検討 ～子どもの病気のとらえ方の変化～	看護部	泊菊子、小澤一美、 中谷扶美、大西美樹	第22回	日本小児看護学会 学術集会	盛岡市	2012.7.21-22
学童ベッドにおける転倒転落アセスメントツール作成	看護部	二星淳吾	第22回	日本小児看護学会 学術集会	盛岡市	2012.7.21-22
新人看護師入職後1年目・2年目の看護観の横断的変化の分析 ～看護観のレポート分析を通して～	看護部	成田康子、檜垣美香子、 菰野朱美、竹井朋子	第16回	日本看護管理学会	札幌市	2012.8.23-24
新人看護職員研修ガイドラインに基づいた新人研修への取り組みの成果	看護部	竹井朋子、菰野朱美、 檜垣美香子、成田康子	第16回	日本看護管理学会	札幌市	2012.8.23-24
こども病院における褥瘡対策状況	看護部	鎌田直子	第10回	県立病院学会	神戸市	2012.8.25
洗腸実施困難な子どもへのポータフォリオの活用	看護部	蓑代裕美	第10回	県立病院学会	神戸市	2012.8.25
先天性心疾患女性患者を対象にした循環器科患者教室	看護部	中西亜希子	第10回	県立病院学会	神戸市	2012.8.25
小児専門病院における訪問看護ステーション対象研修の評価	看護部	二星淳吾	第10回	県立病院学会	神戸市	2012.8.25

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
循環器病棟における乳児の母親への遊び支援 ～看護師と保育士の協働する育児教室の中で～	看護部	奥田早苗、中倉裕美子、中野幸子、赤尾梨恵	第10回	県立病院学会	神戸市	2012.8.25
こども病院における看護師・保育士による協働 ～処置前のこどもへのプリパレーション・ディスト ラクションの取り組み～	看護部	中村公美子、東谷直子、井川沙弥佳、 渡邊千恵、萱野いづみ	第10回	県立病院学会	神戸市	2012.8.25
新生児期からの嚥下・哺乳に向けての支援 ～経口哺乳が確立した一事例～	看護部	高木のぶ子、森本葉子	第17,18回 共催	日本摂食・嚥下リハビ リテーション学会学術 大会	札幌市	2012.8.31-9.1
コンセンサスシナポジウム5医療機器関連圧迫創 小児専門病院における調査結果	看護部	鎌田直子	第14回	日本褥瘡学会	横浜市	2012.9.1
排尿・排便管理の指導および看護の関わり	看護部	鎌田直子		先天性脊髄疾患児の トータルセミナー	東京都新 宿区	2012.10.6
小児の失禁ケア	看護部	鎌田直子	平成24年度	山陽学園皮膚・排泄 ケア認定看護師研修	岡山県	2012.10.13
小児ストーマケア	看護部	鎌田直子	平成24年度	関西ストーマケア 講習会	神戸市	2012.10.25
失禁コントロールケア	看護部	鎌田直子	第3回	近畿小児WOCケア 勉強会	神戸市	2012.11.24
A 小児専門病院における褥瘡対策状況	看護部	鎌田直子	第23回	近畿小児ストーマ・ 排泄・創傷研究会	神戸市	2012.11.24
哺乳障害のある早産児への経口哺乳確立に向けた支援 ～哺乳反射がみられなかった2事例を考察して～	看護部	高木のぶ子、植山真記、安田江里、岸麻里、 杉森恵美、内海祐子	第22回	日本新生児看護学会 学術集会	熊本市	2012.11.25-26
NICUでのファミリーセンタードケアに対する家族 と看護師の認識の検討	看護部	松田ルミ、寺川亜希、福田理香、伊達尚美、 竹井朋子	第22回	日本新生児看護学会 学術集会	熊本市	2012.11.25-26
NICUにおける対象理解を重視したオリエンテーシ ョンの効果検証	看護部	奈須瞳、井谷洋美、伊達尚美、竹井朋子	第22回	日本新生児看護学会 学術集会	熊本市	2012.11.25-26
周産期医療センター乳房外来での看護支援 ～乳汁分泌を維持するために	看護部	杉友ユリ	第53回	日本母性衛生学会	福岡市	2012.11.16-17
血友病中等症児・家族に対する 家庭内輸注指導への取り組み	看護部	小澤一美	第9回	血友病看護研究会 血友病フォーラム	横浜市	2012.12.2
患者家族に寄り添う看護	看護部	杉友ユリ	平成23年度	周産期研修会	神戸市	2012.12.15

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
疑義紹介内容から考える院外処方箋の課題 ＜保険薬局が病院近隣にない場合＞	薬剤部	池田絵里佳	33	日本病院薬剤師会近畿 学術大会	大阪市	2012.1.21
小児がん化学療法におけるアプレピタントの制吐効果に関する検討	薬剤部	上野陽介	10	兵庫県立病院学会	神戸市	2012.8.26
小児ネフローゼ症候群患者に対する薬剤管理指導と 適正な薬物使用に向けた取り組み	薬剤部	池田絵里佳	10	兵庫県立病院学会	神戸市	2012.8.26
門前薬局のない小児専門病院が院外処方箋を発行した たときの課題（第2報）	薬剤部	辻本勉	45	日本薬剤師会	浜松市	2012.10.7
小児救急に膵飲で来院する患者の膵飲物質は 多様である	薬剤部	辻本勉	22	日本医療薬学会年会	新潟市	2012.10.28
妊娠31週で1子エプスタイン奇形と診断された一級毛 二羊膜性双胎の1例	検査放射線部	西垣久美代、四元寿江、松本郁子、井手敦子、 小寺郁美、入野博文、近平佳美、佐藤由美、 船越徹	第10回	県立病院学会分科会	神戸	2012.8.25
聴性定常反応検査（ASSR）の意義 聴性脳幹反応（ABR）と比較して	検査放射線部	四元寿江、松本郁子、西垣久美代、井手敦子、 小寺郁美、阪本浩一	第10回	県立病院学会分科会	神戸	2012.8.25
こども病院における血液製剤の院内分割への取り組み ～新生児への輸血のために～	検査放射線部	瀧本良美、野口啓子、細見照美、千田園子、 近平佳美	第10回	県立病院学会分科会	神戸	2012.8.25
異常ブータ発生時における当院の検査システム活用例	検査放射線部	入野博文	第52回	日臨技関西支部医学 検査学会	和歌山	2012.9.29
AIDR 3Dを用いた線量低減画像の視覚評価	検査・放射線部 放射線科	藤井友紀子	平成24年度	兵庫県立病院放射線 技師研修会	神戸市	2012.7.7
小児血管造影検査における空気カメラ表示を用いた 線量管理の検討	検査・放射線部 放射線科	関尾直士	第10回	県立病院学会	神戸市	2012.8.25
MRI検査において片頭痛発作による脳血管収縮/拡張 画像を得られた一例	検査・放射線部 放射線科	藤井友紀子	第10回	県立病院学会	神戸市	2012.8.25
小児血管造影検査における術者被曝線量調査	検査・放射線部 放射線科	射場智美	第10回	県立病院学会	神戸市	2012.8.25
こども病院での唐待予防のとりくみ	指導相談・地域 医療連携部	野呂朝子、原田富士子、橋本ひとみ、 宅見晃子	第10回	兵庫県立病院学会	神戸市	2012.8.25
在宅療養指導管理料を算定する患者への支援 ～在宅物品等交付窓口の設置～	指導相談・地域 医療連携部	橋本ひとみ、大西美樹、山上美和	第10回	兵庫県立病院学会	神戸市	2012.8.25

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	開催都市名	開催年月日
DENV E R II 判定法の実際	指導相談・地域医療連携部	宅見晃子	第59回	日本小児保健学会	岡山市	2012.9.27
虐待疑い事例への対応	指導相談・地域医療連携部	宅見晃子		兵庫県育児支援研究会	神戸市	2012.9.1
虐待者を作らないために	指導相談・地域医療連携部	宅見晃子		育児リーダー養成講座	川西市	2012.10.4
子どもの心と行動の理解～心豊かに育てるために～	指導相談・地域医療連携部	宅見晃子		青少年健全育成大会	多可郡	2012.1.28
ALL 標準リスク群 W I S C - I V の結果について	指導相談・地域医療連携部	藤井美有		ALL 標準リスク群の治療による認知発達への影響の他施設研究発表	東京都	2012.2.19
栄養士部会シンポジウム 膵臓癌、イレウス症例を通して考える中心静脈栄養のアセスメントとケアプラン	栄養指導課	鳥井隆志	第27回	日本静脈経腸栄養学会	神戸市	2012.2.24
栄養教育における小児の栄養アウトカム指標の選択とその根拠	栄養指導課	鳥井隆志	第9回	日本小児栄養研究会	西宮市	2012.3.10
肝臓病の症状・治療別の食事療法	栄養指導課	鳥井隆志		肝臓病市民公開講座 肝臓がんなんかに負けない	西宮市	2012.2.4
こどもの肥満について	栄養指導課	鳥井隆志		平成24年度 東はりま特別支援学校職員研修会	加古郡	2012.7.31
小児栄養スクリーニング	栄養指導課	鳥井隆志		兵庫県栄養士会生涯学習研修会	神戸市	2012.8.4
こども病院における小児栄養管理の実際	栄養指導課	鳥井隆志		平成24年度 京都府南丹保健所管内リトルエンジェル養育支援事業従事者研修会	南丹市	2012
川崎病後の急性心筋梗塞に対し長期 ECMO から離脱・救命しえた一症例	診療器材管理室	志智美咲、横山真司、岩崎一崇	第31回	日本体外循環技術医学会近畿地方大会	神戸	2012.2.25
新生児 ECMO における血液製剤の使用と抗凝固	診療器材管理室	横山真司	第5回	日本小児 ECLS 研究会	京都	2012.7.7

4) 実習生・研修生受け入れ状況 (2012年)

①実習生

診療部

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸大学医学部	6年次学外実習	2	6月17日～28日、7月1日～12日	小児救急医療センター
神戸赤十字病院	初期研修医	1	10月1日～12月31日	小児救急医療センター
兵庫県立淡路病院	初期研修医	1	8月1日～31日	小児救急医療センター
灘区役所	精神科	1	8月8日～11月27日	精神科外来
神戸総合医療専門学校	見学	4	5月11日～5月31日	外来及び手術室
九州保健福祉大学視機能療法学科	見学	1	6月4日～6月22日	外来及び手術室
大阪総合医療専門学校 (見学実習)	見学	2	3月5日～3月9日	外来及び手術室
兵庫県立総合衛生学院 歯科衛生学科		2	1月18日～2月10日	歯科外来・他
神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科		1	4月17日～5月11日	歯科外来・他
神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科		2	6月12日～6月29日	歯科外来・他
兵庫歯科学院専門学校 歯科衛生学科		2	7月2日～7月30日	歯科外来・他
兵庫歯科学院専門学校 歯科衛生学科		2	10月1日～10月30日	歯科外来・他
兵庫県立総合衛生学院 歯科衛生学科		2	11月29日～12月25日	歯科外来・他
神戸総合医療専門学校	言語聴覚士学生実習	1	2月6日～2月10日	耳鼻咽喉科外来、手術室、6A病棟
神戸総合医療専門学校	言語聴覚士学生実習	1	10月29日～11月30日	耳鼻咽喉科外来および形成科外来、手術室、6A病棟

看護部

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫県立大学看護学部	総合看護 (小児)	10	5月28日～6月22日	病棟 (7F、5A、5B、4B、HCU)
	総合看護 (健康行動・生涯学習)	6	5月28日～6月23日	病棟 (6A、6B)
	総合看護 (母性)	7	5月28日～6月22日	産科病棟
	生涯健康看護	18	7月2日～20日	病棟 (7F、6A、6B、5A、5B、4B)
	生涯健康看護	6	7月3日～7月20日	産科病棟
	実践研究 (4回生)	9	8月27日～9月28日	病棟 (6B、5A、5B、産科)
	生涯健康看護	20	10月1日～10月19日	病棟 (7F、6A、6B、5A、5B、4B)
	生涯健康看護	6	10月2日～10月19日	産科病棟
	総合看護技術	24	12月4日～12月6日， 12月10日～12月12日	病棟 (7F、6A、6B、5A、5B、4B)

	出会い	20	1月28日～2月8日	病棟 (7F、6A、6B、5A、5B、4B)
兵庫県立総合衛生学院	小児看護学 (看護学科全日制)	13	9月4日～9月14日	病棟 (7F、6A、6B、4B)
	小児看護学 (看護学科全日制)	6	10月23日～11月2日	病棟 (7F、4B)
	小児看護学 (看護学科定時制)	7	5月15日～5月25日	病棟 (6A、6B)
	小児看護学 (看護学科定時制)	6	9月4日～9月14日	病棟 (5A、5B)
	小児看護学 (看護学科定時制)	6	9月18日～9月28日	病棟 (5A、5B)
	母性看護学 (看護学科定時制)	4	6月25日～6月26日	産科病棟
	母性看護学 (看護学科定時制)	6	8/20～8/21	産科病棟
	母性看護学 (看護学科定時制)	6	9月10日～9月11日	産科病棟
	母性看護学 (看護学科定時制)	6	9月18日～9月19日	産科病棟
	母性看護学 (看護学科定時制)	6	9月24日～9月25日	産科病棟
	助産学科	4	9月25日～9月27日	GCU
	助産学科	4	10月2日～10月4日	GCU
	助産学科	4	1月16日～1月18日	GCU
	助産学科	3	1月22日～1月24日	GCU
常磐大学	課題別総合実習 (4回生)	7	8月20日～8月31日	病棟 (7F、6A)
	統合実習	9	8月20日～8月31日	病棟 (6B、5A、5B、4B)
	こども看護	8	9月24日～28日	病棟 (6A、6B)
	こども看護	7	10月23日～11月1日	病棟 (6A、6B)
	こども看護	13	11月13日～11月22日	病棟 (7F、6A、6B、5A、5B、4B)
	大学院研究科小児看護学博士前期課程	1	5月16日～9月10日	病棟 (7F、5A)
	母性高度実践看護実習 I	1	10月5日～3月31日	産科病棟
	母性高度実践看護実習 III	1	10月31日～2月14日	産科病棟
	大学院研究科修士論文研究	1	9月11日～2/28	病棟 (7F、5A)
	小児高度実践実習 I 小児治療看護実習	1	11月1日～3月29日	病棟 (7F、5A、5B、4B、外来)
神戸市看護大学	大学院博士前期課程小児看護学特講演習	1	10月1日～3月29日	HCU
	大学院研究科小児看護学博士前期課程	1	4月25日～7月31日	病棟 (6A)
	大学院研究科小児看護学博士後期課程	1	5月	看護師5名インタビュ-
	大学院研究科小児看護学博士前期課程	1	8月20日～21日、9月13日	外来、CN・CNS 会議、新人研修
	大学院研究科家族看護学博士前期課程	1	10月11日	6B、CN・CNS 会議
関西看護医療大学	看護学科 見学	50	12月18日	
	看護学科 見学	50	1月23日	

阪奈中央看護学校	看護学科 見学	39	2月28日	
川崎医療短大	保育学科	2	8月20日～31日	病棟 (7F、6B)
	保育学科	2	9月3日～14日	病棟 (7F、5B)
姫路獨協大学	教育学部	1	2月4日～15日	病棟 (7F)
滋賀大学	教育学部病棟保育見学	1	8月31日	病棟 (7F、5B)
武庫川女子大学	文学部教育学科病棟保育見学	2	3月22日	病棟 (5A)
姫路獨協大学臨床工学科	臨床実習	3	10月26日～11月16日	ME室、手術室、ICU など

薬剤部

学 校 名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
京都薬科大学	薬学生実務実習	1名	10月1日～12月14日	薬剤部と主な部署
神戸薬科大学	薬学生実務実習	1名	10月1日～12月14日	薬剤部と主な部署

検査・放射線部 (検査)

学 校 名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸常盤大学保健科学部	3年次臨地実習	2	1月16日～3月9日	検査室
神戸大学検査技術科	4年次臨地実習	2	11月6日～11月22日	検査室

栄養指導課

学 校 名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫県立大学	臨床栄養学臨地・校外実習	4	2月20日～3月2日	栄養指導課
同志社女子大学	〃	3	3月5日～3月16日	〃
武庫川女子大学	〃	2	5月28日～6月8日	〃
神戸松蔭女子学院大学	〃	4	6月18日～6月29日	〃
神戸女子大学	〃	9	7月2日～9月14日	〃
神戸学院大学	〃	4	7月2日～8月31日	〃

②研修生

診療部

依頼元	研修科	研修生数	研修期間	研修場所
神戸市立医療センター 中央市民病院	放射線科	1	2ヶ月	読影室、超音波室、透視検査室など
尼崎病院	放射線科	1	3ヶ月	読影室、超音波室、透視検査室など

神戸赤十字病院 卒後臨床研修委員会	産科	6	1ヶ月ずつ	産科病棟、外来、手術室など
----------------------	----	---	-------	---------------

看護部

依頼元	研修科	研修生数	研修期間	研修場所
山陽学園大学	失禁外来実習	2	11月26日	ストーマ・排泄外来 病棟
山陽学園大学	失禁外来実習	2	12月3日	ストーマ・排泄外来 病棟
山陽学園大学	失禁外来実習	2	12月10日	ストーマ・排泄外来 病棟
兵庫県内訪問看護ステーション	医療ケア看護技術	9	10月19日	医療ケア 病棟
兵庫県内訪問看護ステーション	医療ケア看護技術	12	12月19日	医療ケア 病棟
兵庫県内訪問看護ステーション	医療ケア看護技術	10	2月13日	医療ケア 病棟
さくら療育園	新生児科	1		NICU GCU
神戸大学附属病院	新生児科	2	2月1日	NICU

5) 長期院外研修

研修先施設名	所属部署	研修者名	研修期間	研修内容
シアトル小児病院	心臓血管外科	長谷川智巳	3月5日～3月30日	シアトル小児病院における小児心臓移植症例の検討。Heart centerにて手術部門を中心に見学。
シアトル小児病院	麻酔科	池島典之	2月13日～3月16日	メイン手術室を中心に麻酔科関連分野（疼痛外来、疼痛回診、日帰り手術・麻酔、PICU、CICU、救急外来、業務改善など）の見学
シアトル小児病院	小児外科	荒井洋志	3月5日～3月30日	
愛知県看護協会 認定看護師教育課程摂食・嚥下障害看護課程	看護部	森本葉子	10月1日～3月27日	摂食・嚥下障害認定看護師教育課程
地方独立行政法人 神戸市民病院機構 神戸市立医療センター中央市民病院	看護部	高橋紫	1月15日～3月15日	手術室看護

5. 研修 (2012年)

1) 公開研修会

名称	主催	開催日	時間	場所	院内参加数	院外参加数	合計	テーマ	発表者/担当	所属科名
第152回こども病院症例検討会	研修教育委員会	1月12日	17:45～ 18:30	研修室AB	16	5	21	『食物アレルギーにおける当科での負荷試験結果と経口免疫療法について』	田中裕也	アレルギー科
第153回こども病院症例検討会	研修教育委員会	1月26日	17:45～ 18:30	研修室AB	21	2	23	『急性ウイルス性胃腸炎のピットフォール。乏尿が意味するものは?』	中川拓	腎臓内科
第154回こども病院症例検討会	研修教育委員会	2月9日	17:45～ 18:30	研修室AB	23		23	『産後うつ病の理解』	関口典子	精神科
第155回こども病院症例検討会	研修教育委員会	2月23日	17:45～ 18:30	研修室AB	19	1	20	『VURに対するT-down approachの妥当性』～有熱性尿路感染症で発見された原発性膀胱尿管逆流児におけるスクリーニングとしての超音波検査とDMS A腎シンチグラムの意義～	桑原元	泌尿器科
第156回こども病院症例検討会	研修教育委員会	3月8日	17:45～ 18:30	研修室AB	13	6	19	『こども病院のレーザー治療』	清家志円	形成外科
第157回こども病院症例検討会	研修教育委員会	3月22日	17:45～ 18:30	研修室AB	19	1	20	『脳神経外科的観点から見た虐待が疑われる乳幼児頭部外傷』	山元一輝	脳神経外科
第158回こども病院症例検討会	研修教育委員会	4月12日	17:45～ 18:30	研修室AB	23	2	25	『ピタミンド欠乏症～日本人のピタミンドは足りているのか?～』	尾崎佳代	代謝内分泌科
第159回こども病院症例検討会	研修教育委員会	4月26日	17:45～ 18:30	研修室AB	23	1	24	『脳梗塞で発症し開心手術適応に苦慮した感染性内膜炎の一症例』	圓尾文子	心臓血管外科
第160回こども病院症例検討会	研修教育委員会	5月10日	17:45～ 18:30	研修室AB	26	2	28	『脳低温療法』	梶原伸介	救急集中治療科
第161回こども病院症例検討会	研修教育委員会	5月24日	17:45～ 18:30	研修室AB	31	1	32	『いわゆる急性脳症とは～脳低温療法の適応を中心に～』	西山将広	脳神経内科
第163回こども病院症例検討会	研修教育委員会	6月28日	17:45～ 18:30	研修室AB	22	1	23	『経皮的心肺補助装置長期管理にて救命し得た川崎病巨大冠動脈瘤による急性心筋梗塞の一例』	富永 健太	循環器内科
第164回こども病院症例検討会	研修教育委員会	9月13日	17:45～ 18:30	研修室AB	18	3	21	『小児固形腫瘍の画像診断 ～腹部腫瘍を中心に～』	杉岡勇典	放射線科
第165回こども病院症例検討会	研修教育委員会	9月27日	17:45～ 18:30	研修室AB	7	1	8	『発熱患者に対する麻酔の可否』	鈴木毅	麻酔科
第166回こども病院症例検討会	研修教育委員会	10月11日	17:45～ 18:30	研修室AB	40	3	43	『18trisomy』	中西啓太	新生児科
第167回こども病院症例検討会	研修教育委員会	10月25日	17:45～ 18:30	研修室AB	18	1	19	『ウ歯放置後の継発症』	曾根由美子	歯科口腔外科
第168回こども病院症例検討会	研修教育委員会	11月8日	17:45～ 18:30	研修室AB	14	2	16	『異時性に感染した急性リンパ性白血病』	長谷川大一郎	血液腫瘍内科

第169回こども病院 症例検討会	研修教育委員 会	11月22日	17:45～ 18:30	研修室AB	13	2	15	『前期破水の管理とFIRS (fetal inflammatory response syndrome)』	角健司	産科
NST勉強会	栄養指導課	5月31日	17:30～ 18:30	研修室AB	30	27	57	「E R A S」について	鳥井隆志	栄養指導課
NST勉強会	栄養指導課	6月18日	17:30～ 18:30	研修室AB	8	12	20	腸内細菌を整えるオリゴ糖の活用方法について	鳥井隆志	栄養指導課
NST勉強会	栄養指導課	7月24日	17:30～ 18:30	研修室AB	21	2	23	半固形化食品	鳥井隆志	栄養指導課
NST勉強会	栄養指導課	8月31日	17:30～ 18:30	研修室AB	12	3	15	小児用栄養剤	鳥井隆志	栄養指導課
NST勉強会	栄養指導課	9月27日	17:30～ 18:30	研修室C	9	3	12	栄養補助食品試食・試飲会	鳥井隆志	栄養指導課
NST勉強会	栄養指導課	10月29日	17:30～ 18:30	研修室AB	7	5	12	がん治療と栄養療法	鳥井隆志	栄養指導課
NST勉強会	栄養指導課	11月29日	17:30～ 18:30	研修室AB	12	3	15	褥瘡と栄養	鳥井隆志	栄養指導課

2) 院内全体研修会

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	講師 / 発表者	所属
第1回感染対策研修会	感染対策委員会	①7月26日 ②7月30日	17:30～18:30	研修室AB	①81 ②51	マニュアル改訂点の内容について	小坂嘉之 竹田洋樹 鳴滝由佳	感染対策チーム
第2回感染対策研修会	感染対策委員会	①1月21日 ②1月25日	17:30～18:30	研修室AB	①68 ②73	感染性胃腸炎、感染防止対策加算	鳴滝由佳	感染対策チーム
感染対策オリエンテーション (看護補助者対象)	感染対策委員会	①4月2日 ②4月3日 ③4月9日	① 9:00～10:00 14:00～15:00 ②14:00～15:00 ③ 9:00～10:00 10:00～11:00	研修室AB	各5	感染対策の基本	鳴滝由佳	感染対策チーム
感染対策研修会 (リネン業務委託業者対象)	感染対策委員会	①5月15日 ②5月31日	①② 11:30～12:00	研修室AB	各4	感染対策の基本	鳴滝由佳	感染対策チーム
感染対策研修会 (清掃委託業者対象)	感染対策委員会	8月3日	11:00～11:30	研修室AB	18	針刺し・切創、血液・体液曝露について	鳴滝由佳	感染対策チーム
感染防止演習 (看護補助者対象)	感染対策委員会	①8月27日 ②8月29日 ③9月3日 ④9月5日 ⑤9月7日	①14:00～15:00 6:00～17:00 ②14:00～15:00 6:00～17:00 ③14:00～15:00 16:00～17:00 ④14:00～15:00 16:00～17:00 ⑤14:00～15:00	①研修室C ②研修室C ③研修室AB ④研修室C、採血室 ⑤研修室AB	①計13 ②計13 ③計8 ④計16 ⑤3	感染防止演習 (手指衛生の手技チェック、個人防護具の着脱演習)	鳴滝由佳	感染対策チーム
第4回シニアトール小児病院 研修報告会	国際交流委員会	4月16日	17:30～19:00	研修室AB	87	1. 「シニアトール小児病院における心移植症例の検討」 2. 「シニアトール小児病院におけるロボット手術の現状」 3. 「シニアトール小児病院の麻酔科と手術室」	長谷川 智巳 荒井 洋志 池島 典之	診療部
医薬品安全研修会	医薬品安全管理室	11月16日	18:00～18:50	研修室AB	51	バンコムマイシンのリスクマナー・レジメメント (1) 配合変化と Red Neck 症候群 (2) ガイドラインから見た投与方法と方法	重越正孝 森田紗代	Meiji Seika ファルマ(株) 学術部 薬剤部
放射線研修	放射線安全管理委員会	3月2日	15:30～17:00	研修室AB	29	①放射線の人体への影響 ②MRI検査の安全性について ③核医学検査について ④放射線被ばくについて ⑤放射線治療について	赤坂好宣 北住一哉 大谷幸広 関尾直士 小田敏彦	検査・放射線 部 放射線科

放射線研修	放射線安全管理委員会	5月29日	15:15～16:30	研修室A B	54	①放射線の人体への影響 ②MRI検査の安全性について ③核医学検査について ④放射線救急について ⑤放射線治療について	衫岡勇典 服部真吾 大谷幸広 関尾直士 小田敏彦	検査・放射線科 部 放射線科
特別講演会	診療部	1月19日	17:00～18:00	研修室 AB	80	小児ネフローゼ症候群の新たな治療戦略	飯島一誠	神戸大学大学院医学研究科 内科学講座小児科学分野教授
MM カンファレンス		5月24日	8:20～9:00	本館4F カンファレンス ルーム	16	総動脈幹症の剖検結果検討	圓尾文子 吉田牧子	心臓血管外科 病理診断科
専門看護師・認定看護師 主催勉強会	専門看護師・ 認定看護師会	7月5日	17:30～18:30	研修室A B	51	看護研究	二星淳吾	こども病院 小児看護専門 看護師
専門看護師・認定看護師 主催勉強会	専門看護師・ 認定看護師会	9月6日	17:30～18:30	研修室A B	38	化学療法の副作用	後藤恵美	こども病院 がん化学療法 認定看護師
専門看護師・認定看護師 主催勉強会	専門看護師・ 認定看護師会	11月5日	17:30～18:30	研修室A B	47	緩和ケア	榊本久美子	加古川医療セ ンター緩和ケ ア認定看護師
専門看護師・認定看護師 主催勉強会	専門看護師・ 認定看護師会	1月15日	17:30～18:30	研修室A B	38	家族看護	浅井桃子	大阪府立看護 大学大学院
第4回シニアトル小児病院 研修報告会	国際交流委 員会	4月16日	17:30～19:00	研修室 AB	87	1. 「シニアトル小児病院における心移植症例の検討」 2. 「シニアトル小児病院におけるロボット手術の現状」 3. 「シニアトル小児病院の麻酔科と手術室」	長谷川智巳 荒井洋志 池島典之	診療部
第2回 クリニカルバス大会	クリニカル バス委員会	3月2日	17:30～18:30	研修室 AB	56	胃ろう連携バス 1. 小児における胃ろう増設地域連携バスへの取り組み 2. 胃ろう増設バスの EVE 分析	前原由紀 鳥井隆志	看護部 栄養指導課
第1回 クリニカルバス大会	クリニカル バス委員会	9月21日	17:30～18:30	研修室 AB	28	1. 平成23年度使用分バスの事例の紹介 2. ガイドラインに基づいたバス作成	大西 美樹 神田 杏子	看護部 診療部
第2回 クリニカルバス 大会	クリニカル バス委員会	3月4日	17:30～18:30	研修室 AB	60	クリニカルバス改善プロセスの見える化 1. クリニカルバス委員会 平成24年度報告 2. 斜視のクリニカルバスの改善 (チーム医療の視点からのバスの検討) 1) 斜視クリニカルバスの紹介 2) DPC からの検討 3) 麻酔科医師からの検討 4) 薬剤師からの検討 5) 管理栄養士からの検討 6) 看護師からの検討 3. バリアンス統計報告 (看護部バス委員会)	大西美樹 大西健 河本幸子 香川哲郎 池田絵里佳 鳥井隆志 清水克美 二星淳吾	看護部 診療部 薬剤部 栄養指導課

3) 複数科合同カンファレンス

名称	対象科	開催日	時間	場所	参加数	テーマ
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、整形外科、脳神経外科、病理	1月12日	17:30-18:30	研修室C	26	1) 視神経腫瘍、胚細胞腫瘍疑い (14歳男児) 2) 左腎腫瘍 (11歳女児) 3) 神経芽腫 stage4 (7歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	1月18日	17:30-18:00	研修室C	17	1) 卵巣腫瘍 (7歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、麻酔科、脳神経外科、神戸大学腫瘍科、病理	1月25日	17:40-18:40	研修室C	27	1) 縦隔腫瘍、癌性胸膜炎 (17歳男児) 2) 右ソケイ部リンパ節腫大 (11歳男児) 3) 骨盤部腫瘍 (4歳女児) 4) 小脳虫部腫瘍 (8歳女児) 5) 右視床神経膠芽腫、水頭症 (6歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、神戸大学腫瘍科、病理	2月1日	17:30-18:00	研修室C	20	1) optic pathway glioma/optic glioma (3歳女児) 2) 神経線維腫症、気管左主気管支狭窄 (9歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、脳神経外科、神戸大学腫瘍科、病理	2月8日	17:30-18:30	研修室C	28	1) optic pathway glioma/optic glioma (3歳女児) 2) 脳幹部神経膠腫 (4歳女児) 3) 小脳髓芽腫 (7歳女児) 4) 左腎腫瘍 (11歳女児) 5) 後縦隔腫瘍 (5歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、脳神経外科、神戸大学腫瘍科、整形外科、病理	2月15日	17:30-18:20	研修室C	31	1) optic pathway glioma/optic glioma (3歳女児) 2) GIST (13歳女児) 3) 神経芽腫 (1歳8か月男児) 4) 松果体腫瘍 (12歳男児) 5) 脳幹神経膠腫 (11歳児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	2月22日	17:30-18:00	研修室C	21	1) 神経芽腫 stage3 (4歳女児) 2) 頭蓋骨腫瘍 (2歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、腎臓内科、病理	2月29日	18:00-19:00	研修室C	24	1) 網膜芽細胞腫の疑い (0歳1か月) 2) EBV 関連平滑筋腫瘍 (6歳7か月女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、脳神経外科、泌尿器科、神戸大学腫瘍科、病理	3月7日	17:30-18:30	研修室C	30	1) 網膜芽細胞腫の疑い (0歳1か月) 2) 神経芽腫 (5歳男児) 3) 右前頭蓋底腫瘍 (2歳女児) 4) 髓芽腫 (9歳女児) 5) PNET (10歳男児) 6) 視神経腫瘍、胚細胞腫瘍疑い (14歳男児)

腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、整形外科、脳神経外科、麻酔科、救急診療科、病理	3月	18:00-19:30	研修室 C	31	<ul style="list-style-type: none"> 1) 右大腿骨骨腫瘍疑い (8歳児) 2) Kasiform hemangioendothelioma (3歳女児) 3) Kasabach Merrit 症候群、水頭症 (0歳9カ月女児) 4) 胸腔内腫瘍 (17歳男児) 5) 髓芽腫 (10歳男児) 6) anaplastic ependymoma (3歳児) 7) 髓芽腫 (9歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	3月21日	17:30-18:00	研修室 C	20	<ul style="list-style-type: none"> 1) 脳腫瘍胚細胞腫瘍 (15歳男児) 2) 左胸腔内腫瘍 (3歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、脳神経外科、神戸大学腫瘍科、病理	3月28日	17:30-18:30	研修室 C	28	<ul style="list-style-type: none"> 1) 網膜芽細胞腫 (0歳8カ月男児) 2) 腹部腫瘍 (2歳男児) 3) 脳幹部神経膠腫 (9歳男児) 4) 右脳室内腫瘍 (1歳女児) 5) 脳腫瘍 (6歳男児) 6) 脳幹部腫瘍 (9歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、形成外科、脳神経外科、神戸大学腫瘍科、病理	4月4日	17:30-18:50	研修室 C	29	<ul style="list-style-type: none"> 1) 右傍脳室腫瘍 (1歳女児) 2) EBV 関連性平滑筋腫瘍 (6歳女児) 3) 右下腿ユーズング肉腫 4) 右前頭部腫瘍 (0歳5カ月男児) 5) 胸腔内腫瘍 (17歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、眼科、脳神経外科、病理	4月11日	13:30-13:50	研修室 C	20	<ul style="list-style-type: none"> 1) 眼球視神経間脳下垂体腫瘍 (2歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、眼科、脳神経外科、病理	4月12日	17:30-18:00	研修室 C	20	<ul style="list-style-type: none"> 1) 視神経腫瘍 (14歳男児) 2) LCH 疑い (8歳男児) 3) 右視床腫瘍 (12歳女児) 4) 左眼網膜芽細胞腫 (2歳7カ月児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、脳神経外科、病理	4月18日	17:30-18:45	研修室 C	27	<ul style="list-style-type: none"> 1) 眼球腫瘍 (2歳女児) 2) 副腎腫瘍 (3歳女児) 3) 頭蓋骨腫瘍 (0歳5カ月男児) 4) 小脳髓芽腫 (7歳女児) 5) optic pathway glioma (3歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	4月23日	17:30-17:50	救急 カンファレンス ルーム	19	<ul style="list-style-type: none"> 1) 巨大肝腫瘍、多発肺腫瘍
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、脳神経外科、病理	4月25日	18:00-19:00	研修室 C	28	<ul style="list-style-type: none"> 1) 網膜芽細胞腫 (3歳女児) 2) 右視床腫瘍 (12歳女児) 3) optic pathway glioma (4歳女児) 4) germinoma (12歳) 5) 副腎腫瘍 (3歳女児)

腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	5月9日	17:30-18:30	研修室 C	21	1) 神経芽腫 (5歳男児) 2) 胸腔内腫瘍 (17歳男児) 3) 小脳髓芽腫 (11歳男児) 4) 小脳髓芽腫 (7歳女児) 5) 松果体腫瘍 (6歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、神戸大学腫瘍科、病理	5月16日	17:30-18:30	研修室 C	21	1) 左腎腫瘍 (3歳女児) 2) 神経芽腫 (5歳女児) 3) 小脳髓芽腫 (1歳女児) 4) 中脳背側腫瘍、脳室内多房性腫瘍 (10歳女児) 5) 多関節痛 (11歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、病理	5月23日	17:30-18:30	研修室 C	23	1) 神経芽腫疑い (0歳10カ月男児) 2) 網膜芽細胞腫 (3歳女児) 3) 右網膜芽細胞腫疑い (3歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	5月30日	18:00-19:00	研修室 C	24	1) 右腎腫瘍 (1歳女児) 2) 小脳腫瘍 (1歳男児) 3) 中脳背側腫瘍、脳室内多房性腫瘍 (10歳女児) 4) Ewing 肉腫 (2歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、脳神経外科、病理	6月6日	17:30-18:10	研修室 C	27	1) 左基底核腫瘍 (9歳男児) 2) 神経芽腫 (5歳男児) 3) 網膜芽細胞腫 (1歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	6月13日	17:30-18:15	研修室 C	20	1) 神経芽腫 (0歳10カ月男児) 2) 左胸膜肺芽腫 (3歳男児) 3) 松果体芽腫 (10歳女児) 4) 視床下部腫瘍 (6歳男児) 5) mixed germ cell tumor (germinoma+mature teratoma) (12歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳神経外科、病理	6月20日	17:30-17:50	研修室 C	15	1) Ewing 肉腫 (右前頭蓋底原発)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、病理	6月27日	18:00-18:50	研修室 C	23	1) 神経芽腫 (5歳男児) 2) 右腎腫瘍 (1歳7カ月女児) 3) 右眼網膜芽細胞腫疑い (3歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	7月4日	17:30-18:30	研修室 C	23	1) 左腎腫瘍 (3歳女児) 2) Ewing 肉腫 (2歳女児) 3) 松果体芽腫 (10歳女児) 4) テント下腫瘍 (2歳6カ月男児) 5) 視床下部腫瘍 (6歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、救急科、脳神経外科、病理	7月11日	17:45-18:30	研修室 C	26	1) 腹部腫瘍 (15歳女児) 2) 横紋筋肉腫 (2歳男児) 3) 小脳髓芽腫 (1歳女児) 4) 上衣腫 (3歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	7月18日	17:30-18:00	研修室 C	23	1) 鞍上部腫瘍 (8歳女児) 2) 橋神経腫瘍 (4歳女児) 3) 腹部腫瘍 (15歳女児)

腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、耳鼻科、病理	7月25日	18:30-19:30	研修室 C	25	<ol style="list-style-type: none"> 1) 神経芽腫 stage4(2歳男児) 2) 左下眼瞼腫瘍 (0歳3カ月男児) 3) 右耳下腺癌 (10歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、脳神経外科、整形外科、病理	8月1日	17:30-18:30	研修室 C	28	<ol style="list-style-type: none"> 1) 右脛骨骨腫瘍 (1歳3カ月) 2) 小脳髓芽腫 (9歳女児) 3) Ewing 肉腫 (Th12) (11歳女児) 4) 神経芽腫 (5歳男児) 5) 左腎腫瘍、胸膜播種 (3歳女児) 6) 肝芽腫、多発肺転移 (4歳女児) 7) 神経芽腫再発 (5歳男児) 8) 両網膜芽細胞腫疑い (0歳2カ月)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、脳神経外科、病理	8月8日	17:30-18:20	研修室 C	27	<ol style="list-style-type: none"> 1) 腎腫瘍 (0歳8カ月女児) 2) 神経芽腫疑い (0歳11カ月男児) 3) 右胸膜肺芽腫 (4歳男児) 4) 脳腫瘍 (6歳男児) 5) 両網膜芽細胞腫 (0歳2カ月男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	8月15日	17:30-18:00	研修室 C	23	<ol style="list-style-type: none"> 1) 胚細胞腫瘍 (10歳児) 2) 胚細胞腫瘍 (12歳男児) 3) 神経芽細胞腫 (7歳女児) 4) 左腎腫瘍 (3歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、整形外科、病理	8月22日	17:30-18:30	研修室 C	26	<ol style="list-style-type: none"> 1) 右脛骨腫瘍 (1歳3カ月女児) 2) 左胸膜肺芽腫 (3歳男児) 3) 神経芽細胞腫 (7歳女児) 4) 両網膜芽腫疑い (0歳3カ月男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、循環器科、脳神経外科、病理	8月29日	18:30-20:30	研修室 C	26	<ol style="list-style-type: none"> 1) 小脳腫瘍 (10歳男児) 2) 皮質下多房性巨大腫瘍 (5歳男児) 3) 小脳髓芽腫 (1歳女児) 4) 神経芽腫 (2歳男児) 5) 拡張型心筋症 (0歳4カ月児) 6) 右 Wilms 腫瘍 (0歳9カ月女児) 7) 神経芽腫 (0歳11カ月男児) 8) 肝腫瘍 (0歳7カ月女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、脳神経外科、病理	9月12日	18:00-19:30	研修室 C	28	<ol style="list-style-type: none"> 1) 脳腫瘍 (5歳男児) 2) 松果体芽腫 (10歳女児) 3) 網膜芽細胞腫 (2歳女児) 4) 神経芽腫 (1歳男児) 5) 神経芽腫 stage4(4歳女児) 6) 肝芽腫疑い (0歳5カ月男児) 7) 左胸膜肺芽腫 (3歳男児) 8) 腹部腫瘍 (15歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、耳鼻科、病理	9月19日	17:30-18:00	研修室 C	21	<ol style="list-style-type: none"> 1) 頸部腫瘍 (14歳男児) 2) 神経芽腫 stage4(2歳男児)

腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、脳神経外科、病理	10月3日	17:40-18:30	研修室 C	28	<ul style="list-style-type: none"> 1) 肝芽腫 (0歳6ヵ月男児) 2) 腹部腫瘍 (12歳女児) 3) 神経芽腫 stage4 (2歳男児) 4) 網膜芽細胞腫、汎下垂体機能低下症 (2歳女児) 5) ALL 再発または脳腫瘍 (9歳男児) 6) Ewing 肉腫 (2歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、脳神経外科、病理	10月10日	17:30-19:00	研修室 C	28	<ul style="list-style-type: none"> 1) pineoblastoma (10歳女児) 2) ALL 再発または脳腫瘍 (9歳男児) 3) 神経芽腫疑い (1歳男児) 4) 神経芽腫 (1歳男児) 5) 腹部腫瘍 (15歳女児) 6) 背部腫瘍 (0歳5ヵ月女児) 7) 卵巣腫瘍 (12歳女児) 8) 両網膜芽細胞腫 (0歳4ヵ月男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	10月17日	17:30-18:00	研修室 C	20	<ul style="list-style-type: none"> 1) NB 疑い (0歳0ヵ月男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科病理	10月24日	17:30-18:30	研修室 C	23	<ul style="list-style-type: none"> 1) 小脳嚢芽腫 (11歳男児) 2) pontine glioma (2歳女児) 3) 腹部腫瘍 (12歳女児) 4) 神経芽腫 (2歳男児) 5) 神経芽腫 (2歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、神戸大学腫瘍科、病理	10月31日	18:00-18:50	研修室 C	25	<ul style="list-style-type: none"> 1) 上衣腫 (5歳男児) 2) 腹部腫瘍 (15歳女児) 3) 肝芽腫 (0歳7ヵ月男児) 4) 肝芽腫 (0歳9ヵ月女児) 5) 神経芽腫 (女児) 6) Mature B ALL (2歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、脳神経外科、病理	11月7日	17:30-18:45	研修室 C	28	<ul style="list-style-type: none"> 1) 脳幹部神経膠腫 (3歳児) 2) 神経芽腫 stage4 (2歳男児) 3) テント上.PNET (1歳9ヵ月女児) 4) 髓芽腫 (1歳5ヵ月時) 5) 網膜芽細胞腫 (3歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	11月14日	18:00-19:00	研修室 C	23	<ul style="list-style-type: none"> 1) NF-1 (7歳児) 2) 腎芽腫疑い (1歳5ヵ月男児) 3) 右胸壁腫瘍 (3歳3ヵ月男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	11月21日	17:30-18:30	研修室 C	23	<ul style="list-style-type: none"> 1) 小脳嚢芽腫 (1歳7ヵ月女児) 2) 上衣腫 (6歳男児) 3) 神経芽腫 (1歳男児) 4) 肝芽腫 (0歳9ヵ月女児) 5) 神経芽腫 (4歳女児)

腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	11月28日	18:30-19:30	研修室 C	23	1) Germ cell tumor (10歳児) 2) 網膜芽細胞腫、汎下垂体機能低下症 (3歳児) 3) 肝芽腫 (0歳8カ月男児) 4) 左胸膜肺芽腫 (4歳男児) 5) 右胸壁腫瘍 (3歳3カ月児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	12月5日	17:30-18:30	研修室 C	20	1) 神経芽腫疑い (0歳2カ月男児) 2) 右腎腫瘍 (1歳5カ月男児) 3) 肝芽腫 (4歳1カ月女児) 4) 神経芽腫 stage4 (5歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、泌尿器科、脳神経外科、病理	12月12日	17:30-18:45	研修室 C	28	1) 腹部腫瘍 (1歳6カ月男児) 2) 髄芽腫 (12歳男児) 3) 小脳髄芽腫 (2歳男児) 4) 神経芽腫 (1歳男児) 5) 肝芽腫 (0歳8カ月男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	12月19日	17:30-18:30	研修室 C	19	1) 骨肉腫 (9歳男児) 2) 神経芽腫 stage4 (5歳男児) 3) 骨盤部腫瘍 (1歳7カ月男児) 4) Germ cell tumor (10歳男児) 5) 左下顎部腫脹 (7歳男児) 6) 横紋筋肉腫 (9歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	12月26日	17:30-18:30	研修室 C	22	1) PNET (10歳男児) 2) 小脳星細胞腫、視床下部症候群 3) 腹部腫瘍 (15歳女児) 4) 肝芽腫 (0歳11カ月女児) 5) 神経芽腫 (1歳男児) 6) 骨盤部腫瘍 (1歳7カ月男児)
麻酔科・心臓外科 合同カンファレンス	麻酔科、心臓外科、循環器内科、看護師、臨床工学技士	通年、毎日	7:55～8:10	ICU	15	当日の心臓外科症例についてのカンファレンス
ICU カンファレンス	心臓外科・ICU 患者関連部署	毎日	10:30～11:00	ICU	約10	ICU 患者についてのカンファレンス
心臓外科術前症例検討会	心臓外科・臨床工学技士・手術室看護師	毎週月曜日	8:15～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	約10	その週の心臓外科手術症例についての術前カンファレンス
循環器カンファレンス	循環器科・心臓外科・麻酔科	毎週月曜日	17:00～	本館4階 カンファレンスルーム	約15	心臓カテーテル検査症例や手術検討症例についてのカンファレンス
循環器抄読会	循環器科・心臓外科	隔週木曜日	8:30～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	約15	最近の小児循環器関連の文献より
心臓外科術後症例検討会	心臓外科・臨床工学技士	毎週金曜日	8:15～9:00	本館4階 カンファレンスルーム	約10	一週間の心臓外科手術症例についての術後カンファレンス

糖尿病合同カンファレンス	代謝内分泌科、栄養指導課、看護部外来	5月1日	14:40～15:55	栄養相談室	3	当月の糖尿病患者についてのカンファレンス
糖尿病合同カンファレンス	代謝内分泌科、栄養指導課、看護部外来	5月30日	14:40～15:55	栄養相談室	3	当月の糖尿病患者についてのカンファレンス
糖尿病合同カンファレンス	代謝内分泌科、栄養指導課、看護部外来	7月2日	14:40～15:55	栄養相談室	3	当月の糖尿病患者についてのカンファレンス
糖尿病合同カンファレンス	代謝内分泌科、栄養指導課、看護部外来	8月10日	14:40～15:55	栄養相談室	8	当月の糖尿病患者についてのカンファレンス
糖尿病合同カンファレンス	代謝内分泌科、栄養指導課、看護部外来	9月3日	14:40～15:55	栄養相談室	6	当月の糖尿病患者についてのカンファレンス
糖尿病合同カンファレンス	代謝内分泌科、栄養指導課、看護部外来	10月2日	14:40～15:55	栄養相談室	3	当月の糖尿病患者についてのカンファレンス
糖尿病合同カンファレンス	代謝内分泌科、栄養指導課、看護部外来	11月21日	14:40～15:55	栄養相談室	3	当月の糖尿病患者についてのカンファレンス
糖尿病合同カンファレンス	代謝内分泌科、栄養指導課、看護部外来	2月1日	14:40～15:55	栄養相談室	4	当月の糖尿病患者についてのカンファレンス
糖尿病合同カンファレンス	代謝内分泌科、栄養指導課、看護部外来	3月4日	14:40～15:55	栄養相談室	6	当月の糖尿病患者についてのカンファレンス
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科、整形外科、泌尿器科、皮膚・排泄ケア認定看護師	2月10日	15:35～16:35	整形外科診察室	11	二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察患者の情報共有 対象患者15名
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科、整形外科、泌尿器科、皮膚・排泄ケア認定看護師	3月9日	15:30～17:05	整形外科診察室	12	二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察患者の情報共有 対象患者22名
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科、整形外科、泌尿器科、皮膚・排泄ケア認定看護師	6月1日	15:35～16:45	整形外科診察室	9	二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察患者の情報共有 対象患者22名
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科、整形外科、泌尿器科、皮膚・排泄ケア認定看護師	9月21日	15:35～16:40	整形外科診察室	9	二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察患者の情報共有 対象患者22名
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科、整形外科、泌尿器科、皮膚・排泄ケア認定看護師	12月21日	15:35～16:45	整形外科診察室	10	二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察患者の情報共有 対象患者23名

ネフローゼ症候群勉強会	混合A B病棟	7月18日	17:30～19:00	研修室A B	20	ネフローゼ症候群の基礎的知識の獲得
脳腫瘍勉強会	混合B病棟	8月14日	17:30～19:00	研修室C	13	事例検討会
医師・看護師合同カンファレンス	混合B病棟	7月26日	14:30～15:30	混合B病棟	12	脳腫瘍ターミナル患者に対する支援について
医師・看護師合同カンファレンス	混合B病棟	9月12、17日	14:30～15:30	混合B病棟	10	脳腫瘍ターミナル患者に対する支援について
医師・看護師合同カンファレンス	混合B病棟	12月3、11、20日	14:30～15:30	混合B病棟	10～13	腎不全で在宅透析中の患者のセルフケア (外来看護師との連携)
心臓外科・ME・手術室NS 合同カンファレンス	心臓外科	毎年毎週月曜	8:15～9:00	4階 カンファレンス室	11	1週間の心臓外科手術症例について
整形外科・手術室NS 合同カンファレンス	整形外科	毎週火曜 もしくは水曜	16:00～16:30	外来整形外科 ギブス室	7	1週間の整形外科手術症例について
麻酔科・産科・外科・手術室NS 合同カンファレンス	麻酔科・小児外科・産科	12月27日	15:00～17:00	手術室⑥室	17	産科EXIT症例について
麻酔科・手術室NS 合同カンファレンス	麻酔科	1月17日	17:15～18:00	手術室⑦室	30	悪性高熱シミュレーション

4) 部署別勉強会・カンファレンス

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	発表者/担当
抄読会	救急集中治療科	1月10日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	16	intensive versus Conventional Glucose Control in Critically Ill Patients	米倉圭二
抄読会	救急集中治療科	1月17日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	14	Clinical Report-Guidelines for the Determination of Brain Death in Infants and Children: An Update of The 1987 Take Force Recommendations	竹田洋樹
抄読会	救急集中治療科	1月24日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	13	Use of antibiotics alone for treatment of uncomplicated acute appendicitis: A systematic review and meta-analysis	水田麻雄
抄読会	救急集中治療科	2月7日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	15	Management of acute haemarthrosis in haemophilia A without inhibitors: literature review, European survey and recommendations	石田敏章
抄読会	救急集中治療科	2月14日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	16		祖父江俊樹
抄読会	救急集中治療科	2月21日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	15	Treatment of children with henoch-Schonlein purpura nephritis with mycophenolate mofetil	中川拓
抄読会	救急集中治療科	3月6日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	12	Evidence-Based Guidelines for Resource Utilization in Children With Isolated Spleen or Liver Injury	山口善道
抄読会	救急集中治療科	3月13日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	14	Heparin-Induced Thrombocytopenia Screening and management in Pediatric Patients	山下達也
抄読会	救急集中治療科	3月27日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	16	Estimating the Probability of Abusive Head Trauma : A Pooled Analysis	藤田杏子
抄読会	救急集中治療科	4月10日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	18	Lorazepam versus diazepam-phenytoin combination in the treatment of convulsive status epilepticus in children: A randomized controlled trial	永瀬裕朗
抄読会	救急集中治療科	4月17日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	12	KDIGO Clinical Practice Guideline for acute Kidney injury	田中亮二郎
抄読会	救急集中治療科	5月1日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	14	Efficacy of immunoglobulin plus prednisolone for prevention of coronary artery abnormalities in severe Kawasaki disease (RAISE study) : a randomised, open-label, blinded-endpoints trial	中岸保夫

抄読会	救急集中治療科	5月8日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	12	Nonconvulsive Status Epilepticus:The Encephalopathic Pediatric Patient	丸山あずさ
抄読会	救急集中治療科	5月15日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	14	Infective Endocarditis:Diagnosis, Antimicrobial Therapy, and Management of Complications	梶原伸介
抄読会	救急集中治療科	5月22日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	16	Intramuscular versus Intravenous Therapy forPrehospital Status Epilepticus	西山将広
抄読会	救急集中治療科	6月5日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	13	Review article Inhalation burn injury in children	楠元真由美
抄読会	救急集中治療科	6月12日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	14	Childhood Outcomes after Hypothermia for Neonatal Encephalopathy	宮田憲二
抄読会	救急集中治療科	6月19日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	14	The importance of early treatment with tranexamic acid in bleeding trauma patients: an exploratory analysis of the CRASH-2 randomised controlled trial	三木康暢
抄読会	救急集中治療科	9月4日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	15	Fluid overload is associated with impaired oxygenation and morbidity in critically ill children	田中司
抄読会	救急集中治療科	9月11日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	17		日外佑理
抄読会	救急集中治療科	9月18日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	12	Early Volume Expansion During Diarrhea and Relative Nephroprotection During Subsequent Hemolytic Uremic Syndrome	橋村裕也
抄読会	救急集中治療科	10月2日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	15	Tight Glycemic Control versus Standard Care after Pediatric Cardiac Surgery	野村安隆
抄読会	救急集中治療科	10月9日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	15	Hydroxyethyl Starch 130/0.42 versus Ringer's Acetate in Severe Sepsis	福原信一
抄読会	救急集中治療科	11月20日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	13	Current state and future perspective in the diagnosis of diabetes inspidus	尾崎佳代
抄読会	救急集中治療科	11月27日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	17	Antifibrinolytic drugs for acute traumatic injury	山口善道
抄読会	救急集中治療科	12月4日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	14	Patients' Expectations about Effects of Chemotherapy for Advanced Cancer	長谷川大一郎
抄読会	救急集中治療科	12月11日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	12	Norovirus Gastroenteritis in Immunocompromised Patients	山下達也
抄読会	救急集中治療科	12月18日	8時～8時30分	救急センター カンファレンスルーム	15	Emerging battery-Intoxication Hazard:Clinical Implications	竹田洋樹

脳神経内科抄読会	脳神経内科	4月12日	14:00-15:00	小児救急医療センター カンファレンスルーム	5	Onset of intractability and its course over time:The Dutch study of epilepsy in childhood	永瀬裕朗
脳神経内科抄読会	脳神経内科	4月26日	14:00-15:00	小児救急医療センター カンファレンスルーム	5	Predictors of nonconvulsive seizures among critically ill children	丸山あずさ
脳神経内科抄読会	脳神経内科	5月10日	14:00-15:00	小児救急医療センター カンファレンスルーム	5	MRI parameters for prediction of multiple sclerosis diagnosis in children with acute CNS demyelination: a prospective national cohort study	藤田杏子
脳神経内科抄読会	脳神経内科	5月24日	14:00-15:00	小児救急医療センター カンファレンスルーム	5	Neurofilament heavy chain and heat shock protein 70 as markers of seizure-related brain injury	西山将広
脳神経内科抄読会	脳神経内科	6月14日	14:00-15:00	小児救急医療センター カンファレンスルーム	5	Molecular outcomes of neuromyelitis optica (NMO) -IgG binding to aquaporin-4 in astrocytes	永瀬裕朗
脳神経内科抄読会	脳神経内科	6月21日	14:00-15:00	小児救急医療センター カンファレンスルーム	5	Seizure-related cardiac repolarization abnormalities are associated with ictal hypoxemia	丸山あずさ
脳神経内科抄読会	脳神経内科	6月28日	14:00-15:00	小児救急医療センター カンファレンスルーム	5	Radiation exposure from CT scans in childhood and subsequent risk of leukaemia and brain tumours: a retrospective cohort study.	藤田杏子
脳神経内科抄読会	脳神経内科	7月5日	14:00-15:00	小児救急医療センター カンファレンスルーム	5	Determination of pain and response to methylprednisolone in Guillain-Barre syndrome.	西山将広
脳神経内科抄読会	脳神経内科	7月12日	14:00-15:00	小児救急医療センター カンファレンスルーム	5	Recovery of consciousness following acute symptomatic seizures due to central nervous system infections in children	永瀬裕朗
脳神経内科抄読会	脳神経内科	7月19日	14:00-15:00	小児救急医療センター カンファレンスルーム	5	A long-term follow-up study of Dravet syndrome up to adulthood	丸山あずさ
脳神経内科抄読会	脳神経内科	7月26日	14:00-15:00	小児救急医療センター カンファレンスルーム	5	GABAergic excitation after febrile seizures induces ectopic granule cells and adult epilepsy	藤田杏子
脳神経内科抄読会	脳神経内科	8月9日	14:00-15:00	小児救急医療センター カンファレンスルーム	5	Childhood Outcomes after Hypothermia for Neonatal Encephalopathy	西山将広
脳神経内科抄読会	脳神経内科	8月23日	14:00-15:00	小児救急医療センター カンファレンスルーム	6	Impact of pediatric epilepsy on sleep patterns and behaviors in children and parents.	白鳥孝俊
脳神経内科抄読会	脳神経内科	9月6日	14:00-15:00	小児救急医療センター カンファレンスルーム	5	The cognitive effects of interictal epileptiform EEG discharges and short convulsive epileptic seizures	丸山あずさ
脳神経内科抄読会	脳神経内科	9月20日	14:00-15:00	小児救急医療センター カンファレンスルーム	5	Long-term Differences in Language and Cognitive Function After Childhood Exposure to Anesthesia	藤田杏子

脳神経内科抄読会	脳神経内科	10月25日	14:00-15:00	小児救急医療センターカンファレンスルーム	5	Hemorrhagic shock and encephalopathy syndrome -the markers for an early HSES diagnosis	田中司
脳神経内科抄読会	脳神経内科	11月1日	14:00-15:00	小児救急医療センターカンファレンスルーム	5	Placebo-controlled trial of amantadine for severe traumatic brain injury.	西山将広
脳神経内科抄読会	脳神経内科	11月15日	14:00-15:00	小児救急医療センターカンファレンスルーム	6	Comparative safety of antiepileptic drugs during pregnancy	谷口紫野
脳神経内科抄読会	脳神経内科	12月7日	14:00-15:00	小児救急医療センターカンファレンスルーム	5	An epidemiological study of children with status epilepticus in Okayama, Japan: Incidence, etiologies, and outcomes	永瀬裕朗
脳神経内科抄読会	脳神経内科	12月20日	14:00-15:00	小児救急医療センターカンファレンスルーム	5	Generalized periodic discharges in the critically ill A case-control study of 200 patients	丸山あずさ
麻酔科カンファレンス	麻酔科	通年、毎日	午前8時30分から9時	手術室内麻酔医室	10-18名	毎日の麻酔症例について検討、情報交換を行う	
麻酔科抄読会	麻酔科	隔週月曜	午前8時30分から9時	手術室内麻酔医室	10-18名	英文雑誌から麻酔関連論文の紹介	
麻酔科勉強会	麻酔科	毎月第三木曜	午後5時から6時	手術室内麻酔医室	10-18名	麻酔科関連の講義や症例検討	
新生児クリニックカンファレンス	新生児科	1月4日	16:00-17:30	NICUカンファレンスルーム	9	心電図にて左室負荷所見を認めた、超低出生体重児の重症 CLD の児	宮田憲二
新生児クリニックカンファレンス	新生児科	1月9日	16:00-17:30	NICUカンファレンスルーム	9	研究計画	田中聡
新生児クリニックカンファレンス	新生児科	1月11日	16:00-17:30	NICUカンファレンスルーム	9	腎障害に関連した高ナトリウム血症を呈した 在胎22週の一例	溝淵雅巳
新生児クリニックカンファレンス	新生児科	1月16日	16:00-17:30	NICUカンファレンスルーム	9	早産児に対するNO吸入療法	岩谷壮太
新生児クリニックカンファレンス	新生児科	1月18日	16:00-17:30	NICUカンファレンスルーム	9	PVL 症例検討	河合清日
新生児クリニックカンファレンス	新生児科	1月23日	16:00-17:30	NICUカンファレンスルーム	9	哺乳不良と活気不良を主訴にPrader-Willi 症候群の診断に至った症例	田中聡
新生児クリニックカンファレンス	新生児科	1月25日	16:00-17:30	NICUカンファレンスルーム	9	蛋白尿、浮腫を伴った13トリソミーの一例	坂井仁美
新生児クリニックカンファレンス	新生児科	1月30日	16:00-17:30	NICUカンファレンスルーム	9	H L H S を合併した VLBW の一例	宮田憲二

新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月1日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	9	2012研究計画	溝淵雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月6日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	9	2012研究計画	岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月8日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	9	Potter Sequence の一例	宮田憲二
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月13日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	9	周産期新生児：PPROM と PVL	河合清日
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月14日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	9	周産期新生児：ステロイド投与例の胸部CT所見	坂井仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月15日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	9	周産期新生児：H I E 児の急性期MRI と18ヶ月予後	田中聡
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月20日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	9	P V L と F I R S の時相 論文作成	猪俣慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月22日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	9	周産期新生児：ステロイド投与例の胸部CT所見	坂井仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月27日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	9	左肺底形成の一例	河合清日
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月29日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	9	広範囲型Hirschsprung 病と前頭部白毛症を合併した1例	田中聡
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月5日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	9	換気不全、IVH を呈した18トリソミーの一例	宮田憲二
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月7日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	9	FAOPS：CLD に対するサーファクタント療法	岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月12日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	9	T A F	溝淵雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月14日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	9	総括	猪俣慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月21日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	9	18トリソミー，臍ヘルニア	宮田憲二
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月26日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	9	肺出血，I V H 合併 severe F G R の一例	坂井仁美

新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月28日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	9	スタッフ・ミーティング	中尾秀人
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月2日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	日齢3にPDAクリッピングを要したSevere SFDの児	岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月4日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	大学研究セミナー	溝淵雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月9日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	小児科学会：巨大肝血管腫4例	田中聡
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月11日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	地方会：臍帯ヘルニアのまとめ	宇仁田亮
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月16日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	iNOを要した肺低形成の25週	和田佳子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月18日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	TMDの一例	白鳥孝俊
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月23日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	サーファクタント洗浄により肺野の左右差が改善したCLDの1例	藤岡一路
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月25日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	在胎27週出生、急性期循環管理に難渋した一例	村上優子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月30日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	論文：肝血管腫4例	田中聡
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月7日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	ASPR 予演	岩谷壮太, 溝淵雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月9日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	動脈管再開通を繰り返し、外科的加療を要した超早産児の一例	白鳥孝俊
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月14日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	早産児の黄疸管理	坂井仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月16日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	地方会：臍帯ヘルニアのまとめ	宇仁田亮
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月21日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	無呼吸発作遷延した早産児	藤岡一路
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月23日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	ASPR 報告	岩谷壮太

新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月28日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	正期産児動脈管閉存症に対して Indomethacin 治療を行った1症例	村上優子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月30日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	Large VSD を認め PAB 後も不整脈が続いている18トリソミーの一例	白鳥孝俊
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月4日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	骨形成不全の一例	和田佳子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月6日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	PA banding 後に心嚢液貯留を認めた18トリソミーの1例	藤岡一路
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月11日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	デベロブメンタルケア	田中聡
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月13日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	多発奇形を伴う臍帯ヘルニア・鎖肛の児	白鳥孝俊
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月18日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	PDA_25-27週の INDO 予防投与	芳本誠司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月20日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	心不全を合併した18trisomy の治療方針の検討	和田佳子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月25日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	低血糖の管理	白鳥孝俊
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月27日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	周産期新生児：母体硫酸マグネシウム投与と新生児蘇生	岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月2日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	CHARGE 症候群	宇仁田亮
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月4日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	MD Twins の NT-proBNP	藤岡一路
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月11日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	未熟児新生児：母体硫酸マグネシウムの総投与量と新生児予後	村上優子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月16日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	黄疸管理	宇仁田亮
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月18日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	未熟児新生児：早産児の DTI	田中聡
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月23日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	未熟児新生児：Selective IUGR の NT-pro BNP	藤岡一路

新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月25日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	11	未熟児新生児：超早産児の出生時気管内吸引液中IL-6値と組織学的絨毛羊膜炎との関連性	岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月30日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	11	地方会：巨大頭蓋内奇形腫のまとめ	谷口紫野
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月1日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	11	母体硫酸マグネシウムの総投与量は新生児予後に影響するか？	村上優子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月6日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	11	一児 PROM の後に出生した早産 DD 双胎の非破水児の1例	藤岡一路
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月8日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	11	Cardiomegaly in larger twin の一例	和田佳子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月13日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	11	研究計画	田中聡
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月15日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	11	PDA を認めた超早産児に対する輸血の適応	谷口紫野
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月20日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	11	1子のみ PDA clipping を要した三絨毛膜三羊膜品胎の1例	村上優子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月22日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	11	小児科学会：出生時より類白血病反応を呈した先天性カンジダ感染症の一例	岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月27日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	11	帝王切開後呼吸障害の2例	中西啓太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月29日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	11	早産児における FGF23 の動態	和田佳子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月3日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	11	PROM 母体から出生した GBS 感染による FIRS の1例	藤岡一路
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月5日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	11	肥大型心筋症を伴った遷延する活気不良・哺乳不良の1例	村上優子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月10日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	11	MSC 研究	溝淵雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月12日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	11	HIE 症例における ADC 値	田中聡
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月17日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	11	研修総括	村上優子

新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月19日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	15番環状染色体の一例	中西啓太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月24日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	地方会：頭蓋内巨大奇形腫	谷口紫野
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月26日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	11	PAS：BPDにおける血管透過性の関連	岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月1日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	10	研究総括	溝淵雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月3日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	10	ジアゾキサイドを使用した低血糖症例	田中聡
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月8日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	10	18トリソミーのまとめ	中西啓太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月10日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	10	INVOSを用いたPDA管理	和田佳子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月15日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	10	ESPR 報告	坂井仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月17日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	10	研究計画	藤岡一路
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月22日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	10	PAS：HIEのADC	田中聡
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月24日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	10	PAS：Increased levels of interleukin-6 in tracheal aspirate fluid reflect the presence of chorioamnionitis with fetal involvement in ventilated premature infants	岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月29日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	10	出生直後のカンガルーケア後にPPHNを発症した1例	高藤哲
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月31日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	10	腹腔内出血により腎不全を合併した低出生体重児の一例	坂井仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月5日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	10	MSC 研究	溝淵雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月7日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	10	未熟児新生児：thantophoric dysplasia の予後	和田佳子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月12日	16:00-17:30	NICU カンファレンスルーム	10	未熟児新生児：新生児脳障害のける拡散テンソル画像とtractography	田中聡

新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月14日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	10	phocomelia の一例 (Holt Oram 症候群)	高藤哲
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月19日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	10	未熟児新生児：超早産児の出生時気管内吸引液中 IL-6 は組織学的絨毛膜炎の重症度を反映する	岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月21日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	10	腹膜透析	中西啓太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月28日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	10	偽性低アルドステロン症の兄弟例	高藤哲
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月3日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	10	先天性敗血症により IVH, PHH 合併した一例	田中聡
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月5日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	10	ASPR: Increased Levels of Serum N-terminal Prohormone Brain Natriuretic Peptide (NT-proBNP) at Birth in Monochorionic Twins with Selective Intrauterine Growth Restriction (sIUGR)	藤岡一路
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月10日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	10	兵庫県方会：吸入ステロイド中止による管理の変化	三木康暢
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月12日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	10	2013年研究計画・ルーチン見直し	岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月17日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	10	2013年研究計画	田中聡
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月19日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	10	先天性風疹症候群	高藤哲
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月24日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	10	2013年研究計画	芳本誠司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月26日	16:00-17:30	N I C U カンファレンスルーム	10	ルーチン総括	岩谷壮太
薬剤部勉強会	薬剤部	1月12日	17:30~18:30	薬剤部	9	製品勉強会「ネオパレン」	
薬剤部勉強会	薬剤部	1月18日	8:45~9:00	薬剤部	11	症例報告会 産科 「成長ホルモンを投与中の患児のコンプライアンスに関する症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	1月18日	17:30~18:30	薬剤部	8	部内勉強会 腎臓内科 「ネフロローゼと JSKDC」	

薬剤部勉強会	薬剤部	2月1日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 腎臓内科 「テモダールの服用困難な児に対する薬剤管理指導の症例」
薬剤部勉強会	薬剤部	2月8日	17:30～18:30	薬剤部	9	製品勉強会 「ロタリックス内用液」
薬剤部勉強会	薬剤部	2月15日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 産科 「マグセント注とリトドリン注併用中の減量する薬剤の選び方に関する症例」
薬剤部勉強会	薬剤部	2月22日	17:30～18:30	薬剤部	8	部内勉強会 産科 「授乳婦とお薬について」
薬剤部勉強会	薬剤部	3月8日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 脳神経外科 「脳幹グリオーマの児と母に薬剤管理指導を行った症例」
薬剤部勉強会	薬剤部	3月22日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 血液腫瘍科 「AML モニタリングシートを用いた薬剤管理指導」
薬剤部勉強会	薬剤部	5月23日	17:30～18:30	薬剤部	8	製品勉強会 「ホストイン注」
薬剤部勉強会	薬剤部	6月6日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 腎臓内科 「服薬コンプライアンス不良の慢性腎不全患者の症例」
薬剤部勉強会	薬剤部	6月13日	17:30～18:30	薬剤部	8	「てんかん治療について」
薬剤部勉強会	薬剤部	6月20日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 循環器内科 「タンボコールとミルグクの相互作用を疑った症例」
薬剤部勉強会	薬剤部	6月20日	17:30～18:30	薬剤部	9	部内勉強会 血液腫瘍科 「血液腫瘍科の使用薬剤について」
薬剤部勉強会	薬剤部	7月4日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 血液腫瘍科 「ALLの患者に対する服薬指導」
薬剤部勉強会	薬剤部	7月11日	17:30～18:30	救急 カンファレンス室	9	製品勉強会 「ミルセラ注」
薬剤部勉強会	薬剤部	7月18日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 産科 「GDMの症例」
薬剤部勉強会	薬剤部	7月18日	17:30～18:30	薬剤部	8	部内勉強会 産科 「当院の切迫早産における使用薬剤について」
薬剤部勉強会	薬剤部	7月25日	17:30～18:30	薬剤部	8	「糖尿病治療（インスリン療法、GLP-1アナログ製剤を中心に）」

薬剤部勉強会	薬剤部	8月1日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 血液腫瘍科 「サイモグロブリンによるインフルエンザ様症状を投与速度の調節により改善できた症例」
薬剤部勉強会	薬剤部	8月2日	17:30～18:30	薬剤部	8	「問診とバイタルサインによる薬剤師トリアージの必須ポイント (1)」 DVD 視聴
薬剤部勉強会	薬剤部	8月3日	17:30～18:30	薬剤部	8	「問診とバイタルサインによる薬剤師トリアージの必須ポイント (2)」 DVD 視聴
薬剤部勉強会	救急 カンファレンス室	8月9日	17:30～18:30	救急 カンファレンス室	9	製品勉強会 「ネスブ注、レグパラ錠、ミニリメント錠」
薬剤部勉強会	薬剤部	8月15日	8:45～9:00	薬剤部	9	症例報告会 循環器内科 「カテーテル検査入院の患者から自宅での服用について相談を受けた症例」
薬剤部勉強会	薬剤部	8月16日	17:30～18:30	薬剤部	9	部内勉強会 循環器内科 「DPBのマクロライド療法」
薬剤部勉強会	薬剤部	8月29日	17:30～18:30	薬剤部	7	「市中肺炎」DVD視聴
薬剤部勉強会	薬剤部	9月5日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 産科 「チラヂンSとマグミットの飲み合わせについて質問を受けた症例」
薬剤部勉強会	薬剤部	9月12日	17:30～18:30	薬剤部	8	「輸液ポンプ・シリンジポンプの使い方」
薬剤部勉強会	薬剤部	9月19日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 腎臓内科 「ステロイドパルス時に高血糖が出現した症例」
薬剤部勉強会	薬剤部	9月26日	17:30～18:30	薬剤部	8	「緩和医療について」
薬剤部勉強会	薬剤部	9月27日	17:30～18:30	薬剤部	9	部内勉強会 血液腫瘍科 「小児と成人の化学療法の違い」
薬剤部勉強会	薬剤部	10月10日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 循環器内科 「プランを立てなかった悪い症例」
薬剤部勉強会	薬剤部	10月11日	17:30～18:30	薬剤部	8	「手術室における薬剤業務の拡充」
薬剤部勉強会	薬剤部	10月12日	17:30～18:30	薬剤部	8	製品勉強会 「イモバックスポリオ」
薬剤部勉強会	薬剤部	10月17日	17:30～19:30	薬剤部	8	「感染症診療にどのようなかわるか・抗菌薬治療を中心に」DVD 視聴

薬剤部勉強会	薬剤部	10月24日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 血液腫瘍科 「神経芽腫に大量化学療法とPBSCTを行った症例」	和光純薬
薬剤部勉強会	薬剤部	11月12日	17:30～18:30	薬剤部	9	「経腸栄養と血糖管理」	野口啓子
薬剤部勉強会	薬剤部	11月14日	17:30～19:30	薬剤部	9	「循環器内科 外すことのできない七つのクスリ」 DVD 視聴	神戸常盤短期 大学実習生
薬剤部勉強会	薬剤部	11月21日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 眼科 「処方変更によりペニシリンアレルギーを事前に回避した症例」	細見照美
薬剤部勉強会	薬剤部	11月21日	17:30～18:30	薬剤部	8	部内勉強会 産科 「妊娠中のトキソプラズマ感染とアセチルスピライミンについて」	末道愛子
薬剤部勉強会	薬剤部	11月28日	17:30～18:30	薬剤部	9	「リコモジュリン（小児・産科での使用について）」	瀬本・四元・ 西垣
薬剤部勉強会	薬剤部	12月5日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 循環器内科 「ワーファリン服用中の患児の母にVKを含む 食事について質問を受けた症例」	日本電子
薬剤部勉強会	薬剤部	12月5日	17:30～18:30	薬剤部	9	製品勉強会「アドシルカ錠」	
薬剤部勉強会	薬剤部	12月19日	17:30～18:30	薬剤部	9	部内勉強会 腎臓内科 「急性腎不全」 「薬剤性腎障害とリスクマネジメント」	
検査部内研修会	検査部	1月26日	16:30～17:00	検査技師室	10	精度管理について	
検査部内研修会	検査部	2月22日	16:30～17:00	検査技師室	10	兵庫県立病院輸血検査ガイドライン（技術編）改訂について	
検査部内研修会	検査部	3月9日	16:30～17:00	検査技師室	13	凝固検査について・病理組織染色法における染色性について	
検査部内研修会	検査部	6月14日	16:30～17:00	検査技師室	10	血液製剤の分割について（無菌接合装置）	
検査部内研修会	検査部	7月12日	16:30～17:00	検査技師室	7	細菌検査について（週報の見方）	
検査部内研修会	検査部	8月17日	16:30～17:00	検査技師室	11	県立病院学会予演会	
検査部内研修会	検査部	9月5～7日	16:30～17:30	生化学検査室	14	BM6050について	

検査部内研修会	検査部	9月10～12日	16:30～17:30	生化学検査室	14	ケンタウルスについて	シーメンス
検査部内研修会	検査部	9月18・19日	16:30～17:30	生化学検査室	14	CLALISについて	システムインフロンティア
検査部内研修会	検査部	10月10日	16:30～17:00	検査技師室	7	輸血オーダーリングについて	千田園子
検査部内研修会	検査部	10月26日	16:30～17:00	検査技師室	6	血液培養検査のポイント	栄研化学
検査部内研修会	検査部	11月14日	16:30～17:00	検査技師室	7	遺伝子検査の基礎について	三菱化学
検査部内研修会	検査部	11月15日	16:30～17:00	検査技師室	10	遺伝子検査の応用	三菱化学
検査部内研修会	検査部	11月16日	16:30～17:00	検査技師室	12	遺伝性くる病について	郷司克己
検査部内研修会	検査部	11月29日	16:30～17:00	検査技師室	5	血清アミロイド蛋白(SAA)について	栄研化学
放射線部勉強会	放射線部	1月19日	16:30～17:00	放射線技師室	10	死後画像診断の3分の1は剖検結核と大きく異なる	清水俊文
放射線部勉強会	放射線部	3月8日	16:30～17:00	放射線技師室	5	心筋SPECTの定量的読み方(解析ソフトと注意点)	大谷幸弘
放射線部勉強会	放射線部	3月15日	16:30～17:00	放射線技師室	10	放射性医薬品取扱ガイドラインについて	射場智美
放射線部勉強会	放射線部	3月29日	16:30～17:00	放射線技師室	10	小児看護について	藤井友紀子
放射線部勉強会	放射線部	8月9日	17:00～17:30	一般撮影室	8	ワイヤレスFPDシステムについて	富士フィルム
放射線部勉強会	放射線部	9月6日	17:00～17:30	一般撮影室	8	ワイヤレスFPDシステムについて	コミュニケーション
放射線部勉強会	放射線部	10月11日	16:30～17:00	放射線技師室	7	放射線情報システムと治療RIS	横河電機
課内研修会	栄養指導課	1月12日	15:00～15:30	栄養指導課	13	いなり寿司の揚げの切り方について	鳥井隆志

課内研修会	栄養指導課	2月15日	15:00～15:30	栄養指導課	12	栄養補助食品提供のあり方について	鳥井隆志
課内研修会	栄養指導課	3月5日	15:00～15:30	栄養指導課	13	扁摘術後食について	鳥井隆志
課内研修会	栄養指導課	4月13日	15:00～15:30	栄養指導課	13	ヒヤリハットの報告について	山本和彦
課内研修会	栄養指導課	5月16日	15:00～15:30	栄養指導課	13	院内基準の変更について	鳥井隆志
課内研修会	栄養指導課	6月14日	15:00～15:30	栄養指導課	14	厨房内での衛生管理について	鳥井隆志
課内研修会	栄養指導課	7月11日	15:00～15:30	栄養指導課	14	ヒヤリハットの報告について	山本和彦
課内研修会	栄養指導課	8月10日	15:00～15:30	栄養指導課	13	今後の栄養指導課のあり方について	鳥井隆志
課内研修会	栄養指導課	9月12日	15:00～15:30	栄養指導課	14	今後の栄養指導課のあり方について	鳥井隆志
課内研修会	栄養指導課	10月24日	15:00～15:30	栄養指導課	13	今後の栄養指導課のあり方について	鳥井隆志
課内研修会	栄養指導課	11月13日	15:00～15:30	栄養指導課	13	ヒヤリハットの報告について	山本和彦
課内研修会	栄養指導課	12月26日	15:00～15:30	栄養指導課	12	服務規律の遵守について	山本和彦
MEカンファレンス	ME	毎日	8:30～9:00	ME室	7	臨床業務、医療機器管理業務についての検討、情報交換	
平成24年度新人 フォロー研修	看護部	4月20日		研修室A B		輸液・シリンジポンプについて	志智美咲
心臓血管外科 カンファレンス	心臓血管外科	5月9日	8:30～9:00	本館4F カンファレンスルーム	21	ペースメーカー説明会	業者
心臓血管外科 カンファレンス	ME	7月25日	8:15～8:45	本館4F カンファレンスルーム	12	血液凝固分析装置：HMS plus 説明会	業者/ 横山真司
ME勉強会	ME	8月1日	8:15～8:45	ME室	7	酸素運搬の基礎と各種病態における変化	岩崎一崇

麻酔科カンファレンス	ME		8月2日	8:40~9:00	麻酔科室	19	血液凝固分析装置：HMS plus 説明会	業者/ 横山真司
ME 勉強会	ME		8月6日	17:30~19:30	本館4F カンファレンスルーム	11	SP E C T R A について	業者/ 横山真司
心臓血管外科 カンファレンス	心臓血管外科		8月9日	8:15~9:00	本館4F カンファレンスルーム	23	ECMO について	圓尾文子
ME 勉強会	ME		8月29日	8:15~8:50	ME 室	7	大動脈縮窄症、大動脈弓離断症に対する手術と体外循環 法	藤井和弥
ME 勉強会	ME		9月19日	8:15~8:45	ME 室	7	小児急性血液浄化療法の歩みとその実際	志智美咲
ME カンファレンス	ME		10月3日	8:15~9:00	ME 室	7	第5回 KPC、テルモ PCPS セミナー報告会	横山真司
ME 勉強会	ME		10月11日	8:15~8:45	ME 室	7	臨床工学技士が知っておくべき薬の知識	秋元明日香
ICU 勉強会	ME		10月24日	17:30~19:30	研修室 A B	24	ECMO について	横山真司
ME 勉強会	ME		10月30日	16:00~17:00	研修室 A B	11	スペクトラオプティア説明会	業者
ME 勉強会	ME		10月31日	8:15~8:45	ME 室	7	無侵襲混合血酸素飽和度 (INVOS) について	三坂勇介
ICU 勉強会	ME		10月31日	17:30~19:30	研修室 D	12	ECMO について	横山真司
ME 勉強会	ME		11月9日	17:30~19:30	ME 室	7	HAS II (人工心肺装置) 説明会	業者/ 岩崎一崇
ME 勉強会	ME		11月12日	17:30~18:30	ME 室	7	オキシア AC (人工肺) 説明会	業者/ 横山真司
ME 勉強会	ME		11月21日	8:15~8:45	ME 室	7	単心室治療におけるフォントラン手術 (TCPC) と体外循環法	吉本由衣
PICU 勉強会	ME		12月19日	17:30~19:00	救急カンファレンス室	21	ECMO について	横山真司

看護部部署内勉強会

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	発表者/担当
勉強会	一般外科主体病棟	5月21～23、25日	20分間ずつ	病棟 (カンファレンス時間)	19	気管内吸引	Aチーム
勉強会	一般外科主体病棟	6月25日	18:00～19:20	4A カンファレンスルーム	8	ストマ勉強会	岡野恭子、 鎌田直子
勉強会	一般外科主体病棟	6月12日	14:00～14:30	病棟 (カンファレンス時間)	9	防災訓練	防災係
勉強会	一般外科主体病棟	7月3日	17:30～19:00	4A カンファレンスルーム	7	救急蘇生	細川里美、 桑畑明日香
勉強会	一般外科主体病棟	6月28日、7月2日	30分間ずつ	病棟 (カンファレンス時間)	20	スタンダードプロポジション、MRS A、おむつ交換	感染係
勉強会	一般外科主体病棟	9月20日	17:30～19:00	4A カンファレンスルーム	4	第一回アセスメント勉強会	桑畑明日香、 細川里美
勉強会	一般外科主体病棟	9月18日	17:30～18:30	研修室D	11	ヒルシユスプルング病	中尾真 (外科 Dr)
勉強会	一般外科主体病棟	9月23～25日	15分間ずつ	病棟 (カンファレンス時間)	24	気管気管支洗浄 (T B T)、アンビユ-加庄	高田一美、 横山経子
勉強会	一般外科主体病棟	10月9日	17:30～18:30	4A カンファレンスルーム	3	第2回アセスメント勉強会	上村加奈、 茨木美鶴
勉強会	一般外科主体病棟	11月14日	18:00～18:15	研修室A B	18	冬の流行性感染症と個人防護具について	感染係
勉強会	一般外科主体病棟	11月14日	14:00～14:30	病棟 (カンファレンス時間)	10	防災訓練	防災係
勉強会	一般外科主体病棟	12月12日	17:30～18:30	4A カンファレンスルーム	3	気管切開	北川一美、 細川里美、 茨木美鶴
勉強会	循環器 A 病棟	5月8日	15:10～16:10	病棟食堂	7	新生児看護の基礎	永石

勉強会	循環器 A 病棟	5月10日	15:00～16:00	病棟食堂	7	血液内科疾患患者の処置・ケア・看護	萱野
勉強会	循環器 A 病棟	6月19日	16:30～17:40	病棟食堂	8	心臓カテーテル検査の理解と看護 不整脈の理解と看護	池田 青野
勉強会	循環器 A 病棟	4月10日	11:00～13:00	病棟食堂	7	呼吸循環管理の基礎 (解剖生理学～)	永石
勉強会	循環器 A 病棟	6月16日	16:15～17:15	病棟食堂	7	呼吸管理の安全確認 (気切の安全確認 酸素療法 人工鼻の吸引等)	青野
勉強会	循環器 A 病棟	7月25日	16:15～17:15	病棟食堂	8	AVSD の病態・治療・看護	大川 岸本
勉強会	循環器 A 病棟	10月12日	18:00～19:00	研修室 D	8	グレン・フォントラン循環とその看護	井川 古賀
勉強会	循環器 A 病棟	9月28日	17:30～18:30	病棟食堂	7	チアノーゼ疾患の病態と看護	渡辺
勉強会	循環器 A 病棟	12月19日	17:40～18:30	研修室 AB	8	骨髄抑制移植後の看護	村上 新名
勉強会	循環器 A 病棟	1月18日	8:40～17:15	病棟食堂	2	人工呼吸器の看護と実際	岸本 青野
勉強会	循環器 A 病棟	11月8日	18:00～19:00	研修室 D	33	移植後合併症の Dr. 石井によるレクチャー (血内・HCU の NS20名を参加者に含む)	東谷
勉強会	循環器 A 病棟	3月1日	18:00～19:00	7階会議室	16	On cologicEmergency についての Dr. 越智によるレクチャー (血内・HCU の NS4名を参加者に含む)	東谷 河南
勉強会	循環器 A 病棟	8月27日	18:00～19:00	病棟食堂	8	基本的なコミュニケーションスキル (あいさつ・傾聴)	大川
勉強会	循環器 A 病棟	1月16日	18:00～19:00	研修室 D	16	危機状況における家族への援助について、清水師長によるレクチャー (救急 NS2名を参加者に含む)	大川
勉強会	循環器 AB 病棟	7月17日	17:45～19:15	研修室 A B	35	BLS の手技確認・演習	古賀
勉強会	循環器 AB 病棟	10月3日	17:45～19:15	研修室 A B	30 医師14	実際のシミュレーション場面での役割行動	古賀

勉強会	循環器 AB 病棟	12月13日	17:45～19:15	研修室 AB	28 医師4	ECMO 装着事例のシミュレーション	中野幸子 後山ゆかり
勉強会	循環器 AB 病棟	2月26日	18:00～19:10	研修室 AB	13	ECMO 装着事例のシミュレーション	古賀
勉強会	循環器 B 病棟	6月14日	17:45～19:15	7F カンファレンスルーム	5	フォントアン循環	藤原あずさ 石塚未江
勉強会	循環器 B 病棟	6月20日	17:45～19:15	7F カンファレンスルーム	23	フォントアン型術後遠隔隔期合併症蛋白漏出性胃腸症	藤原あずさ 永田早紀
勉強会	循環器 B 病棟	7月5日	17:45～19:15	7F カンファレンスルーム	10	心不全・ASD・VSD の看護	石井麻理 古川恵理子 中村亮子
勉強会	循環器 B 病棟	8月30日	13:45～17:15	5B 病棟	5	呼吸管理管理	赤尾梨恵
勉強会	循環器 B 病棟	9月18日	17:45～19:00	7F カンファレンスルーム	7	リーダーシップ勉強会	開保津直美
勉強会	循環器 B 病棟	9月26日	17:45～18:25	7F カンファレンスルーム	20	先天性心疾患の育児・退院支援の家族看護－フローシート導入に向けて	中村亮子 古川陽子
勉強会	循環器 B 病棟	10月12日	17:45～19:00	7F カンファレンスルーム	8	虐待防止と病棟看護師の役割	大原三代子
勉強会	循環器 B 病棟	10月18日	17:45～19:15	7F カンファレンスルーム	6	ドレーン管理	古川恵理子 刈谷友紀
勉強会	循環器 B 病棟	11月2日	17:35～19:00	7F カンファレンスルーム	5	不整脈の看護	渡辺旭代
勉強会	循環器 B 病棟	11月27日	17:45～19:15	7F カンファレンスルーム	5	ペースメーカーの看護	永田早紀 石塚未江
勉強会	循環器 B 病棟	12月20日	17:45～19:15	5B 病棟	4	PDA / 姑息術の看護	石井麻理 大原三代子
勉強会	循環器 B 病棟	1月29日	17:30～18:30	5B 病棟	4	新生児の看護	佐藤温子 小林久美子
勉強会	循環器 B 病棟	7月17日	17:45～19:15	研修室 AB	35	救急蘇生勉強会 5A B 合同 BLS 手技の習得	濱端健一 楠本恵美 鎌田直美

事例検討会	循環器B病棟	5月16日	17:45～18:45	7Fカンファレンスルーム	24	時間管理	開保津直美 小林久美子
事例検討会	循環器B病棟	9月19日	17:45～19:15	7Fカンファレンスルーム	22	ヒヤリハット事例より RCA分析NG チューブ交換に伴う鼻出血	濱端健一
事例検討会	循環器B病棟	10月17日	17:45～18:15	7Fカンファレンスルーム	18	虐待が考えられた事例の看護の振り返り	松高里美
事例検討会	循環器B病棟	10月17日	18:15～19:00	7Fカンファレンスルーム	18	病棟の現状を考える	開保津直美 小林久美子
事例検討会	循環器B病棟	10月26日	17:45:00～19:15	研修室D	14	急変事例の振り返り	中村亮子
症例検討会	循環器B病棟	6月11日	18:30～20:30	研修室AB	51	兵庫県立大学小児看護学講座症例検討会： 気管切開をしている子どもの療育環境について	松高里美 大原三代子
症例検討会	循環器B病棟	12月17日	18:30～20:30	学生カンファレンスルーム	18	兵庫県立大学小児看護学講座症例検討会： 『長期入院となっている幼児の療養生活のその後と今後の 家族支援について』～今年6月の症例検討から～	松高里美
勉強会	混合A病棟	5月25日	17:30～18:30	6階面談室	12	トリロジー	フィリップス /担当
勉強会	混合A病棟	7月8日	17:30～18:30	研修室AB	15	ネフローゼ症候群	中川医師/ 担当
勉強会	混合A病棟	7月26日	15:15～15:45	6階面談室	14	フィリップス心電図モニターの使用方法	フィリップス /担当
勉強会	混合A病棟	9月9日	17:30～19:30	研修室C	12	ターミナル看護について 事例検討	濱田 CNS/ 担当
勉強会	混合A病棟	11月14日	17:30～18:30	6A病棟食堂	5	BLSシミュレーション	担当
勉強会	混合A病棟	11月19日	17:30～18:30	研修室C	10	脳腫瘍について	河村医師/ 担当
勉強会	混合A病棟	11月26日	17:30～18:30	6A病棟食堂	5	BLSシミュレーション	担当
勉強会	混合A病棟	12月17日	17:30～18:30	研修室C	12	PD管理 基礎編	バクスター/ 担当

勉強会	混合B病棟	6月22日	17:30～19:00	病棟	10	蘇生勉強会	担当：山川 大東 姑山
勉強会	混合B病棟	6月29日	17:30～19:00	病棟	10	蘇生勉強会	担当：山川 大東 姑山
勉強会	混合B病棟	10月23日	17:30～19:00	産科外来指導室	15	2年目アセスメント	発表者：大橋
勉強会	混合B病棟	10月26日	14:30～15:30	病棟	6	2年目アセスメント	発表者：平野
勉強会	混合B病棟	1月11日	17:30～19:00	7階会議室	10	1年目アセスメント	発表者：畑中 加藤
勉強会	混合B病棟	2月12日	17:30～19:00	4階A側	10	気管内挿管	担当：山川 大東 姑山
勉強会	混合B病棟	2月19日	17:30～19:00	4階A側	11	気管内挿管	担当：山川 大東 姑山
勉強会	血液主体病棟	6月29日	14:00～15:00	7階話所	10	ネララビンについて	上野薬剤師
勉強会	血液主体病棟	7月12日	17:30～18:15	7階学習室	8	看護研究とは	濱田看護師長
勉強会	血液主体病棟	9月6日	17:30～18:30	7階学習室	15	がん化学療法の副作用	後藤看護師
勉強会	血液主体病棟	10月9日	17: :30～18:00	7階学習室	9	MRS Aについて	鳴滝看護師
勉強会	血液主体病棟	10月16日	17: :30～18:00	7階学習室	9	MRS Aについて	鳴滝看護師
勉強会	血液主体病棟	10月23日	17: :30～18:00	7階学習室	9	MRS Aについて	鳴滝看護師
勉強会	血液主体病棟	10月29日	17:30～18:30	7階学習室	15	肝芽腫プロトコール	田中医師
勉強会	血液主体病棟	2月8日	17:30～18:15	7階学習室	8	プレゼンテーション	濱田看護師長

勉強会	血液主体病棟	2月20日	16:00～17:00	第1会議室	4	救急シミュレーション	鈴木看護師・ 岩田看護師
勉強会	血液主体病棟 循環器A病棟・ HCU	4月27日	17:30～18:30	研修室AB	25	骨髄移植について	石田医師
勉強会	血液主体病棟 循環器A病棟・ HCU	5月1日	17:30～18:30	研修室AB	25	化学療法について	田中医師
勉強会	血液主体病棟 循環器A病棟・ HCU	8月17日	17:30～18:30	研修室D	25	小児がんの治療	斎藤医師
勉強会	血液主体病棟 循環器A病棟	3月1日	17:30～18:30	第1会議室	20	Oncologic Emergencies	越智医師
勉強会	救急	5月28日	9:00～17:15	研修室AB	10	ラダーI対象「呼吸：基礎編」勉強会	藤原、本間、 川西
勉強会	救急	8月21日	17:30～18:30	4A	14	第1回BLS講習会	藤原、上池、 綾部、伊藤
勉強会	救急	8月27日	17:30～18:30	4A	16	第2回BLS講習会	藤原、上池、 綾部、伊藤
勉強会	救急	9月1日	17:40～19:00	診察室2	8	病棟急変トレーニング（痙攣重積）	藤原、綾部、 伊藤、上池
勉強会	救急	9月5日	17:30～18:30	カンファレンス室	26	チームダイナミクス説明会	大田、川西、 金子、前田、 下山、遠藤
勉強会	救急	9月19日	17:30～18:30	初療室	15	第1回チームダイナミクスシミュレーション：交通外傷	大田、川西、 金子、前田、 下山、遠藤
勉強会	救急	10月9日	17:30～18:30	初療室	12	第2回チームダイナミクスシミュレーション：交通外傷	大田、金子、 前田、下山、 遠藤
勉強会	救急	10月30日	18:00～19:00	初療室	14	第3回チームダイナミクスシミュレーション：交通外傷	大田、金子、 前田、下山、 遠藤
勉強会	救急	11月26日	18:00～19:00	初療室	15	第4回チームダイナミクスシミュレーション：交通外傷	大田、金子、 前田、下山、 遠藤
勉強会	救急	12月13日	18:00～19:00	初療室	17	第5回チームダイナミクスシミュレーション：痙攣重積	大田、金子、 前田、下山、 遠藤

勉強会	救急		12月18日	18:00～19:00	初療室	13	第6回チームダイナミクスシミュレーション：痙攣重積	大田、金子、前田、下山、遠藤
勉強会	救急		11月6日	18:00～19:00	初療室	21	第7回チームダイナミクスシミュレーション：CPA	大田、金子、前田、下山、遠藤
勉強会	救急		1月30日	18:00～19:00	初療室	17	第8回チームダイナミクスシミュレーション：CPA	大田、金子、前田、下山、遠藤
勉強会	救急		10月20日	9:00～13:00	研修室AB	29	平成24年度院内臓器移植シミュレーション	森野、神田、大田
勉強会	救急		9月21日	18:00～19:00	カンファレンス室	12	呼吸器の基礎	金子
勉強会	救急		10月22日	18:00～19:00	カンファレンス室	11	アラーム・トラブleshooting	金子
勉強会	救急		11月24日	18:00～19:00	カンファレンス室	14	グラフィックモニター	金子
勉強会	HCU病棟		7月31日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	12	チーム勉強会：呼吸管理について	中根・熊谷
勉強会	HCU病棟		8月23日	17:30～18:30	HCU病棟	13	チーム勉強会：症例検討会	溝淵Dr
勉強会	HCU病棟		8月17日	17:30～18:30	研修室D	7	チーム勉強会：小児のがん治療について	斉藤Dr
勉強会	HCU病棟		9月27日	17:30～18:30	7F会議室	14	チーム勉強会；新生児の看護について	古塚・林
勉強会	HCU病棟		9月21日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	10	チーム勉強会：脳腫瘍	河村Dr
勉強会	HCU病棟		10月1日	17:30～18:00	カンファレンスルーム	13	チーム勉強会：二分脊椎	河村Dr
勉強会	HCU病棟		11月28日	17:30～18:00	7F会議室	11	チーム勉強会：在宅移行	家常
勉強会	HCU病棟		11月2日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	15	チーム勉強会：化学療法	後藤(7Fns)

勉強会	HCU病棟	1月23日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	12	チーム勉強会摂食について	長束
勉強会	HCU病棟	1月30日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	13	新記録用紙について	家常
勉強会	ICU	5月18日	17:30～19:10	ICU 研修室 AB	26	救急蘇生①救急蘇生場面に必要な手技・看護師役割	鈴木・伊丹
勉強会	ICU	6月4日	17:30～18:30	研修室 D	24	新生児管理の基本	講師：NICU 伊達看護師長 補佐
勉強会	ICU	6月5日	14:15～14:45	ICU	12	細菌について①	講師：鳴滝感 染認定看護師
勉強会	ICU	6月15日	17:30～18:30	研修室 D	24	新生児期に起こりうる疾患とその管理	講師：NICU 伊達看護師長 補佐
勉強会	ICU	6月19日	14:15～14:45	ICU	11	細菌について②	講師：鳴滝感 染認定看護師
勉強会	ICU	6月26日	14:15～14:45	ICU	9	細菌について③	講師：鳴滝感 染認定看護師
勉強会	ICU	7月8日	14:15～14:45	ICU	8	抗菌薬について①	講師：鳴滝感 染認定看護師
勉強会	ICU	9月25日	17:30～18:50	ICU	22	救急蘇生②処置時対応	鈴木・山下・ 笠木・山本康 代
勉強会	ICU	10月24日	17:40～18:40	研修室 AB	16 ME7	ECMO 勉強会	鈴木・伊丹
勉強会	ICU	10月31日	17:45～18:45	研修室 D	12 ME2	ECMO 勉強会	鈴木・伊丹
勉強会	ICU	12月12日	17:30～18:40	ICU	25	救急蘇生③ ECMO 導入	鈴木・伊丹・ 西澤
勉強会	ICU	1月24日	17:30～18:40	ICU	27	救急蘇生④ ECMO 導入	鈴木・伊丹・ 西澤
勉強会	NICU	6月15日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	15	NICU年目勉強会：救急蘇生の基本	アプリセプター

勉強会	NICU		7月9日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	15	NICU1年目勉強会：呼吸管理	プリセプター
勉強会	NICU		8月20日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	15	NICU1年目勉強会：ファミリーケア	プリセプター
勉強会	NICU		9月25日	17:30～19:01	病棟 カンファレンスルーム	16	NICU1年目勉強会：安全（KYT）	プリセプター 安全委員
勉強会	NICU		10月22日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	13	NICU1年目勉強会：呼吸ウイニングする見の看護	プリセプター
勉強会	NICU		10月25日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	13	NICU1年目勉強会：日常生活援助技術の振り返り	プリセプター
勉強会	NICU		11月6日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	15	NICU1年目勉強会：予定外抜管	プリセプター
勉強会	NICU		12月6日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	15	NICU1年目勉強会：入院受け	プリセプター
勉強会	NICU		1月17日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	15	NICU1年目勉強会：入院受け振り返り	プリセプター
勉強会	NICU		2月25日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	15	NICU1年目勉強会：アセスメント 関連図	プリセプター
勉強会	NICU		3月5日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	13	NICU1年目勉強会：大切にしたい看護	NICU1年目 看護師
勉強会	NICU		12月25日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	6	ネオネイタル抄読会：晚期循環不全	ラダーⅠ・Ⅱ
勉強会	NICU		1月25日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	10	ネオネイタル抄読会：ポジショニング	ラダーⅠ・Ⅱ
勉強会	NICU		9月14日	17:30～19:00	研修室AB	50	ディベロップメンタルケア：NIDCAP	高橋病院 口紀子
勉強会	NICU		12月17日	17:30～19:00	研修室AB	55	グループ勉強会：NICUでの心のケア ～臨床心理士の視点から～	加古川西市民 病院臨床心理 士岡田由美子
勉強会	NICU		10月26日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	14	ケーススタディ	ラダーⅠ・ 吉田望 米村真理奈

勉強会	NICU	12月20日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	13	ケーススタディ	ラダーⅠ・Ⅱ 田村美季 安部真由香
勉強会	NICU	1月30日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	13	ケーススタディ	ラダーⅠ・Ⅱ 森夏海 開智友美 阪口奈央子
勉強会	NICU	3月14日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	13	ケーススタディ	ラダーⅠ・Ⅱ 吉田望 米村真理奈 井口淳子
勉強会	NICU	9月3日	17:30～19:00	研修室AB	25	母乳について	母乳育児ワー キンググルー プ藤原洋美
勉強会	NICU	8月13日	17:30～19:00	研修室D	12	リーダー勉強会：育児外来について	ラダーⅢⅣ 前川佐知子
勉強会	NICU	12月13日	17:30～19:00	研修室D	13	リーダー勉強会：教育について	ラダーⅢⅣ 伊達CN
勉強会	GCU	4月12日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	10	重症新生児仮死をきたした児の看護	田口
勉強会	GCU	5月18日	17:30～18:30	沐浴室	13	1年目沐浴勉強会	高柳、小松、 加藤
勉強会	GCU	5月25日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	14	1年目直母勉強会	安田、橋詰、 山辺
勉強会	GCU	5月28日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	7	ストーマ管理について	中津、要
勉強会	NICU・GCU	6月1日	17:30～18:30	研修室AB	23	Let's Enjoy Neonatal Care	中尾医師 【講師】
勉強会	GCU	6月11日	17:30～18:30	研修室D	9	第1回1年目対象救急蘇生勉強会	竹田、吉田、 黒木
勉強会	NICU・GCU	7月3日	17:30～18:30	研修室AB	36	感染について	溝渕医師 【講師】
勉強会	GCU	7月30日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	9	育児のお話について	要、岩本、 田口

勉強会	NICU・GCU	8月9日	17:30～18:30	研修室AB	35	体温管理の基礎	黒島
勉強会	GCU	8月30日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	13	早産児における栄養管理の重要性について	安田
勉強会	NICU・GCU	9月14日	17:30～18:30	研修室AB	70	ディベロップメンタルケア	伊達 院外講師
勉強会	GCU	9月19日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	10	高カリウム血症の児の看護	高柳
勉強会	GCU	9月28日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	11	N-DPAP 装着中の児の育児参加について	小松
勉強会	NICU・GCU	10月12日	17:30～18:30	研修室AB	26	呼吸の基礎	岩谷医師 【講師】
勉強会	GCU	10月23日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	12	早産児の体温管理について	田口
勉強会	GCU	10月22日	17:30～18:30	研修室D	15	事例アセスメント発表会	小松、橋詰、 加藤
勉強会	NICU・GCU	11月13日	17:30～18:30	研修室AB	31	ファミリーセンタードケアについて	伊達
勉強会	GCU	11月14日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	6	防災勉強会 3分間シミュレーションについて	岸
勉強会	GCU	11月22日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	10	新生児メレナの児の看護について	岩本
勉強会	GCU	12月7日	17:30～18:30	研修室C	12	第2回1年目対象救急蘇生勉強会	竹田、吉田、 黒木
勉強会	NICU・GCU・ HCU	12月11日	17:30～18:30	研修室AB	56	循環の基礎	芳本医師 【講師】
勉強会	GCU	12月21日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	11	気管切開術後の児の看護について	橋詰
勉強会	GCU	1月7日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	24	防災勉強会	岸、高柳、安 田

勉強会	NICU・GCU	1月18日	17:30～18:30	研修室AB	20	母乳育児支援	藤原ひ
勉強会	GCU	1月25日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	25	救急蘇生	伊賀、笠作、 中津
勉強会	NICU・GCU	2月12日	17:30～18:30	研修室AB	34	中枢神経系の基礎	坂井医師 【講師】
勉強会	GCU	3月	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	15	経口練習中の見の看護	加藤
勉強会	NICU・GCU	3月18日	17:30～18:30	研修室AB	23	経口哺乳確立への援助	高木
勉強会	産科病棟	5月25日	17:30～18:30	産科外来指導室	17	継続看護師の役割について	中村
勉強会	産科	7月20日	17:30～18:30	産科外来指導室	14	母子同室の看護	増田
勉強会	産科	10月19日	17:30～18:30	産科外来指導室	17	出生前診断を受けた両親の心理	杉友
勉強会	産科	11月28日	17:30～18:30	産科外来指導室	14	外科疾患の児の入院～退院～フォローの経過	谷川・原田
勉強会	産科	12月21日	17:30～18:00	産科外来指導室	12	患者の意思決定支援への看護	大亀
勉強会	産科	12月21日	18:00～18:30	産科外来指導室	14	育児ケアグッズについて	網干・新開
勉強会	産科	5月29日	17:30～18:30	産科外来指導室	14	事例検討会	爪田
勉強会	産科	7月9日	17:30～18:30	産科外来指導室	12	事例検討会	爪田
勉強会	産科	8月28日	17:30～18:30	産科外来指導室	12	事例検討会	爪田
勉強会	産科	11月16日	15:00～15:45	産科ナースステーション	25	胎児ドレナージ	喜吉・爪田

勉強会	産科	5月9日	15:10～15:50	産科外来	11	新人勉強会：エコーについて	喜吉
勉強会	産科	5月31日	15:00～16:00	産科外来指導室	13	新人勉強会：帝王切開術後の看護	石川・津田
勉強会	産科	6月25日	17:40～18:40	産科外来指導室	10	新人勉強会：切迫早産	石川・津田
勉強会	産科	7月24日	17:40～18:40	分娩室	12	新人勉強会：新生児の蘇生	石川・津田
勉強会	産科	8月27日	17:40～18:40	分娩室	12	新人勉強会：間接介助・挿管介助	石川・津田
勉強会	産科	10月31日	17:40～18:30	分娩室	5	新人勉強会：自己血貯血	石川・津田
勉強会	産科	11月22日	17:40～18:30	産科外来指導室	6	新人勉強会：グリーンケア	石川・津田
勉強会	産科	12月28日	17:50～18:50	産科外来指導室	6	新人勉強会：PIHの病態生理	石川・津田
勉強会	産科	1月23日	17:30～18:30	分娩室	8	新人勉強会：CSシミュレーション	石川・津田
勉強会	産科	2月25日	17:30～18:30	産科外来指導室	6	新人勉強会：PIHの看護	石川・津田
勉強会	手術室 産科病棟	6月7日	1時間	手術室⑥室	11	超緊急カイザーシミュレーション	産科係
勉強会	手術室	6月18日	1時間	手術室⑤室	11	安全な手術体位確保が出来る（載石位）	体位 プロジェクト
勉強会	手術室	7月31日	45分	手術室⑤室	18	輸液ポンプ、シリンジポンプを知ろう	石原
勉強会	手術室	8月27日	1時間	手術室③室	10	安全な手術体位確保が出来る（側臥位）	体位 プロジェクト
勉強会	手術室	9月26日	1時間	母と子の部屋	16	脳腫瘍について	河村医師/脳 外係

勉強会	手術室	10月22日	1時間	手術室③室	10	安全な手術体位確保(腹臥位)	体位 プロジェクト
勉強会	手術室、 産科病棟	11月26日	1時間	手術室⑥室	20	超緊急カイザーシミュレーション	産科係
勉強会	手術室	12月26日	1時間	手術室休憩室	17	ラテックスアレルギーについて	藤原真樹、 川崎
勉強会	手術室	1月25日	1時間	手術室リカバリー	15	DCの正しい使い方	ME 岩崎
勉強会	手術室	3月13日	1時間	手術室休憩室	25	頭蓋内出血妊婦受け入れについて	坂本
勉強会	手術室	3月25日	1時間	手術室休憩室	27	縫合糸について	1年目看護師
勉強会	手術室	12月17日	1時間	手術室休憩室	23	手術体位勉強会 ～碎石位：知識編～	織田、竹村
勉強会	手術室	1月10日	1時間	手術室休憩室	15	碎石位体位デモンストレーション	織田、竹村
勉強会	手術室	1月17日	1時間	手術室休憩室	21	碎石位体位シミュレーション	織田、竹村
勉強会	外来	9月28日	17:30～18:30	外来フロア	9	災害シミュレーション① 火災時の避難誘導アクションカードの実施にむけて	北条/松下
勉強会	外来	2月22日	17:40～18:30	外来フロア	9	災害シミュレーション②避難誘導各エリア分担評価につ いて	北条/松下
勉強会	外来	2月12日	16:25～17:10	外科外来処置室	9	ヒヤリハット RCA分析①服薬後の転倒事例について 情報共有 出来事流れ図確認	神川/松下
勉強会	外来	2月13日	16:45～17:15	外科外来処置室	9	ヒヤリハット RCA分析②問題点の抽出 なぜなぜ分析	神川/松下
勉強会	外来	2月15日	16:45～17:10	外科外来処置室	10	ヒヤリハット RCA分析③対策案の確認 担当者の決定	神川/松下
勉強会	外来	2月18日	16:30～17:25	外科外来処置室	9	ヒヤリハット RCA分析④対策案の再検討 対策4につ いて深める	神川/松下

勉強会	外来	2月27日	16:45～17:15	外科外来処置室	9	ヒヤリハット RCA分析⑤対策4について再検討	神川 / 松下
勉強会	外来	7月 :3回	15:00～15:30	外来点滴室	17	外来業務を行う上での安全と接遇について	北条
勉強会	外来	8月 :4回	15:00～15:30	外来点滴室	17	診察手順について	北条
勉強会	外来	9月 :4回	15:00～15:30	外来点滴室	17	災害時の役割について	北条
勉強会	外来	10月 :3回	15:00～15:30	外来点滴室	17	外来業務で気になること、工夫していること	北条
勉強会	外来	11月 :2回	15:00～15:30	外来点滴室	17	診察介助ロールプレイ	北条
勉強会	外来	12月 :2回	15:00～15:30	外来点滴室	17	外来業務全体の評価、次年度の課題について	北条

V ボランティア

平成24年度 ボランティア受け入れ状況

ボランティアの状況

ボランティア名	内容	活動人数	活動日	活動場所
神戸市生活指導研究会 ボランティアグループ	看護用品、医療材料、保育材料の作成	23名	月・金	毎回3名が交代で活動
こども病院ボランティアグループ	子どもの遊び相手、本の読み聞かせ、外来での患者・家族の受診介助（案内・移動の介助）	25名	月～金	本館病棟・HCU

イベントボランティアの状況

クリニックラウン	笑いやユーモアを届けるコミュニケーション (NPO法人日本クリラウン協会)	12名	6回/年	本館病棟・HCU・ 外来
アロマセラピー	妊産婦のリラックス (代表：田中 美早)	16名	6回/年	産科病棟
神戸女子大学ボランティア	たなばた会	15名	7月6日	研修室AB
神戸児童文化研究会	人形劇 (代表：野住 朋可)	10名	9月26日	研修室AB
コンサート	フルートとピアノと歌のコンサート (代表：竹内愉美子)	6名	10月29日	周産期センター玄関ホール
ホットアートプレゼント (NPO 兵庫県こども文化振興協会)	おさんぽ劇場 (代表：宮武裕美)	5名	11月27日 11月28日	本館病棟プレイルーム (4カ所：7F・6F・5F・4F)
クリスマスコンサート (神戸ハーバーライオンズクラブ主催)	歌と音楽コンサート (代表：志方 富美子)	15名	12月14日	周産期センター玄関ホール
人形劇 (神戸ママ)	人形劇と歌 (代表：國本ひろみ)	6名	3月15日	本館病棟プレイルーム (2カ所：7F・6F)